

---

# JD Edwards EnterpriseOne 多通貨 処理 9.0 製品ガイド

---

2008 年 12月

JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド  
SKU E1AMP-B1208JPN

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

## 商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

## ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

## 保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

## 制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

## 危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

## 第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.

Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.

Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.

This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young ([ey@cryptsoft.com](mailto:ey@cryptsoft.com)).

This product includes software written by Tim Hudson ([tjh@cryptsoft.com](mailto:tjh@cryptsoft.com)). All rights reserved.

This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

## Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.



# 目次

## はじめに

この PeopleBook について .....	xxi
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xxi
アプリケーションの基礎.....	xxi
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xxii
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xxii
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xxii
追加情報.....	xxii
表記規則.....	xxiv
表記規則.....	xxiv
注意事項の表示.....	xxv
国、地域、業種の表記.....	xxv
通貨コード.....	xxvi
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xxvi
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxvi

## まえがき

JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理 – まえがき.....	xxix
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xxix
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xxix
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxix

## 第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理 – はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理の統合.....	1
JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理の導入.....	2
JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理の導入手順.....	2

## 第 2 章

多通貨処理について.....	3
多通貨取引処理.....	3
多通貨機能.....	3

**第 3 章**

<b>非通貨環境から多通貨環境への変更</b> .....	7
非通貨環境および多通貨環境について.....	7
事前設定.....	7
国内通貨コードの更新.....	8
国内通貨コードの更新.....	8
国内通貨コードのロード・プログラムの実行.....	8
国内通貨コードのロード・プログラムの実行後.....	10

**第 4 章**

<b>多通貨設定について</b> .....	11
基本多通貨の設定.....	11
為替レートの設定.....	12
AAI未実現為替差損益の設定.....	12
通貨別残高転記の設定.....	13
多通貨会社間決済の設定.....	13
詳細再換算の設定.....	14
残高再換算の設定.....	14
仮定再換算の設定.....	15

**第 5 章**

<b>多通貨処理の一般会計の設定</b> .....	17
一般会計の多通貨設定について.....	17
多通貨固定情報の設定.....	18
多通貨固定情報の設定について.....	18
多通貨固定情報の設定に使用するフォーム.....	19
多通貨固定情報の設定.....	20
通貨コードの設定.....	20
通貨コードについて.....	20
通貨コードの設定に使用するフォーム.....	21
通貨コードの設定.....	21
多通貨処理の会社の設定.....	22
多通貨処理の会社の設定について.....	23
多通貨処理の会社の設定に使用するフォーム.....	24
多通貨処理の会社の設定.....	24
一般会計の多通貨AAIの設定.....	25
一般会計の多通貨AAIについて.....	26
通貨銀行勘定科目の未実現為替差損益のAAIの設定.....	26

通貨別残高転記のAAIの設定.....	27
多通貨会社間決済のAAIの設定.....	27
通貨勘定科目の設定.....	28
通貨勘定科目について.....	28
通貨勘定科目の設定に使用するフォーム.....	28
通貨勘定科目への通貨コードの割当.....	28
多通貨元帳タイプの設定.....	29

## 第 6 章

<b>為替レートの設定.....</b>	<b>31</b>
為替レートについて.....	31
この項で使用する共通フィールド.....	32
逆換算法の為替レートの設定.....	33
逆換算法について.....	34
例: 逆換算法.....	34
逆換算法の為替レートの設定に使用するフォーム.....	35
為替レートの入力(P0015A)の処理オプションの設定.....	35
逆換算法の為替レートの設定.....	35
逆換算禁止方法の為替レートの設定.....	36
逆換算禁止方法について.....	36
例: 逆換算禁止方法.....	37
逆換算禁止方法の為替レートの設定に使用するフォーム.....	38
逆換算禁止方法の為替レートの設定.....	38
間接換算法の為替レートの設定.....	38
間接換算法について.....	39
間接換算法の為替レートの設定に使用するフォーム.....	41
間接換算の為替レートの設定.....	41
単一通貨に対する複数の為替レートの設定.....	41
複数の為替レートの設定について.....	42
単一通貨に対する複数の為替レートの設定に使用するフォーム.....	42
単一通貨に対する複数の為替レートの設定.....	42
外部ソースからの為替レートのアップロード.....	43
外部為替レートのアップロード処理について.....	43
外部為替レートの改訂について.....	44
未処理外部為替レートの改訂に使用するフォーム.....	45
未処理為替レートの改訂.....	45
外部為替レートの処理.....	46
外部為替レートの処理プログラムについて.....	46
外部為替レートの処理プログラムの実行.....	47

外部為替レートの処理(R0015Z1)の処理オプションの設定.....	47
外部為替レート・レコードの除去.....	47
外部為替レートの除去(R0015Z1P)の処理オプションの設定.....	47
為替クロスレート関係の設定.....	48
為替クロスレート関係について.....	48
為替クロスレート関係の設定に使用するフォーム.....	48
為替クロスレート関係の設定.....	48
為替クロスレートの計算.....	49
為替クロスレートの計算について.....	50
事前設定.....	51
為替クロスレートの計算プログラムの実行.....	51
為替クロスレートの計算(R11153)の処理オプションの設定.....	51

## 第 7 章

<b>詳細再換算の設定.....</b>	<b>53</b>
詳細再換算プログラムについて.....	53
詳細再換算の設定.....	53
詳細再換算の設定に使用するフォーム.....	54
詳細再換算の固定情報の設定.....	54
詳細再換算を行う会社の設定.....	55
詳細再換算の元帳タイプの設定.....	55
詳細再換算に使用される元帳タイプについて.....	55
事前設定.....	56
元帳タイプ規則の設定に使用するフォーム.....	57
詳細再換算の元帳タイプ規則の設定.....	57
詳細再換算のAAIの設定.....	58
詳細再換算のAAIについて.....	58

## 第 8 章

<b>残高再換算および仮定再換算の設定.....</b>	<b>61</b>
残高再換算の設定.....	61
残高再換算の元帳タイプおよび規則の設定.....	61
残高再換算の元帳タイプ規則の設定に使用するフォーム.....	61
残高再換算の元帳タイプ規則の設定.....	61
残高再換算の再換算レートの設定.....	62
残高再換算レートについて.....	63
事前設定.....	63
残高再換算の再換算レートの設定に使用するフォーム.....	63

通貨再換算レート(P1113)の処理オプションの設定.....	63
再換算レートの設定.....	64
残高再換算の計算の設定.....	65
残高再換算の計算について.....	65
事前設定.....	68
残高再換算の計算の設定に使用するフォーム.....	68
計算の設定.....	68
会社への計算IDの割当.....	71
仮定再換算の設定.....	72
事前設定.....	72
仮定再換算の元帳タイプおよび規則の設定に使用するフォーム.....	72
仮定再換算の元帳タイプ規則の設定.....	72
 <b>第 9 章</b>	
<b>多通貨処理の売掛管理の設定.....</b>	<b>75</b>
多通貨処理の顧客レコードの設定.....	75
顧客レコードへの通貨コードの割当に使用するフォーム.....	75
顧客マスター情報プログラム(P03013)の多通貨処理オプションの設定.....	75
顧客レコードへの通貨コードの割当.....	76
顧客マスター通貨コードの換算.....	77
顧客通貨換算について.....	77
住所録換算プログラムについて.....	78
住所録換算プログラム - F03012の実行.....	80
住所録換算 - F03012(R8903012E)の処理オプションの設定.....	81
売掛管理の多通貨AAIの設定.....	81
売掛管理の多通貨AAIについて.....	82
外貨の売掛銀行勘定のAAIの設定.....	82
外貨の売掛金勘定のAAIの設定.....	82
外貨建て請求書の未実現為替差損益のAAIの設定.....	84
外貨建て入金の実現為替差損益のAAIの設定.....	84
代替通貨建て入金の実現為替差損益のAAIの設定.....	85
外貨および代替通貨建て入金の四捨五入差異勘定のAAIの設定.....	85
代替通貨建て入金の仮勘定のAAIの設定.....	86
多通貨処理の与信/回収方針の設定.....	86
多通貨の与信/回収の設定について.....	86
事前設定.....	87
通貨コード別の与信/回収方針の設定に使用するフォーム.....	87
保険料の通貨コードの設定.....	87
延滞通知指示の設定.....	87

延滞利息金指示の設定.....	87
-----------------	----

## 第 10 章

<b>多通貨処理の買掛管理の設定.....</b>	<b>89</b>
多通貨処理の仕入先レコードの設定.....	89
仕入先レコードへの通貨コードの割当に使用するフォーム.....	89
仕入先マスター情報 (P04012) の多通貨処理オプションの設定.....	89
仕入先レコードへの通貨コードの割当.....	90
仕入先マスター通貨コードの換算.....	91
仕入先通貨換算について.....	91
住所録換算プログラムについて.....	92
住所録換算 - F0401プログラムの実行.....	94
住所録換算 - F0401 (R890401E) の処理オプションの設定.....	94
買掛管理の多通貨AAIの設定.....	95
買掛管理の多通貨AAIについて.....	95
支払銀行勘定科目のAAIの設定.....	96
買掛金勘定のAAIの設定.....	97
外貨建て伝票の未実現為替差損益のAAIの設定.....	97
外貨建て支払の実現為替差損益のAAIの設定.....	98
代替建て支払の実現為替差損益のAAIの設定.....	98
代替通貨建て支払の仮勘定のAAIの設定.....	99
支払変換コードの設定.....	99
(MEX) 支払変換コードの設定.....	100
通貨記述の印刷方法について.....	100
数値から文字への変換 - スペイン語 (P00500S2) の処理オプションの設定.....	101

## 第 11 章

<b>外貨建て仕訳の入力および処理.....</b>	<b>103</b>
外貨建て仕訳について.....	103
外貨建て会社間仕訳について.....	103
例: 多通貨会社間決済.....	104
外貨建てバッチ仕訳について.....	107
外貨建て仕訳の入力.....	107
外貨建て仕訳について.....	107
外貨建て仕訳の入力に使用するフォーム.....	108
仕訳入力MBF (P0900049) の多通貨処理オプションの設定.....	108
外貨建て仕訳の入力.....	108
外貨建て仕訳の転記.....	110

外貨建て仕訳の転記処理について.....	110
F0902テーブルへの残高の保存方法について.....	111
外貨建て仕訳の転記.....	113

## 第 12 章

<b>一般会計の多通貨照会の使用.....</b>	<b>115</b>
一般会計の多通貨照会について.....	115
国内通貨、外貨および仮定通貨建て金額の検討.....	115
国内通貨、外貨および仮定通貨建て金額の検討方法について.....	116
国内通貨、外貨および仮定通貨の勘定科目の検討に使用するフォーム.....	117
国内通貨および外貨の勘定科目の検討.....	117
国内通貨および仮定通貨建て金額のある勘定科目の検討.....	117
仮定通貨の国内通貨建て金額のある勘定科目の検討.....	118
仮定通貨の外貨建て金額のある勘定科目の検討.....	118
通貨別勘定残高の検討.....	118

## 第 13 章

<b>外貨建て請求書の入力および処理.....</b>	<b>119</b>
外貨建て請求書について.....	119
国内通貨建て請求書と外貨建て請求書について.....	119
丸めとソフト丸めについて.....	120
税抜き外貨建て請求書に対する国内通貨建て金額の計算方法について.....	121
税付き外貨建て請求書に対する国内通貨建て金額の計算方法について.....	122
多通貨バッチ合計について.....	123
外貨建てバッチ請求書の処理方法について.....	124
外貨建て請求書の入力.....	124
外貨建て請求書の入力について.....	124
事前設定.....	125
外貨建て請求書の入力に使用するフォーム.....	125
標準請求書入力プログラム (P03B11) の多通貨処理オプションの設定.....	126
請求書入力MBF (P03B0011) の多通貨処理オプションの設定.....	126
外貨建て請求書の入力.....	127
外貨および仮定通貨建て請求書の検討.....	128
多通貨請求書照会について.....	128
事前設定.....	129
外貨および仮定通貨建て請求書の検討に使用するフォーム.....	129
売掛金元帳照会 (P03B2002) の多通貨処理オプションの設定.....	129
外貨および仮定通貨建て請求書の検討.....	130

外貨建て請求書の転記.....	131
外貨建て請求書の転記処理について.....	131
外貨建て請求書の転記.....	132

## 第 14 章

外貨および代替通貨建て入金の処理.....	133
外貨および代替通貨建て入金入力について.....	133
国内通貨建て入金について.....	134
外貨建て入金について.....	134
代替通貨建て入金について.....	135
多通貨および入金タイプについて.....	137
入金入力および手形入力時に更新される多通貨フィールドについて.....	138
事前設定.....	139
外貨および代替通貨建て手動入金の入力.....	139
外貨建て入金の入力に使用するフォーム.....	140
入金入力 (P03B102) の多通貨処理オプションの設定.....	140
外貨建て入金の入力.....	141
入金消込用未決済請求書のロード.....	142
入金消込用未決済請求書の選択.....	142
外貨建て自動入金および自動引落しの処理.....	144
外貨建て自動入金の処理方法について.....	144
外貨建て自動引落しの処理方法について.....	145
事前設定.....	145
外貨建て入金の処理に使用するフォーム.....	145
外貨建て自動引落しの処理.....	146
外貨建て払戻しの生成.....	146
外貨建て払戻しについて.....	146
外貨建て払戻しの生成.....	147
外貨建て受取手形の処理.....	147
外貨建て受取手形について.....	147
外貨および代替通貨建て入金の転記.....	148
外貨および代替通貨建て入金の転記処理について.....	148
外貨および代替通貨建て入金の転記.....	152

## 第 15 章

多通貨の与信および回収管理.....	153
多通貨計算書の作成と検討.....	153
多通貨計算書について.....	153

多通貨計算書の検討に使用するフォーム.....	154
多通貨計算書の作成.....	154
計算書データの再作成 (R03B500X) の多通貨処理オプションの設定.....	154
多通貨計算書の検討.....	154
与信分析のリフレッシュ・プログラムの実行.....	154
多通貨延滞通知の作成と検討.....	154
多通貨延滞通知について.....	155
多通貨延滞通知の検討に使用するフォーム.....	155
多通貨での延滞通知の印刷.....	155
売掛金延滞通知の印刷 (R03B20) および階層化延滞通知の印刷 (R03B21) の多通貨処理オプションの設定.....	155
多通貨延滞通知の検討.....	156
多通貨延滞利息金の生成と検討.....	156
多通貨延滞利息金について.....	156
多通貨延滞利息金の検討に使用するフォーム.....	157
多通貨延滞利息金の生成.....	157
延滞利息金の生成 (R03B525) の多通貨処理オプションの設定.....	157
多通貨延滞利息金の検討.....	157
多通貨顧客勘定の検討.....	158
回収管理の検討プログラムについて.....	158
多通貨顧客勘定の検討に使用するフォーム.....	158
多通貨顧客勘定の検討.....	158
 <b>第 16 章</b>	
<b>売掛金の為替差損益の処理.....</b>	<b>159</b>
為替差損益について.....	159
実現為替差損益の計算.....	159
未実現為替差損益の計算.....	162
事前設定.....	162
売掛金未実現差損益レポートの生成.....	162
売掛金未実現差損益レポートについて.....	162
売掛金未実現差損益レポートの実行.....	164
売掛金未実現差損益レポート (R03B426) の処理オプションの設定.....	164
 <b>第 17 章</b>	
<b>外貨建て伝票の入力と処理.....</b>	<b>167</b>
外貨建て伝票について.....	167
国内通貨建て取引と外貨建て取引について.....	167
丸めとソフト丸めについて.....	168

税抜き外貨建て伝票での国内通貨建て金額の計算方法について.....	169
税付き外貨建て伝票での国内通貨建て金額の計算方法について.....	170
多通貨バッチ合計について.....	171
外貨建てバッチ伝票の処理方法について.....	172
外貨建てEDI受信伝票の処理方法について.....	172
外貨建て伝票の入力.....	172
外貨建て伝票の入力について.....	172
事前設定.....	173
外貨建て伝票の入力に使用するフォーム.....	173
伝票入力MBF (P0400047) の多通貨処理オプションの設定.....	174
外貨建て伝票の入力.....	174
外貨建て伝票の改訂.....	176
外貨建ておよび仮定通貨での伝票の検討.....	176
外貨建て伝票の照会方法について.....	176
事前設定.....	177
多通貨伝票の検討に使用するフォーム.....	177
仕入先元帳照会 (P0411) の多通貨処理オプションの設定.....	178
外貨および仮定通貨での伝票の検討.....	178
外貨建て伝票の転記.....	179
外貨建て伝票の転記処理について.....	180
外貨建て伝票の転記.....	180

## 第 18 章

外貨および代替通貨の支払入力.....	181
多通貨の支払について.....	181
国内通貨支払について.....	182
外貨支払について.....	182
代替通貨支払について.....	183
支払の入力.....	183
外貨の支払入力について.....	183
代替通貨の支払入力について.....	184
事前設定.....	184
外貨または代替通貨の支払入力に使用するフォーム.....	185
買掛金支払 (P0413M) の多通貨処理オプションの設定.....	185
外貨の支払入力.....	186
代替通貨の支払入力.....	187
外貨建て支払手形の入力.....	188
外貨建て支払手形について.....	188
事前設定.....	189

外貨建て手形の入力に使用するフォーム.....	189
外貨建て手形の入力.....	189

## 第 19 章

<b>外貨または代替通貨の自動支払処理.....</b>	<b>191</b>
外貨または代替通貨の自動支払について.....	191
外貨および代替通貨の支払グループの作成.....	193
外貨または代替通貨の支払グループについて.....	193
事前設定.....	196
外貨または代替通貨の支払グループの作成.....	197
支払グループの作成のデータ順序の設定.....	197
支払グループの作成(R04570)の多通貨処理オプションの設定.....	197
外貨および代替通貨の支払グループの書込みと更新.....	198
多通貨支払グループについて.....	198
外貨または代替通貨での支払処理に使用するフォーム.....	199
支払グループの処理(P04571)の多通貨処理オプションの設定.....	199
外貨または代替通貨での支払の書込みと更新.....	200
外貨および代替通貨支払の転記.....	200
外貨および代替通貨支払の転記処理について.....	200
外貨および代替通貨支払の転記.....	201

## 第 20 章

<b>買掛金の為替差損益の処理.....</b>	<b>203</b>
為替差損益について.....	203
実現為替差損益の計算.....	203
未実現為替差損益の計算.....	205
事前設定.....	206
買掛金未実現損益レポートの生成.....	206
買掛金未実現差損益レポートについて.....	206
買掛金未実現差損益レポートの実行.....	208
買掛金未実現差損益レポート(R04425)の処理オプションの設定.....	208

## 第 21 章

<b>多通貨の銀行取引明細の手動処理.....</b>	<b>211</b>
多通貨の銀行取引明細の手動処理に関する考慮事項.....	211
例: 通貨と銀行取引明細の入力プログラム.....	213
多通貨銀行取引明細の入力.....	215

多通貨銀行取引明細の入力に使用するフォーム.....	215
外貨の銀行取引明細の入力.....	216

## 第 22 章

<b>通貨勘定評価の実行.....</b>	<b>219</b>
銀行勘定科目の通貨評価について.....	219
未決済請求書および伝票の通貨評価について.....	220
通貨勘定科目の未実現差損益の計算.....	220
通貨勘定評価プログラムについて.....	220
事前設定.....	221
通貨勘定科目の未実現差損益の計算.....	221
通貨勘定評価のデータ選択の設定.....	221
通貨勘定評価 (R09415) の処理オプションの設定.....	221

## 第 23 章

<b>通貨再換算方法について.....</b>	<b>225</b>
通貨再換算方法.....	225

## 第 24 章

<b>詳細再換算の実行.....</b>	<b>229</b>
詳細再換算について.....	229
国内通貨取引の詳細再換算差損益について.....	230
外貨建て取引の詳細再換算差損益について.....	231
詳細再換算の仕訳の処理.....	232
詳細再換算の処理に使用するフォーム.....	233
為替レートの一時的変更とXALレコードの作成の回避.....	233
詳細再換算取引の検討と承認.....	234
詳細再換算の処理.....	234
詳細再換算プログラムについて.....	234
詳細再換算のデータ選択と順序の設定.....	236
詳細再換算 (R11411) の処理オプションの設定.....	236
メニューからの詳細再換算プログラムの実行.....	237
転記プログラムからの詳細再換算プログラムの実行.....	238
詳細再換算取引の転記.....	238

**第 25 章**

<b>残高再換算の実行</b> .....	<b>239</b>
残高再換算について.....	239
事前設定.....	241
残高再換算の再換算残高の計算.....	241
再換算残高の計算プログラムについて.....	241
再換算残高の計算プログラムの実行.....	243
再換算残高の計算(R11414A)の処理オプションの設定.....	243

**第 26 章**

<b>仮定再換算の実行</b> .....	<b>247</b>
仮定再換算について.....	247
事前設定.....	247
仮定再換算の残高の計算.....	247
仮定日の再転記プログラムについて.....	248
仮定日の再転記プログラムの実行.....	248
仮定日の再転記のデータ選択の設定.....	248
仮定日の再転記(R11415)の処理オプションの設定.....	248

**第 27 章**

<b>多通貨の複数サイト連結の処理</b> .....	<b>251</b>
多通貨の複数サイト連結について.....	251
多通貨の複数サイト連結の基本ステップについて.....	252
多通貨の連結規則の設定.....	253
多通貨の連結規則について.....	254
多通貨の連結規則の設定に使用するフォーム.....	254
多通貨の連結規則の定義.....	254

**第 28 章**

<b>多通貨の資金予測について</b> .....	<b>255</b>
多通貨の資金予測プログラム.....	255

**第 29 章**

<b>集計残高から通貨別残高への変更</b> .....	<b>257</b>
通貨別残高の転記方法について.....	257

**付録 A**

<b>外部為替レート処理のマッピング要件</b> .....	<b>259</b>
F0015Z1ワークファイルの多通貨フィールドのマッピング.....	259

**付録 B**

<b>多通貨バッチ仕訳処理のマッピング要件</b> .....	<b>263</b>
多通貨仕訳のマッピング要件.....	263
事前設定.....	263
バッチ仕訳の「金額」、「為替レート」および「通貨モード」フィールドに関するガイドライン.....	263
F0911Z1テーブルの必須多通貨フィールド.....	264

**付録 C**

<b>多通貨バッチ請求書処理のマッピング要件</b> .....	<b>267</b>
外貨バッチ請求書処理のマッピング要件.....	267
事前設定.....	267
バッチ請求書の「金額」、「為替レート」および「通貨モード」フィールドに関するガイドライン.....	267
F03B11Z1およびF0911Z1テーブルの必須多通貨フィールド.....	268

**付録 D**

<b>多通貨自動入金処理のマッピング要件</b> .....	<b>273</b>
F03B13Z1テーブルの必須多通貨フィールド.....	273

**付録 E**

<b>多通貨バッチ伝票処理のマッピング要件</b> .....	<b>275</b>
多通貨バッチ伝票のマッピング要件.....	275
事前設定.....	275
バッチ伝票の金額、為替レートおよび通貨モード・フィールドに関するガイドライン.....	275
F0411Z1およびF0911Z1テーブルの必須多通貨フィールド.....	276

**付録 F**

<b>多通貨EDI受信伝票処理のマッピング要件</b> .....	<b>281</b>
多通貨EDI受信伝票のマッピング要件.....	281
F47041テーブルで必須の多通貨フィールド.....	281
F47042テーブルで必須の多通貨フィールド.....	282
F47044テーブルで必須の多通貨フィールド.....	283

## 付録 G

<b>JD Edwards EnterpriseOneの多通貨レポート</b> .....	<b>285</b>
多通貨レポート.....	285
JD Edwards EnterpriseOneのすべての多通貨レポート.....	285
JD Edwards EnterpriseOneの主な多通貨レポート.....	286
R03B413B - 未決済売掛金(外貨建て集計).....	287
未決済売掛金(外貨建て集計)レポート(R03B413B)の処理オプション.....	287
R03B4201A - 未決済売掛金(備考)レポート.....	288
R03B4201B - 未決済売掛金(年齢調べ)レポート.....	288
R03B429A - 通貨明細 - 外貨および国内通貨.....	288
通貨明細 - 外貨および国内通貨(R03B429A)の処理オプション.....	289
R03B429B - 通貨明細 - 年齢調べ.....	289
通貨明細 - 年齢調べ(R03B429B)の処理オプション.....	289
R03B429C - 通貨 - 外貨/国内通貨(年齢調べ付き).....	291
通貨 - 外貨/国内通貨 - 年齢調べ付き(R03B429C)処理オプション.....	292
R04413A、R04413C、R04413D - 多通貨での未決済買掛金集計レポート.....	292
未決済買掛金集計レポート(R04413A、R04413C、R04413D)の処理オプション.....	292
未決済買掛金集計レポートのデータ順序.....	293
R04427A、R04427B、R04427C、R04427D、R04427E、R04427F - 未決済買掛金(外貨建て)レポー ト.....	293
未決済買掛金(外貨建て)レポートのデータ順序.....	294
未決済買掛金(外貨建て)レポート(R04427AおよびR04427D)の処理オプション.....	294
未決済買掛金(外貨建て)レポート(R04427B、R04427C、R04427E、R04427F)の処理オプション.....	295
R04428C - 買掛金明細 - 承認者別外貨年齢調べ付き.....	295
買掛金明細 - 承認者別外貨年齢調べ付き(R04428C)の処理オプション.....	295
R04431 - 支払予定レポート.....	295
貸借一致の会社間勘定科目(R097011).....	295
貸借一致の会社間勘定科目(R097011)の処理オプション.....	296
R09707 - 外貨建て勘定残高.....	296
外貨建て勘定残高(R09707)の処理オプション.....	297
 <b>JD Edwards EnterpriseOne用語集</b> .....	 <b>299</b>
 <b>索引</b> .....	 <b>315</b>



# この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

---

**注意:** 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

---

## JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお薦めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

---

## アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

---

## 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- ドキュメンテーションのダウンロード

### 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

---

**重要:** アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

---

#### 関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: [http://www.oracle.com/support/support\\_peoplesoft.html](http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html)

### ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

---

## 追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

## 表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

## 表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒( )で区切られています。
[ ] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。  また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

## 注意事項の表示

### 表記規則

#### 注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

---

**注意:** 注意事項は、このような形式で示しています。

---

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

---

**重要:** 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

---

#### 警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

---

**警告:** 警告は、このような形式で示しています。

---

#### 相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

## 国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

#### 国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の国コード」

#### 地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

#### 業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF (米国連邦政府)
- E&G (教育/公的機関)

## 通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の通貨コード」

---

## ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn\_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

---

## 製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合があります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/IC)のコードが表示されます。値は次のとおりです。</p> <p>空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。</p> <p>A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されています。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p>

	<p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p> <p>U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。</p>
<b>事業所</b>	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
<b>ビジネスユニット</b>	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
<b>カテゴリ・コード</b>	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
<b>会社</b>	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
<b>通貨コード</b>	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
<b>伝票会社</b>	<p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
<b>伝票番号</b>	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
<b>伝票タイプ</b>	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票</p> <p>R: 売掛金伝票</p> <p>T: 時間および給与伝票</p> <p>I: 在庫伝票</p> <p>O: 購買オーダー伝票</p> <p>S: 受注オーダー伝票</p>
<b>有効日付</b>	住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。

- 住所の変更が有効になる日付
- 賃貸契約が有効になる日付
- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

**会計期間、会計年度**

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

**元帳日付**

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

# JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 製品
- JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

---

## JD Edwards EnterpriseOne 製品

このガイドには、オラクル社の次の JD Edwards EnterpriseOne 製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 一般会計

---

## JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOne の最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOne は、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて <http://oracle.com/contracts> のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

---

## この製品ガイドで使用する共通フィールド

仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された外貨または国内通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照できます。
基本通貨	取引または会社の国内通貨を識別するコードを入力します。基本通貨と国内通貨はどちらも同じ通貨を表します。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理システムでは、国際標準化機構 (ISO) が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013 テーブルに定義されています。

<b>国内通貨</b>	取引または会社の基本通貨を識別するコードを入力します。
<b>為替レート</b>	金額を別の通貨に換算するために使用するレートを入力します。為替レートは2つの通貨間に存在します。
<b>外貨</b>	取引通貨が会社の国内通貨と異なる場合に、取引通貨を識別するコードを入力します。
<b>スポット・レート</b>	F0015テーブルで為替レートを一時変更する取引のレートを入力します。
<b>間接為替通貨</b>	間接為替計算用の決済通貨の通貨コードを入力します。間接為替通貨は、第3の通貨(すなわち間接為替通貨)を介して外貨を国内通貨に換算する場合に使用されます。

# 第 1 章

## JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 – はじめに

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理の概要
- JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理の統合
- JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理の導入

---

### JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理の概要

会社が海外ビジネスを行っている場合、複数の通貨を使用します。複数の通貨を処理する場合、会計システムは設定要件が増え、より複雑になります。複数の通貨で取引の処理ができ、ビジネスを行う国のレポートおよび会計の要件に従う必要があります。

海外ビジネスを行う会社の基本的な要件には、次のことが含まれます。

- 外貨金額から国内通貨金額への換算
- 国内通貨、外貨、および代替通貨（外貨と国内通貨以外の通貨）建ての入金や支払
- 為替レートの変動に応じた通貨の再評価
- 連結レポート用の共通通貨を使用した金額の再計算

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理システムのプログラムには、多通貨クライアントによってのみ使用されるものと、多通貨機能を持つ標準の JD Edwards EnterpriseOne プログラムによって使用されるものがあります。たとえば、外貨で請求書を入力するために使用するプログラムは、国内通貨で請求書を入力するプログラムと同じです。

JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理では、何種類もの通貨を処理でき、様々な方法で連結、再計算、比較および処理することが可能です。世界中のあらゆる国の通貨を使用できます。JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理を使用すれば、外貨で取引を作成でき、その取引は自動的に国内通貨に換算されます。また、代替通貨での入金の入力、および支払の作成も可能です。各会社、仕入先、顧客、勘定科目および従業員の通貨優先情報を指定します。

---

### JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理の統合

JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理システムは、金額を作成、追跡および保管する各 JD Edwards EnterpriseOne システムと統合し、すべての情報を完全に統合します。

統合における考慮事項については、この製品ガイドの導入に関する章で説明します。

## JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理システムの導入に必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOneに関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理について、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入するためのOracle Business Acceleratorの詳細は、公開されているドキュメンテーションを参照してください。

参照: [http://www.peoplesoft.com/corp/en/iou/implement/rapid\\_start/rapid\\_start\\_prtr\\_notes.jsp](http://www.peoplesoft.com/corp/en/iou/implement/rapid_start/rapid_start_prtr_notes.jsp)

## JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理の導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理の導入の推奨手順を示します。

手順	参照
1. 多通貨処理の固定情報、通貨コード、会社、AAI(自動仕訳)、通貨勘定、および元帳タイプを設定します。	<a href="#">第5章、「多通貨処理の一般会計の設定」、17ページ</a>
2. 逆換算方法または逆換算禁止方法での為替レートと、必要に応じて、為替クロスレートの関係と詳細再換算に対する間接為替方法および為替レートを設定します。	<a href="#">第6章、「為替レートの設定」、31ページ</a>
3. (省略可)元帳タイプや規則などの詳細再換算を設定します。	<a href="#">第7章、「詳細再換算の設定」、53ページ</a>
4. (省略可)元帳タイプや規則などの残高再換算や仮定再換算を設定します。	<a href="#">第8章、「残高再換算および仮定再換算の設定」、61ページ</a>
5. 多通貨処理用のAAIおよび与信/回収を設定します。通貨コードを顧客レコードに割り当てます。	<a href="#">第9章、「多通貨処理の売掛管理の設定」、75ページ</a>
6. 多通貨処理用のAAIおよび支払変換コードを設定します。通貨コードを仕入先レコードに割り当てます。	<a href="#">第10章、「多通貨処理の買掛管理の設定」、89ページ</a>

## 第 2 章

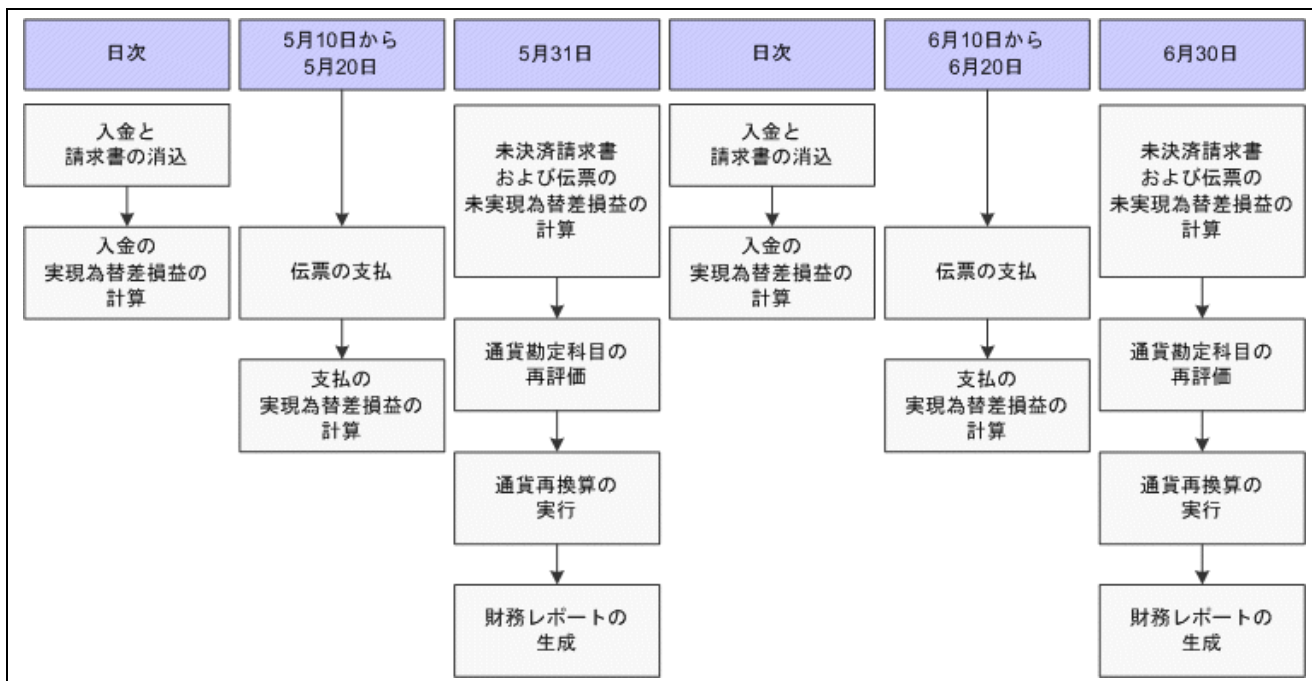
# 多通貨処理について

この章では、次の項目について概要を説明します。

- 多通貨取引処理
- 多通貨機能

## 多通貨取引処理

次の図は、多通貨環境での取引の処理に関わる2か月の会計サイクルおよび様々なタスクを示しています。



多通貨プロセス

## 多通貨機能

多通貨機能に関する特定の情報は、次の表を確認してください。

多通貨機能	説明
為替レート	様々な通貨の為替レートを設定および制御します。取引を入力すると、為替レートが取得されます。また、必要な場合、レートを一時変更することもできます。
為替レート方法	通貨関係ごとに為替レート方法を設定します。 為替レートを計算および使用するすべてのプログラムは、為替レート計算の乗数法または除数法（逆換算方法とも呼ばれます）または逆換算禁止方法を使用します。また、すべてのプログラムは、間接為替方法を使用して第3の通貨を介して為替レートを計算できます。
取引入力	取引を入力すると、取引の通貨が会社の通貨と比較されます。取引通貨が会社通貨と異なる場合、取引通貨は外貨とみなされます。外貨金額は、取引の通貨および取引が関連付けられている会社に基づいて国内通貨金額に換算されます。 通貨が国内通貨と外貨のどちらであるかとは関係なく、請求書、伝票および他の取引を、これらを送受信する当初の（または取引）通貨で入力します。支払および入金の場合、代替通貨を使用することもできます。
代替通貨処理	代替通貨処理を使用すると、当初の請求書を無効にして支払通貨で新規請求書を作成しなくても、任意の通貨で入金を受けて適用できます。これは支払についても同様です。
仮定通貨	実際に入力された通貨以外の通貨で保存されているかのように取引金額を表示できます。この通貨処理を使用すると、元の取引が外貨と国内通貨のどちらで入力したかとは関係なく、取引金額を別の通貨で確認できます。
為替差損益	支払または入金時に、現行為替レートを使用して為替差損益が実現されます。請求書または伝票の入力時と支払または入金時の間で為替レートが変更されると、為替差損益が実現されます。
通貨再評価	為替差損益レポートを使用して、期末に未決済取引を再評価します。また、未実現為替差損益の仕訳を作成するプログラムを使用して通貨（通貨固有の）勘定を再評価することもできます。
通貨再換算	期末に財務レポートを実行する前に、次の作業を実行できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>基本通貨が異なる複数の会社の勘定残高を単一通貨に再換算し、単一通貨で連結レポートを作成します。</li> <li>取引レベルで金額を再換算します。</li> <li>予算および作業原価を分析するために外貨建て取引を新規為替レートで再換算します。</li> </ul>

多通貨機能	説明
連結レポート	<p>連結レポートにより、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 外国の子会社を親会社の通貨に再換算するときに換算調整を自動的に計算します。</li> <li>• 平均期間、期末、期首、履歴または予算の為替レートから為替レートを選択します。このような選択により、通貨の再換算の柔軟性を最大限に高めることができます。</li> <li>• 現地の会計慣行と親会社で容認されている会計慣行の両方に基づく仕訳を管理することにより、財務会計基準書 (SFAS) 52号および国際会計基準 (IAS) 20号などの命令に対する準拠を簡略化します。</li> </ul>
インフレ率の高い国	インフレ率の高い国では、2セットの帳簿 (1つは現地通貨、1つは安定した通貨) を管理できます。
柔軟なレポート機能	レポートおよび照会により、多種多様な通貨の残高を分析する上で役に立つ情報を入手できます。たとえば、元の通貨による通貨リスクの度合いや詳細な銀行勘定科目活動を分析できます。
通貨別勘定残高	通貨別に保存する勘定残高を制御できます。会社および勘定科目コードの範囲別に勘定科目を指定します。
仮定再転記	仮定再転記では、外貨建て取引をその当日の為替レートを使用して入力されたものとして再換算することにより、予算分析のレートの変動を解消します。
銀行取引明細処理	国によっては、銀行取引の慣例として、債務の決済に磁気メディア処理や電子資金決済が利用される場合や、銀行が直接関与する場合があります。このような国では、銀行取引明細が、すべての銀行取引のソース伝票の役割を果たします。銀行取引明細に表示される取引を入力および調整するには、銀行取引明細処理を使用します。



## 第 3 章

# 非通貨環境から多通貨環境への変更

この章では、非通貨環境と多通貨環境の概要、および国内通貨コードの更新方法について説明します。

## 非通貨環境および多通貨環境について

多通貨を有効にせずにJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを使用しており、現在、多通貨処理に変更している場合、「事前設定」の項目を確認して実行してください。実行したら、「国内通貨コードの更新」のタスクを実行し、ブランクの通貨コードから有効な通貨コードまでの既存のすべての取引を更新してください。最後に、国内通貨コードを更新した後、3つの追加タスクを実行する必要があります。その後、多通貨環境で作業できるようになります。

### 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 通貨間で金額を換算する方法を選択し、基本通貨の異なる会社間の仕訳を許可することを指定します。  
参照: 第 5 章、「多通貨処理の一般会計の設定」、「多通貨固定情報の設定」、18ページ
- 使用する通貨ごとに通貨コードを指定します。  
参照: 第 5 章、「多通貨処理の一般会計の設定」、「多通貨固定情報の設定」、18ページ
- 通貨再換算を使用するかどうかを決定し、使用する場合は、使用する方法を決定します。  
参照: 第 23 章、「通貨再換算方法について」、225ページ
- 通貨別に勘定残高を管理するかどうかを決定します。
- 組織内の会社ごとに、通貨コードおよび再換算方法と、通貨別に勘定残高を管理するかどうかを指定します。  
参照: 第 5 章、「多通貨処理の一般会計の設定」、「多通貨処理の会社の設定」、22ページ
- ユーザー定義コード(UDC)テーブル09/LTおよび09/LAの元帳タイプを確認します。  
追加元帳を設定するかどうか、および追加元帳に1つの通貨のみを含めるかどうかを決定します。
- 特定通貨の取引のみを受け入れる総勘定元帳の勘定科目を指定し、これらの勘定科目に通貨コードを割り当てます。
- 多通貨AAIを設定します。  
参照: 第 5 章、「多通貨処理の一般会計の設定」、「一般会計の多通貨AAIの設定」、25ページ
- 会社の国内通貨と定義済の他のすべての通貨間の初期為替レートを入力します。  
参照: 第 6 章、「為替レートの設定」、31ページ

- ・ 金融市場で公開されていない為替レートを作成します。

参照: 第 6 章、「為替レートの設定」、「為替クロスレート関係の設定」、48ページ

- ・ 通貨コードを顧客および仕入先に割り当て、請求書や伝票の通貨を指定します。

参照: 第 9 章、「多通貨処理の売掛管理の設定」、「顧客レコードへの通貨コードの割当」、76ページ

参照: 第 10 章、「多通貨処理の買掛管理の設定」、「仕入先レコードへの通貨コードの割当」、90ページ

## 国内通貨コードの更新

この項では、国内通貨コードの更新の概要と次について説明します。

- ・ 国内通貨コードのロード・プログラムの実行方法
- ・ 国内通貨コードのロード・プログラムの実行後

### 国内通貨コードの更新

多通貨処理を変更するには、国内通貨コードのロード・プログラムを実行し、有効な(空白でない)通貨コードを持つ既存のすべての取引を更新する必要があります。これらのプログラムを実行する前に、すべてのレコードに空白の通貨コードが設定されている必要があります。レコードに通貨コードが設定されている場合、プログラムは終了しません。

通貨コードを持つ既存の取引を更新するには、使用するシステムごとに国内通貨コードのロード・プログラムを実行します。次のような状況の場合、これらのバッチ・プログラムにより、各取引のモードが更新されるとともに、エラー・レポートも出力されます。

- ・ 会社が固定情報テーブル(F0010)に存在しない。
- ・ 会社に国内通貨コードが設定されていない。

会社に通貨コードを割り当てるには、会社名および番号プログラム(P0010)を使用します。

**注意:** JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを最初に設定する際に、多通貨処理を有効にした場合、国内通貨コードのロード・プログラムを実行しないでください。

### 国内通貨コードのロード・プログラムの実行

「多通貨上級操作」(G1131)の「国内通貨コードのロード」を選択します。

次の表は、国内通貨コードのロード・プログラムと、これらのプログラムによって更新されるテーブルを示しています。

プログラム	更新されるテーブル
国内通貨コードのロードー一般会計 (R11809)	取引明細(F0911)

プログラム	更新されるテーブル
国内通貨コードのロード－買掛管理 (R11804)	買掛金元帳 (F0411) 買掛金照合伝票 (F0413) 買掛金照合伝票明細 (F0414)
国内通貨コードのロード－売掛管理 (R11803)	売掛金元帳 (F03B11) 請求書改訂履歴 (F03B112) 入金見出し (F03B13) 入金明細 (F03B14) 与信/資金管理テーブル (F03B15) 売掛金統計履歴 (F03B16) 売掛金統計サマリー (F03B16S) 売掛金通知実績 (F03B20) 売掛金通知実績明細 (F03B21) 延滞利息金仕訳 (F03B22) 延滞利息金仕訳明細 (F03B23) 損金管理 (F03B40) 損金活動 (F03B41)
国内通貨コードのロード－税 (R11818)	税 (F0018)
国内通貨コードのロード－勘定残高 (R11802)	勘定残高 (F0902) の CRCX フィールド
国内通貨コードのロード－システム 48S/52 (R11848S)	請求明細ワークファイル (F4812) 請求ワークファイル履歴 (F4812H) 請求書集計ワークファイル (F4822) 契約マスター (F5201) 契約請求行詳細 (F5202)
国内通貨コードのロード－不動産管理 (R11815)	テナント/賃貸請求明細 (F1511B) 定期請求マスター (F1502B) 歩合請求マスター (F15013B) テナント経費負担クラス・マスター (F15012B) テナント賃料増額マスター (F15016B) 保証金マスター (F1565)

プログラム	更新されるテーブル
国内通貨コードのロード-売上 (R11842)	受注オーダー見出し (F4201) 受注オーダー明細 (F4211)
国内通貨コードのロード-調達 (R11843)	購買オーダー見出し (F4301) 購買オーダー見出し (F4311) 購買オーダー元帳明細 (F43199) 入荷確認 (F43121)

## 国内通貨コードのロード・プログラムの実行後

国内通貨コードのロード・プログラムを実行して有効な通貨コードを持つ取引を更新した後、次を実行する必要があります。

- 表示小数点以下桁数の更新プログラムを実行する必要があるかどうかを決定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98: System Administration Guide

- 取引明細を再転記し、F0902テーブルの通貨コード・フィールドを更新します。
- 会計期間を締め、F0902テーブルの繰越残高フィールドを更新します。

## 第 4 章

# 多通貨設定について

この章では、次の項目について概要を説明します。

- 基本多通貨の設定
- 為替レートの設定
- AAI未実現為替差損益の設定
- 通貨別残高転記の設定
- 多通貨会社間決済の設定
- 詳細再換算の設定
- 残高再換算の設定
- 仮定再換算の設定

## 基本多通貨の設定

JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理を使用するには、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体で使用される基本情報を設定する必要があります。

次の表は、基本多通貨処理の設定タスクと使用されるプログラムをまとめたものです。

タスクおよび説明	プログラム
「多通貨換算」フィールドに「Y」または「Z」を入力し、多通貨を有効にします。	一般会計固定情報 (P0000)
使用する通貨コードを設定します。業務を行う通貨ごとに通貨コードを入力します。	通貨コードの指定 (P0013)
多通貨用の会社を設定します。会社ごとに次の作業を行います。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 国内通貨コードを割り当てます。</li><li>• 通貨別に勘定残高を転記するかどうかを決定します。必要に応じて、「通貨別勘定残高の転記」チェックボックスを選択します。</li><li>• 詳細再換算を有効にするかどうかを決定します。必要に応じて、「詳細通貨再換算」フィールドに「1」を入力します。</li><li>• 必要に応じて、「計算の検討」フィールドに計算IDを入力します。</li></ul>	会社名および番号 (P0010)
通貨固有の(通貨)勘定科目ごとに通貨コードを割り当てることにより、通貨固有の勘定科目を設定します。	単一勘定科目の改訂 (P0901)

## 為替レートの設定

最初に為替レートを設定した後、為替レートを定期的に更新し、取引のデフォルト・レートと、実現および未実現為替差損益のデフォルト・レートを指定する必要があります。

次の表は、為替レートの設定タスクと使用されるプログラムをまとめたものです。

タスクおよび説明	プログラム
逆換算(乗数または除数)方法を使用して通貨間で金額を換算するには、換算元通貨と換算先通貨の関係と、各関係の乗数または除数為替レートを設定します。	為替レートの入力 (P0015A)
逆換算禁止方法を使用して通貨間で金額を換算するには、換算元通貨と換算先通貨の関係と、各関係の逆換算禁止レートを設定します。	為替レートの入力 (P0015A)
為替レートが金融市場で公開されていないときに金額を換算するには、共通通貨に基づいて2つの通貨のクロスレート関係を作成します。	クロスレート計算の設定 (P111511) 為替クロスレートの計算 (R11153)
間接為替通貨を介して金額を換算するには、次の手順に従います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>間接為替通貨による換算元通貨と換算先通貨の関係を設定します。</li> <li>通貨関係の間接換算レート1の換算方法を指定します。乗数または除数(逆換算)方法を指定すると、間接換算レート2には反対の方法が使用されます。</li> <li>通貨関係の間接換算レート1の為替レートを設定します。逆数レート(逆換算方法)または間接換算レート2と同じレート(逆換算禁止)が使用されます。</li> </ul>	為替レートの入力 (P0015A)
為替レートを手動で入力するかわりにWebサイトから為替レートをアップロードします。	外部為替レートの改訂 (P0015Z1) 外部為替レートの処理 (R0015Z1)

## AAI未実現為替差損益の設定

適切な総勘定元帳の勘定科目に金額を配賦するために、AAI(自動仕訳)が使用されます。

次の表は、未実現為替差損益のAAIに関連する設定タスクと使用されるプログラムをまとめたものです。

タスクおよび説明	プログラム
<p>通貨(通貨固有の)勘定で未実現為替差損益を記録するには、次のAAI項目を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• GVxxx: 未実現為替差益</li> <li>• GWxxx: 未実現為替差損</li> <li>• GRxxx: 未実現為替差損益相殺</li> </ul>	AAI(P0012)

## 通貨別残高転記の設定

通貨別に残高を転記する場合、複数の通貨に基づく総合計の検討は無意味であるため、かわりに勘定残高テーブル(F0902)で通貨別に勘定残高金額を検討できます。

次の表は、通貨別残高転記の設定タスクと使用されるプログラムをまとめたものです。

タスクおよび説明	プログラム
<p>通貨別に勘定残高を転記するには、次の手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 通貨別に残高を転記する会社ごとに「通貨別勘定残高の転記」チェックボックスを選択します。</li> <li>• 通貨別に残高を転記するための開始勘定と終了勘定の範囲としてAAI項目PBCxxを設定します。</li> </ul>	<p>会社名および番号(P0010)</p> <p>AAI(P0012)</p>

## 多通貨会社間決済の設定

基本通貨が異なる会社間で実際に取引を作成するかどうかとは関係なく、会社間取引および決済に対応するようシステムを設定する必要があります。多通貨会社間取引を作成する場合、転記によって必要な貸借一致仕訳が作成されます。

次の表は、複数通貨で会社間決済を生成するための設定タスクと使用されるプログラムをまとめたものです。

タスクおよび説明	プログラム
<p>多通貨会社間取引および決済の固定情報を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「詳細会社間決済」フィールドに「2」(詳細)または「3」(構成ハブ)を入力します。</li> <li>• 「多通貨会社間取引の許可」チェックボックスを選択します。</li> </ul>	一般会計固定情報(P0000)
<p>売掛管理および買掛管理固定情報を設定し、詳細レコードごとに相殺入力を作成します。「集計方式」フィールドに「Y」(伝票ごとに1つの相殺)を入力します。</p>	<p>売掛管理固定情報(P0000)</p> <p>買掛管理固定情報(P0000)</p>

## 詳細再換算の設定

この通貨再換算方法を使用して、レポート作成を目的として安定した通貨で第2取引セットを管理できます。  
次の表は、詳細再換算の設定タスクと使用されるプログラムをまとめたものです。

タスクおよび説明	プログラム
「会社間決済」フィールドに「2」(詳細)または「3」(構成ハブ)を入力します。	詳細通貨設定 (P11410)
詳細再換算を行う会社を設定します。	会社名および番号 (P0010)
代替元帳タイプ (XA)、および必要に応じて国内通貨 (当初) (YA) および外貨 (当初) (ZA) 元帳タイプについて元帳タイプおよび規則を設定します。	ユーザー定義コード (P0004A) 元帳タイプ規則の設定 (P0025)
国内通貨とレポート通貨間の為替レートを設定します。	為替レートの入力 (P0015A)
次についてAAI項目を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• CRxx: 詳細再換算用の開始勘定と終了勘定の範囲</li> <li>• CR: 詳細再換算用の相殺</li> </ul>	AAI (P0012)

## 残高再換算の設定

この通貨再換算方法により、連結レポート作成のため残高を単一通貨に再換算します。  
次の表は、残高再換算の設定タスクと使用されるプログラムをまとめたものです。

タスクおよび説明	プログラム
連結 (AC) 元帳の元帳タイプと規則を設定します。	ユーザー定義コード (P0004A) 元帳タイプ規則の設定 (P0025)
国内通貨から連結レポート通貨へ金額を換算するための為替レートを設定します。	通貨再換算レート (P1113)
会社ごとに、再換算残高の計算プログラムによって使用される計算を設定します。	会社通貨換算の改訂 (P1114)
会社ごとにデフォルト計算IDを割り当てます。また、再換算残高の計算プログラムの実行時に計算IDを割り当てることもできます。	会社名および番号 (P0010)

---

## 仮定再換算の設定

この通貨再換算方法により、比較を目的として一定期間にわたる為替レートの変動を排除します。

次の表は、仮定再換算の設定タスクと使用されるプログラムをまとめたものです。

タスクおよび説明	プログラム
仮定再換算 (AD) 元帳の元帳タイプと規則を設定します。	ユーザー定義コード (P0004A) 元帳タイプ規則の設定 (P0025)



## 第 5 章

# 多通貨処理の一般会計の設定

この章では、JD Edwards EnterpriseOne一般会計の多通貨設定の概要と、次の方法について説明します。

- 多通貨固定情報の設定
- 通貨コードの設定
- 多通貨処理の会社の設定
- 一般会計の多通貨AAIの設定
- 通貨勘定科目の設定
- 多通貨元帳タイプの設定

## 一般会計の多通貨設定について

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理で設定する必要がある一般会計情報を示しています。

情報	設定要件
多通貨固定情報	次のようなシステムの基本を設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 多通貨の有効化</li><li>• 多通貨会社間取引の許可</li><li>• 会社間決済に使用する方式の決定</li></ul>
通貨コード	業務を行う通貨ごとに通貨コードを設定します。
AAI(自動仕訳)	通貨銀行勘定科目の未実現為替差損益用のAAIや通貨別残高の転記用のAAIなど、自動的に更新される多通貨会計用の勘定科目を定義します。
多通貨会社	会社ごとに、国内通貨コードを割り当て、通貨別に勘定残高を転記するかどうかを決定し、詳細再換算方法を指定します。
通貨勘定科目	通貨固有の(通貨)勘定科目ごとに通貨コードを割り当てることにより、通貨固有の勘定科目を設定します。
多通貨元帳タイプ	ユーザー定義コード(UDC)テーブル09/LTを確認し、再換算元帳タイプが設定されていることを確認します。

## 多通貨固定情報の設定

この項では、多通貨固定情報の概要と、多通貨固定情報の設定方法について説明します。

### 多通貨固定情報の設定について

任意の多通貨機能を使用する前に、一般会計固定情報プログラム(P0000)でシステム全体にわたる次の固定情報を設定する必要があります。

- 多通貨換算
- 多通貨会社間取引
- 会社間決済方式

これらの固定情報を使用して、多通貨処理用のデフォルトの換算方法を指定するとともに、多通貨会社間取引を許可し、会社間決済方式を指定します。この多通貨情報は、一般固定情報テーブル(F0009)に保管されます。

### 多通貨換算固定情報

多通貨換算固定情報を有効にすると、様々な入力および照会フォームで通貨フィールドが表示されます。JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理を有効にするには、使用するデフォルトの換算方法に応じて「多通貨変換」フィールドの固定情報をY(乗数)またはZ(除数)に設定する必要があります。

- Y: 乗数率を使用して通貨間で金額を換算します。外貨金額と為替レートを乗算して国内通貨金額が計算されます。
- Z: 除数率を使用して通貨間で金額を換算します。外貨金額を為替レートを除算して国内通貨金額が計算されます。

特定の通貨関係を設定する場合、デフォルトの換算方法を一時変更できます。

**重要:** JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理の使用を開始した後は、多通貨換算固定情報を変更しないでください。これを変更すると、次のような予期しない結果を招くことがあります。

売掛管理および買掛管理の損益が不正確になります。

無効化および逆仕訳が不正確になります。

通貨勘定科目評価が不正確になります。

再換算した金額が影響を受けます。

### 多通貨会社間取引および決済の固定情報

通常、会社の基本通貨が互いに異なる場合、会社間で取引および貸借一致仕訳を作成します。これらは会社間取引と呼ばれます。組織の会社間で取引が許可されており、これらの会社の基本通貨が異なる場合、貸借一致仕訳を作成して転記しなければ貸借不一致が発生します。これらの貸借一致仕訳によって、確実に各会社の正味残高をゼロにし、借方残高と貸方残高を等しくすることができます。請求書、伝票、および仕訳を入力し、基本通貨が異なる複数の会社に対してこれらを配賦できます。転記プログラムは、通貨の調整とともに、会社間決済の自動仕訳を実行します。

たとえば、基本通貨がそれぞれユーロ(EUR)、カナダ・ドル(CAD)および米ドル(USD)であるフランス、カナダおよび米国内の会社で組織が構成されているとします。フランスの会社(EUR)とカナダの会社(CAD)の総勘定元帳の勘定科目に配賦されるUSD取引を作成します。仕訳の配賦が会社と通貨の境界を越えるため、多通貨会社間決済用の貸借一致仕訳を作成する必要があります。

基本通貨が異なる会社間で会社間決済を実行するには、一般会計固定情報プログラムで「会社間決済」フィールドに方式を割り当てる必要があります。JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理で有効な方式は、次のとおりです。

- 2 (詳細)
- 3 (構成ハブ)

方式3の場合、共通通貨を使用する同じ構成ハブ内に基本通貨が異なる複数の会社を設定できます。

JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理では、決済方式1、\*およびNは無効です。

**注意:** 会社間取引を入力しないとしても、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアは多通貨取引および決済を許可するよう設計されていることに注意してください。実際に会社間取引を入力するかどうかとは関係なく、一般会計固定情報プログラムで、多通貨会社間取引を許可するチェックボックスを選択し、会社間決済方式2または3を指定する必要があります。会社間取引が含まれるバッチを入力しないかぎり、会社間取引および決済は作成されません。

一般会計固定情報プログラムで指定する会社間決済方式は、売掛管理固定情報および買掛管理固定情報プログラムで指定した集計方式に対応している必要があります。これらの方式が対応していない場合、取引を総勘定元帳に転記するとエラー・メッセージが表示されます。

売掛金入金および買掛金支払プログラムは、多通貨会社間決済をサポートしていません。多通貨会社間の入金または支払を入力すると、エラー・メッセージが表示されます。仕訳は転記できません。

転記プログラムは集計方式を使用して、各詳細レコードの相殺入力をバッチ、取引または支払項目のいずれに基づいて作成するかを決定します。JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理の場合、バッチ集計方式(B)は使用できません。これは、転記プログラムでは、1つ以上の外貨または代替通貨を含む請求書、伝票、入金および支払のバッチを転記できないためです。

次の表は、会社間決済方式と売掛管理および買掛管理の集計方式との対応関係を示しています。

多通貨用の 会社間決済方式	集計方式B(バッチ 当たり1つの集計)	集計方式Y(取引 当たり1つの集計)	集計方式S(支払項目 当たり1つの集計)
2 - 詳細	非対応	対応	対応
3 - 構成ハブ	非対応	対応	対応

**注意:** 詳細再換算を使用する場合、集計方式Yを指定する必要があります。

参照: 第 7 章、「詳細再換算の設定」、53ページ

## 多通貨固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
システム・セットアップ	W0000A	「多通貨の設定」(G1141)、 「多通貨オプションの設定」	多通貨固定情報を設定 します。
一般会計固定情報	W0000B	「システム・セットアップ」 で「一般会計固定情報」 を選択します。	多通貨固定情報を設定 します。

## 多通貨固定情報の設定

「一般会計固定情報」フォームにアクセスします。

多通貨換算 (Y/N/Z)	「Y」(乗数)または「Z」(除数)を入力して、デフォルトの換算方法を指定し、JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理を有効にします。JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理を有効にすると、入力および照会フォームで通貨フィールドが表示されます。  取引を入力した後は、この値を変更しないでください。従業員がこのフィールドの値を誤って変更しないように、一般会計固定情報プログラムにセキュリティを設定する必要があります。
多通貨会社間取引の許可	このチェックボックスを選択します。多通貨取引で会社間決済を実行しなくても、このチェックボックスを選択する必要があります。
会社間決済	会社間決済を作成する方式に応じてこのフィールドに「2」または「3」を入力します。

## 通貨コードの設定

この項では、通貨コードの概要と、通貨コードの設定方法について説明します。

### 通貨コードについて

通貨金額に正しい表示小数点以下桁数が反映されるようにするには、処理する通貨ごとに通貨コードを設定する必要があります。通貨コードごとに、支払を書き込む際に金額を文字に変換するプログラムも割り当てます。

通貨コードを設定したら、それらのコードを次に対して割り当てます。

- 会社
- 通貨勘定科目 (通常は銀行勘定科目)
- 仕入先および顧客
- 元帳タイプ

通貨コード情報は、通貨コード・テーブル (F0013) に格納されます。

JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアに用意されている通貨コードは、国際標準化機構 (ISO) で認められています。

### 通貨の小数点以下桁数の管理方法

金額の表示小数点以下桁数は、取引に使用される通貨コードおよび元帳タイプによって異なります。多通貨環境で小数点以下桁数を管理する方法は、次の表を参照してください。

表示小数点以下桁数	説明
会社番号なしで表示される金額の小数点以下桁数	使用される金額に関するデータ辞書の「表示小数点以下桁数」フィールド (CDEC) の値によって制御されます。

表示小数点以下桁数	説明
元帳タイプAA(国内通貨)の取引金額の表示小数点以下桁数	基本(会社)通貨コードによって制御されます。通貨の表示小数点以下桁数は、通貨コード・テーブル(F0013)に定義されます。
数量元帳(Uで終わる元帳タイプ)の金額の表示小数点以下桁数	使用される金額に関するデータ辞書の「表示小数点以下桁数」フィールド(CDEC)の値によって制御されます。
元帳タイプCA(外貨)の取引金額の表示小数点以下桁数 「通貨別勘定残高の転記」チェックボックスは選択されています。	取引通貨コードによって制御されます。通貨の表示小数点以下桁数は、F0013テーブルに定義されます。
元帳タイプCA(外貨)の取引金額の表示小数点以下桁数 「通貨別勘定残高の転記」チェックボックスは選択が解除されています。	<p>総勘定元帳の勘定科目の通貨コード、または必要な場合、特定の合計金額に関連付けられた取引通貨コードによって制御されます。</p> <p>通貨コードは、リストされた順序で次のテーブルから取得されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>勘定残高(F0902)および資産勘定残高(F1202)</li> <li>取引明細(F0911)</li> <li>売掛金元帳(F03B11)および買掛金元帳(F0411)</li> </ul>
数量、AAまたはCA元帳タイプではない取引金額または残高の表示小数点以下桁数	<p>基本(会社)通貨コードによって制御されます。通貨の表示小数点以下桁数は、F0013テーブルに定義されます。</p> <p><b>注意:</b> この規則の例外は、元帳タイプ・マスター・ファイル・テーブル(F0025)の元帳タイプに通貨が割り当てられている場合です。表示小数点以下桁数は、会社ではなく、元帳に割り当てられている通貨によって制御されます。</p>

## 通貨コードの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
通貨コードおよびレートの処理	W0013A	「多通貨の設定」(G1141)、 「通貨コードの指定」	通貨コードのリストを検討します。
通貨コードの設定	W0013B	「通貨コードおよびレートの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	通貨コードを追加し、表示小数点以下桁数および小切手プログラムを割り当てます。

## 通貨コードの設定

「通貨コードの設定」フォームにアクセスします。

「通貨コードの設定」フォーム

### 小数点以下桁数

通貨金額フィールドで使用する小数点以下桁数を入力します。たとえば、小数点以下桁数は、米ドルの場合は2、日本円の場合は0（ゼロ）、カメルーン・フランの場合は3です。

データ辞書の小数点以下桁数のデフォルト値は2です。データ辞書を変更することにより、小数点以下桁数がゼロまたは3の通貨を表示できるようフォームおよびレポートの外観を変更できます。

「小数点以下桁数」フィールドで通貨の表示小数点以下桁数を指定した後は、これを変更しないでください。これを変更すると、すでに処理されている取引に悪影響が及びます。

(TWN) 台湾ドルは表示小数点以下桁数をゼロで設定します。

### 金額から文字の変換プログラム

買掛金支払プログラムによって使用される変換プログラム番号を入力し、数値を文字に変換します。入力する番号はUDCテーブル98/CT内に存在する必要があります。各変換プログラム番号はハードコード化されています。これにより、ユーザー・プロファイルに指定されている言語とは関係なく、変換プログラムに指定されている言語に基づいて支払時の数値が文字に変換されます。変換プログラムでは、小数点以下桁数もハードコード化されています。

たとえば、変換プログラム番号X00500FRはフランスのプログラムです。これにより、2,454.25 EURはDEUX MILLE QUATRE CENT CINQUANTE QUATRE ET 25/100\*\*\*\*\*に変換されます。

通貨に関連付けられた変換プログラム番号は、R04572などの支払印刷プログラムの処理オプションで一時変更できます。「金額から文字の変換プログラム」フィールドを空白のままにし、支払印刷プログラムで変換プログラム番号を割り当てない場合、数値は英語の文字に変換されます。

## 多通貨処理の会社の設定

この項では、JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理の会社設定の概要とJD Edwards EnterpriseOne多通貨処理の会社の設定方法について説明します。

## 多通貨処理の会社の設定について

多通貨処理を処理するための会社を設定するには、次の作業を行う必要があります。

- 国内通貨コードの割当。  
通貨コードを割り当て、各会社の基本(国内)通貨を指定します。AA元帳の金額は、通貨コードに指定した正しい表示小数点以下桁数を使用して国内通貨で管理されます。
- 残高を通貨別に転記するかどうかの決定。  
勘定残高テーブル(F0902)で外貨(CA)元帳に勘定残高を通貨別に転記するかどうかを指定します。
- 再換算。残高通貨再換算に使用する計算方法を指定します。
- 詳細再換算。詳細再換算を許可するかどうかを指定します。

会社の通貨情報は、会社固定情報テーブル(F0010)に格納されます。

### 通貨別残高と集計残高

異なる通貨で残高金額を検討できるかどうかは、F0902テーブルで金額を通貨別に転記するかどうかによって決まります。通貨別に残高を転記する場合、複数の通貨に基づく総合計の検討は無意味であるため、かわりにF0902テーブルで通貨別に勘定残高金額を検討できます。会社ごとに、会社名および番号プログラム(P0010)で「通貨別勘定残高の転記」チェックボックスを選択するかどうかを選択します。このチェックボックスの選択を解除すると、すべての通貨金額が1つの合計金額として集計されます。この合計金額はハッシュ合計であり、複数の通貨に基づくため無意味なものになります。

通貨別に残高を転記する場合と、通貨別に残高を転記しない場合(集計残高とも呼ばれます)の違いは、次の表を参照してください。

方法	説明
通貨別残高	取引通貨の取引金額をCA(外貨)とAA(実績金額)の両方で区別します。取引が発生した通貨に応じて残高を検討するには、通貨別に残高が転記されるようシステムを設定します。  たとえば、通貨別に残高を転記すると、カナダ・ドル、米ドルおよびイギリス・ポンドで売上勘定科目に転記された金額を検討できるだけでなく、補助科目を使用しなくても各国の売上金額を検討できます。
集計残高	CA元帳で取引金額を通貨別に区別しません。残高を通貨別に転記しない場合、CA元帳には多数の通貨が含まれ、元帳の合計は意味がなくなり、元帳の貸借は一致しません。  集計残高を転記する場合、通貨別に残高を転記する場合よりもF0902テーブルのレコードが少なくなるため、必要なディスク・スペースは減ります。ほとんどのレポートでは、通貨合計の計算には取引明細が使用されます。

残高を通貨別に転記する場合、開始勘定と終了勘定の範囲としてAAI項目PBCxxも設定する必要があります。

### F0902テーブルの通貨フィールドの更新方法

取引を多通貨環境で転記すると、レポート用として勘定残高テーブル(F0902)の2つの通貨フィールドが更新されます。

- CRCD。このフィールドのコードは、取引が入力された通貨である、取引通貨を表します。

- CRCX。このフィールドのコードは、取引で入力された会社割り当てられた通貨である、会社（基本または指定）通貨を表します。

通貨別に勘定残高を転記するためにチェックボックスを選択したかどうかに応じて、CRCDおよびCRCXフィールドは異なる値で更新されます。次の表は、チェックボックスの選択の有無に基づいて更新されるフィールドを示しています。

「通貨別勘定残高の転記」 チェックボックス	元帳タイプ	取引通貨 (CRCD)	会社 (指定) 通貨 (CRCX)
選択	AA	取引通貨	会社割り当てられた通貨
選択	CA	取引通貨	取引通貨
選択解除	AA	空白	会社割り当てられた通貨
選択解除	CA	空白	会社割り当てられた通貨
選択解除	その他すべての 元帳タイプ	空白	指定した場合は元帳タイプの通貨コード、 指定しない場合は会社割り当てられた通貨

## 多通貨処理の会社の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
会社の処理	W0010C	「組織と勘定科目の設定」 (G09411)、「会社名および番号」	会社レコードを検討し、 選択します。
会社の設定	W0010B	「会社の処理」フォームで、 会社を選択します。	会社ごとに通貨情報を 設定します。

## 多通貨処理の会社の設定

「会社の設定」フォームにアクセスします。

会社名および番号 - 会社の設定

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

会社番号 \* 00080 名称 \* Colombian ECS Company

会社の設定 52期間会計 通貨

国内通貨 COP Colombian Peso

再換算

詳細通貨再換算 1

通貨別勘定残高の転記 ☒

「会社の設定」フォーム

## 通貨

「通貨」タブを選択します。

### 国内通貨

会社の基本通貨を識別するコードを入力します。会社に通貨コードを割り当てて取引を入力した後は、通貨コードを変更しないでください。通貨コードを変更すると、データの整合性に影響が及びます。

### 通貨別勘定残高の転記

このチェックボックスを選択し、通貨別に勘定残高を転記します。

会社またはデフォルトの会社00000のAAI項目PBCxxに必要な勘定科目の範囲を設定していない場合、「確認 - AAIの設定」フォームが表示されます。このフォームが表示されたら、「はい」をクリックして「複数AAI項目の設定」フォームを表示し、PBCxxの範囲を追加します。次に、「OK」をクリックして「会社の設定」フォームに戻ります。

「いいえ」をクリックして必要なAAI項目範囲を設定しない場合、総勘定元帳転記プログラムによって通貨別の詳細残高ではなく通貨が混在した集計残高として会社の仕訳が転記されるので注意してください。この転記プログラムにより、AAI項目PBCが見つからなかったために残高が通貨別に転記されなかったことを示す警告がワーク・センターに送信されます。

## 一般会計の多通貨AAIの設定

この項では、一般会計の多通貨AAIの概要と、次の方法について説明します。

- 通貨銀行勘定科目の未実現為替差損益のAAIの設定
- 通貨別残高転記のAAIの設定
- 多通貨会社間決済のAAIの設定

## 一般会計の多通貨AAIについて

AAIを設定することにより、次を目的としてJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの多通貨処理用の勘定科目を定義します。

- 通貨勘定科目の未実現為替差損益(再評価)
- 通貨別残高の転記
- 多通貨会社間決済

通貨勘定科目の未実現為替差損益が計算され、通貨別に勘定残高が転記され、別の通貨で金額が再換算される場合、AAIを使用して適切な総勘定元帳の勘定科目に金額が配賦されます。

一部のAAI項目には、3文字の通貨コードに対応する接尾辞としてxxxがあります。接尾辞xxxを使用して、会社ごとに複数の通貨固有のAAI項目を設定します。通貨コードを指定しない場合、会社の通貨コードがデフォルトとして使用されます。

会社00000のAAIを設定することも、個別会社の特定のAAIを設定することもできます。JD Edwards EnterpriseOneシステム内の各AAI項目には、勘定科目コードを検索するための階層順序があります。次は階層順序の例です。

1. xxx(通貨コード)を持つAAI項目。見つからない場合、次が検索されます。
2. 特定の会社のAAI。見つからない場合、次が検索されます。
3. 会社00000のAAI項目。

## 通貨銀行勘定科目の未実現為替差損益のAAIの設定

通貨(通貨固有の)銀行勘定科目および外貨を処理する場合、現行の為替レートが反映されるように銀行勘定を定期的に再評価する必要があります。未実現為替差損益は、外貨残高の現行の国内通貨金額を計算することによって決定されます。外貨銀行勘定科目の残高を国内通貨に換算した場合、この方法により、為替差損益が決定されます。

次のAAI項目により、通貨勘定科目の未実現為替差損益に使用される勘定科目が定義されます。

- GVxxx: 未実現為替差益
- GWxxx: 未実現為替差損
- GRxxx: 未実現為替差損益相殺

AAI項目GV、GWおよびGRには、次の規則が適用されます。

- AAI項目GVおよびGWに割り当てられた勘定科目コードを使用して、通貨勘定科目の未実現為替差損益が作成されます。
- AAI項目GRに割り当てられた勘定科目コードを使用して、未実現為替差損益相殺が作成されます。  
未実現為替差損益相殺が通貨勘定科目に割り当てられる場合(通常の処理)、AAI項目GRを削除する必要があります。削除しない場合、AAI項目GRが検索され、設定されている場合は使用されます。また、AAI項目GRが存在し正しく設定されていない場合、エラー・メッセージが表示されます。
- ビジネスユニットは任意です。ビジネスユニットが含まれていない場合、通貨勘定科目に関連付けられた会社のビジネスユニットが使用されます。
- xxxは通貨コードを表し、任意です。

GV、GWおよびGRの検索順序は、次のとおりです。

1. GV、GWまたはGRxxx(xxxは通貨勘定科目に割り当てられた会社の通貨)

2. 通貨勘定科目に割り当てられた会社のGV、GWまたはGR
3. 会社00000のGV、GWまたはGR

## 通貨別残高転記のAAIの設定

AAI項目PBCxxは、勘定残高テーブル(F0902)で残高を通貨別にトラッキングおよび転記するために使用される勘定科目範囲を定義します。会社の通貨別に残高を転記する場合、AAI項目PBCxxを設定するとともに、会社名および番号プログラム(P0010)で「通貨別勘定残高の転記」チェックボックスを選択する必要があります。

PBCxxの勘定科目範囲を設定する場合、勘定科目範囲に繰越利益勘定(AAI項目GLG4)を含めないでください。繰越利益勘定を含めると、年度締めプログラム(R098201)により、F0902テーブルで繰越残高金額の重複レコードが作成される可能性があります。

AAI項目PBCxxには、次の規則が適用されます。

- AAI項目PBCxxに割り当てられた勘定科目コード範囲を使用して、通貨別に残高が転記されます。
- xxは、一連の範囲の開始と終了の両方を表します。  
たとえば、PBC01は範囲内の最初の勘定科目を表し、PBC02は範囲内の最後の勘定科目を表します。
- 範囲は省略できず、次の順番である必要があります。
  - 01から02 = 勘定科目の最初の範囲
  - 03から04 = 勘定科目の2番目の範囲
- 会社ごとに範囲を設定します。これらは会社固有である必要があります。

### 例: PBCxxの設定

会社00070では、すべての勘定科目について残高を通貨別に転記します。繰越利益の主科目は4980です。勘定科目4980を除外するには、次の表に示すように、PBCxxの4つのAAI項目と2つの範囲を設定します。

AAI項目	記述	主科目	補助科目
PBC01	通貨別残高の転記 - 開始勘定科目範囲1	1000	
PBC02	通貨別残高の転記 - 終了勘定科目範囲1	4979	99999999または ZZZZZZZZ
PBC03	通貨別残高の転記 - 開始勘定科目範囲2	4981	
PBC04	通貨別残高の転記 - 終了勘定科目範囲2	9999	99999999または ZZZZZZZZ

## 多通貨会社間決済のAAIの設定

AAI項目ICCCおよびICHは、会社間決済に対して使用できます。AAI項目ICCCは、多通貨処理用として使用可能な方式である会社間決済方式2(詳細)および3(構成ハブ)によって使用される唯一のAAIです。

AAI項目ICCCにより、会社間仕訳がある会社間の自動仕訳の作成に使用される勘定科目を定義します。

AAI項目ICCCには、次の規則が適用されます。

- 会社間決済の仕訳を転記する場合、ICCCに割り当てられた勘定科目を使用して自動仕訳が作成されます。
- 会社が会社間決済に関与しているかどうかとは関係なく、会社ごとに個別のAAI項目ICCCを設定する必要があります。
- 勘定科目の会社は、AAIに指定した会社と同じである必要があります。
- ビジネスユニットおよび主科目が必要です。

## 通貨勘定科目の設定

この項では、通貨勘定科目の概要と、通貨勘定科目への通貨コードの割当方法について説明します。

### 通貨勘定科目について

ほとんどの総勘定元帳の勘定科目について、取引を任意の通貨で承認されるようにすることができます。これを行うには、勘定科目に通貨コードを割り当てないようにします。特定通貨の取引のみを承認するようにする勘定科目には、勘定科目に通貨コードを割り当てる必要があります。これらの勘定科目は、通貨勘定科目と呼ばれます。通常、通貨勘定科目は銀行または現金勘定科目です。

たとえば、ある日本の組織に通貨が日本円の会社があり、この会社にはカナダ・ドル(CAD)の銀行勘定科目があるとします。この勘定科目の通貨としてCADを割り当てると、この勘定科目は通貨勘定科目になり、この通貨の取引のみが承認されます。

通貨勘定科目の通貨コードは、勘定科目マスター(F0901)に保存されます。

**重要:** 通貨勘定科目に活動が転記されている場合、この勘定科目を非通貨勘定科目に変更しないでください(逆の場合も同様です)。通貨を変更すると、データの整合性に影響が及びます。

### 通貨勘定科目の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
勘定科目の処理	W0901H	「多通貨の設定」(G1141)、 「通貨勘定の指定」	勘定科目を検討して選択します。
単一勘定科目の改訂	W0901A	「勘定科目の処理」フォームで、勘定科目を選択します。	勘定科目に通貨コードを割り当て、これを通貨勘定科目として指定します。


### 通貨勘定科目への通貨コードの割当

「単一勘定科目の改訂」フォームにアクセスします。

**通貨勘定の指定 - 単一勘定科目の改訂**

勘定科目の処理    **単一勘定科目の改訂**

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

勘定科目コード  *First Bank of Munich*

タブを選択: 1-勘定科目の改訂 ▼

ビジネスユニット/主科目/補助科目 ★

記述 ★

勘定科目詳細レベル

転記編集コード  全転記可能

予算パターン・コード

モデル/連結勘定科目フラグ  非モデル/連結

通貨コード  *Euro*

☐ 調整仕訳

略式ID

「単一勘定科目の改訂」フォーム

## 多通貨元帳タイプの設定

複数の通貨を処理する場合、元帳タイプAA(実績金額)およびCA(外貨)が使用されます。また、必要に応じて、次の再換算元帳タイプも使用されます。

- XA: 詳細再換算
- YA: 詳細再換算
- ZA: 詳細再換算
- AC: 残高再換算
- AD: 仮定再換算

UDCテーブル09/LTを検討し、これらの元帳タイプが設定されていることを確認します。次に、他の元帳を管理する必要があるかどうかを検討します。必要がある場合、元帳タイプをUDCテーブル09/LTに追加します。その後、「元帳タイプ規則の設定」フォームを使用して元帳タイプの会計規則を定義し、必要に応じて、通貨コードを割り当てます。

**関連項目:**

第 8 章、「残高再換算および仮定再換算の設定」、61 ページ

## 第 6 章

# 為替レートの設定

この章では、為替レートの概要と次の方法について説明します。

- 逆換算方法の為替レートの設定
- 逆換算禁止方法の為替レートの設定
- 間接換算方法の為替レートの設定
- 単一通貨に対する複数の為替レートの設定
- 外部ソースからの為替レートのアップロード
- 外部為替レートの処理
- 為替クロスレート関係の設定
- 為替クロスレートの計算

---

## 為替レートについて

複数の通貨を処理する場合、金融市場で公開されている最新の為替レートに基づいて取引を入力する必要があります。設定する為替レートは、取引を入力する際のデフォルトの為替レートになります。また、為替レートは次の処理にも使用されます。

- 外貨および代替通貨の入金と支払における実現為替差損益の計算
- 未決済の外貨建て請求書および伝票の未実現為替差損益の計算
- 通貨銀行勘定科目の未決済取引の再評価

次の例は、Web上の国際的な通貨サイトで公開されているUSDからEURへの為替レートです。

1米ドル(USD) = 1.00334ユーロ(EUR)

1 EUR = 0.99667 USD

前述のようにEURからUSDへの逆換算(逆数)レートも公開されています。

JD Edwards EnterpriseOneシステムで多通貨処理を最初に設定する際に、取引先の会社の通貨(換算元通貨)と国内通貨(換算先通貨)間の為替レートを設定します。JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理システム全体にわたって、換算元通貨は外貨を表し、換算先通貨は国内通貨を表します。

他の設定タスクとは異なり、為替レートの設定は繰り返し発生するタスクです。最初に為替レートを設定した後、為替レートを定期的に更新し、取引のデフォルト・レートと、実現および未実現為替差損益のデフォルト・レートを指定する必要があります。初期設定後は、為替レートの入力プログラム(P0015A)を使用して為替レートの設定を継続できます。また、一度に設定する為替レートの数が多い場合は、為替レートのスピード改訂プログラム(P11154)または外部為替レートの処理プログラム(R0015Z1)の使用を検討してください。為替レートは、為替レート・テーブル(F0015)に保存されます。

## スポット・レート

通貨関係の為替レートを設定する場合、2つの通貨間の取引でスポット・レートを許可するかどうかを指定する必要があります。通貨関係に対してスポット・レートを許可するかどうかを指定するには、「為替レートの改訂」フォームで「スポット・レートの許可」チェックボックスを選択または選択解除します。

請求書または伝票にスポット・レートを入力すると、F0015テーブルに保存されている換算方法(YまたはZ)が使用されます。一般会計固定情報プログラム(P0000)に指定されているデフォルトの換算方法は使用されません。請求書または伝票の元帳日付以前の有効日付を持つ特定の通貨関係に対して設定されている換算方法が使用されます。

スポット・レートの場合、換算された通貨金額は、実際の為替レートを使用して取得された金額と比較されます。伝票入力(P0400047)、請求書入力(P03B0011)および仕訳入力(P0900049)のマスター・ビジネス関数(MBF)処理オプションに指定されている許容限度額に基づいて、2つの金額間の差異が計算され、仕訳が検証されます。計算された金額が許容範囲内にない場合は、警告メッセージが表示されます。

たとえば、為替レートの変更を5%まで認める場合は「5.0」と指定します。実際の為替レートを使用して取得される金額と6%異なる金額が計算されるスポット・レートを入力すると、警告メッセージが表示されます。これにより、入力したスポット・レートが妥当であるかが確認され、データ入力ミスと考えられる場合に警告されます。

## 計算方法

通貨関係の為替レートを設定する場合、次のいずれかの計算方法を指定する必要があります。

- 逆換算方法
- 逆換算禁止方法
- 間接換算方法

通貨関係の計算方法は、新しい方法および為替レートを有効にする日付を指定することにより、いつでも変更できます。このような柔軟性により、特定の通貨関係を逆換算から逆換算禁止(またはこの逆)へ変更したり、通貨関係に対する間接為替の使用を開始または停止することが可能になります。通貨関係の計算方法を変更しても、実績レートおよび方法を今までどおり参照できます。

計算方法とともに、通貨関係ごとに換算方法も指定します。デフォルトの換算方法は、一般会計固定情報プログラムで設定します。為替レートの入力プログラム(P0015A)を使用して通貨関係を設定する場合、デフォルトの換算方法のままにすることも一時変更することも可能です。各通貨関係の換算方法はF0015テーブルに保存され、その通貨関係の換算方法が使用されます。一般会計固定情報プログラムに指定されているデフォルトの換算方法は使用されません。

## この項で使用する共通フィールド

有効日付	2つの通貨間の為替レートの有効開始日付を入力します。
連絡先(住所No.)	経費精算管理システムで使用する支払方法の為替レートを設定するには、為替レートIDに入力された住所番号を入力します。異なる通貨間の為替レートに対して同じ住所番号を使用できます。たとえば、住所番号12345についてUSDとCAD間の為替レートを設定した後、住所番号12345についてUSDとEUR間の別の為替レートを設定できます。
レート・タイプ	UDCテーブル11/RTからユーザー定義コードを入力し、為替レート関係に関連付けられたレートのタイプを指定します。デフォルト値(ブランク)は標準レート・タイプです。

**スポット・レートの許可**

このチェックボックスを選択または選択解除し、特定の通貨関係に対してスポット・レートを許可するかどうかを指定します。スポット・レートは、取引入力時に入力した為替レートです。

**換算方法(Y/Z)**

通貨の換算に使用する方法を入力します。値は次のとおりです。

Y: 乗数方式。外貨金額と乗算為替レートを乗算して国内通貨金額が計算されます。

Z: 除数方式。外貨金額を除算為替レートで除算して国内通貨金額が計算されます。

---

**注意:** 通貨関係については、このフィールドの値により、「一般会計固定情報」フォームの換算方法が一時変更されます。

---

**乗算レート**

国内通貨金額を算出するために外貨金額を乗算する数字(為替レート)を入力します。フィールドをブランクのままにしておくと値が自動的に計算されます。つまり、乗算レートを入力すると、除算レートは自動的に計算されます。除算レートを入力すると、乗算レートは自動的に計算されます。乗算レートと除算レートは逆数の関係です。

計算方法に応じて、次の作業を行います。

- 逆換算方法の場合、通貨関係の乗算為替レートを入力します。
- 逆換算禁止方法の場合、一般会計固定情報の換算方法がY(乗数)であるときは乗算為替レートを入力します。また、換算方法がZ(除数)であるときは除算為替レートを入力します。
- 間接換算方法の場合、間接換算レート1の為替レートを入力します。

**除算レート**

国内通貨を算出するために外貨金額を除算する数字を入力します。

フィールドをブランクのままにしておくと値が自動的に計算されます。つまり、乗算レートを入力すると、除算レートは自動的に計算されます。除算レートを入力すると、乗算レートは自動的に計算されます。乗算レートと除算レートは逆数の関係です。

計算方法に応じて、次の作業を行います。

- 逆換算方法の場合、通貨関係の除算為替レートを入力します。
- 間接換算方法の場合、間接換算レート2の為替レートを入力します。

---

## 逆換算方法の為替レートの設定

この項では、逆換算方法の概要と逆換算方法の例、および次の方法について説明します。

- 為替レートの入力(P0015A)の処理オプションの設定
- 逆換算方法の為替レートの設定

## 逆換算方法について

逆換算方法は、通貨間で金額を換算するときに乗数または除数の逆換算（逆数）為替レートを使用する計算方法です。乗数と除数の為替レートは、逆数（反対）の関係です。逆換算方法では、外貨金額を為替レートで乗算または除算して国内通貨金額を計算します。

逆換算方法を使用して通貨間で金額を換算するには、換算元通貨と換算先通貨の関係と、各関係の乗算および除算為替レートを設定します。金額の換算時に乗数換算方法と除数換算方法のどちらを使用するかを指定します。通貨への換算時には除数換算方法、通貨からの換算時には乗数換算方法（またはこの逆）を使用できます。唯一の制約は、逆換算方法を間接換算方法と組み合わせて使用できないことです。

## 例：逆換算方法

次の例は、逆換算計算方法を使用する、CADとUSDの通貨関係に対する為替レートの設定を示しています。逆換算計算方法では、次のいずれかの換算方法を使用します。

- 乗数
- 除数

逆数レート（通貨関係における反対の為替レート）は、乗数または除数換算方法と組み合わせて使用されます。

### 乗数換算方法を使用した逆換算

次の例は、乗数換算方法および逆換算計算方法を使用する、CADとUSDの通貨関係に対する為替レートの設定を示しています。

通貨の関係	乗数換算方法(Y)およびレート
CADからUSDへ	1.60420
USDからCADへ	0.62336

この例では、CADからUSDへの計算時には乗算レート、USDからCADへの計算時には逆換算レートを使用しています。CADからUSDへの通貨関係では為替レートとして1.60420を使用し、USDからCADへの通貨関係では逆換算（逆数）レートとして $0.62336 (1 \div 1.60420)$ を使用しています。

### 除数換算方法を使用した逆換算

次の例は、除数換算方法および逆換算計算方法を使用する、CADとUSDの通貨関係に対する為替レートの設定を示しています。

通貨の関係	除数換算方法(Z)およびレート
CADからUSDへ	0.62336
USDからCADへ	1.60420

この例では、CADからUSDへの計算時には除算レート、USDからCADへの計算時には逆換算レートを使用しています。CADからUSDへの通貨関係では為替レートとして $0.62336 (1 \div 1.60420 = 0.62336)$ を使用し、USDからCADへの通貨関係では逆換算（逆数）レートとして1.60420を使用しています。

## 逆換算方法の為替レートの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
為替レートの処理	W0015AA	<p>「多通貨処理」(G11)、「為替レートの入力」</p> <p>「為替レートの処理」フォームで、「レポート」メニューの「為替レート・レポート」を選択します。</p> <p>データ選択を使用して、為替レート・レポートに出力される情報を制限します。制限しない場合、F0015テーブルのすべての情報がレポートに出力されます。</p>	F0015テーブルの為替レートが含まれるレポートを出力します。データ選択を使用して、特定の有効日付時点の特定の通貨の為替レートを出力したり、特定の有効日付のすべての為替レートを出力できます。
為替レートの改訂	W0015AC	<p>「多通貨処理」(G11)、「為替レートの入力」</p> <p>「為替レートの処理」フォームで、「追加」をクリックします。</p> <p>「逆換算方法」オプションを選択します。</p>	逆換算方法の為替レートを入力および更新します。

## 為替レートの入力 (P0015A) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 許容限度

#### 1. 許容限度率

為替レートの変更に対する許容限度を指定します。指定する許容限度は、データ入力フォームで請求書、伝票および仕訳などの個別取引の為替レートを入力するときに適用されます。

たとえば、為替レートの変更を5%まで認める場合は「5.0」と指定します。前回入力した為替レートと6%異なる値を入力すると、警告が表示されます。

### 表示

#### 1. レート・タイプ

「レート・タイプ」フィールドを表示するかどうかを指定します。レート・タイプは、残高再換算プログラムによって使用され、月平均レート、月末レート、予算レート、実績レートなどがあります。値は次のとおりです。

ブランクまたは0: 「レート・タイプ」フィールドを表示しない。

1: 「レート・タイプ」フィールドを表示する。

## 逆換算方法の為替レートの設定

「為替レートの改訂」フォームにアクセスします。

**為替レートの入力 - 為替レートの改訂**

OK(O) 取消(L) ツール(T)

通貨コード \* CAD

換算先通貨コード \* JPY

有効日付 \* 2005/01/01

連絡先

**計算方法**

☒ 逆換算方法  
☐ 逆換算禁止方法  
☐ 間接換算方法  
☒ スポット・レートの許可

換算方法(Y/Z) Z 除数方式

乗算レート 85.2189781

除算レート .0117345

「為替レートの改訂」フォーム

**逆換算方法**

通貨関係に対して逆換算方法による計算を使用するには、このオプションを選択します。

既存の通貨関係に対して新規為替レートを設定する場合、この通貨関係の前の為替レート・レコードからデフォルトの計算方法が取得されます。

**重要:** 処理オプションに指定した許容限度以上に前回の為替レートを超える為替レートを入力すると、警告が表示されます。警告を無視して新規為替レートを使用するには、「OK」を2回クリックします。

入力した有効日付およびレート・タイプ(該当する場合)についてレートがすでに存在する場合、エラー・メッセージが表示されます。

## 逆換算禁止方法の為替レートの設定

この項では、逆換算禁止方法の概要と逆換算禁止方法の例、および逆換算禁止方法の為替レートの設定方法について説明します。

### 逆換算禁止方法について

逆換算禁止方法は、乗算レートと除算レートに同じ為替レートを使用する計算方法です。逆換算禁止方法により、逆換算方法および逆数レートを使用して多額を処理するときが発生する可能性がある四捨五入差異を削減します。通常、逆換算禁止方法で発生する可能性がある四捨五入差異は重要ではありません。

逆換算禁止方法を使用して通貨間で金額を換算するには、換算元通貨と換算先通貨の関係と、各関係の逆換算禁止レートを設定します。通貨への換算時には除数換算方法、通貨からの換算時には乗数換算方法(またはこの逆)を使用できます。逆換算禁止方法の為替レートを設定する場合、1つのレートを入力し、特定の通貨関係の金額の換算時に乗数または除数換算方法のいずれを使用するか指定します。逆換算禁止方法の為替レートは、通貨からの換算時の乗数換算方法および通貨への換算時の除数換算方式(またはこの逆)を使用して設定できます。

逆換算禁止方法の為替レートを設定すると、反対方向で対応するレコードが自動的に作成されます。たとえば、逆換算禁止方法でCADからJPYへの為替レート・レコードを設定し、換算方法Z(除数)を指定すると、換算方法Y(乗数)を使用してJPYからCADへの為替レート・レコードが自動的に作成されます。これらの為替レート・レコードの2つのレートは同じです(1つは除算レート、もう1つは乗算レート)。各レコードの反対レートはブランクです。これは、逆換算禁止方法の場合、このレートには目的がないためです。

逆換算禁止方法は、間接換算方法と組み合わせて使用できます。

## 例：逆換算禁止方法

次の例は、逆換算禁止計算方法を使用する、CADとUSDの通貨関係に対する為替レートの設定を示しています。次の表に示すように、CADからUSDへの換算方法はZ(除数)、USDからCADへの換算方法はY(乗数)です。

通貨の関係	乗数換算方法(Y)および 逆換算禁止レート	除数換算方法(Z)および 逆換算禁止レート
CADからUSDへ	ブランク	0.62336
USDからCADへ	0.62336	ブランク

逆換算禁止方法の場合、乗数方式と除数方式の為替レートは同じ値(0.62336)です。各為替レート・レコードの反対レートはブランクです。これは、逆換算禁止方法の場合、このレートが存在しないためです。CADからUSDへの関係の場合、USDからCADへの関係で反対の方法が使用されるかぎり、乗数方式と除数方式のどちらも使用できます。

## 逆換算禁止方法の為替レートの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
為替レートの処理	W0015AA	<p>「多通貨処理」(G11)、「為替レートの入力」</p> <p>「為替レートの処理」フォームで、「レポート」メニューの「為替レート・レポート」を選択します。</p> <p>データ選択を使用して、為替レート・レポートに出力される情報を制限します。制限しない場合、F0015テーブルのすべての情報がレポートに出力されます。</p>	F0015テーブルの為替レートが含まれるレポートを出力します。データ選択を使用して、特定の有効日付時点の特定の通貨の為替レートを出力したり、特定の有効日付のすべての為替レートを出力できます。
為替レートの改訂	W0015AC	<p>「多通貨処理」(G11)、「為替レートの入力」</p> <p>「為替レートの処理」フォームで、「追加」をクリックします。</p>	逆換算禁止方法の為替レートを入力および更新します。

## 逆換算禁止方法の為替レートの設定

「為替レートの改訂」フォームにアクセスします。

### 逆換算禁止方法

通貨関係に対して逆換算禁止計算方法を使用するには、このオプションを選択します。

既存の通貨関係に対して新規為替レートを設定する場合、この通貨関係の前の為替レート・レコードからデフォルトの計算方法が取得されます。

反対方向で対応する為替レート・レコードは自動的に作成されます。たとえば、逆換算禁止方法で換算方法Z(除数)を使用してCADからJPYへの為替レート・レコードを設定すると、逆換算禁止方法で換算方法Y(乗数)を使用してJPYからCADへのレコードが自動的に作成されます。両方のレコードの為替レートは同じです。

**重要:** 処理オプションに指定した許容限度以上に前回の為替レートを超える為替レートを入力すると、警告が表示されます。警告を無視して新規為替レートを使用するには、「OK」を2回クリックします。

入力した有効日付およびレート・タイプ(該当する場合)についてレートがすでに存在する場合、エラー・メッセージが表示されます。

## 間接換算方法の為替レートの設定

この項では、間接換算方法の概要と間接換算方法の為替レートの設定方法について説明します。

## 間接換算方法について

この方法では、外貨金額を外貨と間接為替通貨間の為替レートで乗算または除算して計算金額を算出してから、この計算金額を間接為替通貨と国内通貨間の為替レートで乗算または除算して国内通貨金額を算出します。

間接為替通貨を介して金額を換算するには、次の手順に従います。

- 間接為替通貨による換算元通貨と換算先通貨の関係を設定します。
- 通貨関係の間接換算レート1の換算方法を指定します。  
乗数または除数方式を指定すると、間接換算レート2には反対の方法が使用されます。
- 通貨関係の間接換算レート1の為替レートを入力します。

為替レート計算の間接換算方法では、第3の通貨を介して通貨間で金額を換算します。この第3通貨は間接為替通貨と呼ばれます。間接為替計算方法を使用する場合、逆換算禁止方法も使用する必要があります。間接換算方法を逆換算方法と組み合わせて使用することはできません。

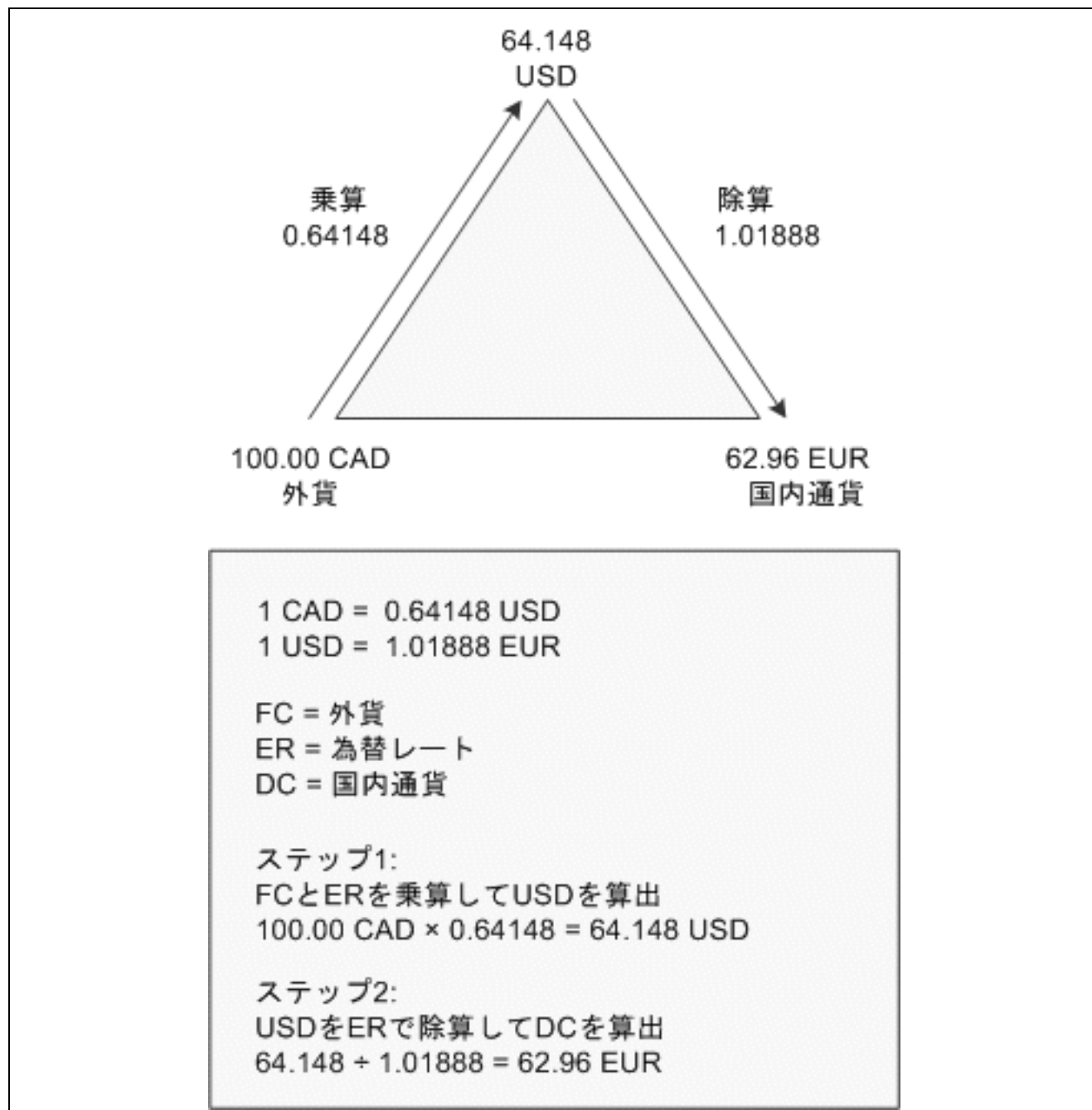
間接為替は、国内通貨金額を算出するために第3通貨を介して乗算または除算される2つの為替レートで構成されます。第1為替レートは外貨から間接為替通貨へのレートで、第2為替レートは間接為替通貨から国内通貨へのレートです。会社によって、為替クロスレート関係を設定して同じ結果を得ることを好む場合と、間接為替を設定することを選択する場合があります。

間接為替通貨を介して金額を計算するには、外貨から間接為替通貨(間接換算レート1)へ金額を換算するために乗数方式と除数方式のどちらを使用するかを指定します。間接為替通貨から国内通貨(間接換算レート2)への金額の換算には、反対の方法が自動的に使用されます。外貨から国内通貨への通貨関係の為替レートを入力し、間接為替通貨をレコードに割り当てます。反対方向で対応するレコードは自動的に作成されます。たとえば、USDを間接為替通貨としてCADからEURへの為替レートを入力すると、USDを間接為替通貨としてEURからCADへの為替レートのレコードが自動的に作成されます。

間接為替は国内通貨金額を算出するために乗算または除算された2つの為替レートで構成されるため、計算では2つのレートが取得および使用されます。取引レコードに両方のレートを保存することはできません。このため、ゼロの為替レートが保存されますが、使用されません。

ある通貨関係に対して間接為替を設定する場合、間接為替をすべての通貨関係に対して設定する必要はありません。通貨関係で逆換算計算方法または逆換算禁止計算方法を使用するかどうかを制御する場合と同じように、通貨関係で間接為替計算方法を使用するかどうかを制御します。

次の図は、間接為替を視覚的に表しています。



間接換算方法

### 例: 間接換算方法

この例は、間接為替計算方法を使用する、CADとEURの通貨関係に対する為替レートの設定を示しています。間接為替通貨はUSDです。この例に示すように、間接為替計算方法とともに逆換算禁止方法を使用する必要があります。

通貨の関係	乗数換算方法(Y)および 逆換算禁止レート	除数換算方法(Z)および 逆換算禁止レート
CADからUSDへ	0.64148	ブランク
USDからEURへ	ブランク	1.01888

USDを間接為替通貨として使用してCADからEURへ金額を換算するために、最初に乗数換算方法(間接換算レート1)を使用してCADからUSDへ金額が算出されてから、除数換算方法(間接換算レート2)を使用してUSDからEURへ金額が算出されます。

## 間接換算方法の為替レートの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
為替レートの改訂	W0015AC	「多通貨処理」(G11)、「為替レートの入力」  「為替レートの処理」で、「追加」をクリックします。	間接換算方法の為替レートを入力および更新します。

## 間接換算の為替レートの設定

「為替レートの改訂」フォームにアクセスします。

### 間接為替通貨

間接為替計算用の決済通貨の通貨コードを入力します。

### 間接換算方法

通貨関係に対して間接為替計算方法を使用するには、このオプションを選択します。

既存の通貨関係に対して新規為替レートを設定する場合、この通貨関係の前の為替レート・レコードからデフォルトの計算方法が取得されます。

### 間接換算レート1の換算方法

間接為替の間接換算レート1の換算方法を入力します。値は次のとおりです。

Y: 乗数方式

Z: 除数方式

新規通貨関係に対して為替レートを設定する場合、一般会計固定情報プログラムからデフォルトの換算方法が取得されます。

### 間接レート1

外貨と間接為替通貨間の為替レートを入力します。

### 間接レート2

間接為替通貨と国内通貨間の為替レートを入力します。

## 単一通貨に対する複数の為替レートの設定

この項では、複数の為替レートの設定の概要と、単一通貨に対する複数の為替レートの設定方法について説明します。

## 複数の為替レートの設定について

単一通貨に対して複数の為替レートを設定する場合、為替レートの入力プログラム (P0015A) または為替レートのスピード改訂 (P11154) を使用できます。為替レートのスピード改訂プログラムには、次のような複数の利点があります。

- 関連する為替レートを入力するために個々の換算元通貨を1つずつ入力する必要がありません。  
それだけでなく、複数の換算元通貨から単一の換算先通貨への為替レートを同じフォームで一度に入力できます。
- 既存の通貨関係に対してのみ新規為替レートを入力する場合は、このプログラムを使用します。これは、迅速なデータ入力や日常的な用途に適しています。  
新規通貨関係を設定したり、計算または換算方法を変更するには、為替レートの入力プログラムを使用する必要があります。
- 特定の通貨に関連付けられたすべての為替レートを一度に表示できます。

為替レートのスピード改訂プログラムは、F0015テーブルに保存されている為替レートを更新します。

## 単一通貨に対する複数の為替レートの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
為替レートの処理	W0015AA	「多通貨処理」(G11)、「為替レートの入力」	通貨のペアまたは関係のリストを検討します。
為替レートのスピード改訂	W11154A	「為替レートの処理」フォームで、複数の為替レートを設定する換算先通貨が含まれるローを選択してから、「ロー」メニューの「複数レート」を選択します。	単一通貨に対して複数の為替レートを入力します。
為替レートの検討	W0015AB	「為替レートの処理」フォームで、通貨のペアを選択します。	特定の通貨のペアの為替レートを検討します。

## 単一通貨に対する複数の為替レートの設定

「為替レートのスピード改訂」フォームにアクセスします。

**為替レートの入力 - 為替レートのスピード改訂**

OK(O) 検索(I) 取消(L) ツール(T)

換算先通貨コード <input type="text" value="USD"/> U.S. Dollar	連絡先(住所No.) <input type="text"/>
有効日付 <input type="text" value="2009/03/22"/>	

レコード 1 - 15

	換算元通貨	為替レート乗数/区間1	為替レート除数/区間2	有効日付	計算方法	換算方法
<input checked="" type="radio"/>	AUD	<input type="text"/>	<input type="text"/>	2002/04/01	1	Z
<input type="radio"/>	BRL	<input type="text"/>	<input type="text"/>	2005/01/01	1	Z

「為替レートのスピード改訂」フォーム

### 為替レート乗数/区間1、 為替レート除数/区間2

「為替レート乗数/区間1」および「為替レート除数/区間2」のフィールドはすべての計算方法で使用されるため、フィールドの名前はすべてに対応しています。「換算方法」および「計算方法」フィールドの値に応じて、これらのフィールドのどちらかまたは両方に入力できます。

換算先通貨コードおよび必要に応じて連絡先(住所番号)が「為替レートのスピード改訂」フォームの見出し領域にコピーされます。有効日付以前の最新の為替レートが表示されます。

計算方法が1(逆換算)で、換算方法がY(乗数)である場合、「為替レート乗数/区間1」フィールドに新規レートを入力します。換算方法がZ(除数)である場合、「為替レート乗数/区間2」フィールドに新規レートを入力します。反対のレートのフィールドをブランクのままにして「OK」をクリックするか次のローに移動すると、値が自動的に計算されます。

計算方法が3(間接為替)で、換算方法がYまたはZである場合、「為替レート乗数/区間1」フィールドに外貨と間接為替通貨間のレートを入力し、「為替レート乗数/区間2」フィールドに間接為替通貨と国内通貨間のレートを入力します。

## 外部ソースからの為替レートのアップロード

この項では、外部為替レートのアップロード処理および外部為替レートの改訂の概要と、未処理為替レートの改訂方法について説明します。

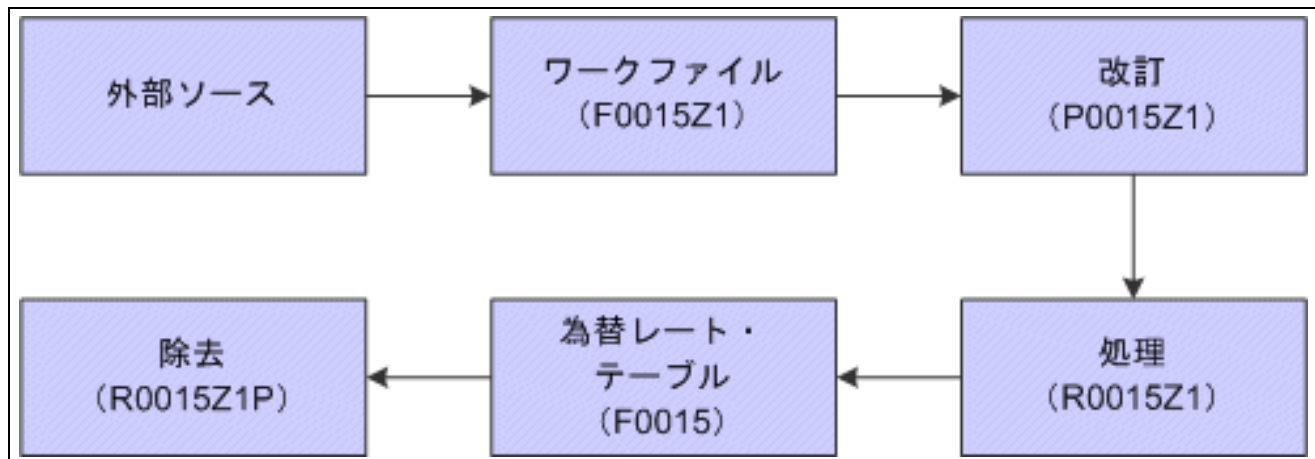
### 外部為替レートのアップロード処理について

複数の通貨で業務を行う場合、為替レートの変動を毎日処理します。現行の為替レートを手動で入力するかわりに、Webサイトなどの外部ソースからJD Edwards EnterpriseOneワークファイルにこれらをアップロードできます。

最初に、外部為替レートを外部為替レート・ワークファイル(F0015Z1)にアップロードまたは転送するためのカスタム・プログラムを作成する必要があります。為替レートをアップロードした後、次のプログラムを使用します。

- 外部為替レートの改訂 (P0015Z1)  
必要に応じて、F0015Z1テーブルの未処理為替レートを改訂します。
- 外部為替レートの処理 (R0015Z1)  
F0015Z1ワークファイルの為替レート・レコードを処理し、F0015テーブルに保存します。
- 外部為替レートの除去 (R0015Z1P)  
F0015Z1ワークファイルから為替レート・レコードを除去します。

次の図は、外部ソースから為替レートをアップロードし、JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理システムでこれら进行处理するプロセスを示しています。



為替レートのアップロード処理

外部ソースから外部為替レートを正常に転送するには、為替レートをコピーしてF0015Z1ワークファイルのフィールドに正しいデータを転送するカスタム・プログラムを作成する必要があります。

外部為替レートのアップロード処理では特定のフィールドは必須ですが、他のフィールドは任意であるか使用されません。

参照: 付録 A、「外部為替レート処理のマッピング要件、」259ページ

## 外部為替レートの改訂について

外部ソースの為替レートをF0015Z1テーブルにアップロードした後、これら进行处理する前に特定のレコードを追加、変更または削除する必要がある場合があります。

未処理レコードを改訂するには、外部為替レートの改訂プログラム (P0015Z1) を使用します。このプログラムは、次のキー・フィールドに基づいてF0015Z1ワークファイルのレコードにアクセスします。

- ユーザーID
- バッチNo.
- トランザクションNo.
- 行No.

「行No.」を除くすべてのフィールドは、「外部為替レートの改訂」フォームに表示されます。レコードごとに一意の番号である「行No.」フィールドは、F0015Z1ワークファイルでのみ表示されます。

また、外部為替レートの改訂プログラムを使用して、F0015Z1テーブルで為替レートの新規バッチを手動で作成することもできます。

F0015Z1ワークファイルの為替レートは検証されません。かわりに、これらは、F0015Z1ワークファイルからF0015テーブルに対してレコードを処理するときに検証されます。

**注意:** 有効日付を間違えて外部為替レートをアップロードした場合、正しい有効日付を使用して再度アップロードしてください。その後、必要に応じて、外部為替レートの改訂の検討フォームを使用して任意のレートを手動で改訂してください。

## 未処理外部為替レートの改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
外部為替レートの処理	W0015Z1A	「外部為替レート」(G11311)、「外部為替レートの改訂」	既存のバッチの処理済または未処理レコードを検討します。
外部為替レートの検討	W0015Z1C	「外部為替レートの処理」フォームで、改訂する未処理レコードを選択します。 レコードを手動で作成するには、「追加」をクリックします。	未処理レコードを改訂および削除するか、レコードを手動で作成します。

## 未処理為替レートの改訂

「外部為替レートの検討」フォームにアクセスします。

**外部為替レートの改訂 - 外部為替レートの検討**

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

ユーザーID: JPN1    バッチNo.: 114    トランザクションNo.: 1  
 住所番号:

レコード 1-2    グリッドのカスタマイズ

	通貨 通貨	換算 先通貨	有効 日付	計算 方法	通貨換 算方法 (Y/Z)	乗算 レート	除算 レート	間接 レート1	間接 レート2	間 接 レ イ ト
●	EUR	MXF	2005/08/01	1	Z	10.1519957	.0985028			
○										

「外部為替レートの検討」フォーム

### 間接レート1

間接為替通貨関係の換算元通貨を識別する外貨コードを表示します。たとえば、CADが外貨、USDが間接為替通貨、EURが国内通貨である場合、このフィールドにはCADが含まれます。

### 間接レート2

間接為替通貨関係の換算先通貨を識別する国内通貨コードを表示します。たとえば、CADが外貨、USDが間接為替通貨、EURが国内通貨である場合、このフィールドにはEURが含まれます。

計算方法	為替レートと通貨のペアで使用する計算方法を指定するコードを入力します。値は次のとおりです。 1: 逆換算方法 2: 逆換算禁止方法 3: 間接換算方法
通貨換算方法 (Y/Z)	通貨の換算に使用する方法を指定します。値は次のとおりです。 Y: 乗数方式。外貨金額と乗算為替レートを乗算して国内通貨金額が計算されます。 Z: 除数方式。外貨金額を除算為替レートで除算して国内通貨金額が計算されます。
スポット・レート	処理する通貨のペアでスポット・レートを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。 0: スポット・レートを許可しない。 1: スポット・レートを許可する。
処理済み	レコードが正常に処理されたかどうかを示すフィールド。このフィールドには値を入力しないでください。値は次のとおりです。 ブランク: レコードは未処理です。 1: レコードは正常に処理されています。 外部為替レートの処理プログラムを実行すると、値1(処理済)を持つレコードが更新されます。ブランクの場合、レコードがまだ処理されていないことを意味します。

---

## 外部為替レートの処理

この項では、外部為替レートの処理プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 外部為替レートの処理プログラムの実行
- 外部為替レートの処理 (R0015Z1) の処理オプションの設定
- 外部為替レート・レコードの除去
- 外部為替レートの除去 (R0015Z1P) の処理オプションの設定

### 外部為替レートの処理プログラムについて

外部ソースの為替レートをF0015Z1にアップロードした後、必要に応じて、レートを改訂し、外部為替レートの処理プログラム (R0015Z1) を実行します。このプログラムは、F0015Z1ワークファイルの情報を処理し、これをF0015テーブルに保存します。

特に、外部為替レートの処理プログラムでは、次の処理が行われます。

- 未処理の為替レート・レコード (ZEEDSPフィールドが0(ゼロ))のみを選択します。
- 通貨コード、為替レートおよび有効日付をF0015テーブルと照合します。

通貨関係の為替レートおよび有効日付がすでに存在する場合、既存のレコードは上書きされません。かわりに、「重複キーは使用できません」というエラー・メッセージがワーク・センターに送信され、レコードの処理に失敗したという内容のメッセージがレポートに出力されます。

- 為替レートをF0015テーブルと照合し、必要に応じて、このレートが逆換算禁止方法および間接為替計算方法に準拠しているか確認します。

為替レートをアップロードしてこのプログラムを使用する前に、F0015テーブルの通貨関係に対して逆換算禁止および間接為替を設定する必要があります。

- 選択されて失敗したレコード数と、F0015テーブルに追加されたレコードの合計数が表示されるレポートを生成します。
- エラーをワーク・センターに書き込み、ユーザーID、バッチ番号および取引番号を表示します。
- 正常に処理されたレコードのF0015Z1ワークファイルのZEEDSPフィールドを1(処理済)に更新します。
- 処理オプションに指定されている場合、F0015Z1ワークファイルからレコードを除去します。

正常に処理された為替レートを改訂する必要がある場合、為替レート・プログラム(P0015A)を使用する必要があります。

## 外部為替レートの処理プログラムの実行

「外部為替レート」(G11311)の「外部為替レートの処理」を選択します。

## 外部為替レートの処理(R0015Z1)の処理オプションの設定

このプログラムの処理オプションを使用して、処理済レコードのみを除去します。

### オプション

1. アップロードが完了したレコードの削除 外部為替レートの処理プログラムが正常に完了した後に処理済レコードを除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 処理済レコードを除去しない。

1: 処理済レコードを除去する。F0015Z1テーブルのZEEDSPフィールドが1(処理済)であるレコードのみが除去されます。

## 外部為替レート・レコードの除去

「外部為替レート」(G11311)の「外部為替レートの除去」を選択します。

## 外部為替レートの除去(R0015Z1P)の処理オプションの設定

このプログラムの処理オプションを使用して、処理済レコードのみを除去するか、または処理済と未処理の両方のレコードを除去します。

### オプション

1. 未処理レコードの除去 F0015Z1テーブルから未処理レコードと処理済レコードを除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 処理済レコードのみを除去します。ZEEDSPフィールドが1(処理済)であるレコードが除去されます。

1: 処理済レコードと未処理レコードを除去します。ZEEDSPフィールドが0 (未処理) および1 (処理済) であるレコードが除去されます。

## 為替クロスレート関係の設定

この項では、為替クロスレート関係の概要と、為替クロスレート関係の設定方法について説明します。

### 為替クロスレート関係について

処理する為替レートの一部が金融市場で公開されていない場合、既存の為替レートを通貨間でリンクする通貨関係を作成する必要があります。これらは、為替クロスレート関係と呼ばれます。クロスレート関係は、共通通貨に基づいて2つの通貨に対して作成します。

最初に、為替レートが必要な2つの通貨について公開されている共通通貨を検索します。次に、クロスレート関係に基づいて為替レートを自動的に計算できるようにクロスレート関係を作成します。クロスレート関係は、為替クロスレート関係計算マスター (F11151) に保存されます。

たとえば、メキシコ・ペソ (MXP) とコロンビア・ペソ (COP) 間の為替レートが金融市場で公開されていないとします。ただし、これらの2つの通貨と米ドル (USD) 間の為替レートは存在します。MXPとCOP間で業務を行うには、「為替レート計算の設定」フォームで次の為替レートに基づいてUSDとの為替クロスレート関係を作成します。

為替レート通貨	為替レート
MXPからUSDへ	London Financial Timesで公開されています。
USDからCOPへ	Wall Street Journalで公開されています。

為替クロスレート関係を作成した後、為替クロスレートの計算プログラム (R11153) を実行して為替レートを計算します。前の例を使用して、MXPからCOPへのレートが計算されます。

為替クロスレート関係を作成する方法以外に、間接為替計算方法を使用した通貨関係の設定も検討してください。

参照: 第 6 章、「為替レートの設定」、「間接換算方法について」、39ページ

### 為替クロスレート関係の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
為替レート計算の処理	W111511A	「多通貨処理」(G11)、「クロスレート計算の設定」	為替クロスレート関係を検討します。
為替レート計算の設定	W111511B	「為替レート計算の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	為替クロスレート関係を設定します。

### 為替クロスレート関係の設定

「為替レート計算の設定」フォームにアクセスします。

**クロスレート計算の設定 - 為替レート計算の設定**

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

換算元通貨コード *	COP	Colombian Peso	連絡先(住所No.)	<input type="text"/>
換算先通貨コード *	MXP	Mexican Peso (old)	順序No.	<input type="text"/>

レコード 1 - 4 グリッドの

<input type="checkbox"/>		有効 * 日付	換算元 通貨1	換算先 通貨1	連絡先 (住所No.) 1	換算元 通貨2	換算先 通貨2
<input type="checkbox"/>		2005/08/31	COP	USD		USD	MXP
<input type="checkbox"/>		2005/09/30	COP	USD		USD	MXP
<input type="checkbox"/>		2005/10/31	COP	USD	<input type="text"/>		MXP
<input type="checkbox"/>							

「為替レート計算の設定」フォーム

**順序No.**

レートを計算するために必要となる別のレートを特別な順序で計算する必要がある場合、数値を入力します。為替クロスレートを計算する際、この数値によって為替レートの通貨関係を構築する順序が決まります。

**連絡先(住所No.) 1**

「換算元通貨1」および「換算先通貨1」フィールドに指定された通貨の契約上の為替レートに関連付けられた住所録番号を入力します。

**連絡先(住所No.) 2**

「換算元通貨2」および「換算先通貨2」フィールドに指定された通貨の契約上の為替レートに関連付けられた住所録番号を入力します。

**換算先通貨1**

クロスレートの計算に使用する共通通貨の通貨コードを入力します。このフィールドに入力した通貨コードは、「換算元通貨2」フィールドにコピーされます。「換算先通貨1」フィールドと「換算元通貨2」フィールドに入力する通貨コードは同じである必要があります。

**状況**

通貨関係がA(アクティブ)かI(非アクティブ)かを指定します。アクティブの通貨関係のみが計算されます。デフォルト値はAです。

クロスレート関係を非アクティブにするには、詳細グリッドの「状況」フィールドの値をAからIに変更します。

## 為替クロスレートの計算

この項では、為替クロスレートの計算の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 為替クロスレートの計算プログラムの実行
- 為替クロスレートの計算(R11153)の処理オプションの設定

## 為替クロスレートの計算について

為替クロスレート関係を作成して検討した後、共通通貨に基づいて新規為替レートを計算します。為替クロスレートの計算プログラム(R11153)により、F0015テーブルで為替クロスレート関係計算マスター(F11151)のクロスレート関係に基づいて新規為替レートが計算されます。

通貨関係に逆換算禁止方法が使用されている場合、通貨関係に間接為替通貨が設定されているかどうかとは関係なく、クロスレートが計算されます。

次の表に示すように、為替クロスレートの計算プログラムはテスト・モードまたは最終モードで実行できます。

モード	説明
テスト・モード	<p>すべての通貨関係および最終モードで計算される為替レートがリストされたレポートが出力されます。レポートに出力されるエラーおよび警告メッセージは、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 組合せが見つかりません 通貨関係が存在しない場合、このエラーが発生します。</li> <li>• 通貨コードが無効です</li> <li>• 住所番号が無効です</li> <li>• 警告: レートが許容限度を超えています</li> <li>• 警告-この日付に為替レートが存在</li> <li>• 月/年の照合エラー</li> </ul> <p>処理オプションの有効日付を通貨の為替レートの有効日付と一致させる必要がある場合、このエラーが発生する可能性があります。</p> <p>このレポートを使用してエラーを修正してから、為替クロスレートの計算プログラムを再実行します。</p>
最終モード	<p>為替クロスレート関係に基づいて計算された新規為替レートがリストされたレポートが出力されます。新規為替レートおよび有効日付を使用してF0015テーブルが更新されます。</p> <p>新規為替レートと前回のレートの差が、為替クロスレートの計算プログラムの処理オプションに指定されたパーセント値になる場合、許容限度に関する警告が出力されます。許容限度に関する警告がある場合、為替レートは自動的に更新されます。</p>

### 日付の一致処理オプション

為替クロスレートの計算プログラム(R11153)には、入力した為替クロスレート関係に基づいて為替レートが計算される前に、日付の一致の検索を必須とするよう設定する処理オプションがあります。

日付の一致を必須とする処理オプションを設定すると、換算元通貨と換算先通貨の有効日付が処理オプションの日付と一致する場合のみ、為替レートが計算されます。例外を設ける換算元通貨と換算先通貨がある場合、処理オプションを変更してプログラムを個別に実行する必要はありません。かわりに、UDCテーブル11/CSで日付の一致が必要ないコードを設定することにより、処理オプションを一時変更できます。

会社の方針上、MXPからCOPへの為替レートを除くすべての為替クロスレートの計算では日付の一致が必要だとします。この例外を管理するには、UDCテーブルで次の2つの連結コードを設定できます。

- MXPUSD: MXPからUSDへのクロスレート関係
- USDCOP: USDからCOPへのクロスレート関係

為替クロスレートの計算プログラムを実行するときに、レートの作成日付として6月30日を入力し、処理オプションで日付の一致を必須とします。F0015テーブルには、有効日付が6月30日であるMXPからUSD、およびUSDからCOPへの為替レートは存在しません。最新の有効日付は6月28日です。この場合、この日付に関連付けられたレートを使用してMXPからCOPへの為替レートが計算されます。UDCテーブル11/CSにはMXPからCOPへのクロスレート関係が設定されているため、日付の一致処理オプションは一時変更されます。

## 事前設定

必要に応じて、UDCテーブル11/CSで、日付の一致処理オプションの例外である通貨コードを設定します。

## 為替クロスレートの計算プログラムの実行

「多通貨処理」(G11)の「為替クロスレートの計算」を選択します。

## 為替クロスレートの計算(R11153)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### モード

#### 1. モード

プログラムの実行モードを指定します。値は次のとおりです。

blank: テスト・モード。更新する計算およびレコードのレポートが生成されます。

1: 最終モード。レポートが生成され、計算を使用してF0015テーブルが更新されます。

### 作成日付

#### 2. 日付

為替レートの有効日付として割り当てる日付を指定します。今日の日付を有効日付として使用するには、この処理オプションをblankにします。

#### 3. 日付の一致

「日付」処理オプションに入力した日付と一致する有効日付を持つ為替レートのみを選択を必須とするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 「日付」処理オプションに入力した日付に最も近い為替レートが選択されます。為替レートの有効日付との一致は必要ありません。

1: UDCテーブル11/CSに通貨コードが設定されていないかぎり、「日付」処理オプションに入力した日付と一致する有効日付を持つ為替レートのみが選択されます。

### 許容限度

#### 4. 許容限度

為替レートが範囲外になると警告メッセージが表示される許容限度を指定します。許容限度は整数で入力してください。たとえば、「5.0」を入力すると、為替レートの変動が5%以内であれば警告メッセージは表示されません。



## 第 7 章

# 詳細再換算の設定

この章では、詳細再換算プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 詳細再換算の設定
- 詳細再換算の元帳タイプの設定
- 詳細再換算のAAIの設定

---

## 詳細再換算プログラムについて

詳細再換算を使用する前に、処理時に使用される特定の情報を設定する必要があります。様々なメニュー・オプションを使用してアクセスする他の設定プログラムとは異なり、詳細再換算のすべての設定は、詳細通貨設定と呼ばれる1つの対話型フォームから実行できます。このフォームのボタンを選択することにより、情報を設定または改訂するために必要なプログラムにアクセスできます。

---

## 詳細再換算の設定

この項では、次の方法について説明します。

- 詳細再換算の固定情報の設定
- 詳細再換算を行う会社の設定

## 詳細再換算の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
詳細通貨設定	W11410A	「再換算」(G1122)、「詳細通貨設定」	詳細再換算の固定情報を設定します。
会社の設定	W0010B	「再換算」(G1122)、「詳細通貨設定」  「会社の設定」をクリックします。「会社の処理」フォームで、会社を選択してから「通貨」フォームを選択します。	詳細再換算を実行するかどうかを指定します。
為替レートの改訂	W0015AA	「再換算」(G1122)、「詳細通貨設定」  「為替レートの設定」をクリックします。「為替レートの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	AA元帳の国内通貨金額をXA元帳の代替通貨金額に換算する為替レートを入力します。特定の有効日付を指定せずに為替レートを設定すると、詳細再換算プログラムでは、最新の有効日付の為替レートが使用されます。

## 詳細再換算の固定情報の設定

「詳細通貨設定」フォームにアクセスします。

詳細通貨設定 - 詳細通貨設定

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

多通貨換算

会社間決済

売掛金勘定の集計方式

買掛金勘定の集計方式

会社の設定(N)

通貨コードの設定(U)

元帳タイプの設定(L)

AAIの設定(I)

為替レートの設定(X)

「詳細通貨設定」フォーム

### 会社間決済

詳細再換算用として「2」(詳細)または「3」(構成ハブ)を入力します。その他の方法は無効です。

### 買掛金勘定の集計方式、 売掛金勘定の集計方式

詳細再換算用として「Y」(取引ごと)を入力します。この方法により、両勘定の相殺入力が生成されます。その他の方法は無効です。

## 詳細再換算を行う会社の設定

「会社の設定」フォームにアクセスします。

## 詳細通貨再換算

詳細再換算の処理を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

Blank: 詳細再換算の処理を許可しない。

1、YまたはZ: 詳細再換算の処理を許可する。

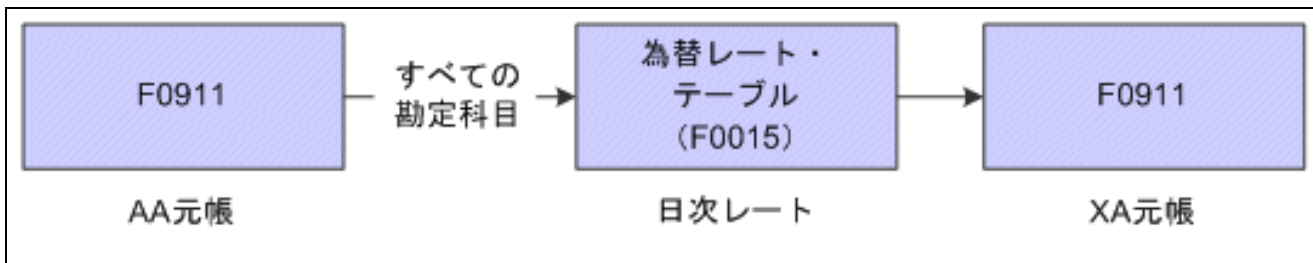
## 詳細再換算の元帳タイプの設定

この項では、詳細再換算に使用される元帳タイプの概要、事前設定、および詳細再換算の元帳タイプ規則の設定方法について説明します。

## 詳細再換算に使用される元帳タイプについて

複数の通貨を処理する場合、元帳タイプAA(実績金額)およびCA(外貨)が使用されます。詳細再換算の実行には、XA、YAおよびZA元帳タイプが使用されます。詳細再換算用の代替通貨元帳(XA)、および必要に応じて国内通貨(当初)(YA)および外貨(当初)(ZA)元帳を設定する必要があります。詳細再換算プログラムは、これらの元帳のみを使用するように設計されています。

次の図は、詳細再換算に使用されるXA元帳とテーブルを示しています。



詳細再換算に使用されるテーブル

次の表は、ハードコード化されているXA、YAおよびZA元帳を示しています。

元帳タイプ	説明
XA(代替通貨)	<p>この元帳は必須で、代替通貨の取引がある勘定科目表の一部または全体が含まれます。通常、XA元帳の代替通貨は、会社の国内通貨と比べて変動しない通貨です。AA元帳の各取引は、取引日付に有効である為替レートを使用して代替通貨(XA)の同等取引に再換算されます。この例外は、外貨元帳(CA)の金額がXA元帳と通貨が同じ場合です。この場合、AA金額が再換算されるのではなく、CA元帳金額がXA元帳にコピーされます。</p> <p>代替(安定)通貨の通貨コードを元帳タイプXAに割り当てます。これは、会社00000と同じ通貨コードである必要があります。</p> <p>この元帳を設定せずに、詳細再換算プログラム(R11411)を実行すると、レコードを処理せずにプログラムが終了します。</p>

元帳タイプ	説明
YA(国内通貨(当初))	<p>この元帳は任意で、代替元帳(XA)に再換算された、元は国内通貨(AA元帳)の取引がある部分的な勘定科目表が含まれます。</p> <p>この元帳タイプには通貨コードを割り当てないでください。取引の会社の国内通貨が使用されます。</p> <p>通常、この元帳は分析目的として使用され、当初の国内取引で作成されたXA元帳の金額を示します。</p>
ZA(外貨(当初))	<p>この元帳は任意で、代替元帳(XA)に再換算された、元は外貨(CA元帳)の取引がある部分的な勘定科目表が含まれます。</p> <p>代替通貨の通貨コードを元帳タイプYAに割り当てます。(これは、XA元帳に割り当てられた通貨コードと同じである必要があります。)</p> <p>通常、この元帳は分析目的として使用され、当初の外貨で作成されたXA元帳の金額を示します。</p>

これらの元帳は、UDCテーブル09/LTおよび「元帳タイプ規則の設定」フォームで設定します。

詳細再換算プログラムを使用して国内通貨(当初)および外貨(当初)別取引を記録すると、当初の仕訳に基づいてYAおよびZA元帳が更新されます。当初の仕訳が国内通貨であった場合は、YA元帳が更新されます。当初の仕訳が外貨であった場合は、ZA元帳が更新されます。

次の表の情報は、詳細再換算で特定の取引を更新する方法を示しています。

当初の取引	更新された代替元帳
AA通貨による国内通貨建て取引	<p>外貨(CA)金額は存在しません。システムによって次の処理が行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>XA元帳のAA金額を再換算します。</li> <li>AA金額をYA元帳にコピーします。</li> </ul>
XA通貨の外貨建て取引	<p>外貨(CA)金額がXA元帳とZA元帳の両方にコピーされます。</p>
XA通貨以外の通貨による外貨建て取引	<p>システムによって次の処理が行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>XA元帳のAA金額を再換算します。</li> <li>XA金額をZA元帳にコピーします。</li> </ul>

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- UDCテーブル09/LTでXA、YAおよびZA元帳が設定されていることを確認します。
- 他の元帳を管理する必要があるかどうかを検討します。

必要がある場合、元帳タイプをUDCテーブル09/LTに追加します。「元帳タイプ規則の設定」フォームを使用して元帳タイプの会計規則を定義し、必要に応じて、通貨コードを割り当てます。

## 元帳タイプ規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
元帳タイプ規則の設定	W0025FR	「再換算」(G1122)、「詳細通貨設定」 「元帳タイプの設定」をクリックします。 「元帳タイプの処理」フォームで適切な元帳タイプを選択します。	詳細再換算の元帳タイプ規則を設定します。

## 詳細再換算の元帳タイプ規則の設定

「元帳タイプ規則の設定」フォームにアクセスします。

**詳細通貨設定 - 元帳タイプ規則の設定**

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

元帳タイプ ★  代替元帳

数量元帳タイプ

**会計規則**

☒ 繰越利益の計算
☐ 当初予算の次年度繰越

☐ 元帳の貸借一致必須
☐ DNS(予算配賦禁止)コードの一時変更

☐ 会社間決済の作成
☒ 換算先元帳として使用

☐ 残高を直接更新しない
☐ 仕訳を作成しない

**元帳比較カラム・タイトル**

上

下

**元帳通貨**

指定通貨コード  U.S. Dollar

「元帳タイプ規則の設定」フォーム

### 繰越利益の計算、元帳の貸借一致必須

勘定科目表全体を再換算する場合のみ、元帳タイプXAに対してこれらのチェックボックスを選択します。

### 換算先元帳として使用

このチェックボックスは、元帳タイプXA、YAおよびZAには適用されません。詳細再換算プログラムは元帳タイプXA、YAおよびZAに対してはハードコード化されているため、このオプションは無視されます。

### 指定通貨コード

国内通貨のAA元帳を再換算する通貨コードを入力します。このフィールドは元帳タイプXAおよびZAに対してのみ使用します。

元帳タイプXAおよび必要に応じてZAに対して、金額を再換算する通貨をこのフィールドに入力します。元帳タイプに対する通貨コードの指定は、その元帳を使用するすべての会社に適用されます。

元帳タイプZAを使用する場合、元帳タイプXAと同じ通貨コードをこの元帳タイプに割り当てる必要があります。元帳タイプZAにはXA元帳に再換算された外貨仕訳が含まれるため、通貨コードは同じである必要があります。

---

**重要:** 元帳の整合性を維持するために、詳細再換算の使用を開始した後は、元帳に割り当てた通貨コードを変更しないでください。

---

## 詳細再換算のAAIの設定

この項では、詳細再換算のAAI(自動仕訳)の概要について説明します。

### 詳細再換算のAAIについて

AAI項目CRxxは、詳細再換算に使用される勘定科目範囲を定義します。AA元帳の金額をXA元帳、または必要に応じてYAおよびZA元帳に再換算します。

AAI項目CRは任意で、貸借一致相手勘定を定義します。

#### AAI項目CRxx(必須)

AAI項目CRxxには、次の規則が適用されます。

- AAI項目CRxxに割り当てられた勘定科目範囲を使用して、別の通貨で金額が再換算されます。
- xxはペアで使用され、範囲の開始と終了を表します。たとえば、CR01は範囲内の最初の勘定科目を表し、CR02は範囲内の最後の勘定科目を表します。
- ビジネスユニットは任意です。  
「ビジネスユニット」フィールドをブランクにすると、取引の勘定科目コードのビジネスユニットが使用されます。
- 範囲は省略できず、次の順番である必要があります。
  - 01から02 = 勘定科目の最初の範囲
  - 03から04 = 勘定科目の2番目の範囲
- 最大48の範囲まで定義できます。
- 勘定科目表全体を再換算するには、1つのペアのみを使用します。
  - CR01 = 主科目 1000
  - CR02 = 主科目 999999.99999999または999999.ZZZZZZZZ(オペレーティング・システムによって異なる)
- AAI項目CRxxの順序番号は11.620および11.630であるため、これらは一般会計の順序番号範囲内に収まりません。

#### AAI項目CR(任意)

AAI項目CRには、次の規則が適用されます。

- AAI項目CRに割り当てられた勘定科目を使用して、四捨五入差異のために必要となる可能性がある貸借一致仕訳が作成されます。
- このAAI項目を設定するのは、勘定科目表全体をXA元帳(および必要に応じてYAおよびZA元帳)に再換算するときに貸借を一致させる元帳が必要な場合のみです。  
このAAI項目に割り当てられた勘定科目により、通貨再換算元帳を貸借一致させるために作成された仕訳がトラッキングされます。
- このAAI項目を設定するのは、詳細再換算プログラムの実行時に貸借一致仕訳を作成するための処理オプションを設定する場合のみです。  
貸借一致仕訳を作成するための処理オプションが設定されているときにAAI項目が存在しない場合、詳細再換算プログラムの実行時にエラー・レポートが生成されます。
- ビジネスユニット.主科目.補助科目が必要です。
- AAI項目CRの順序番号は11.610であるため、これは一般会計の順序番号範囲内に収まりません。

---

**注意:** 差損益を計算し、代替元帳(XA)の金額を再換算するために、次のAAI項目が使用されます。

RG: 外貨建て入金の実現為替差益

RL: 外貨建て入金の実現為替差損

---



## 第 8 章

# 残高再換算および仮定再換算の設定

この章では、残高再換算および仮定再換算の概要と次の方法について説明します。

- 残高再換算の設定
- 残高再換算の元帳タイプおよび規則の設定
- 残高再換算の再換算レートの設定
- 残高再換算の計算の設定
- 仮定再換算の設定

---

## 残高再換算の設定

残高再換算を使用すると、連結レポート用として既存の会社の残高を様々な通貨で再換算できます。再換算は、F0902テーブルの金額に基づいて総勘定元帳の残高レベルで行われます。

**関連項目:**

第 25 章、「残高再換算の実行」、239ページ

---

## 残高再換算の元帳タイプおよび規則の設定

残高再換算プロセスでは、元帳タイプACが使用されます。この項では、残高再換算用の元帳タイプACの元帳規則の設定方法について説明します。

### 残高再換算の元帳タイプ規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
元帳タイプの処理	W0025FQ	「一般会計システム・セットアップ」(G0941)、「元帳タイプ・マスターの設定」	既存の元帳タイプを検討します。
元帳タイプ規則の設定	W0025FR	「元帳タイプの処理」フォームで元帳タイプAC(残高再換算)を選択します。	残高再換算の元帳タイプ規則を設定します。

### 残高再換算の元帳タイプ規則の設定

「元帳タイプ規則の設定」フォームにアクセスします。

**詳細通貨設定 - 元帳タイプ規則の設定**

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

---

元帳タイプ **\***  **連結元帳**

数量元帳タイプ

---

**会計規則**

<input checked="" type="checkbox"/> 繰越利益の計算	<input type="checkbox"/> 当初予算の次年度繰越
<input checked="" type="checkbox"/> 元帳の貸借一致必須	<input type="checkbox"/> DNS(予算配賦禁止)コードの一時変更
<input type="checkbox"/> 会社間決済の作成	<input checked="" type="checkbox"/> 換算先元帳として使用
<input type="checkbox"/> 残高を直接更新しない	<input type="checkbox"/> 仕訳を作成しない

---

**元帳比較カラム・タイトル**

上	<input type="text" value="Consolidations"/>
下	<input type="text" value="Ledger"/>

---

**元帳通貨**

指定通貨コード  *Canadian Dollar*

「元帳タイプ規則の設定」フォーム

**繰越利益の計算**

元帳タイプACの勘定科目表全体を再換算する場合、このチェックボックスを選択します。

**換算先元帳として使用**

このチェックボックスを選択します。

**仕訳を作成しない**

このチェックボックスは選択を解除します。

**指定通貨コード**

金額を再換算する通貨コードをこのフィールドに入力します。元帳タイプに対する通貨コードの指定は、その元帳を使用するすべての会社に適用されます。

元帳タイプACには、指定通貨でのみ金額を再換算し、金額の小数点以下の桁数を正しくするために、通貨コードが必要です。

AC元帳の整合性を維持するために、残高再換算の使用を開始した後は、元帳に割り当てた通貨コードを変更しないでください。

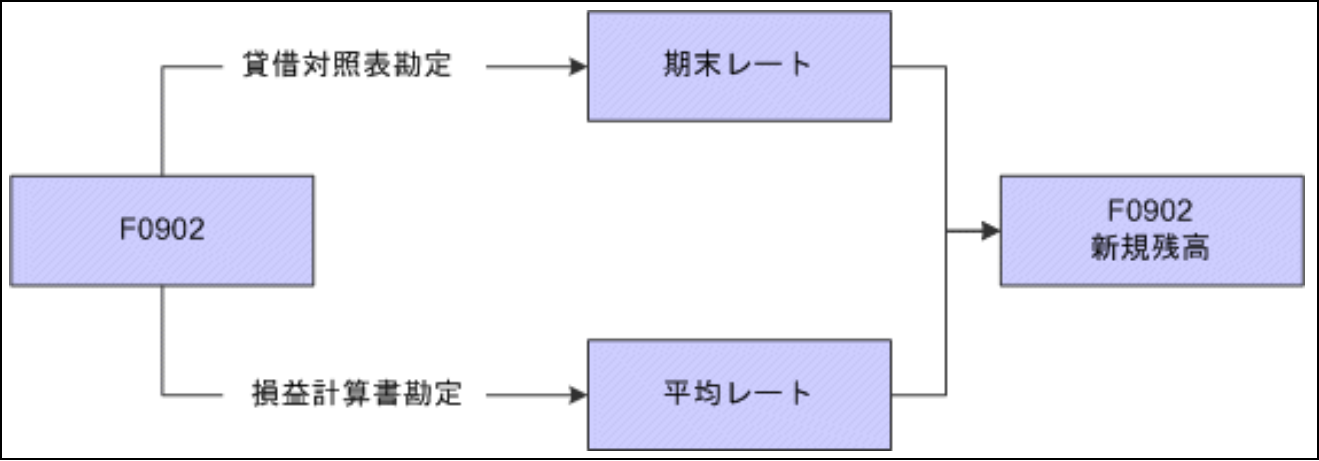
## 残高再換算の再換算レートの設定

この項では、残高再換算レートの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 通貨再換算レート(P1113)の処理オプションの設定
- 再換算レートの設定

## 残高再換算レートについて

残高再換算の場合は通常、様々な勘定科目の範囲に対して様々な為替レートを使用します。たとえば、次の図に示すように、期末の為替レートを使用して貸借対照表の金額を再換算したり、期間平均の為替レートを使用して損益計算書の金額を再換算できます。



残高再換算レートの設定

金額を通貨間で再換算するためのレートを指定する必要があります。再換算する通貨ごとに期間の平均レートと期末レートの両方を入力できます。期間ごとにテーブルを新規為替レートで更新することにより、レートのレコードをその有効日付およびタイプとともに管理します。

残高再換算レートは、通貨再換算レート・ファイル・テーブル (F1113) に保存されます。

## 事前設定

残高再換算の再換算レートを設定する前に、各フィールドに入力する値を書き留めておいてください。

## 残高再換算の再換算レートの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
通貨再換算レート	W1113B	「再換算」(G1122)、「通貨再換算レート」  「通貨再換算レートの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	残高再換算プロセスに使用される通貨コードのペアごとに再換算レートを設定および改訂します。

## 通貨再換算レート(P1113)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 限度

#### 許容限度






為替レートの改訂が範囲外になると警告メッセージが表示される比率を指定します。たとえば、「10.0」と入力した場合、為替レートの変更が10%を超えると警告メッセージが表示されます。

## 再換算レートの設定

「通貨再換算レート」フォームにアクセスします。

**通貨再換算レート - 通貨再換算レート**

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

換算先通貨	USD	U.S. Dollar
換算元通貨	COP	Colombian Peso
有効日付		
レート・タイプ	A	月平均レート - 損益計算書

**レコード 1 - 5**

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	乗数	除数	有効 * 日付	換算先	換算元	換算元通貨名
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	.0009483	1054.5000000	2005/04/01	USD	COP	Colombian Peso
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	.0009471	1055.8000000	2005/05/01	USD	COP	Colombian Peso
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	.0009350	1069.5000000	2005/06/01	USD	COP	Colombian Peso
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1080.4702860	.0009255	2005/06/30	USD	COP	Colombian Peso

「通貨再換算レート」フォーム

### 換算先通貨

勘定残高の換算先の通貨コードを入力します。見出し領域のこのフィールドを使用して、為替レートを検討または改訂する通貨コードを指定します。すべての通貨コードを指定する場合は、「\*」と入力します。

### 換算元通貨

勘定残高の換算元の通貨コードを入力します。フォームの見出し領域のこのフィールドを使用して、為替レートを検討または改訂する通貨を指定します。すべての通貨コードを指定する場合は、「\*」と入力します。

### 有効日付

通貨関係の為替レートが有効である日付を入力します。

見出し領域に入力した有効日付を検索条件として使用して、フォーム上に為替レート・レコードが取得および表示されます。詳細グリッドでは、有効日付により、期間の通貨再換算に使用される為替レートが識別されます。

### レート・タイプ

月平均、月末または予算などの為替レートのタイプを識別するコードをUDCテーブル11/RTから入力します。すべてのレート・タイプを指定するには、「\*」と入力します。

### 乗数

国内通貨金額を計算するために外貨金額に乗算する数字(為替レート)を入力します。この乗数を使用して通貨再換算が計算されるのは、一般会計固定情報で「多通貨換算(Y/N/Z)」フィールドに「Y」が入力されている場合のみです。換算元通貨の勘定残高に、入力した乗算レートを乗算することにより、換算先の勘定残高が計算されます。為替レートを入力または変更する場合、乗数と除数の両方ではなく、どちらかを入力します。もう一方は自動的に計算されます。

このフィールドには最大で小数点以下7桁まで入力できます。これ以上の桁数を入力すると、最も近い小数点以下7桁の数値に調整されます。

## 除数

国内通貨を計算するために外貨金額を除算する数字(為替レート)を入力します。この除数を使用して通貨再換算の金額が計算されるのは、一般会計固定情報で「多通貨換算(Y/N/Z)」フィールドに「Z」が入力されている場合のみです。換算元通貨の勘定残高を、入力した除算レートで除算することにより、換算先の勘定残高が計算されます。為替レートを入力または変更する場合、乗数と除数の両方ではなく、どちらかを入力します。もう一方は自動的に計算されます。

このフィールドには最大で小数点以下7桁まで入力できます。これ以上の桁数を入力すると、最も近い小数点以下7桁の数値に調整されます。

---

## 残高再換算の計算の設定

この項では、残高再換算の計算の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 計算の設定
- 会社への計算IDの割当

## 残高再換算の計算について

会社通貨を別の通貨に再換算する前に、残高再換算プログラムによって使用される計算を設定する必要があります。これらの計算には、次が含まれます。

- 会社
- 勘定科目の範囲
- 換算先通貨
- 換算元および換算先元帳タイプ

計算を設定する場合、次を考慮してください。

- 1つの会社について複数の計算を設定できます。  
たとえば、様々な元帳タイプを使用して仮定分析を実行する場合、複数の計算が必要になる可能性があります。
- 勘定科目の範囲の換算元元帳タイプを一時変更するための計算を設定できます。  
勘定科目の範囲が以前に特定の元帳に再換算されているときに、この元帳の金額を別の元帳に移動または再換算する場合、この機能が特に役に立ちます。
- 最大3つの換算元元帳から1つの換算先元帳(連結元帳(AC)と呼ばれます)に金額を再換算するための計算を設定できます。  
換算元元帳は通貨が同じである必要があります。

この情報は、会社換算パラメータ・ファイル・テーブル(F1114)に保存されます。

## 計算に使用される基本情報

残高再換算の計算を設定する場合、次の基本情報を指定する必要があります。

- レート・タイプ
- 計算方法

- 換算調整勘定

残高再換算用の計算を設定する前に、この情報がシステムでどのように使用されるか確実に理解してください。

## レート・タイプ

レート・タイプを使用して、新規残高の計算時に使用する為替レートが決定されます。勘定科目の範囲ごとに、ユーザー定義のレート・タイプを入力できます。次に例を示します。

レート・タイプ	説明
A(期間平均)	月間平均レート。これは通常、損益計算書勘定で使用されます。
M(月末)	月末レート。これは通常、貸借対照表勘定で使用されます。
H(実績)	実績レート。これは、固定資産勘定で使用される場合があります。また、このレートを使用して、別のシステムからJD Edwards EnterpriseOneシステムへの換算時に計算を保持することもできます。
ユーザー定義のレート・タイプ	ユーザー定義のレート。たとえば、仮定予算金額および比較を作成するための予算レート(会計レートとは異なります)用としてBを使用できます。 レート・タイプはUDCテーブル11/RTに入力します。レート・タイプは必要な数だけ入力できます。

**注意:** 通常、レート・タイプと計算方法については次の組合せを使用します。

貸借対照表勘定用のレート・タイプM(月末)と計算方法1(累計残高)の組合せ。M + 1 = 残高。

損益計算書勘定用のレート・タイプA(期間平均)と計算方法0(正味期間)の組合せ。A + 0 = 収益。

この例外は通常、法的要件に基づいています。

## 計算方法

勘定科目の範囲ごとに計算方法を指定します。この計算方法を使用して、通貨換算の計算時に使用する計算式が決定されます。計算方法は次のとおりです。

- 1(累計残高方法)

残高の計算に使用されます。この方法では、年累計残高金額が使用されます。

- 0(正味期間残高)

期間の計算に使用されます。この方法では、正味期間活動金額が使用されます。

次の例は、計算方法1および0の結果を示しています。

### 例: 方法1(累計残高計算)

この例では、期間3のAC元帳の残高金額は1,120になります。

換算元元帳の 会計期間	期末レート	計算	換算先元帳の 期間転記	換算先元帳の 期末残高	換算先元帳の 累計残高
期首残高	1,000	0.90	$1,000 \times 0.90$	900	900
期間1	100	1.10	$(1,000 + 100) \times 1.10 - 900$	310	1,210
期間2	200	1.05	$(1,300 \times 1.05) - (900 + 310)$	155	1,365
期間3	100	0.80	$(1,400 \times 0.80) - (1,210 + 155)$	-245	1,120

### 例: 方法0(正味期間計算)

この例では、期間3のAC元帳の残高金額は80になります。

会計期間	期間金額	平均レート	計算	換算先元帳の 期間残高
期間1	100	1.10	$100 \times 1.10$	110
期間2	200	1.05	$200 \times 1.05$	210
期間3	100	0.80	$100 \times 0.80$	80

### 換算調整勘定

計算を設定する場合、換算調整用の総勘定元帳の貸借対照表勘定を指定できます。換算調整は、レート・タイプとその為替レートが異なるために発生し、換算調整勘定でトラッキングされます。トラッキングする換算調整のタイプに応じて、次のように、「会社通貨換算の改訂」フォームで勘定科目を入力します。

- レート・タイプ(平均および月末レート・タイプなど)が異なるために換算差損益金額を作成するには、フォームの見出し域で「換算調整勘定」フィールドに勘定科目を入力します。

レート・タイプが異なるために必要となる貸借一致仕訳が作成されます。

- 期間内に為替レートが変更されたために換算差損益金額を作成するには、フォームの詳細グリッドで「換算調整勘定」フィールドに勘定科目を入力します。この仕訳は分析用としてのみ使用され、貸借一致仕訳ではありません。

割り当てられた計算方法1(累計残高)である勘定科目の範囲ごとにこの金額が計算されます。計算方法0の場合、換算調整勘定は使用できません。

計算方法1の場合、換算差損益は次の計算式によって計算されます。

$$(\text{前期残高} \times \text{前期末レート}) - (\text{前期残高} \times \text{現行期末レート}) + (\text{現行期間転記額} \times \text{今月の平均レート}) - (\text{現行期間転記額} \times \text{今月末のレート}) = \text{換算調整金額}$$

**注意:**「会社通貨換算の改訂」フォームの「換算調整勘定」フィールドは任意です。これらのフィールドのどちらかまたは両方をブランクにしても、エラー・メッセージは表示されません。このため、勘定科目表の一部のみを再換算できます。勘定科目表全体を再換算する場合、フォームの見出し領域の「換算調整勘定」フィールドに総勘定元帳の勘定科目を入力しないと、元帳タイプACの貸借が一致しない可能性があります。

## 残高再換算の計算

残高通貨再換算の計算を設定した後、次の項目がすべて当てはまることを確認してください。

- 勘定科目範囲間のすべてのギャップは意図的なものである。  
不足している勘定科目の再換算は実行されません。不足している勘定科目の残高は、「会社通貨換算の改訂」フォームで指定した換算調整勘定に入力される可能性があります。
- 正しいレート・タイプと計算方法が勘定科目範囲に関連付けられている。
- 勘定科目範囲またはビジネスユニットは重複していない。
- 「会社通貨換算の改訂」フォームで個別の行に対して繰越利益勘定（AAI項目 GLG4によって指定）が入力されている。

## 計算ID

残高再換算の計算を検討し、これらが正しく完全であることを確認した後、残高通貨再換算を使用する会社ごとに計算IDを割り当てます。

## 事前設定

再換算レートを入力または改訂します。

## 残高再換算の計算の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
会社通貨の換算処理	W1114A	「再換算」(G1122)、「計算の検討」	残高再換算の計算を設定します。
会社通貨換算の改訂	W1114B	「会社通貨の換算処理」フォームで、「追加」をクリックします。  残高を再換算する会社を選択し、「通貨」タブを選択します。	再換算プログラムを使用して設定した計算に対応する計算IDを割り当てます。残高を再換算する会社ごとに計算IDを割り当てます。

## 計算の設定

「会社通貨換算の改訂」フォームにアクセスします。

計算の検討 - 会社通貨換算の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

計算ID: H 元帳タイプ1(換算元) \*: AA General Ledger

会社番号 \*: 00080 Colombian ECS ( 元帳タイプ2(換算元):

元帳タイプ \*: AC 連結元帳 元帳タイプ3(換算元):

換算先通貨コード \*: USD U.S. Dollar

換算調整勘定: 80.4930

レコード 1 - 4

	開始勘定	終了勘定	備考	レ ト タイプ	計 算 方 法	換 算 元 帳 タイプ
<input type="checkbox"/>	1000	1299.99999999	Current assets	M	1	
<input type="checkbox"/>	1300	4999.99999999	Non-Current assets	M	1	XA
<input type="checkbox"/>	5000	9999.99999999	Income and expenses	A	0	XA

「会社通貨換算の改訂」フォーム

## 見出しフィールド

## 計算ID

残高再換算に使用する計算を識別する文字または数字を入力します。

## 会社番号

残高を再換算する会社の番号を入力します。会社コードおよび計算IDを使用してレコードが識別されます。

## 元帳タイプ

換算した金額を保存する元帳タイプを入力します。この元帳タイプは、再換算用のUDCテーブル11/TLと、UDCテーブル09/LTに定義する必要があります。

残高再換算の場合、これは元帳タイプAC(連結元帳)か、他のユーザー指定の元帳タイプです。

## 換算先通貨コード

会社の残高を換算する通貨コードを入力します。「通貨コードの指定」フォームに定義されているコードであれば、どのコードでも使用できます。

## 元帳タイプ1(換算元)

通貨再換算のプロセスで使用する3つの元帳タイプの第1元帳タイプを入力します。これらの元帳の残高が換算され、再換算レートを適用する前にまとめて追加されます。

元帳タイプAAを再換算する場合、これは元帳タイプ1内にある必要があります。

**注意:** これらの3つの元帳にはすべて同じ通貨を割り当てる必要があります。

## 元帳タイプ2(換算元)

通貨再換算のプロセスで使用する3つの元帳タイプの第2元帳タイプを入力します。再換算レートを適用する前にこれらの元帳が追加されます。

<b>元帳タイプ3(換算元)</b>	通貨再換算のプロセスで使用する3つの元帳タイプの第3元帳タイプを入力します。再換算レートを適用する前にこれらの元帳が追加されます。
<b>換算調整勘定 (フォームの見出し領域)</b>	<p>通貨換算の損益金額に使用する勘定科目を入力します。</p> <p>このフィールド(見出し領域)の勘定科目を使用して、レート・タイプの差異による貸借一致仕訳が作成されます。貸借一致仕訳の作成に使用される換算調整計算は、貸借対照表勘定でのみ可能です。この計算IDの勘定科目範囲の貸借が一致する必要がある場合は、このフィールドを空白にします。</p> <p>この勘定科目は、このフォームの詳細グリッドに入力する勘定科目範囲には含めないでください。</p> <p>見出しまたは詳細グリッドのフィールドで換算調整勘定を指定しない場合、通貨換算調整は計算されません。換算先元帳の勘定科目表の貸借を一致させるには、換算調整勘定を使用します。</p> <hr/> <p><b>注意:</b> 別の会社割り当てられている勘定科目をこのフィールドに入力すると、エラー・メッセージが表示されます。</p> <hr/> <p>詳細グリッドの「換算調整勘定」フィールドと同じ勘定科目をこのフィールドに入力すると、エラー・メッセージが表示されます。これらの勘定科目は同一にはできません。</p> <hr/>
<b>詳細グリッド・フィールド</b>	
<b>開始勘定</b>	<p>計算を実行する勘定科目の範囲内の開始勘定を入力します。この数値は主科目・補助科目の形式で入力する必要があります。</p> <p>開始勘定が終了勘定以下であるかどうかを検証されます。</p>
<b>終了勘定</b>	<p>計算を実行する勘定科目の範囲内の終了勘定を入力します。この数値は主科目・補助科目の形式で入力する必要があります。</p> <p>開始勘定が終了勘定以下であるかどうかを検証されます。終了勘定の場合、補助科目として99999999またはZZZZZZZZ(オペレーティング・システムによって異なります)を入力し、すべての補助科目が勘定科目の範囲内に収まることを確認します。</p>
<b>計算方法</b>	<p>残高通貨再換算に使用する計算方法を入力します。値は次のとおりです。</p> <p>0: 期間計算。この方法では、特定の期間の転記額が使用されます。通常、この方法を使用して、損益勘定および資本勘定を再換算します。</p> <p>1: 残高計算。この方法では、年累計勘定残高金額が使用されます。通常、この方法を使用して、貸借対照表勘定を再換算します。</p> <p>勘定科目の範囲に対して換算調整計算が実行されるようにするには、このフィールドに入力する値を「1」(残高計算)にする必要があります。このフィールドの値が「0」(期間計算)である場合、換算調整計算は許可されません。</p>
<b>換算元元帳タイプ</b>	<p>残高の換算元の元帳を入力します。最も一般的に使用される元帳タイプはAAです。このフィールドは任意フィールドです。</p> <p>ビジネスユニット/勘定科目範囲を選択するためのこの明細行に使用する一時変更元帳タイプを入力します。フォームの見出し領域にリストされている換算元元帳タイプのかわりに、明細行の元帳タイプが使用されます。た</p>

例えば、通貨勘定科目にはCA元帳タイプ、固定資産などの会社の代替元帳タイプの実績残高にはXA元帳タイプが使用されます。

### 一時変更レート

必要に応じて、通貨再換算を計算するために、使用中のレートのかわりに使用する一時変更為替レートを入力します。このフィールドをブランクにすると、通貨再換算レート・テーブル(F1113)の為替レートが使用されます。

このフィールドに値を入力するのは、為替レートが時間の経過に応じて変化しないと予想される場合のみです。レートが変化すると予想される場合は、通貨再換算レート・テーブルを使用してレートを定義します。一時変更為替レートを使用するときにレートが時間の経過に応じて変化すると、レートの変化の様子を示す監査履歴が失われます。監査履歴が使用できないため、残高通貨再換算プログラムは、再換算された残高を正確に計算できなくなります。

このフィールドには最大で小数点以下7桁まで入力できます。これ以上の桁数を入力すると、最も近い小数点以下7桁の数値に調整されます。

### 換算調整勘定（フォームの詳細グリッド）

通貨換算の損益金額に使用する勘定科目を入力します。このフィールド（詳細グリッド）の勘定科目を使用して、会計期間内の為替レートの変動による換算の損益金額が作成されます。この仕訳は分析用としてのみ使用され、貸借一致仕訳ではありません。

このフィールドで勘定科目を指定すると、このフィールドは「計算方法」フィールドとともに使用されます。このフィールドの値が受け入れられるには、「計算方法」フィールドの値が「1」である必要があります。

見出しまたは詳細グリッドのフィールドで換算調整勘定を指定しない場合、通貨換算調整は計算されません。換算先元帳の勘定科目表の貸借を一致させるには、換算調整勘定を使用します。

---

**注意:** 別の会社割り当てられている勘定科目をこのフィールドに指定すると、エラー・メッセージが表示されます。

見出し領域の「換算調整勘定」フィールドと同じ勘定科目をこのフィールドに入力すると、エラー・メッセージが表示されます。これらの勘定科目は同一にはできません。

---

## 会社への計算IDの割当

「会社の設定」フォームにアクセスします。

詳細通貨設定 - 会社の設定

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

会社番号 \*

00075

名称 \*

Cascades, Ltd

会社の設定

52期間会計

通貨

国内通貨

CAD

Canadian Dollar

再換算

J

詳細通貨再換算

1

通貨別勘定残高の転記

☒

「会社の設定」フォーム

再換算

残高を再換算する会社ごとに計算IDを割り当てます。

このフィールドをblankにする場合、この会社に対して再換算残高の計算プログラム(R11414)を実行する際に処理オプションで正しい計算IDが指定されていることを確認してください。特定の会社に複数の計算IDが割り当てられている場合、このフィールドをblankにし、この会社の計算IDごとに再換算残高の計算プログラムを実行します。

## 仮定再換算の設定

この項では、事前設定、および仮定再換算の元帳規則の設定方法について説明します。

### 事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、元帳タイプAD(仮定再換算元帳)がUDCテーブル09/LTとUDCテーブル11/TLの両方に存在することを確認してください。

### 仮定再換算の元帳タイプおよび規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
元帳タイプの処理	W0025FQ	「一般会計システム・セットアップ」(G0941)、「元帳タイプ・マスターの設定」	既存の元帳タイプを検討します。
元帳タイプ規則の設定	W0025FR	「元帳タイプの処理」フォームで元帳タイプADを選択します。	仮定再換算の元帳タイプ規則を設定します。

### 仮定再換算の元帳タイプ規則の設定

「元帳タイプ規則の設定」フォームにアクセスします。

**換算先元帳として使用**

このチェックボックスを選択します。

**仕訳を作成しない**

このチェックボックスは選択を解除します。

**指定通貨コード**

金額を再換算する通貨をこのフィールドに入力します。元帳タイプに対する通貨コードの指定は、その元帳を使用するすべての会社に適用されます。

元帳タイプADの場合、指定通貨でのみ金額を再換算し、金額の小数点以下の桁数を正しくするために、通貨コードが必要です。

元帳の整合性を維持するために、仮定再換算の使用を開始した後は、AD元帳に割り当てた通貨コードを変更しないでください。



## 第 9 章

# 多通貨処理の売掛管理の設定

複数の通貨で売掛金取引を処理するには、通貨コードを顧客レコードに割り当て、多通貨AAIを設定し、通貨コードを与信/回収方針に割り当てる必要があります。

この章では、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理の多通貨処理の概要と、次の方法について説明します。

- 多通貨処理の顧客レコードの設定
- 顧客マスター通貨コードの換算
- 売掛管理の多通貨AAIの設定
- 多通貨処理の与信/回収の設定

## 多通貨処理の顧客レコードの設定

この項では、通貨コードおよび顧客レコードの概要と、次の方法について説明します。

- 顧客マスター情報(P03013)の多通貨処理オプションの設定
- 顧客レコードへの通貨コードの割当

### 顧客レコードへの通貨コードの割当に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
顧客マスターの改訂	W03013B	「多通貨の設定」(G1141)、 「売掛金通貨の指定」  「顧客マスターの処理」で 顧客を選択します。  「請求書」タブを選択 します。	顧客レコードへ通貨コード を割り当てます。

## 顧客マスター情報プログラム(P03013)の多通貨処理オプションの設定

この項では、JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

### デフォルト値

#### 2. 通貨コード

「住所録通貨コード」フィールドのデフォルト値として使用する通貨コードを指定します。この処理オプションをブランクにすると、「顧客マスターの改訂」フォームの「住所録通貨コード」フィールドをブランクにした場合に、「住所録の改訂」フォームの「ビジネスユニット」フィールドに割り当てられている会社の通貨コードが使用されます。

**注意:** 「住所録通貨コード」フィールドを「顧客マスターの改訂」フォームに表示するには、一般会計固定情報プログラムで多通貨の設定を有効にする必要があります。

## 顧客レコードへの通貨コードの割当

「顧客マスターの改訂」フォームにアクセスします。

顧客の通貨コード情報は、業種別顧客マスター (F03012) に保存されます。

**売掛金通貨の指定 - 顧客マスターの改訂**

顧客マスターの処理    顧客マスターの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

顧客No. 4242

詳細住所No.

会社番号 00000

タブを選択: 1-請求書

支払条件 Net 30 Days

支払手段 デフォルト

代替支払人 4242 Capital System

親住所No.

☒ 自動入金(Y/N)

通貨コード USD U.S. Dollar

住所録通貨コード JPY Japanese Yen

「顧客マスターの改訂」フォーム

**注意:** 住所録通貨コードを顧客に割り当てた後、「住所録通貨コード」フィールドの通貨コードは変更しないでください。通貨コードを変更すると、通貨が混在するため、F03012テーブルの金額が無意味なものになります。

## 請求書

「請求書」タブを選択します。

**通貨コード**

顧客に対して請求書を入力する際に自動的に割り当てられるデフォルトの通貨を示すコードを入力します。この値は、請求書の入力時に変更できません。このフィールドをブランクにしておき、各取引の通貨コードを自分で割り当てることもできます。

このフィールドをブランクにすると、デフォルトとして顧客レコードに割り当てられた会社の通貨が使用されます。「通貨コード」フィールドは、F03012 テーブルの CRCD です。

**住所録通貨コード**

住所録に保存する金額の通貨コードを入力します。住所録システムでは、与信限度額や今年度請求額、前年度請求額などの金額が保存されます。指定した通貨を使用して取引履歴が記録および保存されます。

このフィールドをブランクにすると、処理オプションの「通貨コード」で指定されている値が使用されます。この処理オプションをブランクにした場合は、「住所録の改訂」フォームの「ビジネスユニット」フィールドに割り当てられた会社の通貨コードが使用されます。「住所録通貨コード」フィールドは、F03012 テーブルの CRCA です。

---

## 顧客マスター通貨コードの換算

この項では、顧客通貨換算および住所録換算プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 住所録換算プログラム - F03012 の実行
- 住所録換算 - F03012 (R8903012E) の処理オプションの設定

### 顧客通貨換算について

次のようないくつかの理由により、顧客通貨コードまたは住所録金額を換算する必要がある場合があります。

- 顧客が請求書を異なる通貨で受領することを求めている。
- 請求書を異なる通貨で顧客に発行する必要がある。
- 顧客の住所録(統計)金額を異なる通貨で表示する必要がある。

たとえば、日本の会社に最近買収された米国の会社に勤めているとします。この会社の管理職は、すべての顧客の統計金額を日本円(JPY)で表示することを求めています。この場合、住所録換算 - F03012 プログラム(R8903012E)を実行し、すべての顧客の顧客住所録の通貨および金額をUSDからJPYに換算できます。

R8903012E プログラムでは、業種別顧客マスター(F03012)の次の通貨コードおよび金額フィールドが同時にまたは別個に換算されます。

- 通貨コード(CRCD)

請求書を異なる通貨で受領することを求める複数の顧客からの要求に応えるには、住所録換算 - F03012 プログラムを実行し、これらの顧客のデフォルトの通貨コードを換算します。また、換算するデフォルトの通貨コードがわからずである場合は、「顧客マスターの改訂」フォームでこれらを手動で換算することもできます。

- 住所録通貨コード(CRCA)

顧客の住所録の残高金額を異なる通貨で表示するには、住所録換算 - F03012プログラムを実行し、F03012テーブルで住所録の通貨コードおよび次の金額を換算します。

- 集計残高金額(年累計請求額、延滞利息金、前年度請求額合計、前回支払金額、未決済金額など)。集計残高金額は、「顧客マスターの改訂」フォームからアクセスできる「顧客追加情報」フォームに表示されます。
- 限度額(与信限度額、最小および最大受注オーダー金額)。限度額は、「顧客マスターの改訂」フォームからアクセスできる「請求情報」フォームに表示されます。

## 住所録換算プログラムについて

住所録換算 - F03012プログラムを使用して、複数の顧客についてデフォルトの通貨コード、住所録の通貨コードおよび金額、またはこれら両方を換算します。これを行うには、住所録換算 - F03012プログラムの次の処理オプションを設定する必要があります。

- 住所録金額の換算に使用する為替レート日付
- 住所録の通貨コードおよび金額の換算に使用する通貨コード  
F03012テーブルで「住所録通貨コード」(CRCA)フィールドが更新されます。
- デフォルトの通貨コードの換算に使用する通貨コード  
F03012テーブルで「通貨コード」(CRCD)フィールドが更新されます。

特定の顧客について様々な通貨コードを換算する場合、R8903012Eプログラムの様々なバージョンを設定できます。たとえば、デフォルトの通貨コードのみを換算するためにプログラムの1バージョンを設定し、住所録の通貨コードおよび金額のみを換算するために別のバージョン、これら両方を換算するためにさらに別のバージョンを設定できます。

別の通貨に換算する顧客のみを選択するには、データ選択を使用します。住所録番号を指定しない場合、すべての顧客が換算されます。特定のカテゴリ・コードが割り当てられたすべての顧客の金額を換算するには、このカテゴリ・コードを指定します。

### 例外レポート

R8903012E換算プログラムを実行すると、例外レポートが出力されます。このレポートで次のメッセージを検討し、必要に応じて、換算プログラムを再実行します。

- 処理エラーはありません。  
住所録の残高を更新する処理オプションを設定すると、業種別顧客マスター(F03012)が更新されます。
- 為替レートが設定されていません。  
換算する通貨コードが為替レート・テーブルで設定されていないか、この通貨コードの為替レートまたは有効日付が設定されていません。
- 入力した通貨が無効です。  
通貨処理オプションのどちらかまたは両方で入力した通貨コードが無効です。
- 更新エラー - レコードがロックされているか、見つかりません。  
顧客マスター・レコードは使用中です。

### 例: 顧客金額のカナダ・ドルからユーロへの換算

この例では、顧客金額をカナダ・ドル(CAD)からユーロ(EUR)へ換算した前と後の状態を示します。

## 顧客金額の換算前

顧客マスター・レコードの「通貨コード」および「住所録通貨コード」フィールドはCADです。

住所録換算 - F03012プログラムの処理オプションを次のように設定します。

- 住所録および金額通貨 = EUR
- デフォルトの通貨コード = ブランク
- 与信限度額、最小および最大オーダー値 = 50

F0015テーブルの為替レートは、1 CAD = 0.71097 EURです。

## 顧客金額の換算後

次の表に示すように、住所録換算 - F03012プログラムの実行後の顧客住所録の金額はEURですが、請求書はCADのままです。

F03012のフィールド	記述	換算前	換算後	四捨五入前
A5CRCD	通貨コード - 売掛管理	CAD	CAD	該当なし
A5CRCA	通貨コード - 住所録	CAD	EUR	該当なし
A5AD	未決済請求額	100.00 CAD	71.10 EUR	該当なし
A5AFCP	前年度延滞金	200.00 CAD	142.19 EUR	該当なし
A5AFCY	年累計延滞利息	300.00 CAD	213.29 EUR	該当なし
A5ASTY	今年度請求額	400.00 CAD	284.39 EUR	該当なし
A5SPYE	前年度請求額	500.00 CAD	355.48 EUR	該当なし
A5AHB	最高残高	600.00 CAD	426.58 EUR	該当なし
A5ALP	前回支払金額	700.00 CAD	497.68 EUR	該当なし
A5ABAM	住所録金額	不使用	不使用	該当なし
A5ABA1	住所録金額	不使用	不使用	該当なし
A5APRC	受注残額	1,000 CAD	710.97 EUR	該当なし
A5MINO	最小オーダー金額	1,000 CAD	700 EUR	710.97 EUR
A5MAXO	最大オーダー金額	50,000 CAD	35,550 EUR	35,548.30 EUR
A5ACL	与信限度額	10,000 CAD	7,100 EUR	7,109.66 EUR

**重要:** F03012テーブルでは、フィールドA5ABAMにはユーザー定義の固定金額が保存され、フィールドA5ABA1は機能しません。これらのフィールドのどちらかを使用する場合、これらが通貨勘定科目であるかどうかとは関係なく、R8903012Eプログラムによって金額が換算されます。

### 例: 通貨が異なる親/子の構造の換算

デフォルトおよび住所録の通貨コードが異なる親/子の構造がある場合、住所録換算 - F03012プログラムを使用して、子とは関係なく親(またはこの逆)を換算できます。このような柔軟性のため、親会社の通貨で住所録金額のトラッキングを継続しながら、別の通貨で子会社に対する請求書の発行や支払を行うことができます。また、この柔軟性により、子会社レベルで住所録金額を換算したり、親と子の通貨を同時に換算することもできます。

### 通貨コードの換算前

次の例は、住所録換算 - F03012プログラムを実行して顧客通貨コードを換算する前の、通貨が異なる親/子関係を示しています。

関係	住所録通貨	デフォルト通貨
親	JPY	JPY
子1	JPY	USD
子2	JPY	GBP
子3	JPY	EUR

子1および子3から、請求書をCADで発行するよう要求されました。住所録換算 - F03012プログラムを実行し、これらのデフォルト通貨をそれぞれUSDおよびEURからCADに換算します。

**注意:** 必要に応じて、親と子の通貨コードを同時に換算できます。

### 通貨コードの換算後

次の例は、住所録換算 - F03012プログラムを実行した後の結果を示しています。

関係	住所録通貨	デフォルト通貨
親	JPY	JPY
子1	JPY	CAD
子2	JPY	GBP
子3	JPY	CAD

この例は、親会社の通貨(JPY)で住所録金額のトラッキングを継続しながら、別の通貨(CADおよびGBP)で子会社に請求書を発行できることを示しています。

## 住所録換算プログラム - F03012の実行

住所録換算プログラム - F03012はメニューに設定されていません。

バッチ・バージョンのフォームにアクセスし、「バッチ・アプリケーション」フィールドに「R8903012E」と入力します。

## 住所録換算 – F03012 (R8903012E) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 更新

- |                        |   |
|------------------------|---|
| <b>1. 顧客マスターの残高の更新</b> | 年累計請求額や前年度請求額などの顧客マスターの統計情報を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。<br>ブランク: 統計情報を更新しません。<br>1: 統計情報を更新します。 |
| <b>2. 為替レート日付</b>      | F0015テーブルから為替レートを取り込むために使用する日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付を使用して為替レートが取得されます。               |

### 通貨コード更新

- |                    |  |
|--------------------|--|
| <b>3. 住所録通貨コード</b> | 「顧客マスターの改訂」フォームで「住所録通貨コード」フィールドの更新に使用する通貨コードを指定します。この処理オプションをブランクにすると、「住所録通貨コード」フィールドは更新されません。 |
| <b>4. 通貨コード</b>    | 「顧客マスターの改訂」フォームで「通貨コード」フィールドの更新に使用する通貨コードを指定します。この処理オプションをブランクにすると、「通貨コード」フィールドは更新されません。       |

### 丸め

- |                |  |
|----------------|--|
| <b>5. 丸め係数</b> | 「最小オーダー値」および「最大オーダー値」フィールドの金額を丸める係数を指定します。<br>たとえば、100を入力した場合は金額は100の単位に丸められ、50を入力した場合は50の単位に丸められます。 |
|----------------|--|

---

## 売掛管理の多通貨AAIの設定

この項では、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理の多通貨AAIの概要と、次の方法について説明します。

- 外貨の売掛銀行勘定のAAIの設定
- 外貨の売掛金勘定のAAIの設定
- 外貨建て請求書の未実現為替差損益のAAIの設定
- 外貨建て入金の実現為替差損益のAAIの設定
- 代替通貨建て入金の実現為替差損益のAAIの設定
- 外貨および代替通貨建て入金の四捨五入差異勘定のAAIの設定
- 代替通貨建て入金の仮勘定のAAIの設定

## 売掛管理の多通貨AAIについて

AAI項目を設定し、為替差損益を計算します。AAIを使用して、損益金額が適切な総勘定元帳の勘定科目に配賦されます。為替差損益は、次の期間に起こる為替レートの変動が原因で発生する可能性があります。

- ・ 請求書が未決済であるときに請求書が発行された日時と会計期間末の間(未実現為替差損益)
- ・ 請求書が発行された日時と入金を受領された日時の間(実現為替差損益)

外貨建て入金および未決済請求書の場合、損益は国内通貨と外貨の間で計算されます。代替通貨建て入金の場合、損益は国内通貨、外貨および代替通貨の間で計算されます。

また、AAI項目を設定することにより、外貨建て請求書用の取引勘定科目と、外貨および代替通貨建て入金用の銀行勘定科目も定義します。

一部のAAI項目には、3文字の通貨コードに対応する接尾辞としてxxx(任意)があります。接尾辞xxxを使用して、会社ごとに通貨固有のAAI項目を設定します。

## 外貨の売掛銀行勘定のAAIの設定

AAI項目RB(銀行勘定科目)は、入金レコードに銀行勘定が割り当てられていない場合に入金に使用されるデフォルトの銀行勘定科目を指定します。使用する銀行勘定科目は、入金に入力した会社番号に基づいて取得され、入金に入力した金額で借方に銀行勘定科目が計上されます。AAI項目RBには、ビジネスユニットが必要です。

銀行勘定科目は、通貨勘定科目(通貨指定あり)と非通貨勘定科目(通貨指定なし)のどちらにすることもできます。AAI項目RBに関連付けられた勘定科目が通貨勘定科目である場合、勘定科目の通貨は入金の取引通貨と同じである必要があります。

次の表は、AAI項目RBに関連付けられた勘定科目が検索される順序を示しています。

AAI項目	記述	AAI階層
RB	銀行勘定科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ RBxxx。入金に入力された会社に関連付けられたRBxxxが使用されます。xxxは、入金の取引通貨です。</li> <li>・ RBxxx。会社00000のRBxxxが使用されます。xxxは、入金の取引通貨です。</li> <li>・ RB。入金に入力された会社に関連付けられたRBが使用されます。</li> <li>・ RB。会社00000のRBが使用されます。</li> </ul> <p>項目が存在しない場合、エラー・メッセージが表示されます。</p>

## 外貨の売掛金勘定のAAIの設定

AAI項目RC(売掛金勘定)は、入金があるまでの保留勘定または仮勘定として機能する売掛金勘定を指定します。使用するAR売掛金勘定は、入金に入力した会社番号に基づいて取得されます。請求書の転記時に請求金額の取引勘定科目が借方に計上され、入金の転記時に入金額の売掛金勘定が貸方に計上されます。

次の表は、相手勘定コードがある場合とない場合に、AAI項目RCに関連付けられた勘定科目が検索される順序を示しています。

AAI項目	記述	AAI階層
RC (相手勘定 = xxxx)	相手勘定がある売掛金勘定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. RCxxx。請求書に入力された会社に関連付けられたRCxxxが使用されます。xxxは、請求書の取引通貨です。</li> <li>2. RCxxxx。請求書に入力された会社に関連付けられたRCxxxxが使用されます。xxxxは、請求書の相手勘定です。</li> <li>3. RCxxxx。会社00000のRCxxxxが使用されます。xxxxは、請求書の相手勘定です。</li> </ol> <p>AAI項目が存在しない場合、エラー・メッセージが表示されます。</p>
RC (相手勘定 = ブランク)	相手勘定がない売掛金勘定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. RCxxx。請求書に入力された会社に関連付けられたRCxxxが使用されます。xxxは、請求書の取引通貨です。</li> <li>2. RCxxx。会社00000のRCxxxが使用されます。xxxは、請求書の取引通貨です。</li> <li>3. RC。請求書に入力された会社に関連付けられたRCが使用されます。</li> <li>4. RC。会社00000のRCが使用されます。</li> </ol> <p>AAI項目が存在しない場合、エラー・メッセージが表示されます。</p>

次の例は、請求書の「通貨」、「相手勘定」および「会社」フィールド間の検索順序および関係を示しています。

#### 例: 相手勘定がある場合のAAIの検索順序

米国の会社(会社00001)が相手勘定コードTRADを使用してCADで外貨建て請求書を入力します。

1. 会社00001のAAI項目RCCADが検索されます。この項目が存在しない場合、次が行われます。
2. 会社00000のAAI項目RCCADが検索されます。この項目が存在しない場合、次が行われます。
3. 会社00001のAAI項目RCTRADが検索されます。この項目が存在しない場合、次が行われます。
4. 会社00000のAAI項目RCTRADが検索されます。この項目が存在しない場合、エラー・メッセージが表示されます。

#### 例: 相手勘定がない場合のAAIの検索順序

米国の会社(会社00001)が相手勘定コードを使用しない(相手勘定コードがブランクの状態)でCADで外貨建て請求書を入力します。

次の階層に基づいて、売掛金勘定が検索されます。

1. 会社00001のAAI項目RCCADが検索されます。この項目が存在しない場合、次が行われます。
2. 会社00000のAAI項目RCCADが検索されます。この項目が存在しない場合、次が行われます。
3. 会社00001の項目RCが検索されます。この項目が存在しない場合、次が行われます。
4. 会社00000の項目RCが検索されます。この項目が存在しない場合、エラー・メッセージが表示されます。

## 外貨建て請求書の未実現為替差損益のAAIの設定

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムで未実現為替差損益が計算されるようにするには、AAIを設定する必要があります。次のAAI項目により、期末に未決済の外貨建て請求書の未実現為替差損益に使用される勘定科目が定義されます。

- RVxxx: 外貨建て未実現為替差益
- RWxxx: 外貨建て未実現為替差損
- RRxxx: 外貨建て未実現為替差損益相殺

売掛金未実現損益レポート(R03B426)を実行すると、RVおよびRWに割り当てられた勘定科目コードを使用して外貨建て未実現為替差損益が作成され、RRに割り当てられた勘定科目コードを使用して外貨建て未実現為替差損益の相殺が作成されます。未実現為替差損益金額を作成するために、当初の請求書の金額と未決済請求書のコピー(期末の為替レートに基づいて再評価されます)が比較され、差額の損益が作成されます。

AAI項目RV、RWおよびRRの階層は同じです。次の例は、AAI項目RVが検索される順序を示しています。

1. RVxxx。請求書に入力された会社に関連付けられたRVxxxが使用されます。xxxは、請求書の取引通貨です。
2. RVxxx。会社00000のRVxxxが使用されます。xxxは、請求書の取引通貨です。
3. RVxxxx。請求書に入力された会社に関連付けられたRVxxxxが使用されます。xxxxは、請求書の相手勘定です。
4. RVxxxx。会社00000のRVxxxxが使用されます。xxxxは、請求書の相手勘定です。
5. RV。請求書に入力された会社に関連付けられたRVが使用されます。
6. RV。会社00000のRVが使用されます。

## 外貨建て入金の実現為替差損益のAAIの設定

次のAAI項目により、外貨建て入金の実現為替差損益に使用される勘定科目が定義されます。

- RGxxx: 外貨建て実現為替差益
- RLxxx: 外貨建て実現為替差損

RGおよびRLに割り当てられた勘定科目コードを使用して、入金の転記時に外貨建て損益金額が作成されます。差損益金額を作成するために、当初の請求書と外貨建て入金間の為替レートの差額が請求書金額に乘算されます。

AAI項目RGおよびRLの階層は同じです。次の例は、AAI項目RGが検索される順序を示しています。

1. RGxxx。入金に入力された会社に関連付けられたRGxxxが使用されます。xxxは、入金の取引通貨です。
2. RGxxx。会社00000のRGxxxが使用されます。xxxは、入金の取引通貨です。
3. RGxxxx。入金に入力された会社に関連付けられたRGxxxxが使用されます。xxxxは、支払が行われる請求書の相手勘定です。
4. RGxxxx。会社00000のRGxxxxが使用されます。xxxxは、支払が行われる請求書の相手勘定です。
5. RG。入金に入力された会社に関連付けられたRGが使用されます。
6. RG。会社00000のRGが使用されます。

## 代替通貨建て入金の実現為替差損益のAAIの設定

代替通貨建て入金の実現為替差損益は、標準差損益とは別に記録され、別の勘定科目およびAAIを使用して処理されます。

次のAAI項目により、代替通貨建て入金の実現為替差損益に使用される勘定科目が定義されます。

- RYxxx: 代替通貨建て実現為替差益
- RZxxx: 代替通貨建て実現為替差損

代替通貨建て差損益の仕訳は次のように作成されます。

- 代替通貨から国内通貨へ直接換算することによって得られた金額が、代替通貨から外貨、さらに国内通貨へ換算することによって得られた金額よりも大きい場合、為替差益勘定で仕訳が作成されます。
- 代替通貨から国内通貨へ直接換算することによって得られた金額が、代替通貨から外貨、さらに国内通貨へ換算することによって得られた金額よりも小さい場合、為替差損勘定で仕訳が作成されます。

AAI項目RYおよびRZの階層は同じです。次の例は、AAI項目RYが検索される順序を示しています。

1. RYxxx。入金に入力された会社に関連付けられたRYxxxが使用されます。xxxは、入金の取引通貨です。
2. RYxxx。会社00000のRYxxxが使用されます。xxxは、入金の取引通貨です。
3. RYxxxx。入金に入力された会社に関連付けられたRYxxxxが使用されます。xxxxは、請求書の相手勘定です。
4. RYxxxx。会社00000のRYxxxxが使用されます。xxxxは、請求書の相手勘定です。
5. RY。入金に入力された会社に関連付けられたRYが使用されます。
6. RY。会社00000のRYが使用されます。

## 外貨および代替通貨建て入金の四捨五入差異勘定のAAIの設定

AAI項目R8により、外貨および代替通貨建て入金の転記時に四捨五入用として使用する外貨および代替通貨建て入金勘定を定義します。

外貨または代替通貨建て入金を請求書に対して消し込む場合、わずかな四捨五入差異が生じる可能性があります。外貨と国内通貨間または代替通貨と国内通貨間で金額を換算する場合、四捨五入差異が生じる可能性があります。四捨五入差異は重要ではありませんが、これが生じるのは、請求書に対して消し込まれる国内通貨金額が入金の国内通貨金額と異なる場合です。

四捨五入差異を記録するために、外貨または代替通貨建て入金の転記時に四捨五入差異勘定に相手科目仕訳が作成されます。

AAI項目R8の検索順序は、次のとおりです。

1. 入金に入力された会社に関連付けられたR8が使用されます。
2. 会社00000のR8が使用されます。

### 関連項目:

第 14 章、「外貨および代替通貨建て入金の処理」、「外貨および代替通貨建て入金の転記処理について」、148ページ

## 代替通貨建て入金の仮勘定のAAIの設定

AAI項目R7により、代替通貨建て入金の転記時に使用する代替通貨の仮勘定を定義します。代替通貨の仮勘定は、入金額から当初の請求金額への換算をトラッキングし、次の相殺金額の監査証跡を提供します。

- 当初の外貨建て請求書および外貨建て請求書の国内通貨建て金額
- 代替通貨建て入金および代替通貨建て入金の国内通貨建て金額

代替通貨の仮勘定は、国内通貨建て金額は貸借が一致しますが、外貨建て金額は貸借が一致しません。これは、外貨建て金額には、貸借が一致しない異なる通貨が含まれるためです。

AAI項目R7には、次の規則が適用されます。

- 仮勘定は、入金 of 消込元の銀行勘定科目と同じ会社である必要があります。
- ビジネスユニットが含まれる必要があります。
- 通貨(通貨固有の)勘定科目にはできません。

AAI項目R7の検索順序は、次のとおりです。

- 入金に入力された会社に関連付けられたR7が使用されます。
- 会社00000のR7が使用されます。

---

## 多通貨処理の与信/回収方針の設定

この項では、多通貨の与信/回収設定の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 保険料の通貨コードの設定
- 延滞通知指示の設定
- 延滞利息金指示の設定

### 多通貨の与信/回収の設定について

多通貨環境で与信/回収方針を設定する場合、次の各フォームに「通貨コード」フィールドが表示されます。

- 信用保険の定義
- 延滞通知指示
- 延滞利息金指示

この通貨コードの目的は、金額の通貨を示すことにあります。

「信用保険の定義」では、「通貨コード」フィールドを使用して次を指定します。

- 補償金額の通貨
- 保険料の通貨

「延滞通知指示」および「延滞利息金指示」では、「通貨コード」フィールドを使用して、延滞通知または延滞利息金を生成するかどうかを決定するために使用する最小金額に関連する通貨を指定します。通貨コードは、延滞通知または延滞利息金を生成する通貨を示すものではありません。

## 事前設定

延滞方針および延滞利息金指示について理解しておいてください。

## 通貨コード別の与信/回収方針の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
信用保険の定義	W03B2901B	「与信/回収管理セットアップ」(G03B411)、「信用保険の処理」	保険通貨コードを設定します。
延滞通知指示	W03B2501R	「与信/回収管理セットアップ」(G03B411)、「延滞方針の定義」  「延滞方針の処理」フォームで方針を選択し、「ロー」メニューで「延滞通知」を選択します。  「延滞通知指示の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	延滞通知指示を設定します。
延滞利息金指示	W03B2501S	「与信/回収管理セットアップ」(G03B411)、「延滞方針の定義」  「延滞方針の処理」フォームで方針を選択し、「ロー」メニューで「利息金」を選択します。  「延滞利息金指示の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	延滞利息金指示を設定します。

## 保険料の通貨コードの設定

「信用保険の定義」フォームにアクセスします。

顧客(単一方針の場合)または方針(複数の顧客を網羅する標準方針の場合)別に補償金額および保険料の通貨を指定します。

## 延滞通知指示の設定

年齢調べカテゴリまたは重要度レベルごとに延滞通知指示を設定します。入力する最小金額(存在する場合)の通貨を表す通貨コードを割り当てます。入力した通貨に指定した最小金額以下の金額がある請求書支払項目に対して延滞通知は生成されません。

## 延滞利息金指示の設定

必要な経過日数の範囲ごとに延滞利息金指示を設定します。入力する最小金額(存在する場合)の通貨を表す通貨コードを割り当てます。入力した通貨に指定した最小金額以下の利息金に対して延滞利息金レコードは生成されません。



## 第 10 章

# 多通貨処理の買掛管理の設定

複数の通貨で買掛金取引を処理するには、通貨コードを仕入先レコードに割り当て、通貨固有のAAIを設定する必要があります。

この章では、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理の多通貨処理の概要と、次の方法について説明します。

- 多通貨処理の仕入先レコードの設定
- 仕入先マスター通貨コードの換算
- 買掛管理の多通貨AAIの設定
- 支払変換コードの設定
- (MEX)支払変換コードの設定

## 多通貨処理の仕入先レコードの設定

この項では、通貨コードおよび仕入先レコードの概要と、次の方法について説明します。

- 仕入先マスター情報(P04012)の多通貨処理オプションの設定
- 仕入先レコードへの通貨コードの割当

### 仕入先レコードへの通貨コードの割当に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先マスターの改訂	W04012A	「多通貨の設定」(G1141)、 「買掛金通貨の指定」  「仕入先マスターの処理」 フォームで、仕入先を選択 して「伝票」タブを選択 します。	仕入先レコードへ通貨コードを割り当てます。

### 仕入先マスター情報(P04012)の多通貨処理オプションの設定

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

#### デフォルト値

#### 2. 住所録通貨コード

「住所録通貨コード」フィールドのデフォルト値を指定します。この処理オプションをブランクにすると、「仕入先マスターの改訂」フォームの「住所録通貨コード」フィールドをブランクにした場合に、「住所録の改訂」フォームの

「ビジネスユニット」フィールドに割り当てられている会社の通貨コードが使用されます。

一般会計固定情報プログラムで多通貨の設定が有効な場合にのみ、「住所録通貨コード」フィールドが「仕入先マスターの改訂」フォームに表示されます。

## 仕入先レコードへの通貨コードの割当

「仕入先マスターの改訂」フォームにアクセスします。

このフォームで割り当てる通貨コードは、仕入先マスター (F0401) に保管されます。

買掛金通貨の指定 - 仕入先マスターの改訂

仕入先マスターの処理 仕入先マスターの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

仕入先No. 4002

詳細住所No.

伝票 購買1 購買2 勘定科目情報 税情報 EDI情報

与信メッセージ

支払条件 Net 30 Days

支払手段 デフォルト

ファクタ代替受取人 4002 Aluminium de Rhone

親住所No.

承認者No.

通貨コード EUR Euro

住所録通貨コード EUR Euro

「仕入先マスターの改訂」フォーム

**注意:** 住所録通貨コードを仕入先レコードに割り当てた後、仕入先マスター (F0401) の住所録金額フィールドに値がある場合、「住所録通貨コード」フィールドの通貨コードは変更しないでください。通貨コードを変更すると、通貨が混在するため、F0401テーブルの金額が無意味なものになります。

### 通貨コード

仕入先に対して伝票を入力する際に自動的に割り当てられるデフォルトの通貨を示すコードを入力します。この値は、伝票の入力時に変更できま

す。このフィールドをblankにしておき、各取引の通貨コードを自分で割り当てることができます。

このフィールドをblankにすると、デフォルトとして仕入先レコードに割り当てられた会社の通貨が使用されます。これは、F0401テーブルのCRRPフィールドです。

### 住所録通貨コード

今年度および前年度の伝票金額を含む仕入先の住所録金額をトラッキングする通貨を入力します。指定した通貨を使用して取引履歴が記録および保存されます。

このフィールドをblankにすると、処理オプションの「通貨コード」で指定されている値が使用されます。この処理オプションをblankにした場合は、「住所録の改訂」フォームの「ビジネスユニット」フィールドに割り当てられた会社の通貨コードが使用されます。

これは、F0401テーブルのCRCAフィールドです。

## 仕入先マスター通貨コードの換算

この項では、仕入先通貨換算および住所録換算プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 住所録換算 - F0401プログラムの実行
- 住所録換算 - F0401 (R890401E) の処理オプションの設定

### 仕入先通貨換算について

次のようないくつかの理由により、仕入先通貨コードおよび住所録金額を換算する必要がある場合があります。

- 仕入先が支払を異なる通貨で受領することを求めている。
- 異なる通貨で仕入先に支払う必要がある。
- 仕入先の住所録(統計)金額を異なる通貨で表示する必要がある。

たとえば、複数の日本の仕入先からカナダ・ドル(CAD)での支払を開始することを要求されたとします。この場合、住所録換算 - F0401プログラム(R890401E)を実行し、これら特定の仕入先の仕入先通貨コードを日本円(JPY)からCADに換算できます。

住所録換算 - F0401プログラムでは、F0401テーブルの次の通貨コードおよび金額フィールドが同時にまたは別個に更新されます。

- 通貨コード(CRRP)

支払を異なる通貨で受領することを求める仕入先からの複数の要求に応えるには、このプログラムを実行し、これらの仕入先のデフォルトの通貨コードを換算します。また、換算する通貨コードがわずかなである場合は、「仕入先マスターの改訂」フォームでこれらを手動で変更することもできます。

- 住所録通貨コード(CRCA)

仕入先の住所録の残高金額を異なる通貨で表示するには、このプログラムを実行し、F0401テーブルで住所録の通貨コードおよび次の金額を換算します。

- 統計金額(年累計伝票金額、前年度伝票金額など)。統計金額は、「仕入先マスターの改訂」フォームからアクセスできる「仕入先追加情報」フォームに表示されます。

- 限度額(最小および最大購買オーダー金額)。限度額は、「仕入先マスターの改訂」フォームの「購買 2」セクションに表示されます。

## 住所録換算プログラムについて

住所録換算 - F0401プログラムを使用して、複数の仕入先についてデフォルトの通貨コード、住所録の通貨コードおよび金額、またはこれら両方を換算します。これを行うには、住所録換算 - F0401プログラムの処理オプションで次の情報を指定する必要があります。

- 住所録金額の換算に使用する為替レート日付。
- 住所録の通貨コードおよび金額の換算に使用する通貨コード。F0401テーブルで「住所録通貨コード」(CRCA)フィールドが更新されます。
- デフォルトの通貨コードの換算に使用する通貨コード。F0401テーブルで「通貨コード」(CRRP)フィールドが更新されます。

特定の仕入先について異なる通貨コードを変換する場合、住所録換算 - F0401プログラムの異なるバージョンを設定できます。たとえば、デフォルトの通貨コードのみを換算するためにプログラムの1バージョンを設定し、住所録の通貨コードおよび金額のみを換算するために別のバージョン、これら両方を換算するためにさらに別のバージョンを設定できます。

別の通貨に換算する仕入先のみを選択するには、データ選択を使用します。住所録番号を指定しない場合、すべての仕入先が換算されます。特定のカテゴリ・コードが割り当てられたすべての仕入先の金額を換算するには、このカテゴリ・コードを指定します。

### 例外レポート

住所録換算 - F0401プログラムを実行すると、例外レポートが印刷されます。このレポートで次のメッセージを検討し、必要に応じて、換算プログラムを再実行します。

- 処理エラーはありません。  
住所録の残高を更新する処理オプションを設定すると、F0401テーブルが更新されます。
- 為替レートが設定されていません。  
換算する通貨コードが為替レート・テーブルで設定されていないか、この通貨コードの為替レートまたは有効日付が設定されていません。
- 入力した通貨が無効です。  
通貨処理オプションのどちらかまたは両方で入力した通貨コードが無効です。
- 更新エラー - レコードがロックされているか、見つかりません。  
仕入先マスター・レコードは使用中です。

### 例: 仕入先金額の米ドルからカナダ・ドルへの換算

この例では、仕入先の住所録金額を米ドル(USD)からカナダ・ドル(CAD)へ換算した前と後の状態を示します。

#### 仕入先通貨コードの換算前

仕入先マスター・レコードの「通貨コード」および「住所録通貨コード」フィールドはUSDです。

住所録換算 - F0401プログラムの処理オプションを次のように設定します。

- 住所録および金額通貨 = CAD
- デフォルトの通貨コード = ブランク

- 最小および最大オーダー値 = 50

F0015テーブルの為替レートは、1 USD = 1.59190 CADです。

### 仕入先通貨コードの換算後

次の表に示すように、住所録換算 - F0401プログラムの実行後の仕入先住所録の金額はCADですが、支払はUSDのままです。

F0401のフィールド	記述	換算前	換算後	四捨五入前
A6CRRP	通貨コード - 買掛管理	USD	USD	該当なし
A6CRCA	通貨コード - 住所録	USD	CAD	該当なし
A6AYPD	年累計伝票金額	157,500.00 USD	250,724.25 CAD	該当なし
A6APPD	前年度末伝票金額	138,000.00 USD	219,682.20 CAD	該当なし
A6ABAM	住所録金額	不使用	不使用	該当なし
A6ABA1	住所録金額	不使用	不使用	該当なし
A6APRC	受注残額	3,000.00 USD	4,775.70 CAD	該当なし
A6MINO	最小オーダー値	15,000.00 USD	23,900.00 CAD	23,878.50 CAD
A6MAXO	最大オーダー値	30,000.00 USD	15,350.00 CAD	47,757.00 CAD

**重要:** F0401テーブルでは、フィールドA6ABAMにはユーザー定義の固定金額が保存され、フィールドA6ABA1は機能しません。これらのフィールドのどちらかを使用する場合、これらが通貨勘定科目であるかどうかとは関係なく、換算プログラムによって金額が換算されます。

### 例: 通貨が異なる親/子の構造の換算

デフォルトおよび住所録の通貨コードが異なる親/子の構造がある場合、住所録換算 - F0401プログラムを使用して、子とは関係なく親(またはこの逆)を換算できます。このような柔軟性のため、親会社の通貨で住所録金額のトラッキングを継続しながら、別の通貨で子会社に対する請求書の発行や支払を行うことができます。また、この柔軟性により、子会社レベルで住所録金額を換算したり、親と子の通貨を同時に換算することもできます。

### 通貨コードの換算前

次の例は、住所録換算 - F0401プログラムを実行して顧客通貨コードを換算する前の、通貨が異なる親/子関係を示しています。

関係	住所録通貨	デフォルト通貨
親	JPY	JPY
子1	JPY	USD

関係	住所録通貨	デフォルト通貨
子2	JPY	GBP
子3	JPY	EUR

子1および子3から、請求書をCADで発行するよう要求されました。住所録換算 - F0401プログラムを実行し、これらのデフォルト通貨をそれぞれUSDおよびEURからCADに換算します。

**注意:** 必要に応じて、親と子の通貨コードを同時に換算できます。

### 通貨コードの換算後

次の表は、住所録換算 - F0401換算プログラムを実行した後の結果を示しています。

関係	住所録通貨	デフォルト通貨
親	JPY	JPY
子1	JPY	CAD
子2	JPY	GBP
子3	JPY	CAD

この例は、親会社の通貨 (JPY) で住所録金額のトラッキングを継続しながら、別の通貨 (CADおよびGBP) で子会社に請求書を発行できることを示しています。

## 住所録換算 - F0401プログラムの実行

住所録換算 - F0401プログラムはメニューに設定されていません。

バッチ・バージョンのフォームにアクセスし、「バッチ・アプリケーション」フィールドに「R890401E」と入力します。

## 住所録換算 - F0401 (R890401E) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 更新

#### 1. 仕入先マスターの残高の更新

年累計伝票金額や前年度伝票金額などの仕入先マスターの統計情報を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 統計情報を更新しません。

1: 統計情報を更新します。

#### 2. 為替レート日付

F0015テーブルから為替レートを取り込むために使用する日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付を使用して為替レートが取得されます。

## 通貨

3. 住所録通貨コード 「仕入先マスターの改訂」フォームで「住所録通貨コード」フィールドの更新に使用する通貨コードを指定します。この処理オプションを空白にすると、フィールドは更新されません。
4. 通貨コード 「仕入先マスターの改訂」フォームで「通貨コード」フィールドの更新に使用する通貨コードを指定します。この処理オプションを空白にすると、フィールドは更新されません。

## 丸め

5. 丸め係数 次のフィールドごとに金額を丸める係数を指定します。
- 最小オーダー値
  - 最大オーダー値
- たとえば、100を入力した場合は金額は100の単位に丸められ、50を入力した場合は50の単位に丸められます。

---

## 買掛管理の多通貨AAIの設定

この章では、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理の多通貨AAIの概要と、次の方法について説明します。

- 支払銀行勘定科目のAAIの設定
- 買掛金勘定のAAIの設定
- 外貨建て伝票の未実現為替差損益のAAIの設定
- 外貨建て支払の実現為替差損益のAAIの設定
- 代替通貨建て支払の実現為替差損益のAAIの設定
- 代替通貨建て支払の仮勘定のAAIの設定

## 買掛管理の多通貨AAIについて

AAI項目を設定し、為替差損益を計算します。AAIを使用して、差損益が適切な総勘定元帳の勘定科目に配賦されます。為替差損益は、次の期間に起こる為替レートの変動が原因で発生する可能性があります。

- 伝票が入力された日時と支払が発行された日時の間(実現為替差損益)
- 伝票が未決済であるときに伝票が入力された日時と期間末の間(未実現為替差損益)

外貨建て支払および未決済伝票の場合、差損益は国内通貨と外貨の間で計算されます。代替通貨建て支払の場合、差損益は国内通貨、外貨および代替通貨の間で計算されます。

また、AAI項目を設定することにより、外貨建て伝票用の買掛金勘定と、外貨および代替通貨建て支払用の銀行勘定科目も定義します。

一部のAAI項目には、3文字の通貨コードに対応する接尾辞としてxxxがあります。接尾辞xxxを使用して、会社ごとに複数の通貨固有のAAI項目を設定します。通貨コードを指定しない(空白にする)場合、会社の通貨コードがデフォルトとして使用されます。

## 支払銀行勘定科目のAAIの設定

AAI項目PB(支払銀行)により、伝票入力時に銀行勘定科目を入力しない場合に割り当てられるデフォルトの銀行勘定科目を指定します。銀行勘定科目は、通貨勘定科目(通貨指定あり)と非通貨勘定科目(通貨指定なし)のどちらにすることもできます。支払に入力された金額の銀行勘定科目が貸方に計上されます。この勘定科目にはビジネスユニットが含まれる必要があります。

AAI項目PBの検索順序は、次のとおりです。

1. PBxxx。伝票に入力された会社に関連付けられたPBxxxが使用されます。xxxは、伝票の取引通貨です。
2. PBxxx。会社00000のPBxxxが使用されます。xxxは、伝票の取引通貨です。
3. PBxxxx。伝票に入力された会社に関連付けられたPBxxxxが使用されます。xxxxは、伝票の相手勘定です。
4. PBxxxx。会社00000のPBxxxxが使用されます。xxxxは、伝票の相手勘定です。
5. PB。伝票に入力された会社に関連付けられたPBが使用されます。
6. PB。会社00000のPBが使用されます。

伝票入力時に銀行勘定科目を割り当てない場合、AAI項目PBに基づいて伝票に対して支払を行うための銀行勘定科目が割り当てられます。銀行勘定科目は、通貨勘定科目(通貨指定あり)と非通貨勘定科目(通貨指定なし)のどちらにすることもできます。銀行勘定科目に割り当てられた通貨コードによってこれが通貨勘定科目として指定され、外貨建て伝票はこの通貨でのみ支払が可能になります。

銀行勘定科目が通貨勘定科目と非通貨勘定科目のどちらであるかに応じて異なる通貨条件が適用されます。

### 通貨銀行勘定科目

外貨建て伝票の入力時に通貨銀行勘定科目を手動または自動で割り当てる場合、銀行勘定科目の通貨は伝票の取引通貨と同じである必要があります。また、銀行勘定科目に関連付けられた会社の基本通貨は伝票の基本(国内)通貨と同じである必要があります。

たとえば、会社の基本通貨が米ドル(USD)であるとし、外貨建て伝票をユーロ(EUR)で入力します。支払に関連付けられた通貨銀行勘定科目の通貨もEURである必要があります。

次の両方の基準が満たされれば、銀行勘定科目を任意の通貨銀行勘定科目に変更できます。

- 通貨銀行勘定科目の通貨が伝票の取引通貨と同じである。
- 銀行勘定科目に関連付けられた会社の基本通貨が伝票の基本(国内)通貨と同じである。

これら両方の基準が検証されます。

---

**注意:** 外貨建て伝票を手動で入力する場合、伝票の国内(基本)通貨である銀行勘定科目でデフォルトの銀行勘定科目を一時変更することはできません。「銀行口座に対して通貨コードが無効」というエラー・メッセージが表示されます。

同様に、支払グループを作成するときに、(処理オプションで)国内通貨建て伝票と同じ通貨で一時変更銀行勘定科目を入力し、支払通貨を伝票の国内通貨に設定すると、この伝票は支払グループに含まれません。また、銀行勘定科目の通貨は取引通貨と同じである必要があり、銀行勘定科目に関連付けられた会社の基本通貨は伝票の基本(国内)通貨と同じである必要があります。

---

## 非通貨銀行勘定科目

外貨建て伝票の入力時に通貨銀行勘定科目を手動または自動で割り当てる場合、銀行勘定科目の通貨は伝票の基本通貨と同じである必要があります。

たとえば、会社の基本通貨がUSDであるとします。外貨建て伝票をEURで入力します。伝票に関連付けられた銀行勘定科目の通貨はUSDである必要があります。

銀行勘定科目は、伝票の会社と同じ国内通貨を持つ任意の非通貨銀行勘定科目に変更できます。これにより、この銀行勘定科目が伝票の取引通貨であれば、この銀行勘定科目から外貨建て伝票に対して支払うことができます。

## 買掛金勘定のAAIの設定

AAI項目PCにより、伝票に対して支払があるまでの保留勘定または仮勘定として機能するデフォルトの買掛金勘定を定義します。伝票の入力時に「相手勘定」フィールドを使用して別の買掛金勘定を指定しない場合、デフォルトの買掛金勘定が割り当てられます。伝票入力時に、仕入先マスターの「相手勘定」フィールドの値が使用されるように、買掛金勘定は仕入先ごとに設定できます。

AAI項目PCに割り当てられた勘定科目コードを使用して、伝票の金額の買掛金勘定が借方に計上されます。勘定科目コードにはビジネスユニットが含まれる必要があります。このAAI項目には、多通貨に関する特別な考慮事項はありません。他のAAIと異なり、AAI項目PCには通貨コードxxxを割り当てることができます。

AAI項目PCの検索順序は、次のとおりです。

1. PCxxxx。伝票に入力された会社に関連付けられたPCxxxxが使用されます。xxxxは、伝票の相手勘定です。
2. PCxxxx。会社00000のPCxxxxが使用されます。xxxxは、伝票の相手勘定です。
3. PC。伝票に入力された会社に関連付けられたPCが使用されます。
4. PC。会社00000のPCが使用されます。

## 外貨建て伝票の未実現為替差損益のAAIの設定

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムで未実現為替差損益が自動的に計算されるようにするには、AAIを設定する必要があります。次のAAI項目により、期末に未決済の外貨建て伝票の未実現為替差損益に使用される勘定科目が定義されます。

- PVxxx: 外貨建て未実現為替差益
- PWxxx: 外貨建て未実現為替差損
- PRxxx: 外貨建て未実現為替差損益相殺

買掛金未実現差損益レポート(R04425)を実行すると、PVおよびPWに割り当てられた勘定科目コードを使用して未決済伝票の外貨建て未実現為替差損益が作成され、PRに割り当てられた勘定科目コードを使用して外貨建て未実現為替差損益の相殺が作成されます。未実現為替差損益金額を作成するために、当初の伝票の金額と未決済伝票の金額(期末の為替レートに基づいて再評価されます)が比較され、差額の損益が作成されます。

AAI項目PV、PWおよびPRの階層は同じです。次の例は、AAI項目PVが検索される順序を示しています。

1. PVxxx。伝票に入力された会社に関連付けられたPVxxxが使用されます。xxxは、伝票の取引通貨です。
2. PVxxx。会社00000のPVxxxが使用されます。xxxは、伝票の取引通貨です。

3. PVxxxx。伝票に入力された会社に関連付けられたPVxxxxが使用されます。xxxxは、伝票の相手勘定です。
4. PVxxxx。会社00000のPVxxxxが使用されます。xxxxは、伝票の相手勘定です。
5. PV。伝票に入力された会社に関連付けられたPVが使用されます。
6. PV。会社00000のPVが使用されます。

## 外貨建て支払の実現為替差損益のAAIの設定

次のAAI項目により、外貨建て支払の実現為替差損益に使用される勘定科目が定義されます。

- PGxxx: 外貨建て実現為替差益
- PLxxx: 外貨建て実現為替差損

支払の転記時に差損益の仕訳が作成され、PGおよびPLに割り当てられた勘定科目コードを使用して外貨建て差損益金額が作成されます。差損益金額を作成するために、当初の伝票と外貨建て支払間の為替レートの差額が伝票金額に乗算されます。

AAI項目PGおよびPLの階層は同じです。次の例は、AAI項目PGが検索される順序を示しています。

1. PGxxx。支払に入力された会社に関連付けられたPGxxxが使用されます。xxxは、支払の取引通貨です。
2. PGxxx。会社00000のPGxxxが使用されます。xxxは、請求書の取引通貨です。
3. PGxxxx。会社00000のPGxxxxが使用されます。xxxxは、支払が行われる伝票の相手勘定です。
4. PG。支払に入力された会社に関連付けられたPGが使用されます。
5. PG。会社00000のPGが使用されます。

## 代替建て支払の実現為替差損益のAAIの設定

代替通貨建て支払の差損益は、標準差損益とは別に記録され、別の勘定科目およびAAIを使用して処理されます。次のAAI項目により、代替通貨建て支払の実現為替差損益に使用される勘定科目が定義されます。

- PYxxx: 代替通貨建て実現為替差益
- PZxxx: 代替通貨建て実現為替差損

支払の転記時に差損益の仕訳が作成され、PYおよびPZに割り当てられた勘定科目コードを使用して次のように代替通貨建て差損益金額が作成されます。

- 代替通貨から国内通貨へ直接換算することによって得られた金額が、代替通貨から外貨、さらに国内通貨へ換算することによって得られた金額よりも大きい場合、為替差益勘定で仕訳が作成されます。
- 代替通貨から国内通貨へ直接換算することによって得られた金額が、代替通貨から外貨、さらに国内通貨へ換算することによって得られた金額よりも小さい場合、為替差損勘定で仕訳が作成されます。

AAI項目PYおよびPZの階層は同じです。次の例は、AAI項目PYが検索される順序を示しています。

1. PYxxx。支払に入力された会社に関連付けられたPYxxxが使用されます。xxxは、支払の取引通貨です。
2. PYxxx。会社00000のPYxxxが使用されます。xxxは、請求書の取引通貨です。
3. PYxxxx。支払に入力された会社に関連付けられたPYxxxxが使用されます。xxxxは、支払が行われる伝票の相手勘定です。

4. PYxxxx。会社00000のPYxxxxが使用されます。xxxxは、支払が行われる伝票の相手勘定です。
5. PY。支払に入力された会社に関連付けられたPYが使用されます。
6. PY。会社00000のPYが使用されます。

**注意:** 代替通貨建て支払を伝票に対して消し込む場合、わずかな四捨五入差異が生じる可能性があります。外貨と国内通貨間または代替通貨と国内通貨間で金額を換算する場合、四捨五入差異が生じる可能性があります。四捨五入差異は重要ではありませんが、これが生じるのは、伝票に対して消し込まれる国内通貨金額が支払の国内通貨金額と異なる場合です。

わずかな四捨五入差異は、差異の原因が為替レートの変動でなくても、代替通貨建て損益勘定でトラッキングされます。四捨五入差異を記録するために、支払の転記時にAAI項目PYまたはPZに関連付けられた勘定科目に相手科目仕訳が作成されます。

## 代替通貨建て支払の仮勘定のAAIの設定

AAI項目P7により、代替通貨建て支払の転記時に使用する代替通貨の仮勘定を定義します。代替通貨の仮勘定は、支払額から当初の伝票金額への換算をトラッキングし、次の相殺金額の監査証跡を提供します。

- 当初の外貨建て伝票および外貨建て伝票の国内通貨建て金額
- 代替通貨建て支払および代替通貨建て支払の国内通貨建て金額

仮勘定は、支払の実行元の銀行勘定科目と同じ会社である必要があります。これにはビジネスユニットが含まれる必要があり、通貨(通貨固有の)勘定科目にはできません。代替通貨の仮勘定は、国内通貨建て金額は貸借が一致しますが、外貨建て金額は貸借が一致しません。これは、外貨建て金額には、貸借が一致しない異なる通貨が含まれるためです。

AAI項目P7の検索順序は、次のとおりです。

1. 支払に入力された会社に関連付けられたP7が使用されます。
2. 会社00000のP7が使用されます。

次のT勘定は、外貨建て伝票(CAD)、伝票の国内通貨建て金額(USD)および代替通貨建て支払(EUR)の仕訳を示しています。

取引		現金		仮	
501.10 USD		501.10 USD	501.10 USD		
800.00 CAD		575.51 EUR	575.51 EUR		
				501.10 USD	
				800.00 CAD	

代替通貨建て支払のあるT勘定








## 支払変換コードの設定

UDCテーブル98/CTには、複数の通貨で支払を書き込むための支払変換コードが用意されています。ハードコード化された支払変換コードを使用して、支払の書込み時に適切な言語および小数点以下桁数を使用して数字が文字に変換されます。

支払変換コードの例として次のフォームを参照してください。





**ユーザー定義コードの処理**


選択(S) 検索(I) 追加(A) 削除(D) 開じる(L) ロー(R) フォーム(F) レポート(P) ツール(T)

✓  +      

システム・コード  テクニカル・ツール

コード・タイプ  小切手金額文字変換

レコード 1 - 10   [グリッドのカスタマイズ](#)  

<input type="checkbox"/>		コード	記述 01	特殊取扱 コード	ハード コード
<input type="checkbox"/>		X00500	US Dollar Translation		N
<input type="checkbox"/>		X00500BR	Brazil		N
<input type="checkbox"/>		X00500CH	Chinese		N
<input type="checkbox"/>		X00500D	German		N
<input type="checkbox"/>		X00500ED	Euro/German		N
<input type="checkbox"/>		X00500EF	Euro/Franc		N
<input type="checkbox"/>		X00500EI	Euro/Italian		N
<input type="checkbox"/>		X00500FR	French Franc Translation		N
<input type="checkbox"/>		X00500I	Italian		N
<input type="checkbox"/>		X00500S1	Spanish 1 Female 2 Decimal		N

「ユーザー定義コードの処理」フォーム

## (MEX) 支払変換コードの設定

この項では、通貨記述の印刷方法の概要と、数値から文字への変換 - スペイン語 (P00500S2) の処理オプションの設定方法について説明します。

### 通貨記述の印刷方法について

金額の後の通貨の記述または名前を印刷するためにX00500S2 - スペイン語 (男性名詞) 翻訳プログラムを設定できます。たとえば、翻訳プログラムを設定することにより、金額の後にペソという文字を印刷できます。

通貨記述を印刷するためにこの翻訳プログラムを設定するには、数値から文字への変換 - スペイン語 (P00500S2) で処理オプションを設定します。通貨記述を印刷するには、処理オプションで通貨記述の単数形バージョンと複数形バージョンの両方を指定する必要があります。この処理オプションを空白にすると、金額の後に通貨名は印刷されません。

また、これらの処理オプションを空白にすると、整数の金額 (ペソ) とセンターポの間に接続詞として「con」が印刷されます。処理オプションを指定すると、「con」という文字は省略されます。

使用している支払フォーマット・プログラム (R04572 など) の処理オプションで翻訳プログラムとしてX00500S2を指定します。

参照: 第 18 章、「外貨および代替通貨の支払入力」、181 ページ

## 数値から文字への変換 – スペイン語 (P00500S2) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 印刷

1. 通貨記述(単数形)、2. 通貨記述の単数形および複数形を指定します。  
通貨記述(複数形)



## 第 11 章

# 外貨建て仕訳の入力および処理

この章では、外貨建ての仕訳、会社間仕訳およびバッチ仕訳の概要と、次の方法について説明します。

- 外貨建て仕訳の入力
- 外貨建て仕訳の転記

---

## 外貨建て仕訳について

多通貨仕訳は、会社に関連付けられた基本通貨とは異なる通貨で入力された外貨建て取引です。外貨建て仕訳を入力すると、国内通貨建て金額が計算されます。入力時に「仕訳入力」フォームで為替レートを一時変更しないかぎり、レートはF0015テーブルから取得されます。

仕訳を入力すると、次の金額がF0911テーブルに書き込まれます。

- 国内通貨建て金額がAA(実績金額)元帳の「金額」フィールド(GLAA)に書き込まれます。
- 外貨金額がAA元帳の「外貨金額」フィールド(GLACR)およびCA(外貨)元帳の「金額」フィールド(GLAA)に書き込まれます。どちらのフィールドにも同じ金額が保存されます。

詳細再換算を使用する場合、XA(代替)元帳でも取引が作成されます。この元帳タイプは、取引によって更新される元帳または元帳のセットを示します。

---

## 外貨建て会社間仕訳について

通常、会社間仕訳の基本通貨は、伝票の最初の行にある総勘定元帳の勘定科目に関連付けられた会社の通貨によって決定されます。仕訳の取引が会社の通貨と比較され、仕訳が国内通貨と外貨のどちらであるかが決定されます。仕訳とは異なり、売掛金取引および買掛金取引の基本通貨は、取引の見出し部分に入力された会社によって決定されます。

会社間仕訳の場合、金額は国内通貨でも外貨でも入力できます。国内通貨建て金額を入力すると、会社の基本通貨の小数点以下桁数で金額が作成されます。外貨を入力すると、取引通貨の小数点以下桁数で金額が作成されます。各通貨の表示小数点以下桁数は、通貨コード・テーブル(F0013)に保存されます。複数の通貨で会社間仕訳を入力すると、F0911テーブルのGLALT1フィールドが「1」で更新されます。

会社間仕訳を転記すると、非基本通貨勘定科目の国内通貨建て金額(AA元帳)の貸借を一致させるために、F0911テーブルに調整仕訳が作成されます。非基本通貨勘定科目は、仕訳の第2行以降にある勘定科目です。通常、基本通貨勘定科目は最初の行にある勘定科目です。調整仕訳は、次の点を除き、当初のAA元帳レコードと同じです。

- 金額は調整借方または貸方です。

- これを固有のレコードとするために「行拡張コード」フィールド(GLEXTL)がAMを使用して更新されます。更新されない場合、キーの重複問題が生じます。このAMレコードは、総勘定元帳転記レポートおよびF0911のユニバーサル・テーブル・ブラウザ(UTB)にのみ表示されます。

当初の仕訳とその関連調整仕訳により、非基本通貨勘定科目の実際の基本通貨が正しい金額になります。

## 複数通貨の会社間仕訳の改訂

複数通貨の会社の会社間仕訳のバッチを転記した後、転記した仕訳は改訂できませんが、バッチに仕訳を追加することはできます。

複数通貨が含まれる会社間仕訳のバッチを最初に入力する場合、伝票の最初の行にある総勘定元帳の勘定科目に関連付けられた会社の通貨を使用して伝票の基本通貨が決定されます。基本通貨はF0911テーブルに保存されます。転記したバッチに仕訳を追加すると、F0911テーブルに保存されている伝票の基本通貨と、追加した仕訳の通貨が比較され、仕訳が複数通貨の会社の会社間仕訳であるかどうか判別されます。

## 例：多通貨会社間決済

この例では、1,000.00 USDの仕訳を作成し、米国の会社(会社1)からフランスの会社(会社70)に振り込みます。為替レートは1 USD = 1.08596 EURです。

### 仕訳入力

会社1と会社70の両方についてUSDで取引金額を入力します。仕訳の通貨は仕訳の最初の行にある勘定科目の会社通貨と同じであるため、この取引は国内取引です。

AA(実績金額)元帳では、次のように仕訳が作成されます。

勘定科目	金額	元帳タイプ
1.1110.BEAR	-1,000.00	AA
70.1110.FRANCE	1,000.00	AA

この仕訳は基本通貨が異なる2つの会社間の会社間取引であると識別され、為替レート1が使用されます。為替レートが1である場合、外貨(CA)元帳タイプでも取引の仕訳が作成されます。

CA元帳では、会社70(フランスの会社)の値は取引の外貨金額(USD)です。会社1の値により、CA元帳の貸借が一致します。

CA元帳では、次のように仕訳が作成されます。

勘定科目	金額	元帳タイプ
1.1110.BEAR	-1,000.00	CA
70.1110.FRANCE	1,000.00	CA

### 調整仕訳および転記

仕訳を転記すると、非基本通貨のAA金額を修正するために、85.96 EURの調整仕訳が作成されます。調整仕訳の行拡張コードはAMです。このAMレコードは、総勘定元帳転記レポートおよびF0911のユニバーサル・テーブル・ブラウザ(UTB)にのみ表示されます。

勘定科目	金額	元帳タイプ
1.1110.BEAR	- 1,000.00 USD	AA
70.1110.FRANCE	1,000.00 EUR	AA
70.1110.FRANCE	85.96 EUR	AA
1.1110.BEAR	- 1,000.00 USD	CA
70.1110.FRANCE	1,000.00 USD	CA

85.96 EURの調整仕訳は、次の計算の正味金額です。

(取引の外貨金額 × 為替レート) - すでに転記された取引金額

$(1,000.00 \times 1.08596) - 1,000.00 = 85.96 \text{ EUR}$

EURの合計金額は、1,085.96  $(1,000.00 \times 1.08596)$ です。

「仕訳入力」フォームには、調整仕訳は表示されません。ただし、当初の仕訳と調整仕訳が追加され、合計が「取引明細の照会」フォームおよび印刷されるすべての仕訳と総勘定元帳レポートに表示されます。

### 会社間決済および転記

次の表に示すように、会社間決済を完了して会社1と会社70の貸借を一致させる最終仕訳が作成されます。

勘定科目	金額	元帳タイプ
1.1291	1,000.00 USD	AA
70.1291	- 1,085.96 EUR	AA
1.1291	1,000.00 EUR	CA
70.1291	- 1,000.00 USD	CA

### 多通貨会社間決済のT勘定

会社1の現金勘定を貸方に計上し、会社70の現金勘定を借方に計上する仕訳が作成されます。これらの仕訳は、実績金額(AA)元帳と外貨金額(CA)元帳の両方において米ドル(USD)で記録されます。

1.1110.BEAR		70.1110.FRANCE	
	1,000.00 AA	1,000.00 AA	
	1,000.00 CA	1,000.00 CA	

多通貨会社間仕訳のT勘定

仕訳を転記すると、会社70のUSD金額をEURに換算するために、AA元帳に調整仕訳が作成されます。為替レートは1 USD = 1.08596 EURです。会社70の借方にはすでに1,000.00が計上されているため、次のように、追加の85.96が借方に計上されます。

1.1110.BEAR		70.1110.FRANCE	
	1,000.00 AA	1,000.00 AA	
	1,000.00 CA	1,000.00 CA	
		<b>85.96 AA</b>	

多通貨会社間調整仕訳のT勘定

仕訳を転記すると、次のように、会社間で金額を振り込むために自動仕訳が作成されます（会社間売掛金勘定は1291です）。

1.1291		70.1291	
1,000.00 CA			1,085.96 AA
1,000.00 AA			1,000.00 CA

多通貨会社間自動仕訳のT勘定

---

## 外貨建てバッチ仕訳について

多通貨バッチ仕訳を正常に処理するには、仕訳のバッチ処理プログラム(R09110Z)に必要な仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)の情報のタイプについて理解する必要があります。通貨モード・フィールドと通貨金額フィールド間の関係および金額の計算方法は、入力する取引のタイプによって異なります。

仕訳のバッチ処理以外にも、オフライン処理やPC上の仕訳アップロード処理を使用して仕訳のバッチを処理できます。

参照: 付録 B、「多通貨バッチ仕訳処理のマッピング要件、」263ページ

必要なフィールドをF0911Z1テーブルにマッピングした後、仕訳のバッチ処理プログラムを実行して取引明細テーブルで仕訳を生成します。マッピングが正しいかぎり、この処理は外貨建て仕訳に影響されません。

---

## 外貨建て仕訳の入力

この項では、外貨建て仕訳の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 仕訳入力MBF(P0900049)の多通貨処理オプションの設定
- 外貨建て仕訳の入力

### 外貨建て仕訳について

外貨建て仕訳は、会社に関連付けられた基本通貨とは異なる通貨による取引です。外貨建て仕訳を入力すると、次の2つの通貨コード・フィールドが「仕訳入力」フォームに表示されます。

- 基本通貨

仕訳の最初の行にある勘定科目コードに関連付けられた会社の通貨が取引および伝票会社の基本(国内)通貨として割り当てられます。

- 通貨

「通貨」フィールドに特定の通貨コードを入力しないかぎり、仕訳の最初の行にある勘定科目コードを使用して取引通貨が決定されます。

- 勘定科目が非通貨勘定科目である場合、取引通貨は勘定科目に関連付けられた会社の通貨です。
- 勘定科目が通貨勘定科目である場合、取引通貨は勘定科目に割り当てられた通貨です。

これらの通貨フィールドに異なる通貨コードが含まれる場合、仕訳は外貨建て仕訳になります。

---

**注意:** 多通貨を使用している場合、8.11より前のリリースでは、F0911テーブルとF0902テーブルに国内通貨金額および外貨金額が作成されていました。両方のテーブルで、国内通貨金額はAA(実績金額)元帳レコードの金額フィールド、外貨金額はCA(外貨)元帳レコードの金額フィールドに保管されていました。

8.11リリースでは、国内通貨金額と外貨金額の両方がF0911テーブルの1つのレコードに保管されます。外貨金額は、F0911レコードの外貨金額フィールド、およびCA(外貨)元帳の金額フィールドに保管されます。この2つのフィールドにはどちらも同じ金額が入ります。

---

## 外貨建て仕訳の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕訳入力の処理	W0911I	「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)、「仕訳入力」	外貨建て仕訳を検討します。
仕訳入力	W0911A	「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)、「仕訳入力」 「仕訳入力の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	外貨建て仕訳を入力します。

## 仕訳入力MBF(P0900049)の多通貨処理オプションの設定

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

### 通貨

- 有効日付
 

為替レートの有効日付を仕訳の会計期間に対して検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 有効日付を検証しない。

1: 有効日付を検証する。取り込まれた為替レートの有効日付が、仕訳に入力した元帳日付と異なる期間にある場合、警告エラーが表示されます。

## 外貨建て仕訳の入力

「仕訳入力」フォームにアクセスします。

**仕訳入力 - 仕訳入力** i ?

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

---

バッチ番号: 5903
 ☐ モデル
☐ パーセント
☐ 逆仕訳

---

伝票タイプ/No./会社: JE 3771 00001
 元帳日付: 2005/06/30

摘要 \*: Record rent adjustment
 元帳タイプ: CA EUR

通貨: EUR 為替レート: 1.1820331
 基本通貨: USD ☒ 外貨

---

**レコード 1-3** グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	勘定科目 No. *	外貨金額	勘定科目名	補助元帳タイプ	補助元帳	補助元帳名
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1.1110.BEAR		Bear Creek National Bank			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3.8350		Rent Expense			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

差異

「仕訳入力」フォーム

外貨建て仕訳のみ表示するには、QBEローの「元帳タイプ」フィールドに「CA」と入力します。「元帳タイプ」フィールドには値「CA」は表示されませんが、外貨建て仕訳は選択されています。検討する仕訳を選択すると、外貨建て金額(CA元帳)が表示されます。国内通貨建て金額を検討するには、「外貨」チェックボックスの選択を解除します。

**通貨**

取引の通貨を入力するか、このフィールドをブランクにし、詳細グリッドに入力した最初の総勘定元帳の勘定科目の会社割り当てられた通貨に応じて自動的に更新されるようにします。

**基本通貨**

仕訳の最初の行にある勘定科目コードに関連付けられた会社の通貨が取引および伝票会社の基本(国内)通貨として割り当てられます。

**外貨**

取引の外貨建て金額を検討するには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを使用して、外貨と国内通貨を切り替えます。「元帳タイプ」フィールドには、状況に応じて「CA」および「AA」が表示されます。

**元帳タイプ**

このフィールドに「CA」と入力して外貨建て金額を入力するか、「外貨」チェックボックスを選択します。

**為替レート**

使用するスポット・レートを入力するか、このフィールドをブランクにして F0015 テーブルから為替レートが取り込まれるようにします。

## 仕訳に関連するタスク

タスク	説明
多通貨仕訳の検討	「仕訳入力」フォームの「外貨」チェックボックスの選択を解除することにより、外貨建て仕訳の国内通貨建て金額を検討できます。
通貨コードおよび為替レートの変更	<p>既存の仕訳の通貨コードまたは為替レートは変更できません。かわりに、次のいずれかを実行する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕訳を転記していない場合、「仕訳入力の処理」フォームでこれを削除し、正しい通貨コードおよび為替レートを使用して新しい仕訳を入力します。</li> <li>仕訳を転記した場合、これを無効にし、正しい通貨コードおよび為替レートを使用して新しい仕訳を入力します。</li> </ul>
外貨建て仕訳の無効化	外貨建て仕訳を無効にすると、元帳タイプAA(実績金額)およびCA(外貨建て金額)に逆仕訳が作成されます。
外貨建てモデル仕訳の入力	<p>外貨(CA)元帳タイプのモデル仕訳は入力できません。モデルには元帳日付が含まれないため、モデルのCA元帳仕訳は作成できません。為替レートを取得するには元帳日付が必要です。</p> <p>モデル仕訳は国内通貨でのみ入力できます。</p>
外貨建て税付き仕訳の入力	<p>外貨建て税付き仕訳を入力するには、税付き仕訳入力プログラム(P09106)を使用します。P09106プログラムの多通貨フィールドは、仕訳入力プログラム(P0911)のフィールドと同じです。</p> <p>参照: JD Edwards EnterpriseOne 税処理 9.0 製品ガイド、「オーダーおよび取引の税情報の入力および改訂」、「VATを含む仕訳の入力」</p>

## 外貨建て仕訳の転記

この項では、外貨建て仕訳の転記処理、およびF0902テーブルへの残高の保存方法の概要と、外貨建て仕訳の転記方法について説明します。

### 外貨建て仕訳の転記処理について

外貨建て仕訳を入力、検討および承認した後、これらを総勘定元帳に転記します。転記プログラムにより、F0911テーブルから未転記仕訳が選択され、F0902テーブルに転記され、転記コード「P」(転記済)でF0911テーブルの取引が更新されます。

JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理を使用するかどうかにかかわらず、転記プログラムにより、次の表に記載された順序でタスクが実行されます。多通貨環境での総勘定元帳取引の転記に固有の情報は、「多通貨処理に関する考慮事項」列を参照してください。

総勘定元帳の転記によって 実行されるタスク	多通貨処理に関する考慮事項
転記するデータを選択します。	CA(外貨)元帳の外貨建て金額を選択し、これらを転記します。
情報を検証し、エラー処理を実行します。	会社間仕訳がバッチに含まれるかどうかとは関係なく、多通貨処理用の会社間決済が正しく設定されているかどうかを検証します。  また、詳細再換算(使用されている場合)が正しく設定されているかどうかを検証します。
自動仕訳を作成します。	会社間決済に必要な自動相殺の取引を作成します。  会社間決済が必要な元帳を確認するために、元帳タイプ・マスター・ファイル・テーブル(F0025)が使用されます。
転記コードを更新します。	なし。
税テーブル(F0018)を更新します。	なし。
バッチ状況を更新します。	なし。
F0911テーブルのフィールドを更新します。	多通貨会社間の調整仕訳の場合、取引明細テーブル(F0911)のAMで「行拡張コード」フィールドが更新されます。
処理オプションに指定されたプログラムを実行します。	詳細再換算プログラム(R11411)の実行が指定されている場合、このプログラムを実行します。これにより、XA元帳、および必要に応じてYAおよびZA元帳が更新されます。  詳細再換算プログラムのバージョンは処理オプションで指定します。

## 転記レポート

転記プログラムにより、次のレポートが生成されます。

レポート	説明
転記詳細エラー・レポート	外貨建て取引の場合、このレポートには、貸借不一致のAA元帳とCA元帳の金額が一覧表示されます。AA金額は、仕訳の国内通貨建て金額を表します。CA金額は、仕訳の外貨建て金額を表します。AAおよびCA元帳は両方とも貸借が一致している必要があります。
総勘定元帳転記レポート	外貨建て取引の場合、このレポートには、CA元帳と換算済AA元帳の金額の両方が一覧表示されます。また、CA元帳金額の通貨コードと、AA元帳金額の会社の国内通貨も一覧表示されます。  詳細再換算を使用する場合、別の総勘定元帳転記レポートが作成されます。

## F0902テーブルへの残高の保存方法について

各金額は、次のような状況に応じて、F0902テーブルへの保存方法が異なります。

- ・ 残高を通貨別に転記するか集計残高を転記するか
- ・ 転記先の勘定科目が通貨勘定(通貨固有)と非通貨勘定のどちらであるか

次の例は、これらの違いを示しています。この例では、会社100の基本通貨は米ドル(USD)です。

### 例: 通貨別残高

次の表は、勘定残高が通貨コード別にどのように更新されるかを示しています。

勘定科目	会社	元帳タイプ	金額	取引通貨(CRCD)	会社(指定)通貨(CRCX)
1.1210	100	AA	4,502.00	EUR	USD
1.1210	100	CA	5,000.00	EUR	EUR
1.1210	100	AA	1,917.00	CAD	USD
1.1210	100	CA	3,000.00	CAD	CAD
1.1210	100	AA	3,500.00	USD	USD
1.1210	100	CA			

AAレコードが基本(会社)通貨である場合、対応するCAレコードは存在しません。

### 例: 集計残高

次の表は、F0902テーブルに集計残高がどのように保存されるかを示しています。

勘定科目	会社	元帳タイプ	金額	取引通貨(CRCD)	会社(指定)通貨(CRCX)
1.1210	100	AA	6,419.00	blank	USD
1.1210	100	CA	8,000.00	blank	USD

### 例: 通貨勘定科目

次の表は、通貨勘定科目についてF0902テーブルの残高がどのように更新されるかを示しています。

勘定科目	会社	元帳タイプ	金額	取引通貨(CRCD)	会社(指定)通貨(CRCX)
1.1110	100	AA	4,502.00	EUR	USD
1.1110	100	CA	5,000.00	EUR	EUR

### 例: 非通貨勘定科目

次の表は、非通貨勘定科目についてF0902テーブルの残高がどのように更新されるかを示しています。

勘定科目	会社	元帳タイプ	金額	取引通貨(CRCD)	会社(指定)通貨(CRCX)
1.1210	100	AA	4,502.00	blank	USD
1.1210	100	CA	5,000.00	blank	USD

## 外貨建て仕訳の転記

「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)の「総勘定元帳への転記」を選択します。



## 第 12 章

# 一般会計の多通貨照会の使用

この章では、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計の多通貨照会の概要と、国内通貨、外貨および仮定通貨の勘定科目の検討方法について説明します。

---

## 一般会計の多通貨照会について

ほとんどの JD Edwards EnterpriseOne の照会には、複数通貨で取引を処理する会社用として国内通貨および外貨建て金額が含まれます。JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムで選択する照会に応じて、F0911 テーブルの取引明細または F0902 テーブルの転記残高が表示されます。

外貨建て取引の場合、照会フォームには、AA (国内通貨) 金額と CA (外貨) 金額の両方が表示されます。複数の通貨を表示する場合、CA 金額の総合計はハッシュ合計であり、通貨が混在しているために無意味なものになります。

一部の照会では、当初入力された通貨とは異なる通貨で入力されたかのように取引金額を表示できます。

### 仮定通貨処理

次の総勘定元帳照会プログラムには、仮定通貨処理を使用して総勘定元帳の勘定科目を検討できる処理オプションがあります。

- 取引明細の照会 (P09200)
- 勘定科目の照会 (主科目別) (P09201)
- 勘定科目の照会 (カテゴリ・コード別) (P09202)

国内通貨元帳 (AA) または他の元帳に関連付けられた仮定通貨建て金額を検討できます。ただし、外貨元帳 (CA) の金額を検討する場合、通貨を指定しないかぎり金額は無意味なものになる点に注意してください。これは、CA 元帳には複数の通貨が含まれ、仮定処理は一度に 1 つの通貨のみを換算するように設計されているためです。

仮定通貨処理の利点の 1 つは、ディスク・スペースに影響しないことです。検討または印刷する金額は、テーブルに書き込まれるかわりに、一時メモリーに保存されます。

---

**注意:** 仮定通貨での取引の検討は、残高通貨再換算によって作成された取引の検討とは異なります。仮定通貨処理は、残高通貨再換算用として設計されたものではありません。

---

---

## 国内通貨、外貨および仮定通貨建て金額の検討

この項では、国内通貨、外貨および仮定通貨の勘定科目の検討の概要、および次の方法について説明します。

- 国内通貨および外貨の勘定科目の検討

- 国内通貨および仮定通貨建て金額のある勘定科目の検討
- 仮定通貨の国内通貨建て金額のある勘定科目の検討
- 仮定通貨の外貨建て金額のある勘定科目の検討
- 通貨別勘定残高の検討

## 国内通貨、外貨および仮定通貨建て金額の検討方法について

総勘定元帳の勘定科目の金額は、国内通貨と外貨の両方のみでなく、金額が実際に入力された通貨以外の通貨で検討できます。たとえば、日本円の金額を米ドルで入力されたものとして検討したり、ユーロの金額をカナダ・ドルで入力されたものとして検討できます。

これらの総勘定元帳照会プログラムを使用して、国内通貨、外貨および仮定通貨建て金額を検討します。

- 取引明細の照会 (P09200)
- 勘定科目の照会 (主科目別) (P09201)
- 勘定科目の照会 (カテゴリ・コード別) (P09202)

取引明細の照会、勘定科目の照会 (主科目別) および勘定科目の照会 (カテゴリ・コード別) プログラムを使用して、国内通貨 (AA) および外貨 (CA) 元帳などの2つの元帳でF0911テーブルの金額を同時に検討できます。詳細再換算の処理を使用する場合、AA元帳とともにレポート用として使用される代替通貨元帳 (XA) を検討できます。

これらのプログラムの処理オプションの設定方法に応じて、次のいずれかのフォーマットで金額を検討できます。

フォーマット	説明
1元帳フォーマット	<p>1つの元帳の金額のみを表示します。このフォーマットを使用して、次を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 国内通貨または外貨建て金額のみ。</li> <li>• 国内通貨または外貨の仮定通貨建て金額。国内通貨または外貨建て金額および仮定通貨建て金額間の切替えとして機能するメニュー・オプションを選択します。</li> </ul>
2元帳フォーマット	<p>2つの元帳の金額を表示します。このフォーマットを使用して、次を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 国内通貨建て金額と外貨建て金額を同時に表示します。</li> <li>• 国内通貨建て金額と仮定通貨建て金額を同時に表示します。元帳タイプ1に関連付けられた仮定通貨建て金額のみを表示できます。</li> </ul>

## 国内通貨、外貨および仮定通貨の勘定科目の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
取引明細の処理	W09200A	<p>「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)、「取引明細の照会」</p> <p>「フォーム」メニューの「仮定通貨」または「通貨残高」を選択します。</p> <p>仮定通貨建て金額を印刷するには、金額を「取引明細の処理」フォームで表示する必要があります。「レポート」メニューの「元帳印刷」を選択します。</p>	<p>国内通貨および外貨の勘定科目を検討します。</p> <p>国内通貨および仮定通貨建て金額のある勘定科目を検討するか、通貨別に勘定残高を検討します。</p>
試算表/元帳比較	W09210AA	<p>「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「試算表と元帳の比較」</p>	<p>通貨別に勘定残高を転記する場合、フォーム上のビジネスユニットに関連付けられた会社固有の勘定残高を検討できます。</p>

### 国内通貨および外貨の勘定科目の検討

「取引明細の処理」フォームにアクセスします。

**元帳タイプ1、元帳タイプ2** これらのフィールドに「AA」と「CA」をそれぞれ入力します。

フォームの詳細グリッドの「元帳タイプ1金額」カラムに国内通貨建て金額が表示されます。「元帳タイプ2金額」カラムに外貨建て金額が表示されます。

**通貨コード**

特定の外貨のカラムおよび元帳の合計金額を表示するには、このフィールドに通貨コードを入力します。

「通貨コード」フィールドが「\*」(すべての通貨)である場合、「元帳タイプ2金額」カラムの最後に表示されるカラムおよび元帳の合計金額には複数の通貨が含まれるため、これらはハッシュ合計です。

### 国内通貨および仮定通貨建て金額のある勘定科目の検討

「取引明細の処理」フォームにアクセスします。

国内通貨建て金額と仮定通貨建て金額を同時に検討するには、2つの元帳を表示する処理オプションを設定します。

**元帳タイプ1、元帳タイプ2** これら両方のフィールドに「AA」と入力します。

**仮定**

このフィールドを表示するには、「フォーム」メニューの「仮定通貨」を選択します。このフィールドのデフォルト値は処理オプションに設定されます。

仮定通貨建て金額が「元帳タイプ1金額」カラムに表示され、国内通貨建て金額が「元帳タイプ2金額」カラムに表示されます。

## 假定通貨の国内通貨建て金額のある勘定科目の検討

「取引明細の処理」フォームにアクセスします。

假定通貨の国内通貨建て金額を検討するには、1つの元帳を表示する処理オプションを設定します。

**元帳タイプ1**                      このフィールドには「AA」と入力します。

**假定**                                「フォーム」メニューの「假定通貨」を選択します。

このメニュー・オプションは、国内通貨建て金額と假定通貨建て金額間の切替えとして機能します。フォームの右上に「假定」フィールドが表示されている場合、金額は假定通貨で表示されています。このフィールドが表示されない場合、金額は国内通貨で表示されています。

## 假定通貨の外貨建て金額のある勘定科目の検討

「取引明細の処理」フォームにアクセスします。

假定通貨の外貨建て金額を検討するには、1つの元帳を表示する処理オプションを設定します。

**元帳タイプ1**                      このフィールドには「CA」と入力します。

**通貨コード**                      通貨コードを入力します。

通貨コードを入力しない場合、CA元帳には複数の通貨が含まれるため、表示される金額は無意味なものになります。假定通貨処理は、一度に1つの通貨のみを換算するよう設計されています。

**假定**                                「フォーム」メニューの「假定通貨」を選択します。

このメニュー・オプションは、国内通貨建て金額と假定通貨建て金額間の切替えとして機能します。フォームの右上に「假定」フィールドが表示されている場合、金額は假定通貨で表示されています。このフィールドが表示されない場合、金額は国内通貨で表示されています。

## 通貨別勘定残高の検討

「試算表/元帳比較」フォームにアクセスします。

取引を通貨別にF0902テーブルに転記する場合、「通貨別勘定残高」フォームでAAおよびCA元帳の通貨固有の勘定残高を検討できます。2つの元帳を表示する処理オプションでキットを設定します。

**元帳タイプ1、元帳タイプ2**    これらのフィールドに「AA」と「CA」をそれぞれ入力します。

**通貨コード**                      このフィールドには、CA元帳金額を検討する特定の通貨を入力します。

## 第 13 章

# 外貨建て請求書の入力および処理

この章では、外貨建て請求書の概要と、次の方法について説明します。

- 外貨建て請求書の入力
- 外貨および仮定通貨建て請求書の検討
- 外貨建て請求書の転記

---

## 外貨建て請求書について

この項では、次の項目について概要を説明します。

- 国内通貨建て請求書と外貨建て請求書
- 丸めとソフト丸め
- 税抜き外貨建て請求書に対する国内通貨建て金額の計算方法
- 税付き外貨建て請求書に対する国内通貨建て金額の計算方法
- 多通貨バッチ合計
- 外貨建てバッチ請求書の処理方法

## 国内通貨建て請求書と外貨建て請求書について

会社の基本通貨と請求書の取引通貨との関係により、請求書が国内通貨建て取引と外貨建て取引のどちらであるかが決定されます。

請求書を入力する場合、会社の通貨によって基本(国内)通貨が決まるのに対し、請求書を発行する通貨によって取引通貨が決定されます。

### 国内通貨建て請求書

請求書に割り当てる取引通貨が、請求書レコードに入力する会社の基本通貨と同じである場合、請求書は国内通貨建て取引です。国内通貨建て請求書を入力する場合、取引には外貨建て金額が含まれないため、外貨建て金額フィールドは更新または表示されません。

たとえば、会社の基本通貨が米ドル(USD)であるとします。この会社の請求書を入力し、取引通貨としてUSDを割り当てます。会社の基本通貨が請求書の取引通貨と同じであるため、請求書は国内通貨建てになります。

## 外貨建て請求書

請求書に割り当てる取引通貨が、請求書レコードに入力する会社の基本通貨とは異なる場合、請求書は外貨建て取引です。請求書には、(取引の通貨に基づく)外貨建て金額と(会社の基本通貨に基づく)と国内通貨建て金額があります。取引の国内通貨建て金額は、F0015テーブルの為替レートか、請求書レコードに入力する為替レートを使用して計算されます。

たとえば、会社の基本通貨がUSDであるとします。この会社の請求書を入力し、取引通貨として日本円(JPY)を割り当てます。会社の基本通貨が請求書の取引通貨とは異なるため、請求書は外貨建てになります。

## 丸めとソフト丸めについて

割引、税金またはその両方を含む請求書を大量に処理すると、丸めによる差異が急激に増大する場合があります。丸めは、計算が行われるあらゆる取引で実行されます。支払項目が1つの取引では丸めが使用され、支払項目が複数の取引ではソフト丸めが使用されます。

### 丸め

計算の結果、最小通貨単位(米ドルの場合は1セント)と正確に一致しないと、自動的に丸めが行われます。この場合は、次の処理が実行されます。

- 最下位の数値が5以上であれば、切り上げられます。
- 最下位の数値が5未満であれば、切り下げられます。

たとえば、計算結果が0.55672であり、通貨がカナダ・ドル(CAD)の場合、小数点以下桁数は2桁であるため、小数点以下第3位の値を使用して丸め方が決まります。この例では、値が0.56に切り上げられます。一方、値が0.55472の場合は、4を使用して0.55に切り下げられます。小数点以下桁数が2桁の通貨の場合、小数点以下第3位より後の数値はすべて無視されます。

### ソフト丸め

複数の金額の合計を特定の値に等しくする必要がある場合、ソフト丸めを使用して、合計金額になるよう強制的に処理されます。たとえば、100 CADの請求書を3回の支払に分割した場合、3つの支払項目の合計を100にするため、最初の支払項目は33、2番目の支払項目は34、3番目の支払項目は33と計算されます。ソフト丸めが使用されなければ、支払項目に等しく分割できる金額を入力するか、または合計請求金額と等しくない支払項目を送信することが必要となりますが、そのような操作が許容されるとはいえません。

丸めによる悪影響を最小限に抑えるために、支払項目が複数ある請求書にはソフト丸めが使用されます。計算済金額に加算または減算された金額(丸めの結果として)はキャッシュ(メモリー)に保存され、その金額が次の支払項目に加算または減算されます。

- 支払項目の金額が切り上げられた場合は、次の支払項目からその金額が減算されてから支払項目に丸めが行われます。
- 支払項目の金額が切り下げられた場合は、次の支払項目にその金額が加算されてから支払項目に丸めが行われます。

ソフト丸めが行われないと、顧客に対する過剰請求または請求不足が生じる可能性があります。ソフト丸めによって請求書間の過剰請求または請求不足が制御されるわけではありませんが、1つの取引内での丸めによる影響は最小限に抑えられます。ソフト丸めの金額は、請求書間で繰り越されません。

## 税抜き外貨建て請求書に対する国内通貨建て金額の計算方法について

税抜き外貨建て請求書を入力すると、外貨建て総額と為替レートを単純に乗算して国内通貨建て総額が計算されます。請求書の支払条件により、入力した金額が複数の支払項目に分割される場合には、外貨と国内通貨の両方の総額に対してソフト丸めが実行されます。これにより、外貨の支払項目の合計は、入力した当初の外貨建て金額と等しくなり、国内通貨の支払項目の合計は、入力した当初の外貨建て金額に為替レートを掛けたものと等しくなります。

次の例は、複数の支払項目に分割された外貨建て請求書と、複数の支払項目とともに入力された外貨建て請求書間の差異を示しています。これらの例では、次の情報が適用されます。

- ・ 米国の会社に対して請求書はCADで入力されます。
- ・ 入力する外貨建て金額は100.00 CADです。
- ・ 金額は乗数換算方法を使用して計算されます。
- ・ 為替レートは1.4 (CADからUSD) です。
- ・ 計算される国内通貨建て金額は140.00 (100.00 × 1.4) に相当します。

### 例: 複数の支払項目に分割された外貨建て請求書

この例では、請求書に分割条件を割り当てます。次の表に示すように、合計金額は3つの支払項目に分割され、1%の割引が計算されます。

支払項目	外貨建て総額	外貨割引	国内通貨建て総額	国内通貨割引
001	33.33	0.33	46.67	0.47
002	33.34	0.34	46.66	0.46
003	33.33	0.33	46.67	0.47
合計	100.00	1.00	140.00	1.40

分割支払条件を使用して外貨建て請求書を入力すると、分割を実行する前に、外貨建て総額を使用して国内通貨総額が計算されます。実際には、外貨建て金額用の分割と国内通貨金額用の分割という2セットの分割が実行されます。

この例では、140.00 USDが3で除算されます(46.666666)。ソフト丸めが実行されるため、国内通貨の支払項目は、上の表のように計算されます。支払項目001の外貨建て総額(33.33)に為替レート(1.4)を掛けた金額は46.66であり、国内通貨総額(46.67)と等しくなりません。ソフト丸めにより、分割金額の合計(46.67 + 46.66 + 46.67)が当初の金額(140.00)と等しくなります。

### 例: 複数の支払項目を使用して入力された外貨建て請求書(分割支払条件なし)

この例では、合計金額が複数の支払項目に自動的に分割されるのではなく、ユーザーが複数の支払項目を個別に入力します。

支払項目を入力する場合、各支払項目の国内通貨建て金額は異なります。これは、入力する金額に、支払項目の入力の承認時の為替レートが乗算されるためです。

支払項目	外貨建て総額	外貨割引	国内通貨建て総額	国内通貨割引
001	33.33	0.33	46.66	0.46

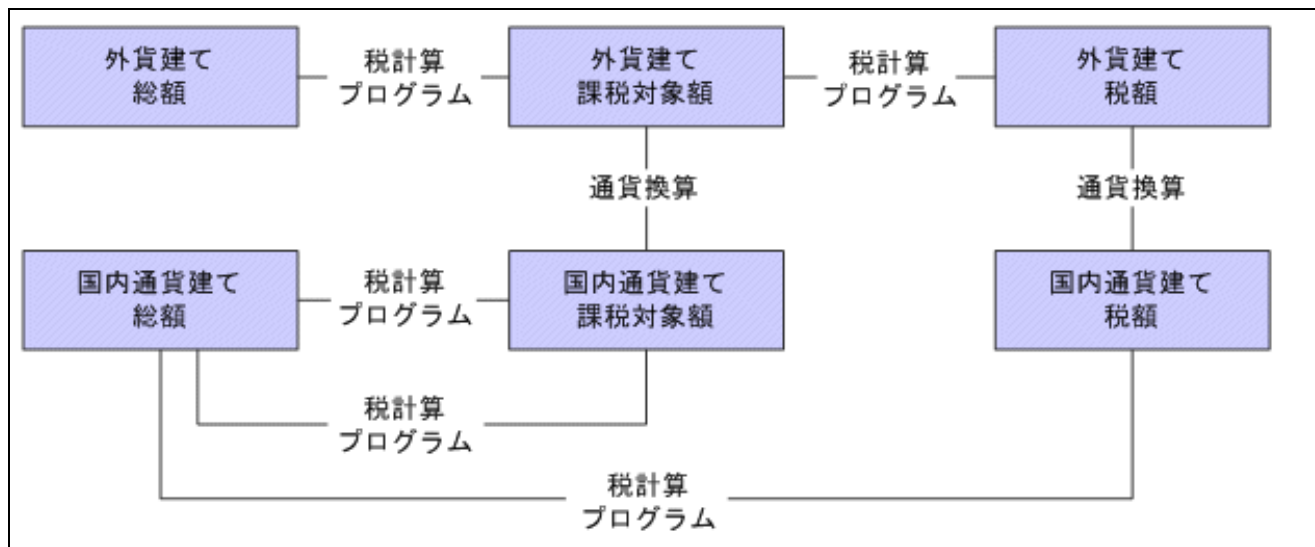
支払項目	外貨建て総額	外貨割引	国内通貨建て総額	国内通貨割引
002	33.34	0.34	46.68	0.48
003	33.33	0.33	46.66	0.46
合計	100.00	1.00	140.00	1.40

各支払項目でソフト丸めが実行され、国内通貨建て金額の総合計は140.00 USDになっていますが、為替レートが合計支払金額にではなく各支払項目に適用されているため、各支払項目の金額は異なります。

## 税付き外貨建て請求書に対する国内通貨建て金額の計算方法について

税付き外貨建て請求書を入力すると、取引の外貨建て金額の税金および割引額が計算されます。これらの税額と割引額を使用して、取り込まれた為替レートによって取引の国内通貨側の税額と割引額が計算されます。請求書に複数の支払項目が含まれる場合、取引の外貨建て金額と国内通貨建て金額が計算された後、ソフト丸めが実行されます。

次の図は、外貨で入力された取引の外貨建ての税額および総額を計算する方法を示しています。



税付き外貨建て取引

税額および総額を算出するために、次の計算が実行されます。

- 外貨建て課税対象額に税率を掛けて、外貨建て税額を算出します。
- 外貨建て課税対象額と税額を加算し、外貨建て総額を決定します。
- 外貨建て課税対象額と税額に(通貨コードおよび為替レート日付によって決定される)為替レートを乗算し、国内通貨建て課税対象額と税額を決定します。
- 国内通貨建て課税対象額と税額を加算し、国内通貨建て総額を決定します。

**注意:** 国内通貨建ての総額は、外貨建て総額に為替レートを掛けて決定されるわけではありません。

### 例: 税付き外貨建て請求書

この例の詳細は次のとおりです。

- 米国の会社に対して請求書はユーロ (EUR) で入力されます。
- 金額は除数換算方法を使用して計算されます。
- EURからUSDへの為替レートは0.8900757です。
- 税率は5%です。
- 税タイプは売上税です。

取引	総額	課税対象額	税額
外貨	1,527.75	1,455.00	72.75
国内通貨	1,716.42	1,634.69	81.73

システムによって次の処理が行われます。

- 総額が計算されます。  
 $1,455.00 \text{ (課税対象)} + 72.75 \text{ (税)} = 1,527.75$
- 国内通貨建ての課税対象額が計算されます。  
 $1,455.00 \div 0.890075 = 1,634.6924 \text{ (これを1,634.69に四捨五入)}$
- 国内通貨建ての税額が計算されます。  
 $72.75 \div 0.8900757 = 81.73462 \text{ (これを81.73に四捨五入)}$
- 国内通貨建ての総額が計算されます。  
 $1,634.69 \text{ (課税対象)} + 81.73 \text{ (税)} = 1,716.42$

**注意:** 外貨建て総額(1,527.75)を為替レート(0.8900757)で除算して国内通貨建て金額が算出されると、結果は1,716.42ではなく1,716.43になります。また、国内通貨課税対象額と税額(それぞれ1,634.69と81.73)は国内通貨の総額とは等しくなりません。

## 多通貨バッチ合計について

データ入力に柔軟性があるため、同じバッチに異なる通貨で取引を入力できます。バッチ制御を必須として売掛管理固定情報を設定すると、バッチ合計を取り込むために仕訳の借方金額が追加されます。バッチ金額は通貨に依存しません。

同じバッチに異なる通貨で請求書を入力する場合、異なる通貨の小数点以下桁数は調整されません。この結果、バッチ合計は意味をなさなくなります。このため、多くのユーザーは、通貨が異なる取引をそれぞれ別のバッチに入力する方法を選択します。

小数点以下桁数が異なる通貨を含むバッチの予想合計を算出するには、小数点を使用せずに金額を加算し、その金額を「バッチ制御」フォームの「予想合計」フィールドに入力します。

たとえば、10,535.00 EURの取引と16,433,500 JPYの取引を同じバッチに入力します。この場合、ユーロ金額の小数点は無視され、ハッシュ合計が計算されます。「バッチ制御」フォームの「実際の入力合計」フィールドに表示される、入力した合計金額は17,487,000 (1053500 + 16433500) です。

「バッチ制御」フォームの「実際の入力合計」フィールドには、データ辞書項目AICU(入力合計)に基づいて小数が表示されます。この例の金額を使用して、項目AICUの「小数点以下桁数」フィールドを「0」に設定すると、17,487,000が表示されます。このフィールドを「2」に設定すると、174,870.00が表示されます。

## 外貨建てバッチ請求書の処理方法について

外部ソースからバッチ請求書入力を正常にアップロードし、これらをJD Edwards EnterpriseOneシステムで処理するには、適切なデータを次のテーブルの各フィールドに提供するカスタム・プログラムを最初に作成する必要があります。

- バッチ請求書 (F03B11Z1)
- 仕訳アップロード (F0911Z1)

アップロードする外貨建てバッチ請求書を正常に処理するには、F03B11Z1テーブルの「通貨モード」、「外貨金額」および「為替レート」の各フィールド間の関係を理解する必要があります。これらのフィールドは、バッチ請求処理プログラム (R03B11Z1A) で必要であり、金額の計算に使用されます。また、多通貨バッチ処理の場合、F03B11Z1およびF0911Z1テーブルの追加フィールドも必要です。

参照: 付録 C、「多通貨バッチ請求書処理のマッピング要件」267ページ

必要なフィールドをF03B11Z1およびF0911Z1テーブルにマッピングした後、バッチ請求書の処理プログラムを実行してF03B11で請求書を生成します。マッピングが正しいかぎり、この処理は外貨建て請求書に影響されません。

---

## 外貨建て請求書の入力

この項では、外貨建て請求書入力の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 標準請求書入力 (P03B11) の多通貨処理オプションの設定
- 請求書入力MBF (P03B0011) の多通貨処理オプションの設定
- 外貨建て請求書の入力

## 外貨建て請求書の入力について

標準請求書入力プログラム (P03B11) を使用して、外貨建て請求書を入力します。請求書の入力時に通貨コードを割り当てることも、デフォルトの通貨コードを顧客レコードから自動的に割り当てることもできます。

請求書を入力すると、外貨建て総額に為替レートを乗算して国内通貨建て総額が決定されます。デフォルトの為替レートは、F0015テーブルから取り込まれます。このレートは、請求書の入力時に一時変更できます。

外貨建て請求書の場合、売掛金勘定の会社の通貨は請求書の基本 (国内) 通貨と同じである必要があります。たとえば、米国の会社がカナダ・ドルで外貨建て請求書を入力するとします。請求書の国内通貨はUSDであるため、売掛金勘定の会社の通貨もUSDである必要があります。AAI項目RCに割り当てられたこの勘定の会社の通貨が請求書の国内通貨とは異なる場合、「取引勘定科目の通貨が正しくありません」というエラー・メッセージが表示され、請求書の入力を続行できなくなります。

**注意:** スピード請求書入力プログラム (P03B11SI) を使用すると、外貨建て請求書を入力できます。ただし、標準請求書入力プログラムとは異なり、スピード請求書入力プログラムを使用して外貨建て請求書の国内通貨建て金額を入力することはできません。これは、スピード請求書入力プログラムでは、請求書の国内通貨建て金額を入力していることを示す「外貨」チェックボックスの選択を解除できないためです。

---

## 外貨建て請求書の改訂

スピード・リリース・プログラム (P03114) または標準請求書入力プログラムを使用して、未転記の外貨建て請求書を改訂できます。標準請求書入力プログラムを使用して外貨建て請求書を改訂すると、金額フィールドを改訂するかどうかに関係なく、請求書の為替レートに基づいて国内通貨建て金額が再計算されます。

未転記の外貨建て請求書は削除できます。外貨建て請求書を削除すると、外貨建て金額と国内通貨金額の両方が同時に削除されます。

未転記の外貨建て請求書は無効にできます。外貨建て請求書が無効にすると、外貨建て金額と国内通貨建て金額の両方がゼロに設定されます。

## 外貨コードの変更

請求書が転記されているかどうかに関係なく、外貨建て請求書を入力した後は通貨コードを変更できません。

通貨を変更するには、正しい通貨コードを使用して新しい請求書を入力し、正しくない請求書を削除するか (転記されていない場合)、無効にします (転記されている場合)。

## 外貨建て定期請求書

外貨建て定期請求書を再作成する場合、定期請求書の再作成プログラム (R03B8101) では当初の請求書の為替レートを使用して新しい定期請求書が作成される点に注意してください。F0015 テーブルの為替レートは使用されません。

為替レートの変動によっては、定期請求書の外貨建て金額が不正確になり、損益が正しくなくなる可能性があります。

## 請求書入力時に更新されるAIDフィールド

外貨建て請求書を入力すると、AAI項目RCが検索され、RCに割り当てられた勘定科目に対応する略式IDが検索されます。次に、F03B11の請求書レコードのAIDフィールドの略式IDが更新されます。後で入金を入力するときに、F03B11レコードのAIDフィールドの略式IDを使用してF03B14のAIDフィールドが更新されます。

## 事前設定

国内通貨および外貨フィールドが表示されるよう標準請求書入力プログラムの処理オプションが設定されていることを確認してください。

## 外貨建て請求書の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
請求書の入力	W03B11A	「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「請求書入力」  「売掛金元帳照会の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	外貨建て請求書を入力します。
勘定科目情報	W03B11C	「請求書の入力」フォームで「OK」をクリックします。	請求書金額を配賦する総勘定元帳の勘定科目を追加します。

## 標準請求書入力プログラム(P03B11)の多通貨処理オプションの設定

対話型バージョン・プログラム(P983051)から標準請求書入力プログラムの処理オプションにアクセスします。「対話型プログラムID」フィールドに「P03B11」と入力します。

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

### 表示オプション

**3. 国内通貨と外貨フィールド** 「請求書の入力」フォームの詳細グリッドに国内通貨と外貨両方の金額フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 国内通貨と外貨フィールドを表示しない。

1: 国内通貨と外貨フィールドを表示する。次の追加フィールドが表示されます。

「総額(国内)」、「割引可能額(国内)」、「課税対象額(国内)」および「税額(国内)」

「総額(外貨)」、「割引可能額(外貨)」、「課税対象額(外貨)」および「税額(外貨)」

## 請求書入力MBF(P03B0011)の多通貨処理オプションの設定

対話型バージョン・プログラム(P983051)から請求書入力MBF処理オプションにアクセスします。「対話型プログラムID」フィールドに「P03B0011」と入力します。

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

### 税金

**1. 外貨建て取引における税** 外貨建て請求書に付加価値税(「税目コード」フィールドは「V」)を入力できるようにするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 入力を不可にする。

1: 入力を可にする。

### 通貨オプション

**1. 為替レート日付** 為替レートを取り込む日付を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 請求書日付を使用する。

1: 元帳日付を使用する。

**2. 有効日付の検証**

請求書の為替レートがF0015テーブルの為替レートの有効日付と異なる会計期間にある場合、警告を表示するかどうかを指定します。たとえば、会計期間パターンをカレンダーの月にあわせて設定し、元帳日付が12月15日の請求書を入力すると、前回の為替レート有効日付が11月1日の場合、警告を表示するよう指定できます。メッセージは、F0015テーブルの為替レートが期限切れであることを警告します。値は次のとおりです。

ブランク: 警告メッセージを表示しない。

1: 警告メッセージを表示する。

### 3. 為替レート許容限度額

請求書入力時の為替レートの変更に対する許容限度額を指定します。計算された金額が指定した許容限度額内にはない場合は、請求書入力時に警告メッセージが表示されます。

たとえば、為替レートの変更を5%まで認める場合は「5」と指定します。前回入力した為替レートと6%異なる値を入力すると、警告メッセージが表示されます。これにより、入力為替レートが妥当であるかが確認され、データ入力ミスと考えられる場合に警告されます。

## 外貨建て請求書の入力

「請求書の入力」フォームにアクセスします。

**請求書入力 - 請求書の入力** i ?

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

伝票No./タイプ/会社 15 RI 00001 バッチNo. ★ 5863

---

顧客 1001 AB Common

会社番号 00001 Financial Distribution Company

請求書日付 2005/06/08 元帳日付 2005/06/30

通貨 USD 為替レート

☒ 割引率 支払条件 基本 USD ☐ 外貨

---

**レコード 1-4** グリッドのカスタマイズ

	支払項目	総額	備考	支払条件	割引率	割引可能額	課税対象額	税額
<input checked="" type="radio"/>	001	1,546.00		001		15.46		
<input type="radio"/>	002	10,500.00		007				
<input type="radio"/>	003	14,000.00		007				
<input type="radio"/>	004							

---

総額 26,046.00 割引 15.46 税額 課税対象

「請求書の入力」フォーム

### 通貨

請求書の取引通貨コードを入力します。ブランクの場合、顧客のデフォルトの通貨コードが割り当てられます。

外貨建て請求書の国内通貨建て金額を入力するには、このフィールドに国内通貨コードを入力します。

「外貨」チェックボックスは、入力した通貨コードと、会社の基本通貨とその関係に基づいて更新されます。

### 為替レート

必要に応じて、このフィールドにスポット・レートを入力します。入力しない場合、このフィールドがブランクのままになると、F0015テーブルから為替レートが取得されます。

### 基本通貨

「会社番号」フィールドに入力した会社の通貨が表示されます。

外貨	基本通貨コードとは異なる通貨コードを入力すると、このチェックボックスが自動的に選択されます。 外貨建て請求書の国内通貨建て金額を入力するには、フォームの詳細グリッド内をクリックしてから、「外貨」チェックボックスの選択を解除します。
総額	請求書の金額を外貨または国内通貨で入力します。外貨建て請求書の国内通貨建て金額を入力するには、総額を入力する前に「外貨」チェックボックスの選択を解除します。「外貨」チェックボックスの選択を解除するには、最初にフォームの詳細グリッド内をクリックする必要があります。

---

## 外貨および仮定通貨建て請求書の検討

この項では、多通貨請求書照会の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 売掛金元帳照会 (P03B2002) の多通貨処理オプションの設定
- 外貨および仮定通貨建て請求書の検討

### 多通貨請求書照会について

売掛金元帳照会プログラムを使用して、外貨建ておよび国内通貨建て請求書を検討できます。これらは他の JD Edwards EnterpriseOne の照会フォームおよび照会レポートに含まれるため、複数の通貨を同時に表示すると、「売掛金元帳照会の処理」フォームに表示される総計は無意味なものになります。

#### 請求書金額に影響する日付

外貨建て請求書を検討する前に、「売掛金元帳照会の処理」フォームに表示される金額に影響する様々な日付について理解する必要があります。これらと照会プログラムでのこれらの使用方法について理解することにより、請求書の検討時に正しい日付を指定できるようになります。検討対象の請求書金額に影響する日付は、次のとおりです。

- 「為替レートの改訂」フォームの有効日付  
照会プログラムにより、通貨の最新の有効日付が検索され、対応する為替レートが使用されます。
- 「売掛金元帳照会の処理」フォームの開始日付および終了日付  
この日付範囲により、フォームに表示される取引が決定されます。
- 処理オプションの「基準日」  
基準日がブランクである場合、照会フォームに入力した終了日付が使用されます。終了日付によって処理オプションの「基準日」が一時変更されることはありません。

#### 仮定通貨建て請求書

請求書を国内通貨で入力するか外貨で入力するかに関係なく、金額を別の通貨で入力したものとして照会できます。

仮定通貨で金額を検討するには、売掛金元帳照会プログラムの処理オプションにデフォルトの通貨コードと為替レート日付を入力する必要があります。これにより、「売掛金元帳照会の処理」フォームの「仮定通貨コード」フィールドが有効になります。

対応する為替レートはF0015テーブルから読み込まれ、請求書の基本(国内)通貨を基準にして仮定通貨建て金額が計算されます。たとえば、顧客の外貨建て請求書をUSDで入力するときに、会社の基本通貨がCADであるとしします。請求書金額をEURで入力されたものとして検討する場合、CADからEURへの為替レートがF0015テーブルから読み込まれ、仮定金額がEURで計算されます。

照会フォームの「基準日」フィールドは、「仮定通貨」フィールドと連動して機能します。仮定通貨の未決済金額は、基準日に基づいて計算されます。請求書に入金が適用されている場合、基準日が入金の元帳日付と比較され、その日付に未決済である請求書金額が決定されます。

対応する為替レートはF0015テーブルから読み込まれ、請求書の基本(国内)通貨を基準にして仮定通貨建て金額が計算されます。たとえば、顧客の外貨建て請求書をCADで入力するときに、会社の基本通貨がEURであるとしします。請求書金額を日本円(JPY)で入力されたものとして検討する場合、EURからJPYへの為替レートがF0015テーブルから読み込まれ、仮定金額がJPYで計算されます。

## 事前設定

外貨建ておよび国内通貨建て請求書金額を検討するために必要なフィールドを表示するには、売掛金元帳照会プログラムの対応する処理オプションを設定します。

## 外貨および仮定通貨建て請求書の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
売掛金元帳照会の処理	W03B2002A	「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「売掛金元帳照会」	税金および割引を含む請求書の外貨建て金額を検討します。  仮定通貨建て金額を検討します。
請求書の入力	W03B11A	「売掛金元帳照会の処理」フォームで、外貨建て請求書を選択します。	請求書の外貨建て金額および国内通貨建て金額を検討します。
勘定科目情報	W03B11C	「請求書の入力」フォームで、「フォーム」メニューから「勘定科目情報」を選択します。	外貨建て請求書の国内通貨建て配賦金額を検討します。

## 売掛金元帳照会(P03B2002)の多通貨処理オプションの設定

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

### 通貨

#### 1. 仮定通貨

「売掛金元帳照会の処理」フォームの「仮定通貨コード」フィールドに表示する仮定通貨を指定します。仮定通貨および為替レート処理オプションの日付に基づいて、国内通貨建て金額が再計算され、フォームの詳細グリッドにある仮定通貨の各カラムに表示されます。

この処理オプションをブランクにすると、「仮定通貨コード」フィールドや仮定通貨の各カラムは表示されません。

#### 2. 為替レート日付

仮定通貨と国内通貨の間の為替レートを取り込む際に使用する日付を指定します。

この処理オプションをblankにすると、「売掛金元帳照会の処理」フォームの「から」フィールドで指定した日付が使用されます。この処理オプションがblankで終了日付フィールドを指定しない場合、最後に入力された為替レートが使用されます。為替レートがない場合はエラーとなります。

## 外貨および仮定通貨建て請求書の検討

「売掛金元帳照会の処理」フォームにアクセスします。

請求書入力 - 売掛金元帳照会の処理

選択(S) 検索(I) 追加(A) 削除(D) 開じる(L) フォーム(F) ロー(R) レポート(P) ツール(T)

顧客: 3006 Editions de l'Odeon  
親住所: \* バッチ番号: \*

請求書番号範囲: \* から \* ☒ すべて ☐ 入金済み ☐ 未入金

日付範囲: から  ☒ 請求書日付 ☐ 支払期日  
☐ 元帳日付 ☐ 計算書日付

基準日:  ☐ 定期請求書 ☐ 集計

レコード 1 - 10

	伝票番号	伝票タイプ	伝票会社	支払項目	請求書日付	総額	未入金額	割引可能額	有効割引額
<input type="checkbox"/>	3042	RI	00070	001	2005/06/01	2,500.00	2,500.00		
<input type="checkbox"/>	3043	RI	00070	001	2005/06/01	1,200.00	1,200.00		
<input type="checkbox"/>	3047	RI	00070	001	2005/06/01	199.59	199.59		
<input type="checkbox"/>	3054	RI	00001	001	2005/06/12	423.00	423.00		
<input type="checkbox"/>	3063	RI	00077	001	2005/07/13	1,159.15	1,159.15		
<input type="checkbox"/>	3063	RI	00077	002	2005/07/13	1,545.53	1,545.53		
<input type="checkbox"/>	7773	RI	00075	001	2005/05/15	2,658.74	2,658.74		
<input type="checkbox"/>	7774	RI	00075	001	2005/04/30	10,706.81			
<input type="checkbox"/>	7774	RI	00075	002	2005/04/30	1,726.80			

「売掛金元帳照会の処理」フォーム

「売掛金元帳照会の処理」フォームでは、次のような処理が行われます。

- 外貨建て合計金額が表示されるのは、検索対象を同じ取引通貨の請求書に限定した場合のみです。  
取引通貨が異なる場合、外貨建て合計金額は表示されません。
- 総額が表示されるのは、検索対象を同じ基本通貨の請求書に限定した場合のみです。  
基本通貨が異なる場合、総額は表示されません。
- 対応する処理オプションを設定し、フォームに「仮定通貨コード」フィールドが表示されている場合、国内通貨と外貨以外の通貨で金額が計算され、表示されます。請求書の基本(国内)通貨に基づいて、仮定通貨建て金額が計算されます。通貨コードを変更すると、別の仮定通貨で金額を表示できます。

<b>取引通貨</b>	請求書が入力された通貨が表示されます。取引通貨コードが基本通貨コードとは異なる場合、請求書は外貨建てになります。それ以外の場合、請求書は国内通貨建てになります。
<b>基本通貨</b>	請求書に関連付けられた会社割り当てられている通貨コードが表示されます。これは、請求書の国内通貨です。
<b>為替レート</b>	請求書が入力された時点の為替レートが表示されます。
<b>外貨金額</b>	取引通貨および為替レートに基づいて請求書の総額が表示されます。
<b>未入金額(外貨)</b>	支払われていない請求書の外貨建て金額が表示されます。
<b>割引可能額(外貨)</b>	支払期日までに支払が行われた場合に請求書金額から割引く外貨建て金額が表示されます。
<b>有効割引額(外貨)</b>	入金に消し込まれた割引の外貨建て金額が表示されます。
<b>仮定通貨コード</b>	請求書金額を表示するために使用する通貨コードを入力します。  このフィールドが表示されるのは、売掛金元帳照会プログラムの対応する「仮定通貨」処理オプションに値が入力されている場合です。総額、未決済金額および割引可能額が指定通貨に換算され、これらが仮定フィールドに表示されます。「為替レート日付」処理オプションの日付を使用して、為替レートが取り込まれ、仮定金額が計算されます。
<b>仮定金額</b>	「仮定通貨コード」フィールドに指定した通貨に換算された請求書の総額が表示されます。
<b>仮定未入金額</b>	「仮定通貨コード」フィールドに指定した通貨に換算された請求書の未決済金額が表示されます。
<b>仮定割引可能額</b>	「仮定通貨コード」フィールドに指定した通貨に換算された請求書の割引金額が表示されます。

## 外貨建て請求書の転記

この項では、外貨建て請求書の転記処理の概要と、外貨建て請求書の転記方法について説明します。

### 外貨建て請求書の転記処理について

外貨建て請求書を入力、検討および承認した後、これらを転記する必要があります。

外貨建て請求書を転記すると、請求書転記プログラムの事前転記により、売掛管理固定情報プログラム(P0000)から売掛金の集計方式が取り込まれます。集計方式が「B」(バッチ)である場合、バッチ内に外貨建て請求書がないかどうか検証されます。少なくとも1つの外貨建て請求書がバッチ内にある場合、事前転記により、バッチの集計方式が「S」(支払項目)に変更され、処理が続行されます。事前転記によってこのような処理が行われるのは、バッチ内の1つ以上の請求書が外貨建てである場合、集計方式「B」を使用して転記を行うことができないためです。

多通貨処理を使用するかどうかにかかわらず、総勘定元帳への転記プログラム(R09801)により、次の表に記載されたタスクが実行されます。多通貨環境での請求書の転記に固有の情報は、「多通貨処理に関する考慮事項」に記載されています。

請求書の転記によって実行されるタスク	多通貨処理に関する考慮事項
F03B11テーブルの未転記請求書を選択します。	なし。
F0911に対応するレコードがあり、その金額が請求書の金額と一致するかを確認します。	なし。
バッチの状況が承認済であることを確認します。	なし。
F0911テーブルで売掛金勘定を借方に計上する自動仕訳を作成します。	F0911テーブルでAA(国内通貨)とCA(外貨)元帳の売掛金勘定を借方に計上する自動仕訳を作成します。
詳細再換算は、多通貨環境以外には適用されません。	処理オプションに詳細再換算プログラム(R11411)のバージョンを入力した場合は、代替通貨元帳(XA)と、必要に応じてYAおよびZA元帳を更新し、別の転記レポートを生成します。
F0902テーブルの勘定残高を更新します。	なし。
F03B11テーブルで請求書を転記状況「D」に更新します。	なし。
F0911テーブルで該当レコードを転記コード「P」に更新します。	なし。
F0011テーブルでバッチ制御レコードを転記コード「D」に更新します。	なし。

## 外貨建て請求書の転記

「顧客および請求書の入力」(G03B11)の「請求書の転記」を選択します。

請求書の総勘定元帳への転記プログラム(R09801)には、通貨取引があるバッチに固有の多通貨処理オプションはありません。

## 第 14 章

# 外貨および代替通貨建て入金の処理

この章では、外貨および代替通貨建て入金入力の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 外貨および代替通貨建て手動入金の入力
- 外貨建て自動入金および自動引落しの処理
- 外貨建て払戻しの生成
- 外貨建て受取手形の処理
- 外貨および代替通貨建て入金の転記

---

## 外貨および代替通貨建て入金入力について

入金は、国内通貨、外貨または代替通貨で処理できます。具体的には、入金の会社の基本通貨が請求書の国内通貨と同じであれば、入金を任意の通貨で処理し、これを任意の通貨で請求書に消し込むことができます。

たとえば、会社の基本通貨がカナダ・ドル (CAD) であるときに、入金を CAD で消し込むとします。入金を消し込む請求書の国内通貨は米ドル (USD) です。入金会社の基本通貨 (CAD) が請求書の国内通貨 (USD) と異なるため、入金入力は承認されません。

請求書番号	請求書の国内通貨	請求書の外貨
221	USD	なし
223	USD	CAD

この例では、次のようになります。

- 請求書 221 の国内通貨建て金額 (USD) に USD での入金を消し込むことはできません。
- 請求書 223 の外貨建て金額 (CAD) に対する支払を行うために CAD での入金を CAD で消し込むことはできません。

どちらの場合も、入金会社の基本通貨 (CAD) が請求書の国内通貨とは異なります。

入金入力を完了するには、入金会社の基本通貨が USD である会社に変更する必要があります。

### 外貨および代替通貨建て入金および外貨建て手形を入力するためのプログラム

次の表は、複数の通貨で入金を処理するために使用できるプログラムの一覧です。この表は、プログラムを外貨建て入金のみで使用できるか、外貨建てと代替通貨建て入金の両方を使用できるかを示しています。

プログラム名 (プログラム番号)	メニュー	外貨	代替通貨
入金入力 (P03B102)	G03B12	可	可
スピード入金入力 (P03B0001)	G03B12	可	不可
入金の消込 (R03B50) 注意: これは自動入金処 理用のプログラムです。	G03B13	可	不可
自動引落しの処理 (R03B571)	G03B131	可	不可
手形入力 (自社) (P03B602)  手形入力 (顧客) (P03B602)	G03B161	可	不可

注意: 売掛管理システムの入金プログラムは、多通貨会社間決済をサポートしていません。多通貨会社間の入金を入力すると、エラー・メッセージが表示されます。仕訳は転記できません。

## 国内通貨建て入金について

国内通貨建て入金は、請求書の基本通貨と同じ通貨での入金です。

次の例では、会社の基本通貨はUSDです。次の処理が可能です。

- ・ 請求書221の国内通貨建て金額(USD)にUSDでの入金を消し込みます。
- ・ 請求書222(EUR)の国内通貨建て金額(USD)にUSDでの入金を消し込みます。

請求書番号	請求書の国内通貨	請求書の外貨	入金の国内通貨
221	USD	なし	USD
222	USD	EUR	USD

会社の基本通貨(USD)である入金では、請求書のいずれかが外貨建て金額(EUR)であっても、請求書の国内通貨建て金額の支払を行います。

国内通貨建て入金の実現為替差損益は計算されません。

## 外貨建て入金について

外貨建て入金は、請求書の外貨(取引通貨)による入金です。入金の外貨は、入金の入力時に指定します。外貨建て入金を入力する場合、入金が処理されるようにするには、次の基準が満たされる必要があります。

- ・ 入金の外貨は、請求書の取引通貨と同じである必要があります。
- ・ 入金の基本通貨は、請求書の国内(基本)通貨と同じである必要があります。

- 銀行勘定科目が通貨勘定科目である場合、銀行勘定科目が割り当てられる会社の通貨は、入金および請求書の基本通貨と同じである必要があります。同じでない場合、エラー・メッセージが表示され、入金の入力は続行できません。

外貨建て入金を入力すると、F0015テーブルの為替レート、または必要に応じて、入金レコードに入力したスポット・レートに基づいて、外貨建て金額が国内通貨建て金額に換算されます。

次の例では、入金の基本通貨はUSDです。次の処理が可能です。

- 請求書223の外貨建て金額(EUR)にEURでの入金を消し込みます。
- 請求書224の外貨建て金額(CAD)にCADでの入金を消し込みます。

どちらの場合も、入金の会社の基本通貨が請求書の国内通貨と同じであるため、入金を外貨で消し込むことができます。

請求書番号	請求書の国内通貨	請求書の外貨	入金の外貨
223	USD	EUR	EUR
224	USD	CAD	CAD

請求書の外貨(それぞれEURとCAD)である入金では、請求書の外貨建て金額の支払を行います。請求書の入力時と入金の消込時の間で為替レートが変更されると、実現為替差損益が計算される場合があります。

## 代替通貨建て入金について

代替通貨建て入金は、入金が消込まれる請求書の国内通貨または外貨とは異なる通貨による入金です。

代替通貨建て入金の処理では、顧客の請求書を1つの通貨で入力し、請求書の取引通貨および会社の国内通貨とは異なる通貨で入金を受け取ります。これにより、当初の請求書を無効にし、入金と同じ通貨で新しい請求書を入力しなくても済みます。

たとえば、米国の会社に勤めているときに、顧客の会社の通貨で請求書を入力するとします。顧客の会社は請求書を支払のために親会社に転送します。親会社は、顧客の会社および自社とは異なる通貨を使用しています。代替通貨建て入金の処理では、どのような通貨で支払われたものでも入金を消し込むことができます。

代替通貨建て入金を入力する場合、銀行勘定科目の会社の通貨は入金の会社の基本(国内)通貨と同じである必要があります。たとえば、米国の会社がカナダ・ドルで代替通貨建て入金を入力し、これを日本円で外貨建て請求書に消し込むとします。入金の会社の基本通貨はUSDであるため、銀行勘定科目の会社の通貨もUSDである必要があります。銀行勘定科目の会社の通貨が入金の会社の基本通貨とは異なる場合、エラー・メッセージが表示され、入金の入力を続行できなくなります。

代替通貨建て入金の入力は、国内通貨および外貨建て入金の入力に似ています。代替通貨建て入金のほとんどの処理は、実際に入金を入力する前に行う設定に基づいています。代替通貨建て入金の処理は入金入力プログラム(P03B102)の処理オプションで有効にし、入金の入力時に代替通貨建て入金の通貨コードを指定します。

入金入力プログラムにより、選択した請求書が代替通貨建て金額に換算されます。これにより、代替通貨建て入金を消し込むことができますようになります。請求書金額を換算するために、元帳日付、または必要に応じて、入金レコードに入力したスポット・レートに基づいて、F0015テーブルの請求書通貨と代替通貨間の為替レートが使用されます。

次の例では、会社の基本通貨はUSDです。次の処理が可能です。

- 請求書225の国内通貨建て金額(USD)にEURでの入金を消し込みます。

**注意:** 請求書が国内通貨のみで、入金が国内通貨ではない場合、入金は外貨建て入金ではなく、代替通貨建て入金であるとみなされます。

- 請求書226の外貨建て金額(CAD)にJPYでの入金を消し込みます。

どちらの場合も、入金の会社の基本通貨が請求書の国内通貨と同じであるため、入金を代替通貨で消し込むことができます。

請求書番号	請求書の国内通貨	請求書の外貨	入金の代替通貨
225	USD	なし	EUR
226	USD	CAD	JPY

請求書の外貨または国内通貨ではない入金では、各請求書の国内通貨(USD)および外貨(CAD)建て金額の支払を行います。

請求書の入力時と入金の消込時の間で為替レートが変更されると、実現為替差損益が計算される場合があります。

### 例: 代替通貨建て入金のT勘定

次のT勘定は、代替通貨建て入金が含まれるときに取引が勘定科目内外にどのように移動するかを示しています。T勘定の仕訳は、外貨建て請求書(500.00 CAD)、請求書の国内通貨建て金額(313.44 USD)および代替通貨建て入金(347.33 EUR)の仕訳を示しています。

次の為替レートが適用されます。

- 為替レート(請求書日付):  
1 CAD = 0.62688 USD
- 為替レート(入金日付):  
1 CAD = 0.69466 EUR  
1 EUR = 0.9024271 USD

収益		取引	
	313.44 USD	313.44 USD	
	500.00 CAD	500.00 CAD	
			313.44 USD
			500.00 CAD
現金		仮	
313.44 USD		313.44 USD	
347.33 EUR		500.00 CAD	
			313.44 USD
			347.33 EUR

収益勘定、取引勘定、現金勘定および仮勘定のT勘定

代替通貨入力にはEURです。

## 多通貨および入金タイプについて

この項では、多通貨に関する特別な考慮事項がある入金タイプについて説明します。

### 総勘定元帳入金

総勘定元帳入金はGタイプ入金と呼ばれる場合もあり、顧客請求書には消し込まれない雑入金です。雑入金には、リベートや、売掛金勘定には影響しないその他の種類の支払などがあります。

入金入力プログラム (P03B102) またはスピード入金入力プログラム (P03B0001) を使用して雑入金を入力するには、総勘定元帳の勘定科目コードに関連付けられた会社の基本通貨が入金の基本通貨と同じである必要があります。総勘定元帳の勘定科目が通貨勘定科目である場合、勘定科目の通貨コードは入金の取引通貨と同じである必要があります。これらが異なる場合、雑入金の入力時に、「銀行勘定科目の通貨が無効です」というエラー・メッセージが表示されます。

### 繰越残高入金

スピード入金入力プログラムを使用すると、外貨建て入金を入力できます。このプログラムを使用して代替通貨建て入金を入力することはできません。

スピード入金入力プログラムを使用して外貨建て繰越残高入金を入力する場合、入金の会社の基本通貨が請求書の会社の基本通貨と同じであれば、入金をすべての会社で消し込むことができます。

たとえば、会社70(CADの会社)が外貨建て請求書をEURで入力するとします。会社75(同じくCADの会社)は支払を受け取り、これを会社70の請求書に消し込みます。この例では、入金の会社の基本通貨は請求書の会社の基本通貨と同じです。

## 入金入力および手形入力時に更新される多通貨フィールドについて

外貨建て入金や手形、または代替通貨建て入金を入力すると、関連するAAI項目に関連付けられた勘定科目の勘定科目の略式IDが1つ以上のテーブルの1つのフィールドに入力されます。入金および手形の転記時に、この略式IDを使用して自動仕訳が作成されます。

入金または手形の入力時に入力されるフィールドは、2つの例外を除いて同じです。手形の入力の場合、次は入力されません。

- 銀行勘定科目

この勘定科目のフィールドは手形の入力時に表示されません。

- 代替通貨の実現為替差損益勘定と金額、および仮勘定と金額

手形は代替通貨では処理されません。手形は国内通貨および外貨でのみ処理されます。

これらのフィールドがどのように更新されるかを理解することにより、転記時に生成される自動仕訳をより理解できるようになります。次の表は、使用されるAAIに基づいて更新されるフィールドおよびテーブルを示しています。

勘定科目	更新されるフィールド	更新されるテーブル	使用されるAAI項目	追加コメント
銀行勘定科目	GLBA	F03B13	RB	使用されるAAI項目RBに関連付けられた勘定科目が通貨勘定科目である場合、勘定科目の通貨は入金の取引通貨と同じである必要があります。
売掛金	AID	F03B14	RC	入金で支払われるF03B11の請求書レコードのAIDフィールドの勘定科目IDが常に使用されます。それ以外の場合は、請求書に使用される売掛金勘定は入金によって相殺されません。
外貨建て実現為替差益	AIDT	F03B14	RG	なし。
外貨建て実現為替差損	AIDT	F03B14	RL	なし。
代替通貨建て実現為替差益	AIDA	F03B14	RY	なし。
代替通貨建て実現為替差損	AIDA	F03B14	RZ	なし。

勘定科目	更新される フィールド	更新される テーブル	使用される AAI項目	追加コメント
再請求の売掛金	AID AIDC	F03B11 F03B14	RC	再請求が消し込まれる請求書番号が判明している場合、再請求が消し込まれる請求書の通貨で再請求レコードが作成されます。  再請求が消し込まれる請求書番号が判明していない場合、1つ以上の請求書の単独再請求を作成できます。複数の請求書の単独再請求を入力すると、入金通貨で再請求レコードが作成されます。
損金仮勘定	AID DAID	F03B11 F03B14	RN	損金が消し込まれる請求書番号が判明している場合、損金が消し込まれる請求書の通貨で損金レコードが作成されます。  損金が消し込まれる請求書番号が判明していない場合、1つ以上の請求書の単独損金を作成できます。複数の請求書の単独損金を入力すると、入金通貨で損金レコードが作成されます。
四捨五入差異	RASI	F03B14	R8	入金の外貨建て金額が全額消込済で国内通貨建て金額が一部未消込の場合、または外貨建ては全額未消込であるのに対し国内通貨建ては一部消込済の場合、入金明細テーブル (F03B14) の入金レコードに伝票タイプRRが割り当てられます。このレコードの四捨五入は入金レベルで行われ、特定の請求書支払項目とは関連しません。

**注意:** AAI項目R7(代替通貨建て入金の仮勘定)のフィールドは更新されません。入金の転記時に自動仕訳を作成するために使用される勘定科目が取り込まれます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 通貨と会社の組合せに対して売掛管理AAIが設定されていることを確認します。  
参照: [第 9 章、「多通貨処理の売掛管理の設定」、「売掛管理の多通貨AAIの設定」、81ページ](#)
- 多通貨処理オプションを設定します。

## 外貨および代替通貨建て手動入金の入力

この項では、次の方法について説明します。

- 入金入力の多通貨処理オプションの設定
- 外貨建て入金の入力
- 入金消込用未決済請求書のロード
- 入金消込用未決済請求書の選択

**注意:** この項で説明されているタスクでは、入金消込および入力タイプ・コードについて理解していることを前提としています。ここでは、入金の通貨の側面についてのみ説明します。請求書に対する入金の消込処理には、多通貨に関する考慮事項はありません。通貨コードの影響を受けるのは、請求書を検索する処理のみです。

## 外貨建て入金の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
入金の入力	W03B102E	「入金処理」(G03B12)、 「入金入力」  「入金照会」フォームで、 「追加」をクリックします。	外貨または代替通貨建て 入金を入力します。
請求書のロード	W03B102J	「入金の入力」フォームで、 「フォーム」メニューから 「ロード」を選択します。入 金を消し込む請求書を取り 込むための値を入力し、 「OK」をクリックします。	請求書を取り込み、これら を「入金の入力」フォームの 詳細グリッドに表示します。
請求書の選択	W03B102H	「入金の入力」フォームで、 「フォーム」メニューから「選 択」を選択します。請求書 を表示するための値を 入力してから、入金を消 し込む各請求書を手動 で選択します。	請求書を取り込み、これら を「入金の入力」フォームの 詳細グリッドに表示します。

## 入金入力(P03B102)の多通貨処理オプションの設定

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

### 表示

#### 8. 通貨

入金を入力した後、「入金の入力」フォームで入力した通貨コードをそのまま表示し、以降の入金についてもフォーム上に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 通貨コードを保持しない。

1: 通貨コードを保持する。

#### 9. 為替レート

入金を入力した後、「入金の入力」フォームで入力した為替レートをそのまま表示し、以降の入金についてもフォーム上に表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 為替レートを保持しない。

1: 為替レートを保持する。

## 通貨

### 1. 有効日付検証

為替レートを取り込むのに使用する有効日付が入金入力で入力された元帳日付と同じ期間かチェックするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 有効日付を検証しない。

1: 有効日付を検証する。F0015テーブルから取り込まれた為替レートの有効日付が入金の元帳日付と同じ期間ではない場合は、警告メッセージが表示されます。

### 2. 代替通貨による入金

代替通貨(基本通貨または請求書の取引通貨以外の通貨)による請求書の支払を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 代替通貨による支払を許可しない。

1: 代替通貨による支払を許可する。

## 外貨建て入金の入力

「入金の入力」フォームにアクセスします。

**入金入力 - 入金の入力**

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

会社: 00001 銀行勘定科目: 1.1110.FIB 元帳日付: 2005/06/30  
 支払人: 3007 Schwartz Warenhaus Germeinscha 入金日付: 2005/06/28  
 顧客: 3007 Schwartz Warenhaus Germeinscha バッチ: 7937  
 入金No.: E723878237 前:   
 入金額: 46,550.00 備考:   
 通貨: EUR 為替レート: 1.1820331 基本: USD ☒ 外貨

レコードが取込まれていません。 [グリッドのカスタマイズ](#)

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	入力 タイプ	入金額	割引 実施額	割引 理由	小額 消去額	小額消去 理由	再請求 金額	再請求 理由	損金額
<div> <div>充当済み金額</div> <div>保留金額</div> <div>未充当金額</div> </div> <div> <input checked="" type="checkbox"/> 総勘定元帳入金           <div>46,550.00</div> </div>										

「入金の入力」フォーム

入金を入力する処理は、外貨建てと代替通貨建てのどちらであるかとは関係なく同じです。この項では、外貨および代替通貨建てで入金を入力するための多通貨フィールドについてのみ説明します。

## 通貨

入金の通貨を入力します。このフィールドをブランクにすると、「支払人」フィールドに入力した住所録番号の通貨コードが使用されます。支払人の

住所録レコードに割り当てられた通貨コードがない場合、「会社」フィールドの会社に割り当てられた通貨コードが使用されます。

### 為替レート

デフォルトの為替レートが表示されます。これは、入金通貨（「通貨」フィールド）と会社の基本通貨（「基本」フィールド）間の為替レートです。

為替レートはF0015テーブルから自動的に取り込まれます。F0015テーブルの為替レートを一時変更する場合、または為替レートがない場合は、このフィールドに値を入力します。

このフィールドには最大で小数点以下7桁まで入力できます。これ以上の桁数を入力すると、最も近い小数点以下7桁の数値に調整されます。

### 基本

入金に割り当てられている会社の基本通貨コードが表示されます。

### 外貨

基本通貨コードとは異なる通貨コードを入力すると、このチェックボックスが自動的に選択されます。

## 入金消込用未決済請求書のロード

「請求書のロード」フォームにアクセスします。

「請求書のロード」フォーム

### 会社

入金に入力した会社番号が表示されます。指定した支払人および会社の請求書のみが選択されます。別の会社の請求書を選択するには、このフィールドの値を変更します。会社番号とは関係なく支払人のすべての請求書を選択するには、「\*」と入力します。

### 支払人

入金に入力した支払人番号が表示されます。指定した支払人の請求書のみが選択されます。別の支払人に入力した請求書を選択するには、このフィールドの値を変更します。

### 通貨

入金に入力した通貨コードが表示されます。指定した取引通貨に入力した請求書のみが選択されます。別の通貨に入力した請求書を選択するには、このフィールドの値を変更します。通貨コードとは関係なく支払人のすべての請求書を選択するには、「\*」と入力します。

## 入金消込用未決済請求書の選択

「請求書を選択」フォームにアクセスします。

**入金入力 - 請求書の選択**

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

3006

タイプ

☒ 支払人  
☐ 顧客

会社 00001

通貨コード EUR

未充当金額 46,550.00

レコード 1-1

伝票番号	伝票タイプ	伝票会社	支払項目	取引通貨	取引未決済金額	取引割引可能額	取引総額
3054	RI	00001	001	EUR	500.00		500.00

「請求書の選択」フォーム

特定の未決済請求書を選択し、入金との消込を行うには、次の手順を実行します。

- 必要に応じて、次のフィールドのデフォルト値をそのままにするか変更します。
  - 住所No.
  - 会社
  - 通貨コード
- 住所番号に対応する「タイプ」オプションを選択します。
  - 支払人
  - 顧客
- 「検索」をクリックし、検索条件を満たすすべての未決済項目を表示します。
- 「伝票番号」フィールドをダブルクリックするか、各請求書を選択して「選択」ボタンをクリックし、入金を消し込む請求書を選択します。
 

「選択」ボタンは切替えボタンとして機能し、請求書の選択と選択解除が可能です。また、「ロー」メニューから「選択/選択解除」を選択することもできます。

選択した請求書にはチェックマークが表示されます。請求書の件数とその合計額が追跡され、「請求書の選択」フォームの下部に表示されます。

別の支払人や別の通貨の取引など、検索条件を変更してより多くの請求書を表示し、支払対象の請求書の選択を続けることができます。
- 「閉じる」をクリックし、「入金の入力」フォームの詳細グリッドに選択した請求書を表示します。
 

未決済請求書は、選択した順序で表示されます。
- 「入金の入力」フォームで、選択した請求書に入金を消し込み、「OK」をクリックします。

#### 住所No.

入金見出しに入力した支払人番号が表示されます。この番号を変更し、別の住所録番号の請求書を検索できます。

会社	入金見出しに入力した会社番号が表示されます。この値を変更して別の会社に入力した請求書を検索することも、「*」と入力して会社番号とは関係なく住所録番号のすべての請求書を表示することもできます。
通貨コード	入金見出しに入力した通貨コードが表示されます。この通貨コードを使用して、同じ取引通貨コードと同じ基本通貨コードのペアで入力した請求書が検索されます。たとえば、基本通貨としてEURを割り当てられた会社00002の入金をCADで入力すると、「請求書の選択」フォームのこのフィールドにはCADが表示されますが、基本通貨がEURで取引通貨がCADである請求書のみが検索されます。  <b>注意:</b> フォームのグリッド領域に表示される取引通貨コードは請求書の取引通貨ではない点に注意してください。これは入金の取引通貨です。請求書の取引通貨コードは「通貨コード」フィールドに表示されます。
取引通貨	入金の通貨コードです。「請求書の選択」フォームの見出し領域の「通貨コード」フィールドに入力した請求書が検索され、入金の通貨で取引金額が表示されます。
基本通貨	請求書および入金取引の基本通貨です。取引の基本通貨コードは同じである必要があります。同じでない場合、フォームには請求書が表示されません。
通貨コード	請求書の取引通貨です。「請求書の選択」フォームの見出し領域で通貨コードを指定すると、同じ取引通貨の請求書のみが表示されます。

## 外貨建て自動入金および自動引落しの処理

この項では、外貨建て自動入金および外貨建て自動引落しの処理の概要、事前設定、および外貨建て自動引落しの処理方法について説明します。

### 外貨建て自動入金の処理方法について

自動入金は、請求書の国内通貨と外貨のどちらでも処理できます。複数の通貨で自動入金を処理するには、電子入金入力テーブル (F03B13Z1) で通貨コード、為替レートおよび通貨モードを入力する必要があります。入金の通貨コードは、支払対象の請求書の国内通貨と外貨のどちらかを反映する必要があります。自動入金は代替通貨では処理できません。かわりに、これらは入金入力プログラム (P03B102) を介して手動で入力する必要があります。

自動入金処理には、次のテーブルが使用されます。

- 電子入金入力 (F03B13Z1)

このテーブルには銀行テープからロードされた情報が格納されるため、銀行で入力された情報が含まれています。

- 入金見出し (F03B13)

このテーブルのレコードは、入金見出しの更新プログラム (R03B551) の実行時に作成されます。

- 入金明細 (F03B14)

このテーブルの未充当金額 (RU) レコードは、入金見出しの更新プログラムの実行時に作成されます。

外部ソースから自動入金入力を正常にアップロードし、これらをJD Edwards EnterpriseOneシステムで処理するには、適切なデータをF03B13Z1テーブルの各フィールドに提供するカスタム・プログラムを最初に作成する必要があります。

請求書に対する外貨建て入金の照合および消込を正常に行うには、使用するアルゴリズムの処理オプションを定義し、F03B13Z1テーブルに必要な情報について理解する必要があります。請求書選択照合(R03B50A)、繰越残高照合(R03B50B)、既知請求書照合(金額指定あり)(R03B50D)、既知請求書照合(金額指定なし)(R03B50E)および組合せ請求書照合(R03B50F)のアルゴリズムを定義できます。

### 小額消去の限度額

入金不足および過入金の請求書の小額消去の限度額は、請求書や会社の通貨コードではなく、入金の通貨コードに基づいています。限度額は、アルゴリズムR03B50A、R03B50DおよびR03B50Eの処理オプションで指定します。入金の消込プログラム(R03B50)を使用して自動入金処理を実行する場合は、このアルゴリズムに入金通貨別のバージョンを設定し、データ選択で通貨コードを指定します。これにより、通貨ごとに小額消去の限度額が意味のあるものになります。

## 外貨建て自動引落しの処理方法について

自動引落しを処理することにより、顧客の銀行口座からの資金の引出しを記録します。外貨建て自動引落日バッチを作成するには、「通貨モード」処理オプションで外貨を指定し、自動引落日バッチの作成プログラム(R03B571)のデータ選択で通貨コードを指定します。自動引落日バッチに含めることができる通貨は1つのみです。

銀行勘定科目が通貨勘定科目である場合、処理する請求書の通貨は銀行勘定科目の通貨と同じである必要があります。たとえば、外貨のカナダ・ドル(CAD)で自動引落日を処理する場合、銀行勘定科目の通貨もCADである必要があります。

## 事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 「通貨モード」処理オプションを「1」に設定し、自動引落日を処理するために請求書の外貨を使用します。
- 「銀行勘定科目」処理オプションの銀行勘定科目が正しいことを確認します。

銀行勘定科目が通貨勘定科目である場合は、勘定科目の通貨コードは請求書の通貨と同じである必要があります。

- データ選択で1つの通貨のみを選択します。

1つの通貨のみを選択しない場合、最初の請求書の通貨がデフォルトの外貨として使用されます。

## 外貨建て入金の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
自動引落日バッチの処理	W03B571A	「自動引落日」(G03B131)、 「自動引落日の処理」	外貨建て自動引落日を 処理します。
バージョンの追加	W98305WH	「自動引落日バッチの処 理」フォームで、「追加」をク リックします。  バージョンに関する識別子 情報を入力し、「OK」をク リックします。	自動引落日バッチを作成す るためのバージョンを識別 して実行します。

## 外貨建て自動引落しの処理

バッチ・バージョンの処理プログラムにアクセスし、バージョンを選択します。

## 外貨建て払戻しの生成

この項では、外貨建て払戻しの概要、事前設定、および外貨建て払戻しの生成方法について説明します。

### 外貨建て払戻しについて

払戻しを使用して JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムで過入金を再分類し、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムで未払伝票を作成します。払戻しを作成すると、未決済のクレジット・メモに対して支払が行われ、顧客への払戻し伝票が作成されます。

データ選択を使用して、払戻しを作成するレコードを指定します。払戻しが作成されるのは、金額がマイナスである場合のみです。払戻しは、顧客、会社および通貨の組合せに基づいて生成されます。

#### 例: 払戻しのデータ選択

売掛金元帳テーブル (F03B11) に次のレコードがあるとしています。

顧客	会社	通貨コード	金額	伝票タイプ
4272	00001	USD	200.00	RI
4272	00001	USD	-100.00	RM
4272	00001	EUR	50.00	RI
4272	00001	EUR	100.00	RI
4272	00001	EUR	-200.00	RM
4272	00010	USD	80.00	RI
4272	00010	EUR	-150.00	RM
4272	00010	EUR	180.00	RI

顧客番号 4272、会社 00001 および通貨コード EUR のデータ選択を使用して払戻しを生成します。顧客番号 4272、会社 00001 および通貨 EUR に基づいて 50.00 EUR の払戻しが生成されます。払戻しが生成されるのは、顧客の勘定科目の残高がマイナスであるためです。残高がプラスである場合、払戻しは生成されません。

顧客番号 4272 および伝票タイプ RM のデータ選択を使用して払戻しを生成します。顧客 4272 には、次の 3 つの払戻しが生成されます。

- 顧客番号 4272、会社 00001、通貨 USD に基づいた 100.00 USD の払戻し
- 顧客番号 4272、会社 00001、通貨 EUR に基づいた 200.00 EUR の払戻し
- 顧客番号 4272、会社 00010、通貨 EUR に基づいた 150.00 EUR の払戻し

伝票タイプRMを指定したため、顧客の勘定科目の残高は考慮されません。

## 外貨建て払戻しの生成

「期末処理」(G03B21)の「払戻しの作成」を選択します。

---

## 外貨建て受取手形の処理

この項では、外貨建て受取手形の概要を説明します。

### 外貨建て受取手形について

ほとんどの国で、手形は債務に対する支払約束を意味します。手形処理は多くの国で使用されていますが、国によって呼び名が異なる場合もあります。たとえば、通常、アジア太平洋地域では手形処理は先日付小切手に使用されます。米国では、クレジット・カード支払に使用されます。

請求書の取引通貨が手形と同じであれば、外貨建て手形を処理できます。請求書の取引通貨により、手形処理全体で使用する通貨が決まります。請求書の取引通貨が外貨である場合、外貨建て手形として印刷、取立および回収する必要があります。このため、手形は代替通貨では処理できません。

顧客によって外貨建て手形が引き受ける必要があるかどうかに応じて、手形を手入力で、または自動的に処理できます。

### 外貨建て手入力手形入金

手入力手形は、銀行に持ち込む前に顧客の引受を得る必要があることから、顧客引受手形とも呼ばれます。

「手形入力」フォームで手入力手形を入力する場合、通貨が請求書の取引通貨と一致する必要があります。取引通貨が外貨である場合、「手形入力」フォームで「外貨」チェックボックスが選択されます。「手形入力」フォームは「入金の入力」フォームと似ています。

### 外貨建て自動手形入金

自動手形は、顧客が引き受ける必要がないことから、事前承認手形とも呼ばれます。自社と顧客との間で、顧客側が手形を使用して支払う旨を事前に同意します。

自動手形は、バッチ手形の作成プログラム(R03B671)を実行して作成します。自動手形を作成すると、これらは請求書の取引通貨で処理されます。取引通貨が外貨である場合、手形は外貨で処理されます。

### 偶発債務を伴う外貨建て手形

顧客の銀行から手形代金を回収するためには、取引銀行に手形を持ち込みます。手形の実際の満期日前に銀行に対して支払を求める場合、国によっては、偶発債務として計上することが求められます。

偶発債務を伴う外貨建て手形を取り立てる前に、手形取立プログラム(R03B672)を実行します。「取立」フォームで次のように処理オプションを設定します。

- ・ 手形勘定用AAI。「2」(偶発)に設定し、偶発債務の仕訳を作成します。
- ・ 為替レートの一時的変更。必要に応じて、為替レートの一時的変更を入力します。

このフィールドを空白にすると、F0015テーブルから為替レートが取得されます。

複数の通貨で手形を取り立てる場合、期日合計カラムおよび顧客合計カラムが「\*」でレポートが印刷されます。取立バッチを承認して転記すると、外貨建て損益の仕訳が作成されます。

偶発債務を伴う国内通貨建て手形とは異なり、偶発債務を伴う外貨建て手形の手形取立処理時に損益が記録されます。(偶発債務を伴わない外貨建て手形の場合、回収処理時に損益が記録されます。)

### 外貨建て手形および処理オプション

外貨建て手形処理に固有の処理オプションに関する情報は、次の表を参照してください。

手形処理プログラム	多通貨処理オプション
手形入力(自社)(P03B602) 手形入力(顧客)(P03B602)	<p>「表示」タブで、手形を引き受けた後、「手形入力」フォームで入力した通貨コードを保持するための「通貨コード」処理オプションを設定します。</p> <p>「表示」タブで、手形を引き受けた後、「手形入力」フォームで入力した為替レートを保持するための「為替レート」処理オプションを設定します。</p> <p>「通貨」タブで、為替レートを取得するのに使用する有効日付と手形に入力された元帳日付を照合するための「有効日付チェック」処理オプションを設定します。</p>
請求書印刷(手形)(R03B5051)	「通貨オプション」タブで、通貨金額および通貨コードがある請求書を印刷するための「通貨の印刷」処理オプションを設定します。
手形の回収(状況更新)(R03B680)	<p>「為替レート」タブで、「為替レートの一時変更」処理オプションでスポット・レートを指定するか、このフィールドを空白にしてF0015テーブルから為替レートを取得します。</p> <p>この為替レートは、請求書の通貨とは関係なく、外貨建て請求書に対して支払う手形に使用され、偶発債務なしで取り立てられた手形に対してのみ適用されます。</p>
手形取立(R03B672)	<p>「取立」タブで、「為替レートの一時変更」処理オプションでスポット・レートを指定するか、このフィールドを空白にしてF0015テーブルから為替レートを取得します。</p> <p>この為替レートは、偶発債務の仕訳の作成に使用され、偶発債務ありで取り立てられた手形に対してのみ適用されます。</p>

## 外貨および代替通貨建て入金の転記

この項では、外貨および代替通貨建て入金の転記処理の概要と、外貨および代替通貨建て入金の転記方法について説明します。

### 外貨および代替通貨建て入金の転記処理について

外貨および代替通貨建て入金を処理した後、これらを転記する必要があります。

外貨および代替通貨建て入金を転記すると、入金転記プログラムの事前転記により、売掛管理固定情報プログラム(P0000)から売掛金の集計方式が取り込まれます。集計方式が「B」(バッチ)である場合、バッチ内に外貨または代替通貨建て入金がないかどうかを検証されます。少なくとも1つの外貨または代替通貨建て入金がある場合、事前転記により、バッチの売掛金の集計方式が「S」(支払項目)に変更され、処理が続行されます。事前転記によってこのような処理が行われるのは、バッチ内の1つ以上の入金が外貨または代替通貨建てである場合、集計方式「B」を使用して転記を行うことができないためです。

多通貨処理を使用するかどうかにかかわらず、入金の転記プログラムにより、次の表に記載されたタスクが実行されます。多通貨環境での入金の転記に固有の情報は、この表の「多通貨処理に関する考慮事項」列を参照してください。

入金の転記によって実行されるタスク	多通貨処理に関する考慮事項
入金見出しテーブル(F03B13)と入金明細テーブル(F03B14)から未転記入金取引を選択します。	なし。
バッチの状況が承認済であることを確認します。	なし。
取引明細テーブル(F0911)で入金額を適切な銀行勘定科目の借方に計上する仕訳を作成します。	F0911テーブルで外貨建て入金額を適切な銀行勘定科目の借方に計上する仕訳を外貨(CA)元帳に作成します。
F0911テーブルで入金額を売掛金勘定の貸方に計上する自動仕訳を作成します。	F0911テーブルでAA(国内通貨)とCA元帳の売掛金勘定を貸方に計上する自動仕訳を作成します。
割引、小額消去、再請求および損金勘定の自動仕訳を作成します。	外貨建て金額のCA元帳で割引、小額消去、再請求および損金勘定の自動仕訳を作成します。
為替差損益は、多通貨環境以外には適用されません。	外貨および代替通貨の為替差損益の自動仕訳を作成します。
少額の四捨五入差異は、多通貨環境以外には適用されません。	必要に応じて、少額の四捨五入差異のための仕訳を作成します。
詳細再換算は、多通貨環境以外には適用されません。	処理オプションに詳細再換算プログラム(R11411)のバージョンを入力した場合は、代替通貨元帳(XA)と、必要に応じてYAおよびZA元帳を更新し、別の転記レポートを生成します。
F0902テーブルの残高を更新します。	なし。
F0911テーブルで転記状況を「P」(転記済)に更新します。	なし。
F03B13テーブルとF03B14テーブルで転記状況を「D」(転記済)に更新します。	なし。
バッチ制御テーブル(F0011)で転記状況を「D」(転記済)に更新します。	なし。

## 通貨銀行勘定科目への入金の転記

多通貨での入金を通貨銀行勘定科目へ転記するには、特定の条件が満たされる必要があります。通貨銀行勘定科目は、特定の通貨コードに割り当てられる勘定科目です。入金を通貨銀行勘定科目へ正常に転記するには、入金の取引通貨が銀行勘定科目の通貨と同じである必要があります。

総勘定元帳の銀行勘定科目が通貨銀行勘定科目である場合、次の条件が満たされれば、入金 は 転記 されます。

- 入金の通貨が請求書の取引通貨と同じである。

入金が外貨建て請求書の国内通貨建て金額に消し込まれる場合、入金 は 転記 されません。たとえば、請求書の取引通貨が米ドル (USD) で、国内通貨が EUR であるとします。請求書の国内通貨 (EUR) で支払を受け取り、通貨銀行勘定科目 (EUR) に入金を入力します。入金を転記すると、請求書の通貨 (USD) と銀行勘定科目の通貨 (EUR) が異なるため、エラー・メッセージが表示されます。

- 入金の通貨が銀行勘定科目の通貨と同じである。

入金と銀行勘定科目の通貨が異なる場合、入金 は 転記 されません。たとえば、請求書の取引通貨がカナダ・ドル (CAD) であるとします。請求書の取引通貨 (CAD) で支払を受け取り、通貨銀行勘定科目 (USD) に入金を入力します。入金を転記すると、入金の通貨 (CAD) と銀行勘定科目の通貨 (USD) が異なるため、エラー・メッセージが表示されます。

転記が失敗すると、「勘定科目に対する通貨コードが正しくありません」というエラー・メッセージがワーク・センターに送信されます。エラーを修正するには、入金の銀行勘定科目を非通貨勘定科目に変更し、転記を再実行する必要があります。

## 入金の転記によって記録されるわずかな四捨五入差異

外貨または代替通貨建て入金を転記すると、わずかな四捨五入差異の自動仕訳が作成される場合があります。これらの四捨五入差異が作成されるのは、外貨または代替通貨建て入金が請求書に対して消し込まれるときに、請求書の国内通貨建て金額が入金の国内通貨建て金額と異なる場合です。四捨五入差異は重要ではありませんが、AAI項目 R8によって指定された四捨五入差異勘定に記録されます。

通常、四捨五入差異は、複数の請求書と1つの入金、または複数の入金と1つの請求書が含まれる取引で発生します。これらの取引では、外貨と国内通貨間または代替通貨と国内通貨間で金額を換算する場合、四捨五入差異が生じる可能性があります。

四捨五入差異を記録するために、入金の転記時に四捨五入差異勘定に自動仕訳が作成されます。四捨五入差異は、請求書ではなく入金に関連付けられます。入金を調整するときに調整が既存の四捨五入金額に影響する場合、新しい四捨五入レコードが作成されます。当初のレコードは変更されません。

## 例: 入金の転記によって記録されるわずかな四捨五入差異

この例では、わずかな四捨五入差異は外貨建て入金 に 記録 されます。為替レートは 1 CAD = 0.73429 EUR です。

フランスの会社が3つの通貨建て請求書をそれぞれ 1,250.00 CAD (917.86 EUR) で入力するとします。この会社は、3,750.00 CAD (2,753.59 EUR) の支払を受け取ります。この会社が国内通貨建て入金額 (2,753.59) を国内通貨建て請求書 ( $917.86 \times 3 = 2,753.58$  EUR) に消し込むと、わずかな四捨五入差異として +0.01 EUR が記録されます。

## 入金および手形の転記によって作成される多通貨仕訳

非通貨固有の入金を転記すると、入金入力プログラム (P03B102) の処理オプションで指定した仕訳作成方法に基づいて取引明細テーブル (F0911) に明細仕訳または集計仕訳が作成されます。ただし、外貨および代替通貨建て入金を転記すると、転記プログラムにより、入金入力プログラムで指定した仕訳作成方法とは関係なく明細仕訳が作成されます。一般会計固定情報プログラム (P0000) で多通貨処理が有効である場合、集計仕訳は作成されません。

入金の転記によって作成される仕訳は、手形の転記によって作成される仕訳と同じです。

### 入金および手形の転記によって作成される多通貨自動仕訳

外貨建て入金および手形と代替通貨建て入金を転記すると、F0911テーブルに自動仕訳(伝票タイプAE)が作成されます。

JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムの外部にある他の転記プログラムとは異なり、入金および手形の転記プログラムでは、入金または手形の転記時にAAI項目に関連付けられた勘定科目のかわりに、入金または手形の入力時に勘定科目IDに関連付けられた勘定科目に基づいて自動仕訳が作成されます。この例外は、入金の転記時に代替通貨の仮勘定に作成される自動仕訳です。

入金と手形の転記によって作成される自動仕訳は、1つの例外を除いて同じです。手形の転記の場合、手形は処理できるのは国内通貨または外貨のみであるため、代替通貨の実現為替差損益および仮勘定の金額は作成されません。

入金および手形の転記では、次の勘定科目についてF0911テーブルで自動仕訳が作成されます。

勘定科目	説明
銀行	転記プログラムは、入金または手形レコードの銀行勘定科目フィールド(GLBA)で略式IDを検索し、対応する銀行勘定科目の自動仕訳を作成します。
実現為替差損益	<p>転記プログラムは、次のフィールドで略式IDを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外貨建て入金および手形レコードの外貨建て入金フィールド(AIDT)</li> <li>代替通貨建て入金レコードの代替通貨入金フィールド(AIDA)</li> </ul> <p>次に、対応する為替差損益勘定の自動仕訳を作成します。</p> <p>外貨建て入金の場合、転記プログラムは、F03B14テーブルの損益額フィールド(AGL)に金額とともに追加レコードを作成します。このレコードは、ユニバーサル・テーブル・ブラウザ(UTB)で検討できます。</p> <p>代替通貨建て入金の場合、転記プログラムは、F03B14テーブルの代替通貨損益額フィールド(AGLA)に金額とともに追加レコードを作成します。このレコードは、UTBで検討できます。</p> <p>転記プログラムは、小額消去金額の損益の自動仕訳は作成しません。</p>
仮	<p>代替通貨建て入金の場合のみです。入金転記プログラムは、必要に応じて、AAI項目R7を使用して代替通貨の仮勘定の自動仕訳を作成します。</p> <p>次の順序で勘定科目を検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入金に入力された会社のR7</li> <li>会社00000のR7</li> </ul>
再請求	転記プログラムは、入金レコードの再請求略式IDフィールド(AIDC)で略式IDを検索し、対応する再請求勘定の自動仕訳を作成します。

勘定科目	説明
損金仮勘定	転記プログラムは、入金レコードの損金略式IDフィールド(DAID)で略式IDを検索し、対応する損金勘定の自動仕訳を作成します。
四捨五入差異	<p>転記プログラムは、入金レコードの端数処理フィールド(RASI)で略式IDを検索し、対応する四捨五入勘定の自動仕訳を作成します。</p> <p>また、転記プログラムは、F03B14テーブルの四捨五入金額フィールド(RAMT)に金額とともに追加レコード(伝票タイプRR)も作成します。このレコードは、UTBで検討できます。</p>

## 外貨および代替通貨建て入金の転記

手動入金、自動入金または自動引落しのいずれかを転記するかに応じて、次のいずれかのナビゲーションを使用します。

「入金処理」(G03B12)の「入金の転記」を選択します。

「自動入金処理」(G03B13)の「入金の転記」を選択します。

「自動引落とし」(G03B131)の「自動引落しの転記」を選択します。

また、バッチを選択してから「ロー」メニューの「バッチ別の転記」を選択することにより、入金仕訳の検討または自動引落とし仕訳の検討プログラムから入金および自動引落としを転記することもできます。

## 第 15 章

# 多通貨の与信および回収管理

この章では、次の方法について説明します。

- 多通貨計算書の作成と検討
- 多通貨延滞通知の作成と検討
- 多通貨延滞利息金の生成と検討
- 多通貨顧客勘定の検討

---

## 多通貨計算書の作成と検討

この項では、多通貨計算書の概要と次の方法について説明します。

- 多通貨計算書の作成
- 計算書データの再作成 (R03B500X) の多通貨処理オプションの設定
- 多通貨計算書の検討
- 与信分析のリフレッシュ・プログラムの実行

## 多通貨計算書について

計算書を作成するには、計算書データの再作成プログラム (R03B500X) を実行して、「年齢調べ」タブの「多通貨」処理オプションを設定して国内通貨と外貨のどちらで計算書を作成するかを指定します。

計算書データの再作成プログラムにより、売掛金通知実績テーブル (F03B20) と売掛金通知実績明細テーブル (F03B21) の金額が更新されます。

作成後、計算書をオンラインで検討できます。国内通貨と外貨のどちらで計算書を作成するかによって、表示される情報が異なります。

- 国内通貨で計算書を作成する場合、計算書を検討すると、国内通貨でのみ全取引と合計金額が表示されます。

たとえば、送金先会社の通貨がカナダ・ドル (CAD)、請求書の取引通貨がユーロ (EUR) だとします。計算書データの再作成プログラムを実行し、国内通貨で計算書を作成します。「計算書の検討」フォームに、取引が CAD で表示されます。

- 外貨で計算書を作成する場合、計算書を検討すると、取引通貨で計算書の取引が表示され、各通貨の合計金額が表示されます。

たとえば、送金先会社の通貨が CAD、請求書および入金の取引通貨が EUR および CAD だとします。計算書データの再作成プログラムを実行し、外貨で計算書を作成します。「計算書の処理」フォームに、取引が請求書の取引通貨である EUR および CAD で表示されます。

## 多通貨計算書の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
計算書の処理	W03B202D	「計算書/延滞通知処理」(G03B22)、「計算書の検討」  QBEローの「通知タイプ」フィールドに「ST」を入力して、「検索」をクリックします。	多通貨計算書を検討します。  計算書を再印刷および再設定することもできます。
計算書の検討	W03B202I	「計算書の処理」フォームで、検討する計算書を選択します。	計算書の取引を検討します。

## 多通貨計算書の作成

「計算書/延滞通知処理」(G03B22)の「計算書データの再作成」を選択します。

## 計算書データの再作成(R03B500X)の多通貨処理オプションの設定

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

### 年齢調べ

#### 13. 多通貨

国内通貨と外貨のどちらで計算書を印刷するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 国内通貨。計算書の取引と合計金額は送金先会社の国内通貨で印刷されます。

たとえば、送金先会社の通貨がカナダ・ドル(CAD)の場合、すべての外貨建て請求書と入金(国内通貨建ての請求書と入金と同様に)CADで計算書に印刷されます。

1: 外貨。計算書の取引は、取引通貨で印刷されます。各通貨の取引と合計金額が印刷されます。

たとえば、送金先会社の通貨がCADの場合、請求書の取引通貨ですべての請求書および入金が計算書に印刷されます。

## 多通貨計算書の検討

「計算書の検討」フォームにアクセスします。

## 与信分析のリフレッシュ・プログラムの実行

「与信/回収管理」(G03B15)の「与信分析のリフレッシュ」を選択します。

## 多通貨延滞通知の作成と検討

この項では、多通貨延滞通知の概要と次の方法について説明します。

- 多通貨での延滞通知の印刷
- 売掛金延滞通知の印刷(R03B20)および階層化延滞通知の印刷(R03B21)の多通貨処理オプションの設定
- 多通貨延滞通知の検討

## 多通貨延滞通知について

与信分析のリフレッシュ・プログラム(R03B525)のバージョンを使用して、延滞通知を印刷し、売掛金通知実績テーブル(F03B20)と売掛金通知実績明細テーブル(F03B21)でレコードを生成します。与信分析のリフレッシュ・プログラムには、延滞通知の処理用の多通貨に特定の処理オプションはありません。通貨コードは、通知のみを生成するために必要な最低金額を決定する方針として使用されます。延滞通知の通貨の決定には、通貨コードは使用されません。延滞通知の請求書の通貨は、印刷する合計とのみ関連します。

- 延滞通知のすべての請求書が同じ通貨の場合、すべての請求書の期限超過金額の合計が印刷されます。
- 請求書の通貨がそれぞれ異なる場合、合計金額は無意味なものになるため印刷されません。

延滞通知は生成後、印刷して通知テーブルを更新する前に、必要に応じて検討および承認または却下できます。

## 多通貨延滞通知の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
計算書の処理	W03B202D	「計算書/延滞通知処理」(G03B22)、「延滞通知の検討」  QBEローの「通知タイプ」フィールドに「DL」を入力して、「検索」をクリックします。	多通貨延滞通知を検討します。延滞通知を再印刷および再設定することはできません。
延滞通知の検討(詳細)	W03B201C	「計算書の処理」フォームで、検討する延滞通知を選択します。  集計情報を検討するには、「ロー」メニューの「要約」を選択します。	延滞通知の請求書を検討します。請求書の基本通貨コードと取引通貨コードが表示されます。

## 多通貨での延滞通知の印刷

「計算書/延滞通知処理」(G03B22)の「延滞通知の印刷」を選択します。

## 売掛金延滞通知の印刷(R03B20)および階層化延滞通知の印刷(R03B21)の多通貨処理オプションの設定

売掛金延滞通知の印刷プログラムおよび階層化延滞通知の印刷プログラムには、同じ多通貨処理オプションがあります。この項では、次の処理オプションについて説明します。

## 印刷

### 通貨タイプ

延滞通知に通貨コードを印刷するか、「TOTAL CURRENCY BALANCE DUE」(合計延滞金額)をスタティック・テキストとして印刷するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: TOTAL CURRENCY BALANCE DUEを印刷する。

1: 通貨コードを印刷する。

## 多通貨延滞通知の検討

「延滞通知の検討(詳細)」フォームにアクセスします。

---

## 多通貨延滞利息金の生成と検討

この項では、多通貨延滞利息金の概要と次の方法について説明します。

- 多通貨延滞利息金の生成
- 延滞利息金の生成の多通貨処理オプションの設定
- 多通貨延滞利息金の検討

### 多通貨延滞利息金について

与信分析のリフレッシュ・プログラム(R03B525)のバージョンを使用して、延滞利息金を処理し、延滞利息金仕訳テーブル(F03B22)と延滞利息金仕訳明細テーブル(F03B23)でレコードを生成します。与信分析のリフレッシュ・プログラムで処理オプションを設定して、延滞利息金を生成する通貨を指定します。延滞利息金は、次のいずれかの通貨で生成できます。

- 会社通貨

請求書に割り当てられた会社の基本通貨です。基本通貨の異なる複数の会社の請求書がある場合は、各通貨に対して延滞利息金が別々に生成されます。

- 顧客通貨

顧客レコードに割り当てられた通貨です。すべての延滞利息金は、顧客マスター・レコードの住所録通貨コード・フィールド(CRCA)で指定された通貨で生成されます。

- 請求書の通貨

請求書の取引通貨です。複数通貨の請求書がある場合は、各通貨に対して延滞利息金が別々に生成されます。

この処理オプションで選択した通貨にかかわらず、各会社に対して通貨コードごとに1件の延滞利息金請求書レコードが作成されます。たとえば、会社00001と会社00003にカナダ・ドルの通貨コードが割り当てられている場合、00001と00003のそれぞれに対してカナダ・ドル建ての延滞利息金請求書が1件ずつ作成されます。

延滞利息金は生成後、情報が延滞利息金テーブルに更新される前に、必要に応じてオンラインで検討して受理および却下できます。

## 多通貨延滞利息金の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
延滞利息金の処理	W03B22A	「計算書/延滞通知処理」(G03B22)、「延滞利息金の検討」	延滞利息金を検討します。フォームには、延滞利息金対象外貨金額、延滞利息金の外貨金額(取引通貨で作成される場合)、および基本通貨コードと取引通貨コードが表示されます。
延滞利息金明細	W03B22B	「延滞利息金の処理」フォームで、延滞利息金を選択します。	延滞利息金の基になる請求書を検討し、その延滞利息金を承認または却下します。

## 多通貨延滞利息金の生成

「計算書/延滞通知処理」(G03B22)の「延滞利息金の生成」を選択します。

## 延滞利息金の生成(R03B525)の多通貨処理オプションの設定

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

### 延滞利息金

#### 7. 延滞利息金の通貨

延滞利息金請求書レコード(伝票タイプRF)の作成時に使用される通貨を指定します。F0015テーブルの最新の為替レートを使用して、指定通貨の延滞利息金が計算されます。値は次のとおりです。

- 1: 会社。請求書に出力された会社割り当てられている通貨で延滞利息金を作成します。
- 2: 顧客。業種別顧客マスター(F03012)の顧客レコードのCRCA(住所録通貨コード)フィールドに設定された通貨で延滞利息金を生成します。
- 3: 請求書。請求書入力時に請求書に割り当てられた通貨で延滞利息金を作成します。

**注意:** この処理オプションで選択した値にかかわらず、各会社に対して通貨コードごとに1件の延滞利息金請求書レコードが作成されます。たとえば、会社00001と会社00003にカナダ・ドルの通貨コードが割り当てられている場合、00001と00003のそれぞれに対してカナダ・ドル建ての延滞利息金請求書が1件ずつ作成されます。

## 多通貨延滞利息金の検討

「延滞利息金明細」フォームにアクセスします。

## 多通貨顧客勘定の検討

この項では、回収管理の検討プログラムの概要、および多通貨顧客勘定の検討方法について説明します。

### 回収管理の検討プログラムについて

請求書の未決済、期日超過および経過日数などの回収情報を生成するには、与信分析のリフレッシュ (R03B525) を実行する必要があります。回収情報を生成した後、オンライン・プログラムを使用して回収活動を検討および管理できます。

- 顧客取引残高照会プログラム (P03B218) を使用して、特定の回収管理者に割り当てられた期限超過の全勘定や、特定の日付における顧客勘定の未決済残高などを確認できます。

次の会社番号に基づいて、「顧客取引残高照会」フォームに顧客金額が表示されます。

- 00000 以外の会社については、会社の通貨で金額が表示されます。
- 会社 00000 については、顧客レコードの「住所録通貨コード」フィールドの通貨で金額が表示されます。

勘定に関する統計情報を検討するには、「ロー」メニューの「顧客取引状況」を選択します。

- 親/子表示プログラム (P03B151) を使用して、親勘定および関連する子勘定の勘定残高情報を検討できます。これには、子勘定の未決済合計金額や、子勘定が割り当てられた与信限度額を超過しているかどうかなどの検討も含まれます。

次のいずれかの会社番号に基づいて、「親/子表示」フォームに顧客金額が表示されます。

- 00000 以外の会社については、会社の通貨で金額が再計算および表示されます。
- 会社 00000 については、顧客レコードの「住所録通貨コード」フィールドの通貨で金額が表示されます。

### 多通貨顧客勘定の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
顧客取引残高照会	W03B218B	「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「顧客取引残高照会」	多通貨顧客勘定を検討します。

### 多通貨顧客勘定の検討

「顧客取引残高照会」フォームまたは「親/子表示」フォームにアクセスします。

## 第 16 章

# 売掛金の為替差損益の処理

この章では、為替差損益の概要、事前設定、および売掛金未実現差損益レポートの生成方法について説明します。

---

## 為替差損益について

為替差損益は、複数の通貨を使用する取引で発生する為替レートの変動に基づきます。次の2つのタイプの為替差損益があります。

- 未実現為替差損益
- 実現為替差損益

未実現為替差損益は、会計期間末に未払請求書と一部しか支払われていない請求書の未決済部分について計算されるのに対し、実現為替差損益は、入金時に計算されます。

## 実現為替差損益の計算

実現為替差損益を計算するには、入金を転記する必要があります。実現為替差損益は、外貨または代替通貨の入金が行われる取引で発生する為替レートの変動に基づいています。入金を転記すると、請求書日付から入金日付までの間には為替レートが変動したかどうかに基づいて差損益が計算されます。為替レートが変動した場合は、差損益の仕訳が作成されます。

実現為替差損益は、請求書に入金を適用するときに計算されますが、総勘定元帳で認識されるのは入金を転記したときです。損益を計算するために、次のように請求書日付から入金日付までに為替レートが変動したかどうか特定されます。

- 請求書日付は、請求書金額の計算のために、為替レートを取り込むために使用された日付です。  
請求書日付は、F03B11テーブルのDGJ(請求書元帳日付)またはDIVJ(請求書日付)になります。P03B0011マスター・ビジネス関数の処理オプションを設定して、請求書の作成に使用する日付を指定します。
- 入金日付は、F03B14テーブルのDGJ(入金元帳日付)フィールドの日付です。  
これは、請求書が支払われた入金明細項目の日付になります。

つまり、システムでは、請求書の作成時に使用された請求書日付(DGJまたはDIVJ)が決定され、その日付を請求書日付として使用して差損益が計算されます。

外貨入金の場合、標準差損益が発生する可能性があります。標準差損益は、請求書の入力日付から支払の入金日付までの間の為替レート差異を請求書金額に乗算または除算して計算されます。

代替通貨の入金が行われる場合は、取引で次の2つの差損益が発生する可能性があります。

- 標準差損益。取引日付から入金日付までの外貨（取引通貨）と国内通貨の為替レート差異に基づく金額です。
- 代替通貨差損益。代替通貨（入金通貨）と国内通貨の為替レート差異に基づく金額です。この差損益は、次の2つの金額の差額になります。
  - 代替通貨の入金を直接国内通貨に換算して算出された金額（銀行口座に実際に入金された金額、または銀行口座から実際に支払われた金額）
  - 代替通貨の入金を外貨に換算し、その外貨を国内通貨に換算して算出された金額

### 例: 外貨建て請求書と外貨入金の実現為替差損益

この例では、英国の会社が米ドル（外貨）で請求書を入力し、米ドル（外貨）で入金を受領します。

為替レート・リスクにより、入金受領時における国内通貨と外貨の為替レートの変動に基づいて、差損益が生じる可能性があります。

内容	通貨	金額	1月1日の為替レート	2月1日の為替レート
請求書（国内通貨）	GBP	303.60		
請求書（外貨）	USD	500.00	1 USD = 0.6072 GBP	
入金（外貨）	USD	500.00		1 USD = 0.6081 GBP
標準差損益	GBP	+0.45		

1月1日の外貨建て請求書は500.00 USDで、その国内通貨金額は303.60 GBPです。

$$500.00 \text{ USD} \times 0.6072 = 303.60 \text{ GBP}$$

2月1日の外貨入金は、500.00 USDです。

### 標準差損益

標準差損益は、+0.45 GBPです。この金額は、請求書日付から入金日付までの為替レートの変動に基づいています。

$$500.00 \text{ USD} \times 0.6081 (\text{入金日付の為替レート}) = 304.05 \text{ GBP}$$

$$500.00 \text{ USD} \times 0.6072 (\text{請求書日付の為替レート}) = 303.60 \text{ GBP}$$

$$304.05 - 303.60 = +0.45 \text{ GBP}$$

### 例: 外貨建て請求書と代替通貨入金の実現為替差損益

この例では、フランスの会社がカナダ・ドル（CAD）で請求書を入力し、日本円（JPY）で入金を受領します。

入金を入力すると、入金金額（JPY）が請求書の外貨金額および国内通貨金額と比較され、請求金額に達しているかどうかを確認されます。この取引に関連している3つの通貨間の為替レートは互いに変動しているため、次のような為替差損益が生じる可能性があります。

- EURとCAD間の標準差損益
- JPY、CADおよびEUR間の代替通貨差損益

内容	通貨	金額	1月1日の為替レート	2月1日の為替レート
請求書(国内通貨)	EUR	356.34		
請求書(外貨)	CAD	500.00	1 CAD = 0.71268 EUR	
入金	JPY	38,850		1 CAD = 0.70882 EUR 1 JPY = 0.009163 EUR 1 JPY = 0.01287 CAD
標準差損益	EUR	-1.93		
代替通貨差損益	EUR	+1.57		

1月1日の外貨建て請求書は500.00 CADで、その国内通貨金額は356.34 EURです。EURの金額は、次のように計算されます。

- $500.00 \text{ CAD} \times 0.71268 = 356.34 \text{ EUR}$

2月1日の代替通貨入金は、38,850 JPYです。

請求書に適用される外貨金額は、500.00 CADです。

- $38,850 \text{ JPY} \times 0.01287 = 500.00 \text{ CAD}$

請求書に適用される国内通貨金額は、354.41 EURです。

- $500.00 \text{ CAD} \times 0.70882 = 354.41 \text{ EUR}$

入金の国内通貨金額は、355.98 EURです。

- $38,850 \times 0.009163 = 355.98 \text{ EUR}$

### 標準差損益

標準差損益は、-1.93 EURです。この金額は、請求書日付から入金日付までの為替レートの変動に基づいています。

$$500.00 \text{ CAD} \times 0.70882 (\text{入金日付の為替レート}) = 354.41 \text{ EUR}$$

$$500.00 \text{ CAD} \times 0.71268 (\text{請求書日付の為替レート}) = 356.34 \text{ EUR}$$

$$354.41 - 356.34 = -1.93 \text{ EUR}$$

### 代替通貨差損益

代替通貨差損益は、+1.57 EURです。この金額は、入金日付の為替レートを使用して算出されます。これは、代替通貨を直接国内通貨に換算した金額と、代替通貨を外貨に換算してから国内通貨に換算した金額の差異に基づいています。

$$38,850 \text{ JPY} \times 0.009163 = 355.98 \text{ EUR}$$

$$(38,850 \text{ JPY} \times 0.01287 = 500.00 \text{ CAD}) \times 0.70882 = 354.41 \text{ EUR}$$

$$355.98 - 354.41 = +1.57 \text{ EUR}$$

## 未実現為替差損益の計算

未決済の外貨建て請求書の未実現為替差損益を記録するには、差損益の仕訳を手動で入力するか、自動的に作成することができます。

未実現為替差損益は、未払請求書または一部しか支払われていない請求書の未決済部分に適用されます。複数の通貨を使用する場合、各会計期間末に未実現為替差損益を記録して、未決済の外貨建て取引を再評価します。これにより、正確なキャッシュ・ポジションを把握して、キャッシュフローを管理できます。

差損益の仕訳を自動的に作成するには、売掛金未実現差損益レポート(R03B426)を実行して次の処理を行います。

- 未決済の外貨建て請求書の再評価
- 未実現為替差損益の詳細分析
- 未実現為替差損益の記録

---

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 「為替レートの改訂」フォームに新しい為替レートを入力します。

参照: [第 6 章、「為替レートの設定」、31 ページ](#)

- 基本通貨が異なる会社ごとに、異なるバージョンの売掛金未実現差損益レポートを作成します。

---

## 売掛金未実現差損益レポートの生成

この章では、売掛金未実現差損益レポートの概要と次の方法について説明します。

- 売掛金未実現差損益レポートの実行
- 売掛金未実現差損益レポート(R03B426)の処理オプションの設定

### 売掛金未実現差損益レポートについて

未実現為替差損益を計算するには、売掛金未実現差損益レポート(R03B426)を実行します。これにより、次のデータを表示するレポートが生成されます。

- 会社の基本通貨と各請求書の取引通貨
- 請求書番号と支払期日
- 各請求書の当初の国内通貨金額と現在の国内通貨金額
- 各請求書の外貨金額
- 各請求書の未実現為替差損益

レポートを生成するために、次のテーブルからの情報が使用されます。

- 売掛金元帳(F03B11)

• 入金明細 (F03B14)

処理オプションで、未実現為替差益、差損または両方のいずれの仕訳を作成するかを指定します。これらの仕訳には、伝票タイプ JX が割り当てられます。これは、通貨 (通貨固有) 勘定の国内通貨側を調整するために使用できる唯一の伝票タイプです。会社ごとに1つの仕訳のみが作成されます。処理オプションをブランクにすると、仕訳は作成されません。

また、特定の日付における未実現為替差損益の仕訳を作成するかどうかも指定できます。この場合、処理オプションで指定した日付時点における未決済請求書が選択され、F03B14 基準日年齢調べサーバー (B03B136) を使用して請求書の国内通貨金額と外貨金額が再計算されます。次に、処理オプションで指定した場合には、未実現為替差損益の仕訳が作成されます。基準日レポートを使用して、期末レポートを生成し、売掛金勘定への未決済請求書の決済などの財務監査要件に対処できます。特定の日付時点での売掛金未実現差損益レポートを実行する場合、レポートの処理にかかる時間が長くなることに注意してください。これは、指定された特定日付における未決済金額が再計算されてから未実現為替差損益が計算されるためです。

**注意:** 最初に、仕訳を作成せずに売掛金未実現差損益レポートを実行してください。レポートを確認し、必要に応じて為替レートを修正します。すべての為替レートの修正が完了するまで仕訳を作成せずにプログラムを実行し、その後、プログラムを実行して未実現為替差損益の仕訳を作成します。

売掛金未実現差損益レポートの実行時に複数の通貨を指定した場合、複数の通貨の合計は意味がないため、外貨金額の合計とその他すべての小計は「\*\*NA\*\*」(該当なし) と表示されます。これを回避するには、基本通貨が異なる会社ごとに異なるバージョンのレポートを設定します。会社ごとに異なるバージョンを設定すると、レポートのサイズを削減できるという利点も得られます。

**重要:** 仕訳の重複を防ぐために、各会計期間について複数の仕訳の作成を許可する処理オプションは設定しないでください。

**例: 外貨建て請求書の未実現為替差損益**

この例では、フランスの会社が、未決済の外貨建て請求書 (米ドル (USD)) の未実現為替差損益を計算します。

為替レート・リスクにより、会計期間末に未決済請求書 (USD) がユーロ (EUR) に再評価されるときに、未実現為替差損益が生じる可能性があります。

内容	通貨	金額	1月1日の為替レート	1月31日の為替レート
請求書 (国内通貨)	EUR	1,135.45	1 USD = 1.13545 EUR	該当なし
請求書 (外貨)	USD	1,000.00	該当なし	該当なし
未決済請求書 (国内通貨)	EUR	1,132.25	該当なし	1 USD = 1.13225 EUR
未実現為替差損益	EUR	-3.20	該当なし	該当なし

1月1日の外貨建て請求書は1,000.00 USDで、その国内通貨金額は1,135.45 EURです。

$1,000.00 \text{ USD} \times 1.13545 = 1,135.45 \text{ EUR}$

この外貨建て請求書は1月31日の時点で未決済であるため、ユーロで再評価されます。

$1,000.00 \text{ USD} \times 1.13225 = 1,132.25 \text{ EUR}$

## 未実現為替差損益

未実現為替差損益は、-3.20 EURです。この金額は、請求書の作成時から、請求書が未決済のままになっている会計期間末までの間の為替レートの変動に基づいています。

取引金額(CA元帳)	当初為替レート	現行為替レート	国内通貨金額 (AA元帳)	差損益
1,000.00 USD	1.13545	該当なし	1,135.45 EUR	該当なし
1,000.00 USD		1.13225	1,132.25 EUR	-3.20

1,000.00 USD × 1.13225 (会計期間末の為替レート) = 1,132.25 EUR

1,000.00 USD × 1.13545 (請求書日付の為替レート) = 1,135.45 EUR

1,132.25 - 1,135.45 = -3.20 EUR

## 売掛金未実現差損益レポートの実行

「月次評価」(G1121)の「売掛金未実現損益レポート」を選択します。

## 売掛金未実現差損益レポート(R03B426)の処理オプションの設定

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

### 処理

- 為替レート日付** F0015テーブルから為替レートを取り込むために使用する日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付が使用されます。
- 為替差損益仕訳の作成** 勘定について、計算済差損益を含む仕訳を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 仕訳を作成しない。  
1: 計算済差損益の仕訳を作成する。  
2: 計算済差損のみ仕訳を作成する。  
3: 計算済差益のみ仕訳を作成する。
- 元帳日付** システムで作成される仕訳で使用する元帳日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、現行期間の最終日が元帳日付として割り当てられます。
- バッチ状況** 「売掛管理固定情報」フォームの「管理者承認」チェックボックスの設定に基づいて、システムで作成される仕訳にバッチ状況を割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 「管理者承認」チェックボックスの設定に基づいてバッチ状況を割り当てる。  
1: 「管理者承認」チェックボックスの設定に関係なく、承認済バッチ状況(A)を割り当てる。

**5. 元帳タイプ**

システムで作成される仕訳に割り当てる元帳タイプを指定します。指定する値は、UDCテーブル09/LTに存在する必要があります。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプAAが割り当てられます。

**6. 基準日**

未払の外貨建て請求書を選択して差損益額を計算するために使用する有効日付、つまり基準日を指定します。

入力した基準日に基づいて、未決済請求書の国内通貨金額と外貨金額が再計算されます。請求書金額が再計算された後、差損益が計算されます。この処理オプションをブランクにすると、基準日処理は行われません。



## 第 17 章

# 外貨建て伝票の入力と処理

この章では、外貨建て伝票の概要と次の方法について説明します。

- 外貨建て伝票の入力
- 外貨および仮定通貨での伝票の検討
- 外貨建て伝票の転記

---

## 外貨建て伝票について

この項では、次の項目について概要を説明します。

- 国内通貨建て取引と外貨建て取引
- 丸めとソフト丸め
- 税抜き外貨建て伝票での国内通貨建て金額の計算方法
- 多通貨バッチ合計
- 多通貨バッチ伝票の処理方法
- 多通貨のEDI受信伝票の処理方法

## 国内通貨建て取引と外貨建て取引について

会社の基本通貨と伝票の取引通貨の関係により、その伝票が国内通貨建て取引であるか、外貨建て取引であるかが決まります。

伝票を入力する際、会社の通貨によって基本(国内)通貨が決まり、伝票の通貨によって取引通貨が決まります。

多通貨の伝票を処理するには、会社名および番号プログラム(P0010)ですべての会社に国内通貨コードを割り当ててする必要があります。会社の通貨コードによって、伝票入力時の伝票の基本通貨が決まります。

### 国内通貨建て伝票

伝票に割り当てた取引通貨が、伝票レコードに入力した会社の基本通貨と同じである場合、その伝票は国内通貨建て取引になります。国内通貨建て伝票の入力時には、取引に外貨が関連していないため、外貨金額のフィールドは更新も表示もされません。

たとえば、会社の基本通貨が米ドル(USD)であるとします。この会社に対する伝票を入力し、取引通貨としてUSDを割り当てます。この場合、会社の基本通貨は伝票の取引通貨と同じです。したがって、この伝票は国内通貨建てになります。

たとえば、会社の基本通貨がUSDであるとします。会社の伝票を入力し、取引通貨として日本円(JPY)を割り当てます。この場合、会社の基本通貨は伝票の取引通貨とは異なります。したがって、この伝票は外貨建てとなります。

割引、税金またはその両方を含む伝票を大量に処理すると、丸めによる差異が急激に増大する場合があります。丸めは、計算が行われるあらゆる取引で実行されます。支払項目が1つの取引では丸めが使用され、支払項目が複数の取引ではソフト丸めが使用されます。

計算の結果、最小通貨単位(米ドルの場合は1セント)と正確に一致しないと、自動的に丸めが行われます。この場合は、次の処理が実行されます。

- ・ 最下位の数値が5以上であれば、切り上げられます。
- ・ 最下位の数値が5未満であれば、切り下げられます。

たとえば、計算結果が0.55672であり、通貨がカナダ・ドル(CAD)の場合、小数点以下桁数は2桁であるため、小数点以下第3位の値を使用して丸め方が決まります。この例では、値が0.56に切り上げられます。一方、値が0.55472の場合は、4を使用して0.55に切り下げられます。小数点以下桁数が2桁の通貨の場合、小数点以下第3位より後の数値はすべて無視されます。

複数の金額の合計を特定の値に等しくする必要がある場合、ソフト丸めを使用して、合計金額になるよう強制的に処理されます。たとえば、100 CADの伝票を3回の支払に分割した場合、3つの支払項目の合計を100にするため、最初の支払項目は33、2番目の支払項目は34、3番目の支払項目は33と計算されます。ソフト丸めが使用されなければ、支払項目に等しく分割できる金額を入力するか、または合計請求金額と等しくない支払項目を送信することが必要となりますが、そのような操作が許容されるとはいえません。

丸めによる悪影響を最小限に抑えるために、支払項目が複数ある伝票にはソフト丸めが使用されます。計算済金額に加算または減算された金額(丸めの結果として)はキャッシュ(メモリー)に保存され、その金額が次の支払項目に加算または減算されます。

- ・ 支払項目の金額が切り上げられた場合は、次の支払項目からその金額が減算されてから支払項目に丸めが行われます。
- ・ 支払項目の金額が切り下げられた場合は、次の支払項目にその金額が加算されてから支払項目に丸めが行われます。

ソフト丸めが行われないと、仕入先に対する過剰支払または支払不足が生じる可能性があります。ソフト丸めによって取引間の過剰支払または支払不足が制御されるわけではありませんが、1つの取引内での丸めによる影響は最小限に抑えられます。ソフト丸めの金額は、伝票間で繰り越されません。

## 税抜き外貨建て伝票での国内通貨建て金額の計算方法について

税抜きの外貨建て伝票を入力すると、単に外貨の総額に為替レートを掛けて、国内通貨建て総額が計算されます。伝票の支払条件により、入力した金額が複数の支払項目に分割される場合には、外貨と国内通貨の両方の総額に対してソフト丸めが実行されます。これにより、外貨の支払項目の合計は、入力した当初の外貨建て金額と等しくなり、国内通貨の支払項目の合計は、入力した当初の外貨建て金額に為替レートを掛けたものと等しくなります。

次の例は、複数の支払項目に分割される外貨建て取引と、複数の支払項目に入力される外貨建て取引の違いを示しています。これらの例では、次の条件が適用されます。

- ・ 米国の会社に対する伝票をCADで入力します。
- ・ 入力する外貨建て金額は100.00 CADです。
- ・ 金額は乗数換算方法を使用して計算されます。
- ・ 為替レートは1.4 (CADからUSD) です。
- ・ システムによって計算される国内通貨金額は、140.00 (100.00 × 1.4) です。

### 例: 複数の支払項目に分割される外貨建て伝票

この例では、伝票に分割支払条件を割り当てます。次の表に示すように、合計金額が3つの支払項目に分割され、1%の割引が計算されます。

支払項目	外貨建て総額	外貨割引	国内通貨建て総額	国内通貨割引
001	33.33	0.33	46.67	0.47
002	33.34	0.34	46.66	0.46
003	33.33	0.33	46.67	0.47
合計	100.00	1.00	140.00	1.40

分割支払条件のある外貨建て伝票を入力すると、分割を実行する前に、外貨の総額を使用して国内通貨の総額が計算されます。実際には、外貨側と国内通貨側で1回ずつ、合計2回の分割が実行されます。

この例では、140.00 USDが3で除算されます (46.666666)。ソフト丸めが実行されるため、国内通貨の支払項目は、上の表のように計算されます。支払項目001の外貨建て総額 (33.33) に為替レート (1.4) を掛けた金額は46.66であり、国内通貨総額 (46.67) と等しくなりません。ソフト丸めにより、分割金額の合計 (46.67 + 46.66 + 46.67) が当初の金額 (140.00) と等しくなります。

### 例: 複数の支払項目に入力される外貨建て伝票 (分割支払条件なし)

この例では、合計金額が複数の支払項目に自動的に分割されるのではなく、ユーザーが複数の支払項目を個別に入力します。

支払項目を入力すると、入力した金額に為替レートが掛けられるため、各支払項目の国内通貨建て金額はそれぞれ異なります。この処理は、支払項目の入力を受け入れたときに実行されます。

次の表に、入力する支払項目を示します。

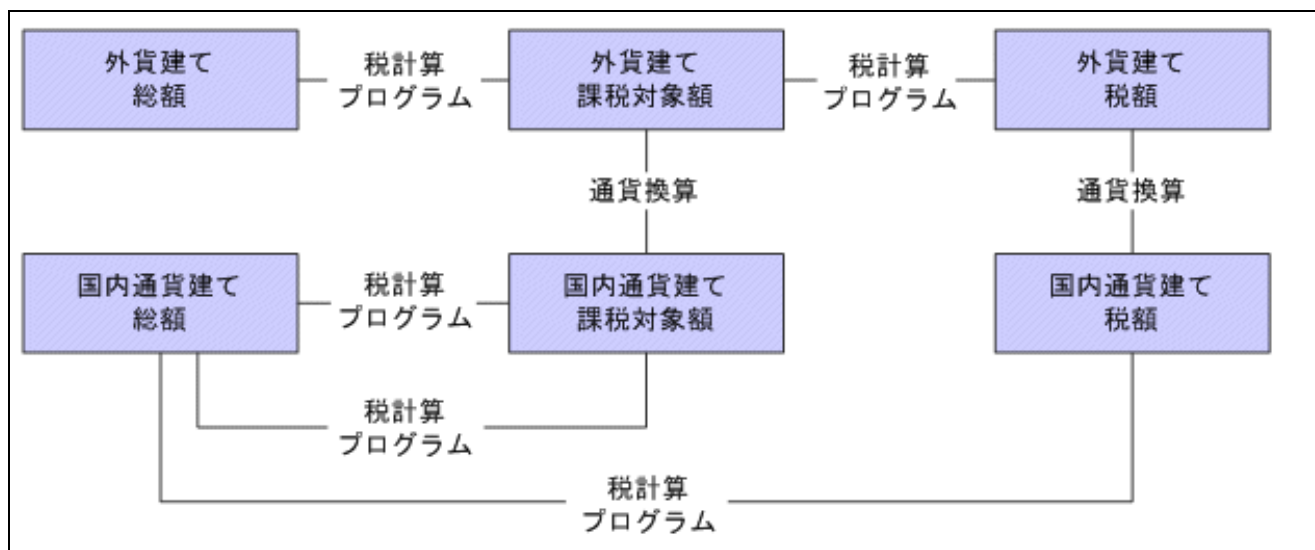
支払項目	外貨建て総額	外貨割引	国内通貨建て総額	国内通貨割引
001	33.33	0.33	46.66	0.46
002	33.34	0.34	46.68	0.48
003	33.33	0.33	46.66	0.46
合計	100.00	1.00	140.00	1.40

各支払項目でソフト丸めが実行され、国内通貨建て金額の総合計は140.00 USDになっていますが、為替レートが合計支払金額にではなく各支払項目に適用されているため、各支払項目の金額は異なります。

## 税付き外貨建て伝票での国内通貨建て金額の計算方法について

税付き外貨建て伝票を入力すると、取引の外貨側で税額と割引額が計算されます。これらの税額と割引額を使用して、取り込まれた為替レートによって取引の国内通貨側の税額と割引額が計算されます。請求書または伝票に複数の支払項目が含まれる場合、取引の外貨建て金額と国内通貨建て金額が計算された後、ソフト丸めが実行されます。

次の図は、外貨で入力した取引の税額と総額がどのように計算されるかを示しています。



税付き外貨建て取引

外貨課税対象額が入力されました。税額および総額を算出するために、次の計算が実行されます。

- 外貨建て課税対象額に税率を掛けて、外貨建て税額を算出します。
- 外貨建て課税対象額と税額を合計して、外貨建ての総額を算出します。
- 外貨建て課税対象額と税額に、通貨コードと為替レート日付に基づいて決定された為替レートを掛けて、国内通貨建て課税対象額と税額を算出します。
- 国内通貨建て課税対象額と税額を合計して、国内通貨建ての総額を算出します。

**注意:** 国内通貨建ての総額は、外貨建て総額に為替レートを掛けて算出されるわけではありません。

### 例: 税付き外貨建て伝票

この例の詳細は次のとおりです。

- 米国の会社に対する伝票をユーロ (EUR) で入力します。
- 金額は除数換算方法を使用して計算されます。
- EURからUSDへの為替レートは0.8900757です。
- 税率は5%です。
- 税タイプは売上税です。

次の表に、この取引の詳細を示します。

取引	総額	課税対象額	税
外貨	1,527.75	1,455.00	72.75
国内通貨	1,716.42	1,634.69	81.73

システムによって次の処理が行われます。

- 総額が計算されます。 $1,455.00$  (課税対象額) +  $72.75$  (税額) =  $1,527.75$
- 国内通貨建ての課税対象額が計算されます。 $1,455.00 \div 0.8900757 = 1,634.6924$  ( $1,634.69$ に四捨五入)
- 国内通貨建ての税額が計算されます。 $72.75 \div 0.8900757 = 81.73462$  ( $81.73$ に四捨五入)
- 国内通貨建ての総額が計算されます。 $1,634.69$  (課税対象額) +  $81.73$  (税額) =  $1,716.42$

**注意:** 外貨建て総額 ( $1,527.75$ ) を為替レート ( $0.8900757$ ) で除算して国内通貨建て金額が算出されると、結果は  $1,716.42$  ではなく  $1,716.43$  になります。また、国内通貨建ての課税対象額 ( $1,634.69$ ) と税額 ( $81.73$ ) の合計が国内通貨建ての総額と一致しくなくなります。

## 多通貨バッチ合計について

データ入力に柔軟性があるため、同じバッチに異なる通貨で取引を入力できます。JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理でバッチ制御を必須に設定すると、仕訳の借方金額がバッチ合計に加えられます。バッチ金額は、通貨に依存しません。

同じバッチに異なる通貨の伝票を入力した場合、各通貨の小数点以下桁数は調整されません。この結果、バッチ合計は意味をなさなくなります。このため、多くのユーザーは、通貨が異なる取引をそれぞれ別のバッチに入力する方法を選択します。

小数点以下桁数が異なる通貨を含むバッチの予想合計を算出するには、小数点を使用せずに金額を加算し、その金額を「バッチ制御」フォームの「予想合計」フィールドに入力します。

たとえば、 $10,535.00$  EURの取引と $16,433,500$  JPYの取引を同じバッチに入力します。この場合、ユーロ金額の小数点は無視され、ハッシュ合計が計算されます。「バッチ制御」フォームの「実際の入力合計」フィールドに表示される入力金額の合計は、 $17,487,000$  ( $1053500 + 16433500$ ) になります。

「バッチ制御」フォームの「実際の入力合計」フィールドには、データ辞書項目AICU (入力合計) に基づいて小数が表示されます。この例の金額の場合、項目AICUの「小数点以下桁数」フィールドを「0」に設定すると、「 $17,487,000$ 」と表示されます。このフィールドを「2」に設定すると、「 $174,870.00$ 」と表示されます。

## 外貨建てバッチ伝票の処理方法について

外部ソースからのバッチ伝票入力をJD Edwards EnterpriseOneシステムに正常にアップロードし、処理するには、次のテーブルの各フィールドに適切なデータを提供するカスタム・プログラムを作成する必要があります。

- 伝票アップロード (F0411Z1)
- 仕訳アップロード (F0911Z1)

アップロードした外貨建てバッチ請求書を正常に処理するには、バッチ伝票処理プログラム (R04110Z) で必要となるF0411Z1テーブルの「通貨モード」、「外貨金額」および「為替レート」フィールド間の関係と、金額の計算方法について理解しておく必要があります。

参照: 付録 E、「多通貨バッチ伝票処理のマッピング要件、」 275ページ

必須フィールドをテーブルF0411Z1およびF0911Z1にマッピングした後、バッチ伝票処理プログラムを実行して、F0411テーブルに伝票を生成します。マッピングが正しく行われているかぎり、このプロセスは外貨建て伝票による影響を受けません。

## 外貨建てEDI受信伝票の処理方法について

電子データ交換 (EDI) を使用して、国内通貨建ておよび外貨建ての伝票を処理できます。多通貨の受信伝票を処理するには、取引先からEDI受信テーブル (F47041、F47042およびF47044) に受信したEDI情報のフォーマットを、伝票アップロード・テーブル (F0411Z1) と仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) で使用されるフォーマットに変換するプログラムを実行します。

EDIを介して受信した外貨建て伝票を処理するには、次の受信テーブルで必要とされる多通貨フィールドのマッピング要件について理解しておく必要があります。

- EDI請求書見出し - 受信 (F47041)
- EDI請求書明細 - 受信 (F47042)
- EDI請求書集計 - 受信 (F47044)

参照: 付録 E、「多通貨バッチ伝票処理のマッピング要件、」 275ページ

---

## 外貨建て伝票の入力

この項では、オーダー明細情報入力の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 伝票入力MBF (P0400047) の多通貨処理オプションの設定
- 外貨建て伝票の入力
- 外貨建て伝票の改訂

## 外貨建て伝票の入力について

伝票を外貨で入力するには、買掛金標準伝票入力プログラム (P0411) を使用します。伝票の入力時に通貨コードを割り当てるか、仕入先レコードからデフォルトの通貨コードを自動的に割り当てるができます。

伝票を入力すると、外貨建ての総額に為替レートを掛けて、国内通貨建ての総額が計算されます。デフォルトの為替レートは、F0015テーブルから取り込まれます。このレートは、伝票の入力時に一時変更できません。

伝票入力時に相手勘定の取引勘定を入力しなかった場合は、AAI項目PCのデフォルトの取引勘定が割り当てられます。仕入先ごとに固有の取引勘定を設定できます。これにより、伝票入力時に仕入先マスター・レコードに指定されている相手勘定が自動的に使用されるようになります。

### 外貨建て定期伝票の再作成

外貨建ての定期伝票を再作成する際には、定期伝票の再作成プログラム(R048101)で、元の伝票の為替レートを使用して新しい定期伝票が作成されることに留意してください。F0015テーブルの為替レートは使用されません。

為替レートの変動によっては、定期伝票の外貨建て金額が不正確になり、損益が正しくなくなる可能性があります。

### 年累計伝票金額の更新時に表示されるエラーメッセージの修正

年累計伝票金額の更新プログラム(R04820A)を実行して仕入先の住所録の金額を更新すると、次の理由により、通貨固有のエラーが発生する場合があります。

- 仕入先レコードの「住所録通貨コード」フィールドに、通貨コードが入力されていません。  
このフィールドにより、年累計伝票金額の通貨が決まります。
- 仕入先レコードの「住所録通貨コード」フィールドで通貨コードを変更しましたが、有効な為替レートがF0015テーブルに存在しません。

これらのエラーを修正して、プログラムを再実行します。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 各会社について、AAI項目PBおよびPCが設定されていることを確認します。  
参照: 第 10 章、「多通貨処理の買掛管理の設定」、「買掛金勘定のAAIの設定」、97ページ
- 仕入先の請求書が代替通貨建てである場合に、国内通貨建てまたは外貨建ての購買オーダーをどのように処理するかを確認します。

## 外貨建て伝票の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
伝票入力-支払情報	W0411A	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「標準伝票入力」  「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。	外貨で伝票を追加します。
勘定科目情報	W0411K	伝票を入力した後、「伝票入力-支払情報」フォームで「OK」をクリックします。	伝票金額を配賦する勘定科目を追加します。

## 伝票入力MBF(P0400047)の多通貨処理オプションの設定

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

### 通貨

- 1. 多通貨支払項目に対する税入力**

多通貨伝票で税(VAT)の入力を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 入力を不可にする。

1: 入力を可にする。
- 2. 為替レート日付**

通貨の為替レートを取り込むために使用する日付を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 請求書日付。

1: 元帳日付。
- 3. 為替レートの取込み**

伝票の為替レートがF0015テーブルで設定されている為替レートの有効日付と異なる会計期間にある場合、警告を表示するかどうかを指定します。たとえば、会計期間パターンをカレンダーの月にあわせて設定し、元帳日付が12月15日の伝票を入力すると、前回の為替レート有効日付が11月1日の場合、警告を表示するように指定できます。警告メッセージは、F0015テーブルの為替レートが期限切れであることを警告します。為替レートは、必要に応じて上書きできます。値は次のとおりです。

ブランク: 警告メッセージを表示しない。

1: 警告メッセージを表示する。
- 4. 為替レート許容限度**

伝票入力時の為替レートの変更に対する許容範囲を指定します。計算された金額が指定した許容範囲内でない場合は、請求書入力時に警告メッセージが表示されます。

たとえば、為替レートの変更を5%まで認める場合は「5.0」と指定します。前回入力した為替レートと6%異なる値を入力すると、警告メッセージが表示されます。これにより、入力為替レートが妥当であるかが確認され、データ入力ミスと考えられる場合に警告されます。
- 5. 通貨の不一致**

支払通貨と伝票に入力されている銀行勘定の通貨が異なる場合に、支払通貨をどのように処理するかを指定します。この処理オプションは、伝票照合なしで支払を手動入力した場合にのみ使用されます。値は次のとおりです。

ブランク: エラーを表示する。

1: 異なる通貨を許可し、メッセージを表示しない。

## 外貨建て伝票の入力

「伝票入力 - 支払情報」フォームにアクセスします。

**標準伝票入力 - 伝票入力 - 支払情報**

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

伝票No./タイプ/会社 3151 PV 00001 バッチNo. 5978 前の伝票

会社番号 \* 00001 Financial/Distribution Company

仕入先No. \* 4002 Aluminium de Rhone ビジネスユニット 1

請求書No. 50114 ☐ 割引率 デフォルト支払条件

請求書日付 2005/06/15 元帳日付 \* 2005/06/20 サービス/税日付 2005/06/20

通貨 EUR 為替レート 1.1820331 基本 USD ☒ 外貨

**レコード 1 - 4** [グリッドのカスタマイズ](#)

	支払項目	総額	支払条件	割引可能額	備考	期日	支払状況
<input checked="" type="radio"/>	001	2,000.00	002		Materials	2005/07/15	#
<input type="radio"/>	002	580.00	002		Parts	2005/07/15	#
<input type="radio"/>	003	210.00	002		Shipping	2005/07/15	#
<input type="radio"/>	004						

総額 2,790.00 割引 税額 課税対象

「伝票入力 - 支払情報」フォーム

## 通貨

伝票の通貨コードを入力します。このフィールドを空白にすると、仕入先のデフォルトの通貨コードが割り当てられます。

外貨建て伝票の国内通貨建て金額を入力するには、「通貨」フィールドに国内通貨コードを入力する必要があります。

入力した通貨コードと、会社の基本通貨に対するその通貨の関係に基づいて、「外貨」チェックボックスが更新されます。

## 為替レート

必要に応じて、このフィールドにスポット・レートを入力します。入力しない場合、このフィールドが空白のままになると、F0015テーブルから為替レートが取得されます。

## 外貨

このチェックボックスは、基本通貨コード以外の通貨コードを入力すると自動的に選択されます。外貨建て伝票の国内通貨側を入力するには、フォームの詳細グリッドにある「総額」フィールドに値を入力する前に、このチェックボックスの選択を解除します。

## 総額

伝票の金額を外貨または国内通貨で入力します。外貨建て伝票の国内通貨建て金額を入力するには、総額を入力する前に「外貨」チェックボックスの選択を解除します。

## 銀行勘定科目（総勘定元帳の銀行勘定科目コード）

伝票の支払を行う銀行勘定科目コードを入力します。このフィールドを空白にすると、AAI項目PBと伝票に入力されている会社番号に基づいて、銀行勘定が取り込まれます。

銀行勘定は、仕入先と同じ通貨が設定されている任意の通貨銀行勘定に変更できます。銀行勘定の通貨と伝票の取引通貨が一致しているかどうかは照合されます。

銀行勘定は、伝票の会社と同じ国内通貨が設定されている会社内の任意の非通貨銀行勘定に変更できます。銀行勘定の通貨が伝票の取引通貨であるかぎり、その銀行勘定から外貨建て伝票を支払うことができます。

## 外貨建て伝票の改訂

この項では、外貨建て伝票の通貨コードを改訂、削除、無効化および変更する方法について説明します。

### 外貨建て伝票の改訂、削除および無効化

未転記の外貨建て伝票を改訂できます。未転記の外貨建て伝票を改訂するには、スピード・リリース・プログラム (P0411S) または買掛金標準伝票入力プログラム (P0411) を使用します。買掛金標準伝票入力プログラムを使用して外貨建て伝票を改訂する場合は、金額フィールドを改訂するかどうかに関係なく、買掛金元帳テーブル (F0411) の伝票為替レートに基づいて国内通貨建て金額が再計算されます。

未転記の外貨建て伝票を削除できます。外貨建て伝票を削除すると、外貨側と国内通貨側のデータが同時に削除されます。

転記済の外貨建て伝票を無効にすることができます。外貨建て伝票を無効にすると、外貨建て金額と国内通貨建て金額の両方がゼロに設定されます。

### 外貨建て伝票の通貨コードの変更

伝票が転記済であるかどうかに関係なく、外貨建て伝票を入力した後に通貨コードを変更することはできません。

通貨を変更するには、正しい通貨コードを指定した新しい伝票を入力し、間違った伝票を削除 (未転記の場合) または無効化 (転記済の場合) する必要があります。

---

## 外貨建ておよび仮定通貨での伝票の検討

この項では、外貨建て伝票の照会の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 仕入先元帳照会 (P0411) の多通貨処理オプションの設定
- 外貨および仮定通貨での伝票の検討

### 外貨建て伝票の照会方法について

仕入先元帳照会プログラム (P0411) を使用して、伝票の外貨金額と国内通貨金額の両方を検討します。他の照会プログラムやレポートと同様に、「仕入先元帳照会」フォームの総合計金額は、一度に複数の通貨を表示した場合は無意味なものになります。

### 伝票金額に影響を与える日付

外貨建て伝票を検討する前に、「仕入先元帳照会」フォームに表示される金額に影響を与える様々な日付について理解する必要があります。これらの日付の意味と照会プログラムでの各日付の使用方法を理解することは、伝票の検討時に正しい日付を指定するために役立ちます。表示される伝票金額に影響を与える日付は、次のとおりです。

- 「為替レートの改訂」フォームの有効日付。照会プログラムにより、通貨の最新の有効日付が検索され、対応する為替レートが使用されます。
- 「仕入先元帳照会」フォームの「開始日付」フィールドと「終了日付」フィールド。この日付範囲により、フォームに表示される取引が決定されます。
- 処理オプションの「基準日」。「基準日」がブランクの場合は、照会フォームに入力した終了日付が使用されます。「基準日」処理オプションが終了日付に一時変更されることはありません。

## 仮定通貨処理について

伝票を国内通貨で入力するか外貨で入力するかに関係なく、金額を別の通貨で入力したものとして照会できます。

仮定通貨で金額を検討するには、仕入先元帳照会プログラム(P0411)の処理オプションにデフォルトの通貨コードと為替レート日付を入力する必要があります。これにより、「仕入先元帳照会」フォームに「仮定通貨コード」フィールドが表示されます。

対応する為替レートがF0015テーブルから読み込まれ、伝票の基本通貨(国内通貨)に基づいて仮定通貨金額が計算されます。たとえば、基本通貨がカナダ・ドル(CAD)に設定されている仕入先に対して、米ドル(USD)の外貨建て伝票を入力します。伝票金額をユーロ(EUR)で入力されたものとして検討する場合、CADからEURへの為替レートがF0015テーブルから読み込まれ、仮定金額がEURで計算されます。

照会フォームの「基準日」フィールドは、「仮定通貨」フィールドと連動して機能します。基準日に基づいて、仮定通貨の未払金額が計算されます。

支払が適用されている場合は、基準日と支払の元帳日付が比較され、その日付時点の未払伝票金額が決定されます。

## 事前設定

仕入先元帳照会プログラムの「表示」タブで、対応する処理オプションを設定します。

## 多通貨伝票の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先元帳照会	W0411G	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「仕入先元帳照会」	伝票の外貨金額(税と割引を含む)を検討します。 仮定通貨建て金額を検討します。
伝票入力-支払情報	W0411A	「仕入先元帳照会」フォームで、仕入先を選択します。	仕入先の詳細情報を検討します。 国内通貨建て金額を検討するには、「外貨」チェックボックスの選択を解除します。
勘定科目情報	W03B11C	「伝票入力-支払情報」フォームで、「フォーム」メニューの「勘定科目情報」を選択します。	外貨建て伝票の配賦金額を検討します。最初に、「伝票入力-支払情報」フォームで「外貨」チェックボックスの選択を解除する必要があります。

## 仕入先元帳照会 (P0411) の多通貨処理オプションの設定

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

### 通貨

#### 1. 仮定通貨

「仕入先元帳照会」フォームの「仮定通貨コード」フィールドに表示する仮定通貨を指定します。仮定通貨および為替レート処理オプションの日付に基づいて、国内通貨建て金額が再計算され、フォームの詳細グリッドにある仮定通貨の各カラムに表示されます。

この処理オプションをブランクにすると、「仮定通貨コード」フィールドや仮定通貨のカラムは表示されません。

#### 2. 基準日

仮定通貨と国内通貨の間の為替レートを取り込む際に使用する日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付 (システム日付) が使用されます。為替レートがない場合はエラーとなります。

## 外貨および仮定通貨での伝票の検討

「仕入先元帳照会」フォームにアクセスします。

**仕入先元帳照会 - 仕入先元帳照会** i ?

選択(S) 検索(D) 追加(A) コピー(Y) 削除(D) 開じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

☒ 伝票 ☐ 元帳 ☐ 請求書 ☐ 未払 ☐ 源泉徴収 ☒ 全

☐ 定期伝票 ☐ 集計 ☐ 支払済 ☐ 未払 ☐ 源泉徴収 ☒ 全

バッチ番号 \*  通貨コード \*  ☐ 監査表示

---

レコード 1 - 10 グリッドのカスタマイズ

伝票番号	伝票タイプ	伝票会社	請求書日付	元帳日付	期日	総額	未決済金額	外貨金額	外貨未決済額
3151	PV	00001	2005/06/15	2005/06/20	2005/07/15	1,692.00	1,692.00	2,000.00	2
3151	PV	00001	2005/06/15	2005/06/20	2005/07/15	490.68	490.68	580.00	
3151	PV	00001	2005/06/15	2005/06/20	2005/07/15	177.66	177.66	210.00	
3156	PV	00001	2005/06/15	2005/06/30	2005/07/15	1,903.50		2,250.00	
3157	PV	00077	2005/06/15	2005/06/30	2005/07/15	1,896.60	1,896.60	1,457.20	1
3157	PV	00077	2005/06/15	2005/06/30	2005/07/15	11,323.91	11,323.91	8,700.40	8
3174	PV	00075	2005/01/15	2005/01/20	2005/02/14	78,500.00	78,500.00		
3176	PV	00075	2005/06/15	2005/06/30	2005/07/15	85,641.23		65,800.00	
3179	PV	00075	2005/02/08	2005/02/25	2005/03/10	120,163.31	120,163.31	85,600.00	85
3180	PV	00075	2005/03/01	2005/03/25	2005/03/31	63,825.47	63,825.47	45,000.00	45

「仕入先元帳照会」フォーム

「仕入先元帳照会」フォームで、次の処理が行われます。

- 同じ取引通貨が指定されている伝票のみに検索を制限した場合にのみ、外貨建て金額合計が表示されます。取引通貨が異なる場合、外貨建て合計金額は表示されません。
- 同じ基本通貨が指定されている伝票のみに検索を制限した場合にのみ、有用な総合計が表示されます。基本通貨が異なる場合、総額は表示されません。
- 対応する処理オプションを設定し、フォームに「仮定通貨コード」フィールドが表示されている場合、国内通貨と外貨以外の通貨で金額が計算され、表示されます。請求書の基本(国内)通貨に基づいて、仮定通貨建て金額が計算されます。通貨コードを変更すると、別の仮定通貨で金額を表示できます。

<b>通貨コード</b>	伝票に割り当てられている会社の通貨コードが表示されます。これは、伝票の国内通貨です。
<b>外貨金額</b>	取引通貨と為替レートに基づいて、伝票の総額が表示されます。
<b>外貨未決済額</b>	未払の伝票の外貨金額が表示されます。
<b>割引可能額(外貨)</b>	期日までに支払った場合に伝票金額から割引かれる外貨金額が表示されます。
<b>仮定通貨コード</b>	伝票金額を表示するために使用する通貨コードを入力します。  このフィールドは、仕入先元帳照会(P0411)の「仮定通貨」処理オプションに値を入力した場合に表示されます。総額、未払金額、および割引可能額が指定された通貨に換算され、仮定通貨の各フィールドに表示されます。「基準日」処理オプションに指定された日付を使用して為替レートが取り込まれ、仮定金額が計算されます。
<b>仮定金額</b>	「仮定通貨コード」フィールドに指定された通貨に換算された伝票の総額が表示されます。
<b>仮定未決済額</b>	「仮定通貨コード」フィールドに指定された通貨に換算された伝票の未決済金額が表示されます。
<b>仮定割引可能額</b>	「仮定通貨コード」フィールドに指定された通貨に換算された伝票の割引金額が表示されます。

「伝票入力 - 支払情報」フォームにアクセスします。

<b>通貨</b>	伝票を入力した通貨が表示されます。取引通貨コードと基本通貨コードが異なる場合、伝票は外貨建て伝票になり、それ以外の場合は国内通貨建て伝票になります。
<b>基本</b>	伝票に割り当てられている会社の通貨コードが表示されます。これは、伝票の国内通貨です。
<b>外貨</b>	基本(国内)通貨で金額を検討するには、このチェックボックスの選択を解除します。

## 外貨建て伝票の転記

この項では、外貨建て伝票の転記処理の概要と、外貨建て伝票の転記方法について説明します。

## 外貨建て伝票の転記処理について

外貨建て伝票を入力、検討および承認した後、その伝票を転記する必要があります。

外貨建て伝票を転記すると、総勘定元帳への転記プログラム (R09801) の事前転記によって、買掛管理固定情報プログラム (P0000) から集計方式が取り込まれます。集計方式が「B」(バッチ) である場合は、バッチに外貨建て伝票が含まれていないことが確認されます。少なくとも1つの外貨建て伝票が含まれている場合は、事前転記によってそのバッチの集計方式が「S」(支払項目) に変更され、処理が続行されます。事前転記でこの処理が行われるのは、バッチに外貨建て伝票が含まれている場合、集計方法「B」を使用して転記できないためです。

伝票の転記プログラムでは、多通貨処理を使用しているかどうかに関係なく、次の表に示すタスクが実行されます。多通貨環境での伝票転記に固有の情報については、次の表の「多通貨処理に関する考慮事項」の列に示されている情報を参照してください。

伝票転記によって実行されるタスク	多通貨処理に関する考慮事項
F0411テーブルから未転記伝票を選択します。	なし。
F0911テーブルに対応するレコードがあり、その金額が伝票の金額と一致していることを確認します。	なし。
バッチの状況が承認済であることを確認します。	なし。
F0911テーブルに、買掛金勘定に借方記入する自動相殺仕訳が作成されます。	F0911テーブルに、AA(国内通貨)元帳とCA(外貨)元帳の買掛金勘定に借方記入する自動相殺仕訳を作成します。
詳細再換算は、多通貨環境以外には適用されません。	処理オプションに詳細再換算プログラム (R11411) のバージョンを入力した場合は、代替通貨元帳 (XA) と、必要に応じてYAおよびZA元帳を更新し、別の転記レポートを生成します。
F0902テーブルの残高を更新します。	なし。
F0411テーブルで、伝票の状況を「D」(転記済) に更新します。	なし。
F0911テーブルで、対応するレコードの状況を「P」(転記済) に更新します。	なし。
バッチ制御テーブル (F0011) で、バッチ制御レコードの状況を「D」(転記済) に更新します。	なし。

## 外貨建て伝票の転記

総勘定元帳への転記プログラム (R09801) には、多通貨取引固有の処理オプションはありません。

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

「仕入先および伝票の入力」(G0411) の「伝票の転記」を選択します。

「仕入先および伝票の入力」(G0411) の「伝票仕訳の検討」を選択します。バッチを選択し、「ロー」メニューから「バッチ別の転記」を選択します。

## 第 18 章

# 外貨および代替通貨の支払入力

この章では、多通貨の支払の概要と次の方法について説明します。

- 支払の入力
- 外貨建て支払手形の入力

## 多通貨の支払について

支払処理は、国内通貨、外貨または代替通貨で行うことができます。具体的には、支払の会社の基本通貨と伝票の国内通貨が同じであるかぎり、任意の通貨で支払を処理し、その支払を任意の通貨の伝票に適用できます。

たとえば、会社の基本通貨がカナダ・ドル(CAD)であり、CADで支払を入力するとします。この支払が適用される伝票の国内通貨は、米ドル(USD)です。会社の基本通貨(CAD)と伝票の国内通貨(USD)が異なっているため、この支払入力は許可されません。

伝票	伝票の国内通貨	伝票の外貨
224	USD	USD
226	USD	CAD

この例では、次のようになります。

- 伝票224の国内通貨金額(USD)をCADで支払うことはできません。
- 伝票226の外貨金額(CAD)をCADで支払うことはできません。

いずれの場合も、支払の会社の基本通貨(USD)と伝票の国内通貨が異なっています。

支払を入力するには、支払の会社番号を、基本通貨がUSDに指定されている会社に変更する必要があります。

システムで支払が国内通貨、外貨または代替通貨の支払のいずれであるかがどのように決定されるかを理解するために、次の例を参照してください。これらの例では、支払の会社の基本通貨は、伝票の国内通貨と同じです。

## 外貨および代替通貨の支払と外貨建て手形の入力に使用するプログラム

次の表は、多通貨の支払処理に使用できるプログラムと、各プログラムが外貨支払にのみ使用できるか、または外貨と代替通貨の両方の支払に使用できるかを示しています。

メニュー・オプションと プログラム番号	メニュー	外貨	代替通貨
支払入力(伝票照合あり) (P0413M)	G0412	可	可
支払入力(伝票照合なし) (P0411)	G0412	可	不可
支払グループの作成 (R04570)	G0413	可	可
支払グループの処理 (P04571)	G0413	可	可
支払入力(伝票照合あり) (P0413M) - 手入力手形	G0412	可	不可
支払グループの作成 (R04570) - 自動手形	G0413	可	不可

**注意:** JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの支払プログラムでは、多通貨での会社間決済はサポートされていません。多通貨での会社間決済を入力すると、エラー・メッセージが表示されます。仕訳は転記できません。

## 国内通貨支払について

国内通貨支払とは、伝票の基本通貨と同じ通貨で行う支払です。

次の例では、会社の基本通貨はCADです。次の処理が可能です。

- 伝票221の国内通貨金額(CAD)をCADで支払います。
- 伝票222の国内通貨金額(EUR)をCADで支払います。

伝票	国内通貨建て伝票	外貨建て伝票	国内通貨支払
221	CAD	CAD	CAD
222	CAD	EUR	CAD

この例の伝票の1つには外貨金額(EUR)が設定されていますが、会社の基本通貨(CAD)で行う支払では、伝票の国内通貨金額を支払います。国内通貨支払では、差損益は計算されません。

## 外貨支払について

外貨支払とは、伝票の外貨と同じ通貨で行う支払です。

次の例では、会社の基本通貨はCADです。次の処理が可能です。

- 伝票223の外貨金額(EUR)をEURで支払います。
- 伝票224の外貨金額(USD)をUSDで支払います。

いずれの場合も、支払の会社の基本通貨は伝票の国内通貨と同じです。このため、外貨支払の入力が許可されます。

伝票	国内通貨建て伝票	外貨建て伝票	外貨支払
223	CAD	EUR	EUR
224	CAD	USD	USD

伝票の外貨（この例ではEURとUSD）で行う支払では、伝票の外貨金額を支払います。伝票入力時から支払時までの間に為替レートが変動した場合は、差損益が計算されます。

## 代替通貨支払について

代替通貨支払とは、伝票の外貨または国内通貨とは異なる通貨で行う支払です。

次の例では、会社の基本通貨はCADです。次の処理が可能です。

- 伝票225の国内通貨金額(CAD)をEURで支払います。

**注意:** 伝票に国内通貨金額のみが指定されており、国内通貨以外の通貨で支払を行う場合は、その支払は外貨支払ではなく、代替通貨支払とみなされます。

- 伝票226の外貨金額(USD)をJPYで支払います。

いずれの場合も、会社の基本通貨は伝票の国内通貨と同じです。このため、代替通貨支払の入力が許可されます。

伝票	国内通貨建て伝票	外貨建て伝票	代替通貨支払
225	CAD	CAD	EUR
226	CAD	USD	JPY

伝票の外貨または国内通貨以外の通貨で行う支払では、伝票の国内通貨金額(CAD)と外貨金額(USD)を支払います。伝票入力時から支払時までの間に為替レートが変動した場合は、差損益が計算されます。

## 支払の入力

この項では、外貨および代替通貨の支払入力の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 買掛金支払(P0413M)の多通貨処理オプションの設定
- 外貨の支払入力
- 代替通貨の支払入力

## 外貨の支払入力について

外貨支払とは、伝票の外貨(取引通貨)で行う支払です。支払を入力するときに、支払の外貨を指定します。外貨の支払を入力する場合、支払を処理するには次の条件が満たされている必要があります。

- 支払の外貨と伝票の取引通貨が同じである必要があります。
- 支払の基本通貨と伝票の国内(基本)通貨が同じである必要があります。

たとえば、伝票の国内通貨が米ドル(USD)であるとします。この場合、外貨支払は、基本通貨コードがUSDに指定されている会社に対して行う必要があります。支払通貨と伝票の取引通貨が一致している必要があります。銀行勘定が通貨勘定である場合は、銀行勘定の会社通貨もUSDである必要があります。銀行勘定の会社通貨と支払の基本通貨が異なる場合は、エラー・メッセージが表示され、支払の入力を続行できません。

外貨の支払を入力すると、為替レート・テーブル(F0015)の為替レートに基づいて、または支払レコードにスポット・レートを入力した場合にはそのレートに基づいて、選択した伝票が国内通貨金額に換算されます。

外貨の支払を入力する際には、通常、買掛金支払プログラム(P0413M)を使用して、支払を既存の伝票または伝票グループと照合します。伝票が存在しない場合は、買掛金標準伝票入力プログラム(P0411)を使用します。外貨で支払を入力する場合、支払入力を印刷できます。

### スピード支払入力プログラム

外貨の支払を入力する場合、スピード支払入力プログラム(P0411SV)は使用できません。このプログラムでは、通貨金額または差損益は計算されません。

## 代替通貨の支払入力について

代替通貨支払とは、支払が適用される伝票の国内通貨または外貨とは異なる通貨で行う支払です。

代替通貨の支払処理では、ある通貨で伝票を入力し、伝票の取引通貨と会社の国内通貨とは異なる通貨で支払を行うことができます。このため、元の伝票を無効にする必要がなく、支払と同じ通貨で新しい伝票を入力できます。

たとえば、伝票をユーロ(EUR)で入力しているカナダの会社が、日本円(JPY)で支払を行うことができます。同様に、伝票をJPYで入力しているフランスの会社が、カナダ・ドル(CAD)で支払を行うことができます。いずれの場合も、カナダの会社とフランスの会社は、システムで代替通貨の支払処理を有効に設定しておく必要があります。

代替通貨の支払処理のほとんどは、実際に支払を入力する前に行った設定に基づいています。買掛金支払プログラム(P0413M)の処理オプションで、代替通貨処理を有効にします。

代替通貨の支払を入力するには、買掛金支払プログラムを使用して、支払を既存の伝票に適用する必要があります。支払の入力時に、支払に使用する代替通貨コードを指定します。支払入力(伝票照合あり)プログラムにより、選択した伝票が代替通貨金額に換算され、代替通貨支払を適用できるようになります。伝票金額を換算する際には、為替レート・テーブル(F0015)に保存されている伝票通貨と代替通貨間の為替レートが使用されるか、支払レコードにスポット・レートを入力した場合にはそのレートが使用されます。

代替通貨の支払入力は印刷されません。代替通貨支払は、手動で作成する必要があります。

代替通貨の支払を入力する際、伝票が通貨銀行勘定に割り当てられている場合は、銀行勘定の通貨と伝票の取引通貨が同じでなくてもかまいません。

### スピード支払入力プログラム

代替通貨の支払を入力する場合、スピード伝票入力プログラムは使用できません。このプログラムでは、通貨金額または差損益は計算されません。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 次のAAIが設定されていることを確認します。
  - PGxxx: 外貨実現差益
  - PLxxx: 外貨実現差損
  - P7xx: 代替通貨支払仮勘定
- 買掛金支払プログラム(P0413M)で、代替通貨の支払入力を許可する処理オプションを有効にします。この処理オプションを有効にした後、代替通貨の支払入力に使用する「代替通貨入力」フォームにアクセスできるようになります。

## 外貨または代替通貨の支払入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
支払の処理	W0413MB	「支払処理」(G0412)、「支払入力(伝票照合あり)」	支払入力を確認および改訂します。
支払の手動入力	W0413MA	「支払の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	既存の伝票への支払を入力します。
未払項目の選択	W0413ME	「支払の手動入力」フォームで、「フォーム」メニューの「支払項目」を選択します。	外貨で支払う支払項目を選択します。
代替通貨入力	W0413MD	未払伝票項目を選択した後、「支払の手動入力」フォームの「フォーム」メニューから「代替支払」を選択します。	代替通貨で伝票を支払います。

## 買掛金支払(P0413M)の多通貨処理オプションの設定

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

### 処理

1. 手形入力オプションの表示
 

「支払の手動入力」フォームに「手形入力」チェックボックスを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: チェックボックスを表示しない。

1: チェックボックスを表示する。

### 通貨

1. 代替支払
 

「フォーム」メニューからの「代替支払」の選択を有効にして、代替通貨支払を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 代替支払を有効にしない。代替通貨支払は入力できません。

1: 代替支払を有効にする。
2. 為替レート日付
 

為替レートの有効日付が支払の元帳日付と同じ会計期間内にあることを検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 有効日付を検証しない。

1: 有効日付を会計期間と照合して検証する。有効日付が元帳日付と同じ会計期間内でない場合は、警告メッセージが表示されます。

### 3. 為替レート許容限度

為替レートの許容限度を指定します。支払入力中に、F0015テーブルの為替レートを手動で一時変更できます。この処理オプションでは、入力する為替レートとF0015テーブルの為替レートの間で許容される差異の限度を指定します。値は、為替レートに対する比率(%)を示す整数です。たとえば、「5.0」と入力した場合、F0015テーブルの為替レートとの差異が5%以内の為替レートを入力できます。

## 外貨の支払入力

「支払の手動入力」フォームにアクセスします。

**支払入力(伝票照合あり) - 支払の手動入力**

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

支払番号	89080923	前回支払		バッチ番号	7939
受取人番号 *	4002	Aluminium de Rhone		<input type="checkbox"/> 支払の印刷	
銀行口座番号	1.1110.FIB	First Interstate Bank			
支払金額		備考			
支払日付 *	2005/06/29	<input type="checkbox"/> 手形			
通貨コード	EUR	為替レート	1.1820331	基本	USD <input checked="" type="checkbox"/> 外貨

「支払の手動入力」フォーム

1. 「支払の手動入力」で、通常どおり、見出し領域にある各フィールドに値を入力します。
2. 「通貨コード」フィールドに、外貨支払の通貨コードを入力します。

デフォルト値は、仕入先レコードからの通貨コードです。外貨支払では、正しい為替レートが使用されるようにするために、このフィールドに値を入力する必要があります。システムで、伝票の外貨側と国内通貨側が更新されます。

3. 該当する場合は、「為替レート」フィールドの値をスポット・レートに一時変更します。

F0015テーブルから取り込まれるデフォルトの為替レートは、伝票通貨(「通貨コード」フィールド)と会社の基本通貨(「基本」フィールド)の間の為替レートです。

**注意:** デフォルトの通貨コードと為替レートをすぐに表示するには、フォームの詳細グリッドにカーソルを合せます。それ以外の場合は、デフォルト値は、未払項目を選択してこのフォームに戻った後に表示されます。

4. 「フォーム」メニューの「支払項目」を選択します。
5. 「未払項目の選択」で、外貨で支払う支払項目を選択し、「選択」をクリックします。
6. 「支払の手動入力」フォームで、支払項目の外貨金額を確認します。
7. 支払項目を追加するには、次の手順に従います。

- 支払金額が自動計算されるように処理オプションが設定されている場合、支払項目を追加するには、「支払の手動入力」フォームの「支払金額」フィールドの値をクリアせずにそのままにします。「フォーム」メニューから「支払項目」を選択し、「未払項目の選択」フォームで追加する支払項目を選択します。「支払の手動入力」フォームが再び表示され、追加した支払項目を含む支払金額が再計算されます。
- 支払金額を手入力するように処理オプションが設定されている場合、支払項目を追加するには、「支払の手動入力」フォームの「支払金額」フィールドの値をクリアします。「フォーム」メニューから「支払項目」を選択し、「未払項目の選択」フォームで追加する支払項目を選択します。「支払の手動入力」フォームで新しい支払金額を入力します。

## 代替通貨の支払入力

「支払の手動入力」フォームにアクセスします。

代替通貨の支払入力は、外貨の支払入力と類似しています。

代替通貨の支払を入力するには、次の手順に従います。

1. 「支払の手動入力」フォームで、見出し領域にある各フィールドに値を入力します。
2. 必要に応じて、「支払金額」フィールドに値を入力します。  
このフィールドは、「支払金額の入力」処理オプションで支払金額を手動で入力するように指定されている場合にのみ入力してください。指定しない場合は、このフィールドをブランクにします。これにより、入力を確認した後に支払金額が自動的に計算されます。
3. 「通貨コード」フィールドに、伝票の通貨コードを入力します。  
このフィールドに、代替通貨支払の通貨を入力しないでください。デフォルト値は、仕入先レコードからの通貨コードです。
4. 該当する場合は、「為替レート」フィールドの値をスポット・レートに一時変更します。  
F0015テーブルから取り込まれるデフォルトの為替レートは、伝票通貨（「通貨コード」フィールド）と会社の基本通貨（「基本」フィールド）の間の為替レートです。

---

**注意:** デフォルトの通貨コードと為替レートをすぐに表示するには、フォームの詳細グリッドにカーソルを合せます。それ以外の場合は、未払項目を選択してこのフォームに戻った後、値が表示されます。

---

5. 「フォーム」メニューの「支払項目」を選択します。
6. 「未払項目の選択」フォームで、代替通貨で支払う支払項目を選択し、「選択」をクリックします。
7. 「支払の手動入力」フォームで、「フォーム」メニューから「代替支払」を選択します。
8. 「代替通貨入力」フォームで、「代替支払金額」フィールドをブランクにします。  
フォームのその他のフィールドに値を入力して「OK」をクリックすると、支払金額が自動的に計算されます。
9. 「代替通貨コード」フィールドに値を入力します。
10. 次のフィールドは、スポット・レートを入力した場合にのみ入力してください。
  - 代替→基本通貨への換算レート

- 外貨→代替通貨への換算レート

デフォルトの為替レートは、F0015テーブルから取り込まれます。間接為替処理が設定されており、「為替レートの改訂」フォームで通貨関係に対して「スポット・レートの許可」チェックボックスの選択が解除されている場合は、これらのいずれのフィールドにも為替レートを入力できません。

11. 「OK」をクリックします。

12. 代替通貨金額と為替レートを確認するには、「フォーム」メニューから「代替支払」を選択します。

13. 「取消」をクリックします。

14. 「支払の手動入力」フォームで、選択した支払項目の外貨金額を確認します。

このフォームには、代替通貨金額は表示されません。

15. 支払項目を追加するには、次の手順に従います。

- 支払金額が自動計算されるように処理オプションが設定されている場合、支払項目を追加するには、「支払の手動入力」フォームの「支払金額」フィールドの値をクリアせずにそのままにします。「フォーム」メニューから「支払項目」を選択し、「未払項目の選択」フォームで支払項目を選択します。「支払の手動入力」フォームで、追加した支払項目を含む支払金額が再計算されます。
- 支払金額を手入力するように処理オプションが設定されている場合、支払項目を追加するには、「支払の手動入力」フォームの「支払金額」フィールドの値をクリアします。「フォーム」メニューから「支払項目」を選択し、「未払項目の選択」フォームで支払項目を選択します。「支払の手動入力」フォームで新しい支払金額を入力します。

入力を受け入れた後、「支払の処理」フォームで代替通貨金額を確認できます。「支払金額」フィールドに代替通貨金額が表示され、「通貨コード」フィールドに代替通貨コードが表示されます。

---

## 外貨建て支払手形の入力

この項では、外貨建て支払手形の概要、事前設定、および外貨建て手形の入力方法について説明します。

### 外貨建て支払手形について

手形は、債務に対する支払を約束するものです。手形支払の伝票が処理されると、銀行が手形を処理し、指定日に支払額を振り込む旨を通知する手形伝票が受取人に送られます。

伝票の取引通貨と手形の通貨が同じであるかぎり、手形を外貨で処理できます。伝票の取引通貨によって、手形処理全体で使用される通貨が決まります。このため、手形は代替通貨では処理できません。

支払手形を処理するには、手入力支払または自動支払プログラムを使用します。

### 外貨建て支払手形の入力

手形を入力し、伝票の取引通貨が外貨である場合、「支払の手動入力」フォームの「外貨」チェックボックスが自動的に選択されます。このフォームで、「手形」チェックボックスを選択する必要があります。

手形を伝票の外貨側と照合します。手形は外貨金額で支払われ、銀行勘定ではなく支払手形勘定に記録されます。

外貨建て手形についてF0411テーブルを更新すると、伝票タイプP1の照合伝票が作成され、伝票が決済されます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 「支払の手動入力」フォームに「手形」チェックボックスが表示されるように、買掛金支払プログラムの処理オプションを設定します。
- 支払手形用のAAI項目PDxxを設定します。

## 外貨建て手形の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
支払の処理	W0413MB	「支払処理」(G0412)、「支払入力(伝票照合あり)」	仕入先、通貨コード、支払日付などを基準にして、支払を確認します。
支払の手動入力	W0413MA	「支払の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	外貨建て手形を入力します。

## 外貨建て手形の入力

「支払の手動入力」フォームにアクセスします。



## 第 19 章

# 外貨または代替通貨の自動支払処理

この章では、外貨または代替通貨の自動支払の概要と次の方法について説明します。

- 外貨および代替通貨の支払グループの作成
- 外貨および代替通貨の支払グループの書込みと更新
- 外貨および代替通貨支払の転記

---

## 外貨または代替通貨の自動支払について

伝票の外貨（取引通貨）または代替通貨（伝票の国内通貨または外貨以外の通貨）で自動支払を書き込むことができます。

柔軟な代替通貨支払処理により、ある通貨で伝票を入力し、伝票の取引通貨と会社の国内通貨以外の通貨で支払を行うことができます。このため、国内通貨金額のみの伝票や外貨金額のみの伝票については、元の伝票を無効にする必要がなく、支払と同じ通貨（代替通貨）で新しい伝票を入力できます。

外貨および代替通貨の支払処理における考慮事項の大部分は、実際に支払を書き込む前に行ったAAIと処理オプションの設定に基づいています。外貨または代替通貨の自動支払の書込みは、次のプログラムの処理オプションによって制御されます。

- 支払グループの作成 (R04570)
- 支払グループの処理 (P04571)

支払グループの作成プログラムの処理オプションで、支払を作成する外貨または代替通貨を指定します。代替通貨支払の場合、F0015テーブルに保存されている為替レート（国内通貨から代替通貨、または外貨から代替通貨）を使用して、選択した伝票が代替通貨金額に換算されます。

代替通貨で自動支払を処理する際、伝票が通貨銀行勘定科目に割り当てられている場合は、銀行勘定科目の通貨と伝票の取引通貨が同じでなくてもかまいません。

支払グループの処理プログラムを使用して外貨支払を作成すると、伝票の取引通貨の合計金額を加算して各支払金額が計算されます。

代替通貨支払を作成すると、支払金額は次のように計算されます。

- 伝票の取引通貨の合計金額が加算されます。取引通貨は、国内通貨でも外貨でもかまいません。
- 取引通貨と支払通貨の為替レートを使用して、代替通貨金額が計算されます。為替レートはF0015テーブルから取り込まれます。

たとえば、フランスの会社が2,000.00カナダ・ドル(CAD)の請求書を受領し、代替通貨の米ドル(USD)で支払を行うとします。支払金額を計算するには、次のように、伝票（仕入先の請求書）を為替レート(1.514692)で割ります。

$$2,000.00 \div 1.514692 = 1,320.40 \text{ USD}$$

代替通貨の支払金額は、買掛金照合伝票テーブル(F0413)に保存されます。代替通貨支払が行われるため、F0413テーブルの通貨は、買掛金照合伝票明細テーブル(F0414)の通貨とは異なります。F0414テーブルに保存されている実績為替レートには、外貨から代替通貨金額を計算するために使用される為替レートが含まれています。

支払を書き込むときにエラーが発生した場合は、支払日付の入力後にメッセージが表示されます。外貨および代替通貨支払に固有のエラー・メッセージは、為替レートが見つからないというメッセージです。

## 自動支払の通貨記号

支払を書き込むと、デフォルトの支払手段に割り当てられている印刷プログラムに応じて、印刷される金額にドル通貨記号(\$)付く場合と付かない場合があります。

ドル通貨記号は、デフォルトの支払手段に自動支払印刷 - 小切手 - 標準形式(R04572)印刷プログラムが割り当てられている支払にのみ印刷されます。R04572印刷プログラムは、ドル通貨記号を印刷するようにハードコード化されています。その他すべての印刷プログラムでは、通貨記号なしで金額が印刷されます。たとえば、フランスの支払に対して支払手段Rが設定されており、R04572F2印刷プログラムを呼び出すとします。この場合、ユーロ金額の支払が印刷されますが、通貨記号は付いていません。

支払手段に印刷プログラムを割り当てる際には、プレフィックスRではなくPを指定してプログラム番号を割り当てます(P04572、P04572F2など)。P04572とR04572は同じプログラムを表しています。R04572は、実際に支払を印刷するUBEです。

## 自動支払の日付と為替レート

自動支払を書き込む際には、次の情報に基づいて、使用する為替レートを指定します。

- 支払の元帳日付とその日付に対応するレート

支払の元帳日付の為替レートがF0015テーブルから取り込まれます。為替レートに応じて、差損益が計算されます。

この例では、支払の元帳日付は6月15日で、この日付の為替レートは2.27542です。

取引	外貨金額	為替レート	国内通貨金額
伝票	500.00 GBP	2.27650	1,138.25 CAD
支払	500.00 GBP	2.27542	1,137.71 CAD

伝票の国内通貨金額は1,138.25 CADで、支払の国内通貨金額は1,137.71 CADです。このため、+0.54 CADの実現利益が発生します。

- 特定の有効日付とその日付に対応するレート

指定した日付の為替レートがF0015テーブルから取り込まれます。為替レートに応じて、差損益が計算されます。

この例では、有効日付として6月30日を指定し、この日付の為替レートは2.28551です。

取引	外貨金額	為替レート	国内通貨金額
伝票	500.00 GBP	2.28478	1,142.39 CAD
支払	500.00 GBP	2.28551	1,142.76 CAD

伝票の国内通貨金額は1,142.39 CADで、支払の国内通貨金額は1,142.76 CADです。このため、-0.37 CADの実現差損が発生します。

- 伝票の為替レート

伝票入力時に有効だった為替レートが使用されます。伝票の国内通貨金額と支払の国内通貨金額は同じになるため、差損益は計算されません。

この例では、伝票の為替レートは2.67823です。これと同じ為替レートが支払に使用されます。

取引	外貨金額	為替レート	国内通貨金額
伝票	500.00 GBP	2.67823	1,339.12 CAD
支払	500.00 GBP	2.67823	1,339.12 CAD

日付と為替レートは、支払グループの処理プログラムの処理オプションで指定します。

### 外貨建て自動支払手形

手形を使用して外貨自動支払を処理するには、支払グループの作成プログラムを使用して、伝票の外貨金額に基づく支払グループを作成します。支払グループの書き込みおよび更新時に、外貨金額の手形が書面で作成されます。

## 外貨および代替通貨の支払グループの作成

この項では、外貨または代替通貨の支払グループの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 外貨または代替通貨の支払グループの作成
- 支払グループの作成のデータ順序の設定
- 支払グループの作成(R04570)の多通貨処理オプションの設定

### 外貨または代替通貨の支払グループについて

支払を書き込む前に、支払グループの作成プログラムを使用して支払グループを作成する必要があります。外貨および代替通貨支払の場合、次の基準に従って伝票をグループ化する処理オプションを使用します。

- 伝票に割り当てられている銀行勘定、または一時変更銀行勘定
- 支払通貨(国内通貨、外貨または代替通貨)
- 支払手段

このように伝票をグループ化することにより、異なる通貨と銀行勘定を含む支払グループを作成できます。さらに、支払グループを作成し、外貨または代替通貨専用の銀行勘定から支払を行うこともできます。

### 代替通貨のエラー・メッセージ

支払グループの作成時にエラーが発生した場合、メッセージは支払グループの作成レポートに出力されます。たとえば、カナダの銀行勘定を使用してユーロの支払グループを作成しようとすると、エラー・メッセージが出力されます。

次のエラー・メッセージは、代替通貨支払に固有のメッセージです。

- 代替通貨決済勘定が無効であるか、通貨勘定です。
- 代替通貨決済勘定の会社が取引会社と異なります。
- 代替通貨損益勘定のAAIが無効です。
- 代替通貨損益勘定の会社が取引会社の通貨と異なります。
- 代替支払の通貨と銀行勘定の通貨が一致していません。

### 自動支払の通貨方法

支払グループを作成する際、自動支払に使用する通貨方法を指定します。次の通貨方法があります。

- 銀行勘定科目の通貨単位
- 伝票の国内通貨
- 伝票の外貨
- 現在の国内通貨金額
- 代替通貨金額

通貨方法は、支払グループの作成プログラムの「支払通貨」処理オプションで指定します。

### 銀行勘定科目の通貨単位

通貨方法として銀行勘定科目の通貨単位を選択した場合、伝票の支払通貨は、伝票に割り当てられている銀行勘定が通貨勘定であるか、非通貨勘定であるかに応じて決まります。次の表に、銀行勘定のタイプを示します。

銀行勘定科目のタイプ	説明
通貨銀行勘定科目	<p>通貨銀行勘定科目とは、通貨コードが割り当てられている勘定科目です。通貨銀行勘定科目が割り当てられている伝票については、その銀行勘定科目の通貨で支払を行います。</p> <p>たとえば、基本通貨がUSDに設定されている会社に対して、CADの外貨建て伝票を入力するとします。この伝票に割り当てる銀行勘定科目は、通貨コードCADが指定された通貨勘定科目です。通貨方法として銀行勘定科目の通貨単位を選択した場合、伝票の外貨金額を外貨(CAD)で支払います。</p> <p>次の日付に基づいて、外貨と国内通貨間の差損益が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 支払グループの処理プログラムの処理オプションで指定した元帳日付。この日付を使用して、F0015テーブルで為替レートが検索されます。</li> <li>• 支払グループの処理プログラムの処理オプションで指定した為替レート有効日付。この処理オプションをブランクにすると、元帳日付が使用されます。</li> </ul>
非通貨銀行勘定科目	<p>非通貨銀行勘定科目は、通貨コードが割り当てられていない勘定科目です(銀行勘定の通貨コードがブランクになっています)。非通貨勘定科目が割り当てられた伝票については、伝票の外貨金額を国内通貨で支払います。</p> <p>たとえば、基本通貨がUSDに設定されている会社に対して、CADの外貨建て伝票を入力するとします。この伝票に割り当てる銀行勘定は、通貨勘定ではありません。通貨方法として銀行勘定科目の通貨単位を選択した場合、伝票の国内通貨金額を国内通貨(USD)で支払います。</p> <p>伝票は国内通貨で支払われるため、差損益は計算されません。</p>

## 伝票の国内通貨

通貨方法として伝票の国内通貨を選択した場合、伝票の国内通貨で支払を行います。

たとえば、基本通貨がUSDに設定されている会社に対して、CADの外貨建て伝票を入力するとします。同じ会社に対して、USDの国内通貨建て伝票を入力します。この方法を選択した場合、両方の伝票の国内通貨金額を国内通貨(USD)で支払います。

伝票は国内通貨で支払われるため、差損益は計算されません。

## 伝票の外貨

通貨方法として伝票の外貨を選択した場合、伝票の外貨で支払を行います。

たとえば、基本通貨がUSDに設定されている会社に対して、CADの外貨建て伝票を入力するとします。さらに、基本通貨がGBPに設定されている会社に対して、別のCADの外貨建て伝票を入力します。この方法を選択した場合、両方の伝票の外貨金額を外貨(CAD)で支払います。

次の日付に基づいて、外貨と国内通貨間の差損益が計算されます。

- 支払グループの処理プログラムの処理オプションで指定した元帳日付。この基準日を使用してF0015テーブルから為替レートが取り込まれます。
- 支払グループの処理プログラムの処理オプションで指定した為替レート有効日付。この処理オプションをブランクにすると、元帳日付が使用されます。

## 現在の国内通貨金額

通貨方法として現在の国内通貨金額を選択した場合、伝票の現在の国内通貨金額を国内通貨で支払を行います。

たとえば、基本通貨がCADに設定されている会社に対して、USDで伝票を入力するとします。通貨方法として現在の国内通貨金額を選択した場合、伝票の国内通貨金額を国内通貨(CAD)で支払を行います。差損益が計算されない伝票の国内通貨方法とは異なり、伝票入力時の為替レートと伝票支払時の為替レートが異なる場合には差損益が計算されます。

他の方法とは異なり、元帳日付または為替レート有効日付の処理オプションは使用されません。かわりに、F0015テーブル内の現行(システム日付)為替レートが使用されます。現行為替レートが設定されていない場合は、次の例に示すように、前の為替レートが使用されます。

日付	為替レート
6月1日	1.5
6月15日	2.0
6月30日	2.5

6月10日(現在日付)に伝票を支払う場合、6月10日の為替レートが存在しないため、6月1日の為替レート(1.5)が使用されます。同様に、6月29日に伝票を支払う場合は、6月15日の為替レート(2.0)が使用されます。いずれの例でも、前の日付に関連付けられている為替レートが使用されます。

## 代替通貨金額

通貨方法として代替通貨金額を選択した場合、伝票の国内通貨または外貨ではなく、代替通貨で支払を行います。

たとえば、基本通貨がUSDに設定されている会社に対して、CADの外貨建て伝票を入力するとします。「代替通貨」処理オプションに「JPY」と指定します。この場合、外貨(CAD)でも国内通貨(USD)でもないJPYで伝票を支払います。

代替通貨で伝票を支払う場合、その伝票の取引金額を支払います。取引金額は、伝票に外貨金額と国内通貨金額が含まれている場合は外貨で、国内通貨金額のみが含まれている場合は国内通貨になります。

次の日付に基づいて、差損益が計算されます。

- 支払グループの処理プログラムの処理オプションで指定した元帳日付。この基準日を使用してF0015テーブルから為替レートが取り込まれます。
- 支払グループの処理プログラムの処理オプションで指定した為替レート有効日付。この処理オプションを空白にすると、元帳日付が使用されます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 差損益のAAIを設定します。

参照: 第 10 章、「多通貨処理の買掛管理の設定」、「外貨建て支払の実現為替差損益のAAIの設定」、98ページ

- 支払銀行勘定科目のAAIを設定します。

参照: 第 10 章、「多通貨処理の買掛管理の設定」、「支払銀行勘定科目のAAIの設定」、96ページ

- 国別支払フォーマットを設定します。
- 自動手形について、支払グループの作成プログラムの「支払通貨」処理オプションを伝票の外貨に設定します。

## 外貨または代替通貨の支払グループの作成

「自動支払処理」(G0413)の「支払グループの作成」を選択します。

### 支払グループの作成のデータ順序の設定

適切にグループ化された支払を作成するには、データ順序が次のように設定されていることを確認します。

1. 銀行勘定科目
2. 支払手段
3. 小切手取扱いコード
4. 通貨コード

### 支払グループの作成(R04570)の多通貨処理オプションの設定

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

#### 金額

#### 2. 支払金額範囲の通貨コード

「支払金額範囲」処理オプションに入力した金額の通貨を指定するコードを入力します。指定した金額は、必要に応じて各支払グループの支払通貨に換算されます。

たとえば、米ドルで100から5,000の範囲を指定した場合、この金額範囲は、支払通貨がユーロの支払グループではユーロに、英国ポンドの支払グループでは英国ポンドに、それぞれ換算されます。換算機能により、このプログラムを実行するたびに、作成されるすべての支払グループに対して正しい最低金額および最高金額の照合が行われます。

#### 4. 支払通貨

プログラムでの支払処理に使用する通貨を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 銀行勘定科目の通貨で支払います。通貨勘定の場合、F0901テーブルで銀行勘定科目に割り当てられている通貨になります。非通貨勘定の場合、銀行勘定科目のビジネスユニットが属する会社に割り当てられている通貨になります。たとえば、銀行勘定科目1.1110.BEARの通貨は、ビジネスユニット1が属する会社00001の通貨である米ドル(USD)です。会社00001に対してユーロ(EUR)建ての伝票を入力する場合、ユーロが設定された通貨銀行勘定科目、または基本通貨が米ドルの会社に属する銀行勘定科目のどちらかで支払を処理できます。

1: 国内通貨建ての伝票金額を国内通貨で支払います。たとえば、基本通貨が米ドルである会社00001に対してユーロ建ての伝票を入力した場合、伝票は米ドルで支払われます。

2: 外貨建ての伝票金額を外貨で支払います。たとえば、基本通貨が米ドルである会社00001に対してユーロ建ての伝票を入力した場合、伝票はユーロで支払われます。外貨を持たない伝票の場合は国内通貨で支払われます。

3: 外貨建て伝票の金額を最新レートで国内通貨に換算し、国内通貨で支払います。たとえば、基本通貨が米ドルである会社00001に対してユーロ建ての伝票を入力した場合、外貨(ユーロ)建て金額は本日の有効為替レートに基づいて国内通貨(米ドル)に換算され、米ドルで支払われます。

4: 外貨、国内通貨以外の代替通貨で支払を行います。たとえば、基本通貨が米ドルである会社00001に対してユーロ建ての伝票を入力し、カナダ・ドル(CAD)で支払を行う場合、これは代替通貨での支払となります。「代替通貨コード」処理オプションで、支払通貨を指定してください。

**注意:** この処理オプションで「2」、「3」、または「4」を指定すると、伝票と支払の為替レートが異なる場合には、プログラムによって差損益が計算されます。

最新の国内通貨額で支払をする場合、支払グループの作成プログラムでは、支払日時点の為替レートを使用して、国内通貨建ての支払金額が計算されます。このレートは、実際に支払を行う日付の為替レートとは異なる可能性があります。

#### 5. 代替通貨コード

代替通貨のコードを入力します。「支払通貨」処理オプションで「4」を指定した場合にのみ、この処理オプションに値を入力します。

---

## 外貨および代替通貨の支払グループの書込みと更新

この項では、多通貨支払グループの概要と、次の方法について説明します。

- 支払グループの処理(P04571)の多通貨処理オプションの設定
- 外貨または代替通貨での支払の書込みと更新

### 多通貨支払グループについて

外貨または代替通貨支払の支払グループを作成した後、支払を書き込み、買掛金テーブルを更新して支払情報を反映させる必要があります。支払の確認、書込みおよび更新には、支払グループの作成プログラムを使用します。また、このプログラムを使用して、必要に応じて支払グループから支払を削除したり、支払グループのリセットまたは取消もできます。

この項では、支払グループの処理時における多通貨に関する考慮事項について説明します。

#### 買掛金元帳の更新

支払グループを更新すると、エラーが発生しなかった場合には支払記録が印刷されます。エラーが発生した場合は、支払更新エラー・レポートにメッセージが出力されます。

次のエラー・メッセージは、外貨支払と代替通貨支払に固有のメッセージです。

- 為替レートが設定されていません。
- 支払の書込時と更新時の為替レートは変更できません。

## 外貨または代替通貨での支払処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
支払グループの処理	W04571A	「自動支払処理」(G0413)、 「支払グループの処理」	支払グループのリストとその 状況を確認します。
支払の書込み	W04572A	「支払グループの処理」 フォームで、支払グループ を選択し、フォームのメ ニューから「書込」または 「更新」を選択します。	外貨または代替通貨で の支払の書込みと更新 を行います。

## 支払グループの処理 (P04571) の多通貨処理オプションの設定

この項では、多通貨処理に固有の処理オプションについて説明します。

### 表示

#### 4. 「事前ロード値の指定」 の「通貨コード」

支払グループの作成プログラムによって支払グループに当初割り当てられた支払通貨を指定します。このフィールドに値を指定すると、初期照合の対象がその通貨コードを含む支払グループのみに制限されます。選択条件は「支払グループの処理」フォームのQBE行で変更できます。特定の支払通貨コード(CRCD)を入力するか、この処理オプションをブランクにしてすべての支払通貨を検索します(デフォルト)。

#### 代替通貨金額の表示

支払グループの金額を代替通貨で表示するかどうかを指定します。この換算は表示のためにのみ行われ、「支払グループの処理」フォームの金額表示にのみ影響します。外貨支払を書き込むには、「通貨」タブの処理オプションを指定してください。値は次のとおりです。

ブランク: 支払グループの金額を代替通貨で表示しない。

1: 支払グループの金額を代替通貨で表示する。

#### 代替通貨の有効日付

代替通貨の為替レートの有効日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付(システム日付)が使用されます。

### 通貨

#### 有効日付の指定

外貨または代替通貨の支払を書き込む際に、為替レートを取得するために使用する日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、支払の元帳日付が使用されます。

外貨金額ではなく伝票の国内通貨金額を使用して支払グループを作成する場合、支払日付の為替レートに基づいて為替差損益が計算されます。この場合、国内通貨で支払が行われます。外貨支払ではありません。

**注意:** F0015テーブルに、入力した有効日付に対応する為替レートが存在しない場合、伝票の為替レートが使用されるため、為替差損益は発生しません。

#### 使用する為替レートの指定

外貨支払を書き込むときに、伝票に入力されている為替レートを使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「有効日付の指定」処理オプションに入力した有効日付に関連付けられている為替レートを使用する。

1: 伝票の為替レートを使用する。この値を指定すると、為替差損益は計算されません。

## 外貨または代替通貨での支払の書込みと更新

「支払グループの処理」フォームにアクセスします。

## 外貨および代替通貨支払の転記

この項では、外貨および代替通貨支払の転記処理の概要と、外貨および代替通貨支払の転記方法について説明します。

### 外貨および代替通貨支払の転記処理について

支払を入力した後、または自動支払を処理した後、その支払を転記する必要があります。

外貨または代替通貨支払を転記すると、総勘定元帳への転記プログラム(R09801)の事前転記によって、買掛管理固定情報プログラム(P0000)から集計方式が取り込まれます。集計方式が「B」(バッチ)である場合は、バッチに外貨または代替通貨支払が含まれていないことが確認されます。少なくとも1つの外貨または代替通貨支払が含まれている場合は、事前転記によってそのバッチの集計方式が「S」(支払項目)に変更され、処理が続行されます。事前転記でこの処理が行われるのは、バッチに外貨または代替通貨支払が含まれている場合、集計方法「B」を使用して転記することはできないためです。

総勘定元帳への転記プログラムでは、多通貨処理を使用しているかどうかに関係なく、次の表に示すタスクがこの順序で実行されます。多通貨環境での支払転記に固有の情報については、「多通貨処理に関する考慮事項」のカラムに示されている情報を参照してください。

支払転記によって実行されるタスク	多通貨処理に関する考慮事項
買掛金照合伝票テーブル(F0413)と買掛金照合伝票明細テーブル(F0414)から未転記の支払取引を選択します。	なし。
バッチの状況が承認済であることを確認します。	なし。
F0911テーブルに、支払金額の銀行勘定に貸方記入する自動相殺仕訳を作成します。	なし。
F0911テーブルに、支払金額の買掛金勘定に借方記入する自動相殺仕訳を作成します。	F0911テーブルに、AA(国内通貨)元帳とCA(外貨)元帳の買掛金勘定に借方記入する自動相殺仕訳を作成します。
為替差損益は、多通貨環境以外には適用されません。	外貨および代替通貨の為替差損益の自動仕訳を作成します。
少額の四捨五入差異は、多通貨環境以外には適用されません。	必要に応じて、少額の四捨五入差異のための仕訳を作成します。

支払転記によって実行されるタスク	多通貨処理に関する考慮事項
詳細再換算は、多通貨環境以外には適用されません。	処理オプションに詳細再換算プログラム (R11411) のバージョンを入力した場合は、代替通貨元帳 (XA) と、必要に応じて YA および ZA 元帳を更新し、別の転記レポートを生成します。
F0902 テーブルの残高を更新します。	なし。
F0911 テーブルで、転記状況を「P」(転記済) に更新します。	なし。
F0413 および F0414 テーブルで、転記状況を「D」(転記済) に更新します。	なし。
F0011 テーブルで、転記状況を「D」(転記済) に更新します。	なし。

### 支払転記によって記録される少額四捨五入差異

外貨または代替通貨支払を転記すると、少額四捨五入差異の仕訳が作成されることがあります。少額四捨五入差異は、伝票に外貨または代替通貨支払が適用され、その伝票の国内通貨金額と支払の国内通貨金額が一致しない場合に発生します。少額の四捨五入差異は、為替レートの変動による金額ではありませんが、実現差損益勘定に記録されます。

通常、四捨五入差異は、複数の伝票と1つの支払に関連する取引、または複数の支払と1つの伝票に関連する取引で発生します。このような取引では、外貨と国内通貨の換算、または代替通貨と国内通貨の換算によって、四捨五入差異が生じる可能性があります。

四捨五入差異を記録するために、支払の転記時に、AAI項目PGおよびPL(外貨支払の場合)とPYおよびPZ(代替通貨支払の場合)で定義された実現差損益勘定に相殺仕訳が作成されます。

### 例: 支払転記によって記録される少額四捨五入差異

この例では、外貨支払で少額四捨五入差異が記録されます。為替レートは1 USD = 1.59570 CADです。

カナダの会社が、750.00 USDの外貨建て伝票(1,196.78 CAD)を3つ入力します。この会社は、2,250.00 USD(3,590.33 CAD)の支払を行います。この会社が国内通貨建て伝票(1,196.78 × 3 = 3,590.34 CAD)に国内通貨の支払金額(3,590.33 CAD)を適用すると、-0.01 CADの少額四捨五入差異が記録されます。

## 外貨および代替通貨支払の転記

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

- ・「自動支払処理」(G0413)の「自動支払の転記」を選択します。
- ・「支払処理」(G0412)の「支払の転記」を選択します。

支払または自動支払の転記は、支払の検討または自動支払の検討プログラムを使用して、バッチを選択し、「ロー」メニューから「バッチ別の転記」を選択して実行することもできます。



## 第 20 章

# 買掛金の為替差損益の処理

この章では、為替差損益の概要、事前設定、および買掛金未実現差損益レポートの生成方法について説明します。

---

## 為替差損益について

為替差損益は、複数の通貨を使用する取引で発生する為替レートの変動に基づきます。次の2つのタイプの為替差損益があります。

- 未実現為替差損益
- 実現為替差損益

未実現為替差損益は、会計期間末に未払伝票と一部しか支払われていない伝票の未決済部分について計算されるのに対し、実現為替差損益は、支払時に計算されます。

## 実現為替差損益の計算

実現為替差損益を計算するには、支払を転記する必要があります。実現為替差損益は、外貨または代替通貨の支払が行われる取引で発生する為替レートの変動に基づいています。支払を転記すると、伝票日付から支払日付までの間には為替レートが変動したかどうかに基づいて差損益が計算されます。為替レートが変動した場合は、差損益の仕訳が作成されます。

外貨支払が行われる場合は、取引で標準差損益が発生する可能性があります。差損益は、支払の受領時または実行時における外貨(取引通貨)と国内通貨の為替レートの変動に基づいています。差損益は、伝票の入力日付から支払の実行日付までの間の為替レート差異を伝票金額に乗算または除算して計算されます。

代替通貨支払が行われる場合は、取引で次の2つの差損益が発生する可能性があります。

- 標準差損益  
取引日付から支払日付までの外貨(取引通貨)と国内通貨の為替レート差異に基づく金額です。
- 代替通貨差損益  
代替通貨(支払通貨)と国内通貨の為替レート差異に基づく金額です。この差損益は、次の2つの金額の差額になります。
- 代替通貨支払を直接国内通貨に換算して算出された金額  
これは、実際に銀行口座に入金される金額、または銀行口座から支払われる金額です。
- 代替通貨支払を外貨に換算し、その外貨を国内通貨に換算して算出された金額

**注意:** 実現差損益の伝票タイプは、JD Edwards EnterpriseOneの売掛管理システムと買掛管理システムでは異なります。売掛金には伝票タイプRCが使用され、買掛金にはPGが使用されます。伝票タイプと「実現差益」または「実現差損」という記述が転記レポートに表示されます。

### 例: 外貨建て伝票と外貨支払の実現為替差損益

この例では、フランスの会社がカナダ・ドル(外貨)の伝票を入力し、その伝票をCAD(外貨)で支払います。

為替レート・リスクにより、支払時における国内通貨と外貨の為替レートの変動に基づいて、差損益が発生する可能性があります。

内容	通貨	金額	1月1日の為替レート	2月1日の為替レート
伝票(国内通貨)	EUR	717.61		
伝票(外貨)	CAD	1,000.00	1 CAD = 0.71761 EUR	
支払(外貨)	CAD	1,000.00		1 CAD = 0.71767 EUR
標準差損益	EUR	-0.06		

1月1日の外貨建て伝票は1,000.00 CADで、その国内通貨金額は717.61 EURです。

$$1,000.00 \text{ CAD} \times 0.71761 = 717.61 \text{ EUR}$$

2月1日の外貨支払は、1,000.00 CADです。

### 標準差損益

標準差損益は、-0.06 EURです。この金額は、伝票日付から支払日付までの為替レートの変動に基づいています。

$$1,000.00 \text{ CAD} \times 0.71761 (\text{伝票日付の為替レート}) = 717.61 \text{ EUR}$$

$$1,000.00 \text{ CAD} \times 0.71767 (\text{支払日付の為替レート}) = 717.67 \text{ EUR}$$

$$717.61 - 717.67 = -0.06 \text{ EUR}$$

### 例: 外貨建て伝票と代替通貨支払の実現為替差損益

この例では、カナダの会社が米ドル(外貨)の伝票を入力し、その伝票をユーロ(代替通貨)で支払います。

為替レート・リスクにより、2つの差損益が発生する可能性があります。カナダ・ドル(CAD)と米ドル(USD)間の為替差損益と、EUR、USDおよびCAD間の為替差損益です。

内容	通貨	金額	1月1日の為替レート	2月1日の為替レート
伝票(国内通貨)	CAD	794.30		
伝票(外貨)	USD	500.00	1 USD = 1.58860 CAD	
支払(代替通貨)	EUR	575.07		1 USD = 1.58798 CAD 1 EUR = 1.38176 CAD 1 EUR = 0.86980 USD

内容	通貨	金額	1月1日の為替レート	2月1日の為替レート
標準差損益	CAD	+0.31		
代替通貨差損益	CAD	+0.30		

1月1日の外貨建て伝票は500.00 USDで、その国内通貨金額は794.30 CADです。

$$500.00 \text{ USD} \times 1.58860 = 794.30 \text{ CAD}$$

2月1日の代替通貨支払は、575.07 EURです。

伝票に適用される外貨金額は、500.20 USDです。

$$575.07 \text{ EUR} \times 0.86980 = 500.20 \text{ USD}$$

伝票に適用される国内通貨金額は、793.99 CADです。

$$500.00 \text{ USD} \times 1.58798 = 793.99 \text{ CAD}$$

支払の国内通貨金額は、728.20 CADです。

$$575.07 \text{ EUR} \times 1.38176 = 794.61 \text{ CAD}$$

### 標準差損益

標準差損益は、+0.31 CADです。この金額は、伝票日付から支払日付までの為替レートの変動に基づいています。

$$500.00 \text{ USD} \times 1.58860 (\text{伝票日付の為替レート}) = 794.30 \text{ CAD}$$

$$500.00 \text{ USD} \times 1.58798 (\text{支払日付の為替レート}) = 793.99 \text{ CAD}$$

$$794.30 - 793.99 = + 0.31 \text{ CAD}$$

### 代替通貨差損益

代替通貨差損益は、+0.30 CADです。この金額は、支払日付の為替レートを使用して算出されます。これは、代替通貨を直接国内通貨に換算した金額と、代替通貨を外貨に換算してから国内通貨に換算した金額の差異に基づいています。

$$575.07 \text{ EUR} \times 1.38176 = 794.61 \text{ CAD}$$

$$(575.07 \text{ EUR} \times 0.86980 = 500.20 \text{ USD}) \times 1.58798 = 794.31 \text{ CAD}$$

$$794.61 - 794.31 = + 0.30 \text{ CAD}$$

## 未実現為替差損益の計算

未決済の外貨建て伝票の未実現為替差損益を記録するには、差損益の仕訳を手動で入力するか、自動的に作成することができます。

未実現為替差損益は、未払伝票または一部しか支払われていない伝票の未決済部分に適用されます。複数の通貨を使用する場合、各会計期間末に未実現為替差損益を記録して、未決済の外貨建て取引を再評価します。これにより、正確なキャッシュ・ポジションを把握して、キャッシュフローを管理できます。

差損益の仕訳を自動的に作成するには、買掛金未実現差損益レポート(R04425)を実行します。このレポートにより、次の処理が実行されます。

- 未決済の外貨建て伝票の再評価
- 未実現為替差損益の詳細分析
- 未実現為替差損益の記録

---

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 「為替レートの改訂」フォームに新しい為替レートを入力します。

参照: 第 6 章、「[為替レートの設定](#)」、31 ページ

- 基本通貨が異なる会社ごとに、異なるバージョンの買掛金未実現差損益レポートを作成します。

---

## 買掛金未実現損益レポートの生成

この項では、買掛金未実現差損益レポートの概要と次の方法について説明します。

- 買掛金未実現差損益レポートの実行
- 買掛金未実現差損益レポート(R04425)の処理オプションの設定

### 買掛金未実現差損益レポートについて

未実現為替差損益を計算するには、買掛金未実現差損益レポート(R04425)を実行します。これにより、次のデータを表示するレポートが生成されます。

- 会社の基本通貨と各伝票の取引通貨
- 伝票番号と支払期日
- 各伝票の当初の国内通貨金額と現在の国内通貨金額
- 各伝票の外貨金額
- 各未決済伝票の未実現為替差損益
- 伝票の割引金額
- 伝票の支払状況

レポートを生成するために、F0411テーブルとF0414テーブルからの情報が使用されます。

処理オプションで、差益、差損または両方のいずれの仕訳を作成するかを指定します。未実現差損益の仕訳には、伝票タイプ JX が割り当てられます。これは、通貨(通貨固有)勘定の国内通貨側を調整するために使用できる唯一の伝票タイプです。会社ごとに1つの仕訳のみが作成されます。処理オプションをブランクにすると、仕訳は作成されません。

また、特定の日付における未実現為替差損益の仕訳を作成するかどうかも指定できます。この場合、処理オプションで指定した日付時点における未決済伝票が選択され、基準日年齢調べサーバーを使用して伝票の国内通貨金額と外貨金額が再計算されます。次に、処理オプションで指定した場合には、未実現為替差損益の仕訳が作成されます。基準日レポートを使用して、期末レポートを生成し、買掛金勘定への未決済伝票の決済などの財務監査要件に対処できます。特定の日付時点での買掛金未実現差損益レポートを実行する場合、レポートの処理にかかる時間が長くなることに注意してください。これは、指定された特定日付における未決済金額が再計算されてから未実現為替差損益が計算されるためです。

**注意:** 最初に、仕訳を作成せずに買掛金未実現差損益レポートを実行してください。レポートを確認し、必要に応じて為替レートを修正します。すべての為替レートの修正が完了するまで仕訳を作成せずにプログラムを実行し、その後、プログラムを実行して未実現為替差損益の仕訳を作成します。

買掛金未実現差損益レポートの実行時に複数の通貨を指定した場合、複数の通貨の合計は意味がないため、外貨金額の総合計とその他すべての小計は「\*\*NA\*\*」(該当なし)と表示されます。これを回避するには、基本通貨が異なる会社ごとに異なるバージョンを設定します。会社ごとに異なるバージョンを設定すると、レポートのサイズを削減できるという利点も得られます。

**重要:** 仕訳の重複を防ぐために、各会計期間について複数の仕訳の作成を許可する処理オプションは設定しないでください。

### 例: 外貨建て伝票の未実現為替差損益

この例では、カナダの会社が、未決済の外貨建て(ユーロ(EUR))伝票の未実現為替差損益を計算します。

為替レート・リスクにより、会計期間末に未決済伝票(EUR)がカナダ・ドル(CAD)に再評価されるときに、未実現為替差損益が発生する可能性があります。

内容	通貨	金額	1月1日の為替レート	1月31日の為替レート
伝票(国内通貨)	CAD	1,394.25	1 EUR = 1.39425 CAD	
伝票(外貨)	EUR	1,000.00		
未決済伝票(国内通貨)	CAD	1,392.21		1 EUR = 1.39221 CAD
未実現為替差損益	CAD	+2.04		

1月1日の外貨建て伝票は1,000.00 EURで、その国内通貨金額は1,394.25 CADです。

$$1,000.00 \text{ EUR} \times 1.39425 = 1,394.25 \text{ CAD}$$

この外貨建て伝票は1月31日の時点で未決済であるため、カナダ・ドルに再評価されます。

$$1,000.00 \text{ EUR} \times 1.39221 = 1,392.21 \text{ CAD}$$

### 未実現為替差損益

未実現為替差損益は、+2.04 CADです。この金額は、伝票の作成時から、伝票が未決済のままになっている会計期間末までの間の為替レートの変動に基づいています。

取引金額(CA元帳)	当初為替レート	現行為替レート	国内通貨金額 (AA元帳)	差益(+)/差損(-)
1,000.00 EUR	1.39425		1,394.25 CAD	
1,000.00 EUR		1.39221	1,392.21 CAD	+2.04

1,000.00 EUR × 1.39425 (伝票日付の為替レート) = 1,394.25 CAD

1,000.00 EUR × 1.39221 (会計期間末の為替レート) = 1,392.21 CAD

1,394.25 - 1,392.21 = +2.04 CAD

## 買掛金未実現差損益レポートの実行

「月次評価」(G1121)の「買掛金未実現差損益レポート」を選択します。

## 買掛金未実現差損益レポート(R04425)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### プロセス

- 1. 基準日**

未払の外貨建て伝票を選択して差損益額を計算するために使用する有効日付、つまり基準日を指定します。

入力した基準日に基づいて、未決済伝票の国内通貨金額と外貨金額が再計算されます。伝票金額が再計算された後、差損益が計算されます。この処理オプションをブランクにすると、基準日処理は行われません。
- 2. 為替レート日付**

F0015テーブルから為替レートを取り込むために使用する日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付が使用されます。
- 3. 仕訳入力作成**

勘定について、計算済差損益を含む仕訳を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仕訳を作成しない。

1: 計算済差損益の仕訳を作成する。

2: 計算済差損のみ仕訳を作成する。

3: 計算済差益のみ仕訳を作成する。
- 4. 元帳日付**

システムで作成される仕訳で使用する元帳日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、現行期間の最終日が元帳日付として割り当てられます。
- 5. バッチ状況**

「買掛管理固定情報」フォームの「管理者承認」チェックボックスの設定に基づいて、システムで作成される仕訳にバッチ状況を割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「管理者承認」チェックボックスの設定に基づいてバッチ状況を割り当てる。

1: 「管理者承認」チェックボックスの設定に関係なく、承認済バッチ状況(A)を割り当てる。

**6. 元帳タイプ**

システムで作成される仕訳に割り当てる元帳タイプを指定します。指定する値は、UDCテーブル09/LTに存在する必要があります。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプAAが割り当てられます。

**7. ゼロの金額**

金額ゼロの仕訳行項目を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 金額ゼロの仕訳を含める。

1: 金額ゼロの仕訳を含めない。

**8. 支払の保留**

「仕入先マスターの改訂」フォームの「支払保留」フィールドに値Yまたは1が指定されている仕入先を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「支払保留」フィールドの値に関係なく、すべての仕入先を含める。

1: 「支払保留」フィールドに値Yまたは1が指定されている仕入先を含めない。



## 第 21 章

# 多通貨の銀行取引明細の手動処理

この章では、多通貨の銀行取引明細の手動処理に関する考慮事項の概要、通貨と銀行取引明細の入力プログラムの例、および多通貨の銀行取引明細の入力方法について説明します。

**注意:** 銀行取引明細の手動処理とは異なり、銀行取引明細の自動処理では国内通貨のみが使用されるため、実現為替差損益は計算されません。

## 多通貨の銀行取引明細の手動処理に関する考慮事項

最初に入金または支払を入力すると、その取引の現行為替レートが記録されます。後から銀行でその入金または支払が決済される際には、銀行は別の為替レートを記録します。為替レート差異を計上するには、銀行取引明細処理プログラム (R09170) を実行して、差損益レコードを作成します。差損益レコードは、決済済の入金 (取引コードCR) および支払 (取引コードCK) についてのみ作成されます。

差損益を作成するために、銀行取引明細詳細テーブル (F0917) のCA元帳金額とF0911テーブルのCA元帳金額が比較されます。CA元帳金額が一致している場合は、AA元帳金額に基づいて差損益の仕訳が作成されます。CA元帳金額が異なる場合は、AA元帳金額に基づいて許容差異の仕訳と差損益の仕訳が作成されます。

### CA元帳金額が一致している場合

CA元帳金額が一致している場合は、F0911テーブルとF0917テーブルのAA元帳金額が比較されます。これらの金額が異なっている場合は、実現差損益が作成されます。

この例では、CA元帳金額が一致しています。

テーブル	CA元帳	AA元帳
F0911	1,000.00 EUR	1,560.00 CAD
F0917	1,000.00 EUR	1,550.95 CAD

標準差損益は、+9.05です。

$AA(F0911) - AA(F0917) = AA \text{ 差異}$

$1,560.00 - 1,550.95 = +9.05 \text{ CAD}$

為替差損		銀行勘定	
9.05	CAD		9.05 CAD

標準差損益仕訳のT勘定

### CA元帳金額が異なる場合

CA元帳金額が異なる場合は、その差異が計算されます。次に、CA金額をF0917テーブル内のAA金額で割って、為替レートが算出されます。その後、CA差異に為替レートを掛けて、AA差異が算出されます。CAとAAの差異を使用して、2つの許容差異仕訳が作成されます。

最後に、F0911テーブル内のAA金額からAA差異を差し引いて、F0911テーブルに調整済AA金額が作成されます。次に、F0911テーブル内のAA調整済金額からF0917テーブル内のAA金額を差し引いて、為替差損益が算出されます。

この例では、CA元帳金額が異なっています。

テーブル	CA元帳	AA元帳
F0911	2,015.00 EUR	3,125.16 CAD
F0917	2,000.00 EUR	3,120.00 CAD

許容差異の仕訳は、次のように計算されます。

$$CA(F0911) - CA(F0917) = CA \text{ 差異}$$

$$2,015.00 - 2,000.00 = 15.00 \text{ EUR}$$

$$AA(F0917) / CA(F0917) = \text{為替レート}$$

$$3,120.00 \div 2,000.00 = 1.56$$

$$CA \text{ 差異} \times \text{為替レート} = AA \text{ 差異}$$

$$15.00 \times 1.56 = 23.40 \text{ CAD}$$

差異勘定科目		銀行勘定	
15.00	EUR (CA)	15.00	EUR (CA)
23.40	CAD (AA)	23.40	CAD (AA)

許容差異仕訳のT勘定

差損益の仕訳は、次のように計算されます。

AA(F0911) - AA差異 = 調整済AA金額(F0911)

3,125.16 - 23.40 = 3,101.76 CAD

調整済AA金額(F0911) - AA(F0917) = 差損益

3,101.76 - 3,120.00 = -18.24 CAD

為替差益		銀行勘定	
	18.24 CAD	18.24 CAD	

差損益仕訳のT勘定

## 例：通貨と銀行取引明細の入力プログラム

電子送金、口座振込、手形などのすべての銀行取引を追跡するには、銀行取引明細の入力プログラム(P09160)を使用します。この項で説明する情報は、多通貨の銀行取引明細処理にのみ関連します。

「銀行残高照合表入力」フォームの「金額」、「通貨コード」、「外貨金額」の各フィールドが会社通貨、銀行勘定通貨および取引通貨とどのように関連しているかを理解するために、次の例を検討してください。

### 例：会社通貨が異なる場合

この例では、通貨銀行勘定通貨と取引通貨は同じ(USD)ですが、会社通貨(CAD)が異なります。非通貨銀行勘定は任意です。

「銀行残高照合表入力」フォームで、次のように各フィールドに値を入力します。

フィールド	値	説明
金額	USD	取引金額(通貨銀行勘定と同じ通貨)。
通貨コード	USD	取引の通貨コード。デフォルトは、通貨銀行勘定の通貨コード(USD)です。
外貨金額	ブランク	適用不可。

銀行取引明細処理プログラムを実行すると、該当する場合は、取引タイプに対して次の仕訳が作成されます。

- AA元帳仕訳(CAD(会社通貨))
- CA元帳仕訳(USD(取引通貨))

### 例: 銀行勘定通貨が異なる場合

この例では、会社通貨と取引通貨は同じ(CAD)ですが、通貨銀行勘定通貨(USD)が異なります。非通貨銀行勘定は必須です。

「銀行残高照合表入力」フォームで、次のように各フィールドに値を入力します。

フィールド	値	説明
金額	USD	銀行によって通貨銀行勘定の通貨に換算された取引金額
通貨コード	CAD	当初取引の通貨コード
外貨金額	CAD	銀行勘定通貨とは異なる通貨の元の取引金額

銀行取引明細処理プログラムを実行すると、該当する場合は、取引タイプに対して次の仕訳が作成されます。

- AA元帳仕訳(CAD(会社通貨))
- CA元帳仕訳(CAD(取引通貨))

### 例: 取引通貨が異なる場合

この例では、銀行勘定は非通貨銀行勘定で、会社通貨はCAD、取引通貨はUSDです。非通貨銀行勘定は任意です。

「銀行残高照合表入力」フォームで、次のように各フィールドに値を入力します。

フィールド	値	説明
金額	CAD	銀行によって非通貨銀行勘定に関連付けられている会社の通貨に換算された取引金額
通貨コード	USD	当初取引の通貨コード
外貨金額	USD	非通貨銀行勘定に関連付けられている会社とは異なる通貨の元の取引金額

銀行取引明細処理プログラムを実行すると、該当する場合は、取引タイプに対して次の仕訳が作成されます。

- AA元帳仕訳(CAD(会社通貨))
- CA元帳仕訳(USD(取引通貨))

### 例: 会社、銀行勘定および取引の各通貨が異なる場合

この例では、会社通貨(CAD)、通貨銀行勘定通貨(USD)および取引通貨(EUR)がすべて異なっています。非通貨銀行勘定は必須です。

「銀行残高照合表入力」フォームで、次のように各フィールドに値を入力します。

フィールド	値	説明
金額	USD	銀行によって通貨銀行勘定の通貨に換算された取引金額
通貨コード	EUR	当初取引の通貨コード
外貨金額	EUR	銀行勘定通貨とは異なる通貨の元の取引金額

銀行取引明細処理プログラムを実行すると、該当する場合は、取引タイプに対して次の仕訳が作成されます。

- AA元帳仕訳(CAD(会社通貨))
- CA元帳仕訳(EUR(取引通貨))

## 多通貨銀行取引明細の入力

この項では、外貨の銀行取引明細の入力方法について説明します。

### 多通貨銀行取引明細の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
銀行取引明細の処理	W09160B	「銀行取引明細の処理」(G09211)、「銀行取引明細の入力/検討」	各銀行勘定科目の銀行取引明細の一覧を検討します。  すべての取引が未処理の場合にのみ、銀行取引明細全体を削除できます。
銀行残高照合表入力	W09160A	「銀行取引明細の処理」フォームで、「追加」をクリックし、取引を入力します。または、取引明細を選択し、既存の取引明細の取引にアクセスします。	銀行取引明細取引を入力します。  銀行取引明細が未処理の場合のみ、取引の追加や改訂ができます。

## 外貨の銀行取引明細の入力

「銀行残高照合表入力」フォームにアクセスします。

**銀行取引明細の入力/検討 - 銀行残高照合表入力**

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

銀行勘定科目

70.1110.FRANCE

バッチNo.

7940

明細書日付

2005/09/30

入力行

2

計算書No.

78788823

未完了取引数

2

デフォルト元帳日付

2005/09/30

引出し合計

開始残高

18,000.00

預入れ合計

133,877.00

期末残高

25,556.27

差額

126,320.73-

☐ 未完了取引のみ

レコード 1 - 3

		取引 コード	金額	決済 日付	元帳 日付	支払/入金 No.	タイプ	通貨 コード	外貨 金額
<input type="checkbox"/>		JE	132,627.00	2005/09/30	2005/09/30	0	JE	EUR	
<input type="checkbox"/>		CK	1,250.00	2005/09/30	2005/09/30	78923444	PN	EUR	
<input type="checkbox"/>									

「銀行残高照合表入力」フォーム

電子送金、口座振込、手形などのすべての銀行取引を追跡するには、銀行取引明細の入力プログラムを使用します。多通貨環境では、取引明細の各取引行に最大3つの異なる通貨を入力できます。

「銀行残高照合表入力」フォームの各取引行には、「金額」、「通貨コード」および「外貨金額」フィールドがあります。これらの各フィールドに入力する値は、銀行勘定、会社および取引の各通貨によって決まります。

### 金額

通貨銀行勘定については、取引通貨と銀行勘定通貨が同じ場合は金額を入力します。

非通貨銀行勘定については、取引通貨と銀行勘定に関連付けられている会社の通貨が同じ場合は金額を入力します。

このフィールドに金額を入力すると、通貨銀行勘定、または非通貨銀行勘定に関連付けられている会社からデフォルトの通貨コードが取得されます。

### 通貨コード

取引の通貨コードを入力します。

### 外貨金額

次の両方の項目に該当する場合にのみ、このフィールドに金額を入力します。

銀行勘定は、非通貨銀行勘定です。（銀行勘定が通貨銀行勘定である場合は、このフィールドを空白にします。）

取引通貨は、非通貨銀行勘定に関連付けられている会社の通貨とは異なります。

外貨金額を入力する場合は、銀行によって換算された国内通貨金額も入力する必要があります。国内通貨金額は、取引明細の「金額」フィールドに表示されています。

### 非通貨銀行勘定

会社、銀行勘定、支払（取引コードCK）または入金（取引コードCR）の通貨が異なる場合は、取引に非通貨銀行勘定を割り当てます。これは、会社通貨と支払または入金の通貨が同じで、銀行勘定通貨が異なる場合にも当てはまります。

「銀行残高照合表入力」フォームの各取引行では、各勘定の小数点は次のように表示されます。

- 通貨銀行勘定については、小数点は銀行勘定通貨で表示されます。
- 非通貨銀行勘定と国内通貨の取引については、小数点は会社通貨で表示されます。
- 非通貨銀行勘定と外貨の取引については、小数点は取引通貨で表示されます。



## 第 22 章

# 通貨勘定評価の実行

この章では、銀行勘定科目の通貨勘定評価と未決済請求書および伝票の通貨評価の概要と、通貨勘定科目の未実現差損益の計算方法について説明します。

---

### 銀行勘定科目の通貨評価について

外貨を使用している場合、通貨勘定評価プログラム (R09415) を実行して通貨勘定を再評価し、現行為替レートを反映させる必要があります。通貨勘定 (通常は銀行勘定) 科目とは、特定の通貨の取引のみを受け入れる勘定科目です。F0901 テーブルの勘定科目マスター・レコードに通貨を割り当てます。これにより、取引がその特定の通貨のみに制限されます。

通貨勘定評価プログラムでは、勘定科目が AAI 項目 PBC の範囲内である場合は、F0901 テーブルで通貨コードがブランクになっている勘定科目も処理されます。この AAI は、転記する勘定科目範囲を通貨別に指定します。特定の通貨が割り当てられている勘定科目とは異なり、これらの勘定科目は多通貨の残高を持つことができます。

外貨金額の現行国内通貨金額を計算し、為替レートの変動による未実現差損益を特定するには、通貨勘定評価プログラムを使用します。この計算により、外貨残高を国内通貨に換算した場合に発生する損益が決定されます。

多くの国では、会計規則により未実現差損の報告が規定されていますが、未実現差益の報告は規定されていません。通貨勘定評価プログラムの処理オプションで、差損の仕訳のみを作成するように指定できます。また、差益のみの仕訳、または差益と差損の両方の仕訳を作成するように処理オプションを設定することもできます。

米国では、会計規則 (SFAS 52) により、未実現差益と未実現差損の両方の報告が規定されています。

仕訳の伝票タイプは、JX (外貨再評価) です。この伝票タイプは、通貨勘定の国内通貨側 (AA 元帳) のみを調整し、外貨側 (CA 元帳) は変更しません。

#### 例: 通貨勘定評価

会社が英国に所在し、基本通貨は英国ポンド (GBP) であるとします。数社の仕入先に香港ドル (HKD) で支払を行う必要があるため、HKD の通貨銀行勘定を作成します。

月末に、香港の銀行勘定には 1,000,000.00 HKD があります。実績金額 (AA) 元帳の勘定残高は、80,268.00 GBP です。この勘定残高は、AA 元帳の個別取引の為替レートに基づいています。月末に有効な為替レート (1 HKD = 0.078996 GBP) を使用して、外貨の銀行勘定残高を会社通貨で再評価する必要があります。

通貨勘定評価プログラムを実行すると、未実現差損 1,272.00 GBP の逆仕訳が作成されます。これにより、AA 元帳の勘定残高は 78,996.00 GBP になります。翌月の初日に、この仕訳が逆仕訳され、勘定を再び再評価できます。

---

## 未決済請求書および伝票の通貨評価について

次のレポートには、未決済請求書および伝票の月次評価に関する情報は表示されますが、未実現差損益は計算されません。

- 未決済売掛金明細 (P03B429)
- 未決済買掛金明細 (P04427)

次のレポートでは、未決済請求書および伝票の未実現差損益が計算されます。

- 売掛金未実現差損益レポート (R03B426)
- 買掛金未実現差損益レポート (R04425)

参照: 第 16 章、「売掛金の為替差損益の処理」、「売掛金未実現差損益レポートの生成」、162ページ

---

## 通貨勘定科目の未実現差損益の計算

この項では、通貨勘定評価プログラムの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 通貨勘定科目の未実現差損益の計算
- 通貨勘定評価のデータ選択の設定
- 通貨勘定評価 (R09415) の処理オプションの設定

### 通貨勘定評価プログラムについて

一般的には、会計期間末に通貨勘定評価プログラム (R09415) を実行して、財務諸表を実行する前に未実現差損益を計算します。このプログラムでは、未実現差損益に対して伝票タイプ JX (外貨再評価) の仕訳が作成されます。

通貨勘定評価プログラムでは、次のように未実現差損益が計算されます。

1. 選択した勘定の通貨コードと、その勘定が関連付けられている会社の通貨コードを比較します。別の言い方をすると、外貨 (CA) 元帳の外貨残高と実績金額 (AA) 元帳の国内通貨残高を比較します。
2. 処理オプションで指定された基準日を使用して、比較に基づいて F0015 テーブルから為替レートを取得します。
3. 元の外貨残高を為替レートで乗算または除算して、新しい国内通貨残高を計算します。
4. 新しい国内通貨残高と元の国内通貨残高を比較して、未実現差損益を計算します。

通貨勘定評価プログラムにより、未実現差損益を記録するための仕訳が作成されます。この仕訳には、会社の通貨コードが含まれています。差損益は未実現であるため、この仕訳は逆仕訳です。これは、期間末にのみ適用されます。

通貨勘定評価プログラムでは、次の情報を示すレポートが印刷されます。

- 取引日付時点の国内通貨 (AA) 元帳と外貨 (CA) 元帳の残高
- 処理オプションで指定された基準日による元帳残高の現行国内通貨金額
- 未実現差損益金額

処理オプションで詳細レベルを設定し、このレポートを外貨金額と国内通貨金額の両方を示す試算表として使用できます。

**重要:** 通貨勘定評価プログラムを再実行する場合は、プログラムによって作成された仕訳が転記されていることを確認してください。そうでないと、重複した仕訳が作成されます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 新しい為替レートを入力します。

参照: 第 6 章、「為替レートの設定」、31 ページ

- AAI 項目 GV、GW および GR が正しく設定されていることを確認します。

参照: 第 5 章、「多通貨処理の一般会計の設定」、「通貨銀行勘定科目の未実現為替差損益の AAI の設定」、26 ページ

- 通貨勘定科目が正しく設定されていることを確認します。

参照: 第 5 章、「多通貨処理の一般会計の設定」、「通貨勘定科目の設定」、28 ページ

## 通貨勘定科目の未実現差損益の計算

「月次評価」(G1121) の「通貨勘定評価」を選択します。

バージョン XJDE0001 を使用して、通貨勘定科目に対して通貨勘定評価を実行します。(バージョン XJDE0002 は、通貨別の残高を転記するために非通貨勘定科目に対して使用します。)

## 通貨勘定評価のデータ選択の設定

バージョン XJDE0001 で提供されているデータ選択条件を使用してください。「通貨コード - 換算元」のデータ選択は、ブランクではありません。レポートに複数の通貨が含まれている場合は、レポートの外貨元帳残高カラムに合計金額が表示されないことに注意してください。通貨が混在しているため、合計金額は無意味なものになります。

## 通貨勘定評価 (R09415) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 詳細レベル

#### 1. 詳細レベル

レポートに出力する勘定科目の詳細レベルの最低値を指定します。特定の勘定科目詳細レベル (3 から 9) を入力します。

たとえば、詳細レベルの最低値に「7」を指定します。勘定科目表にレベル 8 とレベル 9 が設定されている場合、レベル 7 にはレベル 8 とレベル 9 の勘定科目の合計は含まれますが、レベル 8 とレベル 9 の詳細は印刷されません。

レベル 1 は会社レベル、レベル 2 はビジネスユニット・レベルを表しています。レベル 1 と 2 は、常にレポートに印刷されます。

この処理オプションをブランクにした場合、すべての勘定の詳細レベルが印刷されます。

## 期間

### 1. 会計年度、2. 期間

通貨勘定評価を実行する会計年度の下2桁を指定します。会計期間の2桁を指定します。たとえば、2006年7月に対して通貨勘定評価を実行するには、「会計年度」に「06」と入力し、「期間」に「07」と入力します。

これらの処理オプションを空白にすると、処理される各勘定の会社に対してF0010テーブルで定義されている現行会計年度と現行期間が使用されます。

## 印刷オプション

### 1. 勘定科目コード形式

出力する勘定科目コードの形式を指定します。値は次のとおりです。

1: 標準勘定科目コード。デフォルトの形式は、ビジネスユニット.主科目.補助科目です。

2: 勘定科目ID。この番号は、勘定科目の入力時にシステムによって割り当てられます。

3: 自由形式(第3の勘定科目コード)。この番号は、勘定科目設定の際に割り当てます。

この処理オプションを空白にすると、標準勘定科目コードが使用されます。

### 2. ゼロ残高勘定の非表示

残高がゼロの勘定科目の印刷を省略するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: すべての勘定科目を印刷します。

1: 残高がゼロの勘定科目は印刷しません。

---

**注意:** この処理オプションの設定に関係なく、関連付けられている通貨コードのある勘定科目のみが印刷されます。

---

## 補助元帳

### 1. 補助元帳、2. 補助元帳タイプ

特定の補助元帳番号を入力し、その補助元帳番号に関連付けられている勘定科目に対して通貨勘定評価を実行します。その他の値は次のとおりです。

空白: 補助元帳のない勘定科目のみが処理されます。

\*: すべての勘定科目が処理されます。

「補助元帳」処理オプションに値を入力し、「補助元帳タイプ」処理オプションには値を入力しないと、「補助元帳」処理オプションに「\*」と入力した場合を除き、「補助元帳」フィールドに入力した値が無視され、補助元帳のない勘定科目のみが処理されます。「\*」と入力すると、すべての勘定科目とすべての補助元帳が処理されます。

「補助元帳」と「補助元帳タイプ」の両方の処理オプションに値を入力したが、その補助元帳タイプが入力した補助元帳に対して有効でない場合は、入力した値が無視され、補助元帳のない勘定科目のみが処理されます。

## 基準日

### 1. 基準日

処理される各勘定科目の会社に対して通貨勘定評価を実行するために使用される、為替レートの日付を指定します。

指定した日付に有効なF0015テーブルの為替レートが使用されます。会社とその通貨勘定科目に対して複数の通貨コードを割り当てている場合は、各通貨に対して固有の為替レートが使用されます。

この処理オプションをブランクにすると、「期間」処理オプションに入力した期間の最終日の為替レートが使用されます。「期間」処理オプションをブランクにすると、処理される各勘定の会社に対してF0010テーブルで定義されている現行期間の最終日が使用されます。

## 仕訳

### 1. 損益

通貨勘定評価によって差損益が計算された勘定科目に対して、仕訳を作成するかどうかを指定します。AAI項目GVxxxは、計算された利益の仕訳を作成する勘定科目を決定し、AAI項目GWxxxは、計算された損失の仕訳を作成する勘定科目を決定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仕訳を作成しません。

- 1: 差益と差損の両方が計算された勘定に対して仕訳を作成します。
- 2: 差損が計算された勘定に対してのみ、仕訳を作成します。
- 3: 差益が計算された勘定に対してのみ、仕訳を作成します。

### 2. 逆仕訳

差損益が計算された勘定に対して、逆仕訳を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 逆仕訳を作成します。

- 1: 逆仕訳を作成しません。

### 3. 元帳日付

通貨勘定評価中に作成される仕訳で使用する日付を指定します。

この処理オプションをブランクにすると、「期間」処理オプションに入力した期間の最終日が使用されます。「期間」処理オプションをブランクにすると、処理される各勘定の会社に対してF0010テーブルで定義されている現行期間の最終日が使用されます。

「損益」処理オプションをブランクにした場合は、この処理オプションに日付を入力しても、仕訳は作成されません。

### 4. 承認済み仕訳バッチ

「一般会計固定情報」フォームでの管理承認設定に関係なく、承認済状況の仕訳のバッチを作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「一般会計固定情報」フォームの管理承認固定情報を使用して、管理承認が必要かどうかを決定します。

- 1: 承認済状況で仕訳バッチを作成します。

「損益」処理オプションで仕訳を作成するように指定した場合は、この処理オプションを使用して、仕訳バッチを自動的に承認できます。それ以外の場合は、この処理オプションは無視されます。

## エラー

- 1. エラーメッセージの印刷** レポートにエラー・メッセージを印刷するかどうかを指定します。この処理オプションを空白にすると、エラー・メッセージはワーク・センターに送信されます。値は次のとおりです。
- 空白: エラー・メッセージをワーク・センターに送信します。
- 1: レポートにエラー・メッセージを印刷します。

## 第 23 章

# 通貨再換算方法について

この章では、通貨再換算方法の概要について説明します。

---

## 通貨再換算方法

多通貨を使用している企業の多くは、各会計期間末になんらかの方法で通貨の再換算を実行しています。通貨再換算は、通常、連結処理やレポート作成のために、会計情報を親会社の通貨または安定通貨に換算するために使用されます。通貨再換算を使用すると、次のように金額を再換算できます。

- 取引レベルで別の通貨に再換算。これは詳細再換算と呼ばれ、レポート作成のために取引を基本通貨のみでなく安定通貨でも管理できるため、高インフレ経済下でビジネスを営む会社に役立ちます。
- 残高レベルで別の通貨に再換算。これは残高再換算と呼ばれ、残高金額をレポートで使用する別の通貨に再換算するために役立ちます。
- 特定の日付に関連付けられている為替レートを使用して、すべての取引にそのレートと日付が適用されると仮定して同じ通貨に換算。これは仮定通貨再換算と呼ばれ、比較を行うために期間中の為替レートの変動を排除します。

---

**注意:** インデックス配賦では、連結財務諸表用に、ある通貨から別の通貨へ再換算できます。ただし、配賦ではなく、いずれかの通貨再換算方法を使用することをお勧めします。インデックス配賦を使用して金額を換算および再換算すると、四捨五入の問題が発生します。

---

通貨再換算用に会社を設定する前に、どの方法がレポート作成要件や法令要件を満たしているかを確認してください。

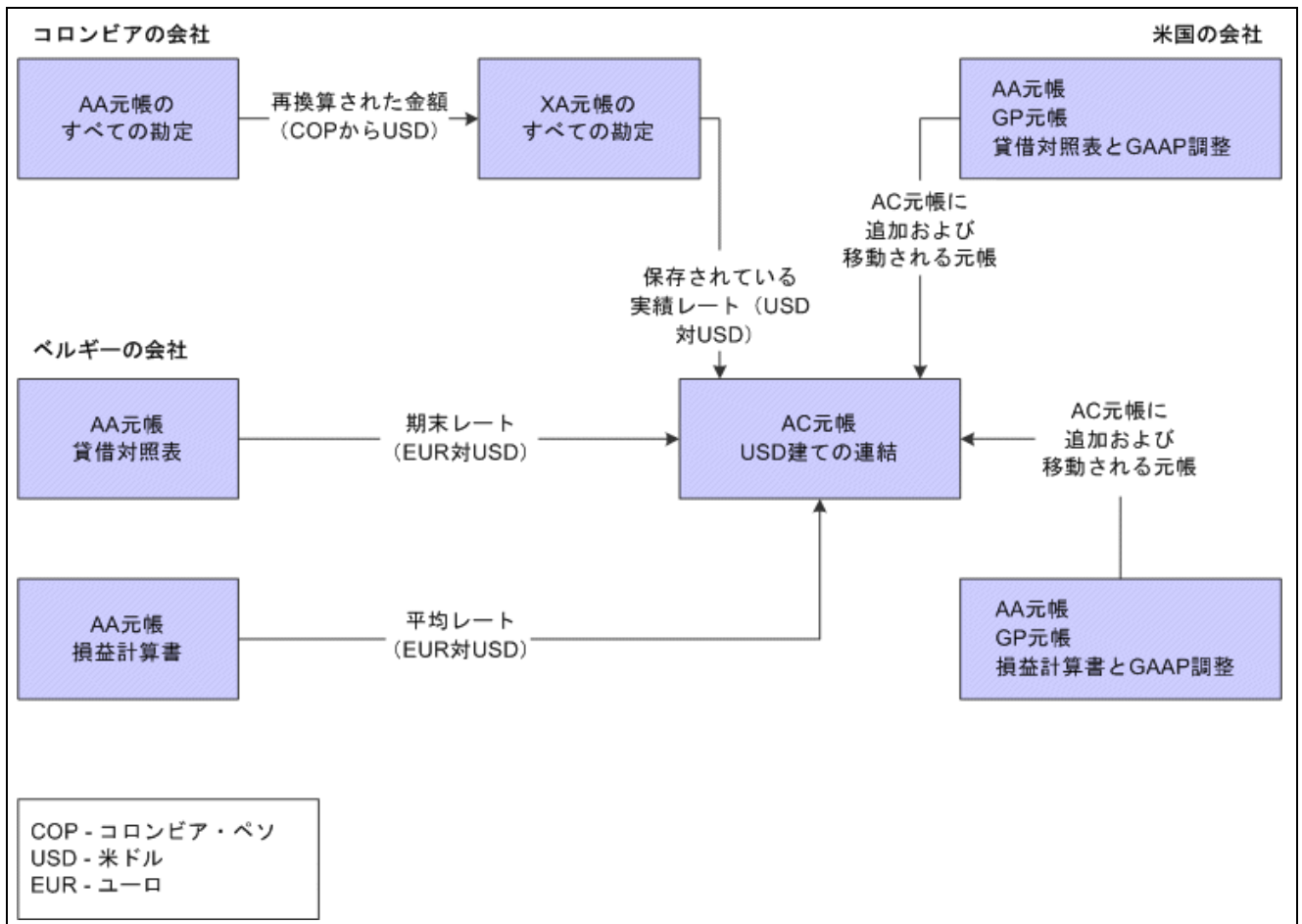
通貨再換算では、ある通貨から別の通貨に金額が再計算されます。再換算の主な目的は、多通貨を使用している複数の会社間の連結レポートを作成することです。連結レポートを作成する必要がない場合は、システムで通貨再換算の設定を行う必要がない場合もあります。

JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理システムには、3つの通貨再換算方法が用意されています。次の表で説明するように、1つの会社に対してこれら3つの方法をいくつでも使用できます。

通貨再換算方法	説明
詳細再換算	<p>この方法は、次のいずれかの条件を満たす場合に使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 会社が高インフレ経済でビジネスを行っている場合。この方法を使用して、レポート作成を目的として安定した通貨で第2取引セットを管理できます。たとえば、コロンビアの会社は、取引をコロンビア・ペソ(COP)から米ドル(USD)に再換算することにより、より安定した米ドルで現行金額と実績金額を有意義に比較できるようになります。</li> <li>• すべての勘定科目または一部の勘定科目について、F0911テーブルで2つの基本通貨で取引を管理する必要がある場合。この状況は、すべての国内通貨取引に代替通貨での取引が存在することを意味します。</li> </ul> <p>詳細再換算レコードは、F0911テーブルに転記されます。詳細再換算を使用する場合は、F0911テーブルのレコード数の増加に対応できるように十分なディスク容量が必要です。</p> <p>詳細再換算を使用するかどうかは、会社名および番号プログラム(P0010)で指定します。</p>
残高再換算	<p>この方法は、F0902テーブルの残高に基づいて連結財務諸表を作成する場合に使用します。残高再換算レコードは、F0902テーブルに転記されます。</p> <p>残高再換算方法により、連結レポート作成のため残高を単一通貨に再換算します。たとえば、米ドルをカナダ・ドルに再換算することにより、他のカナダの会社との連結レポートを作成できます。</p> <p>各会社の残高再換算の計算IDは、会社名および番号プログラムで識別するか、再換算残高の計算プログラム(R11414)を実行する場合はその処理オプションで識別します。処理オプションに計算IDを入力すると、会社名および番号プログラムで設定した会社の計算IDが一時変更されます。</p>
仮定再換算	<p>この方法は、会社が比較を目的として一定期間にわたる為替レートの変動を解消する必要がある場合に使用します。</p> <p>仮定再換算では、単一の為替レートを使用して勘定残高が再換算されます。たとえば、フランスでプロジェクトを行っているカナダの会社は、米ドルでの取引を単一の為替レートを使用して報告することにより、実際の収益と費用を1年前の予算と比較できます。</p> <p>仮定再換算は、連結目的では使用できません。</p>

## 例: 通貨再換算

次の図は、世界各地でビジネスを行っている3つの会社の連結を示しています。



多通貨の通貨再換算の例

高インフレ経済でビジネスを行っているコロンビアの会社は、詳細再換算を使用しています。アメリカの会社とベルギーの会社は、残高再換算を使用しています。この例に示されているGPIは、GAAP（一般に公正妥当と認められた会計原則）調整のためのユーザー定義元帳タイプを表しています。



## 第 24 章

# 詳細再換算の実行

この章では、詳細再換算の概要と、次の方法について説明します。

- 詳細再換算の仕訳の処理
- 詳細再換算取引の処理
- 詳細再換算取引の転記

---

## 詳細再換算について

詳細再換算を使用すると、F0911テーブルの代替(安定)通貨を使用して第2の帳簿を管理できます。会社の詳細再換算の設定は、会社名および番号プログラム(P0010)で行います。詳細再換算は、通常、次のいずれかの理由で使用されます。

- 高インフレ通貨を使用してビジネスを営んでおり、財務分析やレポート作成のために代替(安定)通貨による第2帳簿を管理する必要がある。
- 国内通貨と親会社の通貨の両方で、取引レベルの最終業績を報告する必要がある。
- 会計基準に準拠するために、固定資産、棚卸資産、資本などの特定の勘定科目クラスについて2通りのレポートを管理する必要がある。

通常、詳細再換算プログラム(R11411)では、国内通貨元帳(AA)の金額が代替通貨元帳(XA)に再換算されます。ただし、外貨元帳(CA)の金額の通貨とXA元帳の通貨が同じ場合は、CA元帳金額がXA元帳にコピーされ、AA元帳金額は再換算されません。

詳細再換算プログラムでは、AAIで指定した勘定科目範囲内の国内通貨取引すべてに対して、対応する代替通貨取引がXA元帳に作成されます。一般的ではありませんが、詳細再換算で元帳タイプYA(国内通貨当初)とZA(外貨当初)が使用される場合もあります。

詳細再換算は、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システム、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システム、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システム、およびオラクル社のJD Edwards EnterpriseOne固定資産管理システムに統合されています。この再換算方法には、無効化、逆仕訳、差損益計算などの特別な機能が含まれており、レポート作成のために取引を基本通貨のみでなく安定通貨でも管理できます。

**注意:** 基本通貨金額を別の通貨に再換算する前に、実際にその金額を詳細レベルで再換算する必要があるかどうかを確認してください。詳細レベルで金額を再換算する場合は、サイジングについて考慮する必要があります。たとえば、毎月約2,000のレコードを入力する場合、詳細再換算の実行後には4,000のレコードが保存されます。この増加は、システムのディスクリソースに重大な影響を与える可能性があります。

---

### 例: 詳細再換算と使用する元帳

この例では、コロンビアの会社が安定通貨(USD)で財務諸表を作成するために、金額をコロンビア・ペソ(COP)から米ドル(USD)に再換算します。代替通貨元帳(XA)に、通貨コードUSDが割り当てられます。この会社は、YA元帳とZA元帳も使用します。

詳細再換算プログラムにより、次の表に示すように、当初の仕訳に基づいてXA、YAおよびZA元帳の金額が更新されます。

当初仕訳	更新された代替元帳
COP建て国内通貨取引	<p>この仕訳の取引通貨は、会社通貨と同じです。システムによって次の処理が行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AA元帳金額(COP)がXA元帳(USD)に再換算されます。</li> <li>AA元帳金額(COP)がYA元帳(通貨なし)にコピーされます。</li> </ul>
USD建て外貨取引	<p>この仕訳の取引通貨は、XA元帳通貨と同じです。CA元帳金額(USD)がXA元帳とZA元帳の両方(USD)にコピーされます。</p>
CAD建て外貨取引	<p>この仕訳の取引通貨は、XA元帳とは異なる通貨です。システムによって次の処理が行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AA元帳金額(COP)がXA元帳(USD)に再換算されます。</li> <li>XA元帳金額(USD)がZA元帳(USD)にコピーされます。</li> </ul>

## 国内通貨取引の詳細再換算差損益について

入金または支払が国内通貨建て取引であるか、外貨建て取引であるかに応じて、入金または支払の転記時に別の計算式を使用して再換算差損益レコードが作成されます。

国内通貨取引の場合は、AA(国内通貨)とXA(代替通貨)間の差損益金額が計算され、伝票タイプRG(入金損益)またはPG(支払損益)で差損益レコードが作成されます。この金額は、請求書日付と入金日付、または伝票日付と支払日付の間の為替レートの変動によるもので、XA元帳に書き込まれます。

- ・ 転記プログラムにより、国内通貨の入金または支払金額のレコードがAA元帳に作成され、代替通貨の差損益金額のレコードがXA元帳に作成されます。
- ・ 詳細再換算プログラムにより、代替通貨の入金または支払金額のレコードがXA元帳に作成されます。

### 例: 国内通貨建て取引の詳細再換算差損益

この例では、コロンビアの会社(COP)が国内通貨建ての伝票と支払を入力します。この会社は、詳細再換算を使用して金額を米ドル(USD)に再換算します。元帳と通貨は、次のとおりです。

- ・ AA = COP
- ・ XA = USD

この例では、次の情報に基づいて、代替元帳(XA)の損益金額がどのように計算されるかを示します。

日付	内容	AA元帳(COP)	為替レート(除数)	XA元帳(USD)
6月1日	伝票	85,000	850	100.00
6月30日	支払	85,000	860	98.84

XA元帳の差損益金額は、-1.16です。

次のT勘定は、伝票と支払について、AA元帳とXA元帳の金額がどのように配賦されるかを示しています。

伝票の仕訳			
費用勘定		買掛金勘定	
85,000 AA			85,000 AA
100.00 XA			100.00 XA

伝票のT勘定仕訳

支払の仕訳			
買掛金勘定		現金勘定	
85,000 AA		85,000 AA	
100.00 XA		98.84 XA	
			1.16 XA

支払のT勘定仕訳

## 外貨建て取引の詳細再換算差損益について

入金または支払が国内通貨建て取引であるか、外貨建て取引であるかに応じて、入金または支払の転記時に別の計算式を使用して再換算差損益レコードが作成されます。

外貨取引の場合、CA(外貨)とXA(代替通貨)間では、差損益は直接計算されません。かわりに、次の計算が実行されます。

- 転記プログラムにより、CA通貨とAA通貨間の差損益金額が計算されます。この金額は、請求書日付と入金日付、または伝票日付と支払日付の間の為替レートの変動によるもので、AA元帳に書き込まれます。転記レポートには、AA元帳の仕訳に加え、XA元帳の差損益仕訳が表示されます。
- 転記プログラムにより、AA通貨とXA通貨間の差損益金額が計算されます。この金額は、請求書日付と入金日付、または伝票日付と支払日付の間の為替レートの変動によるもので、XA元帳に書き込まれます。転記レポートには、XA元帳の差損益仕訳に加え、AA元帳とCA元帳の仕訳が表示されます。

**注意:** 前の2つの計算によって算出された正味金額は、CA通貨とXA通貨間で差損益金額を直接計算した場合の損益金額と等しくなります。

### 例: 外貨建て取引の詳細再換算差損益

この例では、コロンビアの会社(COP)がチリ・ペソ(CLP)の外貨建て伝票と支払を入力します。この会社は、詳細再換算を使用して金額を米ドル(USD)に再換算します。元帳と通貨は、次のとおりです。

- AA = COP
- CA = CLP
- XA = USD

差損益は、最初にCA元帳(CLP)とAA元帳(COP)間で計算され、次にAA元帳とXA元帳(USD)間で計算されます。CA元帳とXA元帳間では、差損益は直接計算されません。差損益金額は、CA元帳とAA元帳間の差損益金額とAA元帳とXA元帳間の差損益金額の正味差異に基づいています。

次の情報に基づいて、XA元帳の差損益金額が計算されます。

日付	内容	CA元帳(CLP)	為替レート (乗数)	AA元帳(COP)	為替レート (除数)	XA元帳(USD)
6月1日	伝票	100,000	0.75	75,000	750	100.00
6月30日	支払	100,000	0.76	76,000	800	93.75

XA元帳の差損益金額は、+5.00です。この正味金額を算出するために、次のステップが順番に実行されます。

- CA元帳とAA元帳間で、差損益金額-1.25が計算されます。

$$-1,000 \text{ COP} \div 800 = -1.25$$

この差損益金額はAA元帳に記録され、AA元帳の伝票金額と支払金額の差異(-1,000)に基づいています。支払日付時点で有効なCOP対USDの為替レート(800)を使用して、この差異が換算されます。

- AA元帳とXA元帳間で、差損益金額+6.25が計算されます。

$$100.00 - 93.75 = +6.25$$

この差損益金額はXA元帳に記録され、伝票日付の為替レートを使用して換算された伝票金額(100.00)と、支払日付の為替レートを使用して換算された伝票金額(93.75)の差異に基づいています。

## 詳細再換算の仕訳の処理

この項では、次の方法について説明します。

- 為替レートの一時変更と、XA元帳レコードの作成の回避
- 詳細再換算取引の検討と承認

## 詳細再換算の処理に使用するフォーム


フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕訳入力の処理	W0911I	「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)、「仕訳入力」	仕訳のバッチを検討します。
仕訳入力	W0911A	「仕訳入力の処理」フォームで、仕訳を選択します。	バッチの仕訳を検討および改訂します。
詳細再換算レート	W0911L	「仕訳入力」フォームで、「フォーム」メニューから「実績レート」を選択します。	詳細再換算仕訳の為替レートを一時変更します。 仕訳が転記済である場合は、「詳細再換算レート」フォームの各フィールドは無効化され、変更できません。
バッチ承認	W0011C	「再換算」(G1122)、「詳細再換算の検討」 「バッチの処理」フォームで、承認するバッチを選択し、「ロー」メニューから「バッチ承認」を選択します。「バッチ承認」フォームで、「承認済み－転記準備完了」オプションを選択します。	詳細再換算仕訳のバッチを承認します。

## 為替レートの一時変更とXAレコードの作成の回避

「詳細再換算レート」フォームにアクセスします。

**仕訳入力 - 詳細再換算レート**

OK(O) 取消(L) ツール(T)





---

換算元

換算為

実績為替レート

☐ XA元帳を作成しない

「詳細再換算レート」フォーム

### 実績為替レート

F0015テーブルのAA通貨コードとXA通貨コード間の為替レートを一時変更するには、このフィールドに為替レートを入力します。

### XA元帳を作成しない

詳細再換算プログラムによってXA元帳に代替通貨レコードが作成されないようにするには、このチェックボックスを選択して、「実績為替レート」フィールドをブランクにします。

## 詳細再換算取引の検討と承認

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

詳細再換算プログラム(R11411)を実行した後、詳細再換算取引が正確かどうかを検討し、該当する場合は、総勘定元帳に転記する前に取引を承認します。詳細再換算プログラムで作成される取引には、元のAA取引と同じバッチ番号が割り当てられます。バッチ・タイプはXXです。

また、取引明細照会の処理フォームで、元の実績金額元帳(AA)とともに代替通貨元帳(XA)を検討できます。

---

## 詳細再換算の処理

この項では、詳細再換算プログラム(R11411)の概要と、次の方法について説明します。

- 詳細再換算のデータ選択と順序の設定
- 詳細再換算(R11411)の処理オプションの設定
- メニューからの詳細再換算プログラムの実行
- 転記プログラムからの詳細再換算プログラムの実行

## 詳細再換算プログラムについて

ある通貨から別の通貨に金額を再換算するときに、取引に現行為替レートを適用するには、詳細再換算プログラム(R11411)を実行します。このプログラムでは、処理オプションに基づいて、代替通貨元帳(XA)のみ、またはXA、YA(国内通貨当初)およびZA(外貨当初)元帳に対して取引の第2の再換算済元帳が作成されます。

詳細再換算プログラムでは、為替レートを使用して、AA(実績金額)元帳の国内通貨金額がF0911テーブルのXA元帳の代替通貨金額に換算されます。この例外は、外貨元帳(CA)の金額がXA元帳と通貨が同じ場合です。この場合、AA金額が再換算されるのではなく、CA元帳金額がXA元帳にコピーされます。

詳細再換算プログラムを実行する前に、為替レートが更新されていること、および有効日付が再換算の日付に対応していることを確認してください。再換算の日付に対応するレートが見つからない場合は、最新の有効日付が使用されます。為替レートの計算で逆換算禁止方法または間接換算方法を使用するように通貨を設定した場合、詳細再換算プログラムでは、その方法を使用して金額が再換算されます。一時変更換算方法を使用する場合は、「為替レートの改訂」フォームで指定されている最新の有効為替レートが使用されます。

再換算する取引について、F0010テーブルで詳細再換算用に会社を設定しておく必要があります。会社にエラーが見つかった場合は、処理の実行前にエラー・レポートが生成され、その会社のXA元帳は更新されません。バッチ内にエラーが見つかった場合は、「バッチでエラーが発生しました。詳細は、ワーク・センターを参照してください」というメッセージがエラー・レポートに表示されます。問題を解決してから、プログラムを再実行する必要があります。エラーがない場合は、「エラーはありません。バッチは転記されます」というメッセージがエラー・レポートに表示されます。

## 詳細再換算によって処理される取引

データ選択に基づいて、詳細再換算プログラムでは、F0010テーブルで詳細再換算の処理が設定されている会社のみが選択され、その他すべての会社は無視されます。これは、パフォーマンスを向上させ、処理時間の短縮に役立ちます。

詳細再換算プログラムでは、F0911テーブルの実績金額(AA)元帳の転記済取引のうち、次の条件を満たすすべての取引が処理されます。

- 取引の会社が詳細再換算用に設定されている。会社名および番号プログラム(P0010)で、会社に対して「詳細通貨再換算」フィールドが1に設定されている必要があります。
- ユーザー定義コード(UDC)テーブル09/LTと「元帳タイプ規則の設定」フォームで、元帳タイプXA(代替通貨)が設定されており、さらに任意で元帳タイプYA(国内通貨当初)およびZA(外貨当初)が設定されている。
- 取引の勘定科目が、AAI項目CRxxに対して設定された勘定科目範囲内である。
- 取引に対して、F0911テーブルのALT9(通貨更新)フィールドがブランク(処理しない)になっている。

この条件を満たすAA元帳の各取引について、詳細再換算プログラムにより、F0911テーブルのXA元帳に元の取引と同じバッチ番号とバッチ・タイプXXが割り当てられた新しい取引が作成されます。たとえば、各仕訳(バッチ・タイプG)に対して、代替通貨仕訳(バッチ・タイプXX)が作成されます。バッチ・タイプXXのレコードは、「バッチの処理」フォームで確認できます。外貨元帳(CA)の金額の通貨とXA元帳の通貨が同じ場合は、詳細再換算プログラムによってCA元帳金額がXA元帳にコピーされ、AA元帳金額は再換算されません。

各取引について、ALT9(通貨更新)フィールドの値がブランク(処理しない)から次のいずれかに更新されます。

- P(処理済): 取引は詳細再換算プログラムによって処理されました。  
XA元帳(さらに任意でYAおよびZA元帳)に対応するレコードが作成され、元のAA元帳レコードがP(処理済)に更新されます。レポートに「エラーはありません。バッチは転記されます。」というメッセージが印刷されます。
- N(該当しない): 取引は詳細再換算プログラムによって処理されましたが、勘定科目がAAI項目CRxxの勘定科目範囲外であるため、無視されました。  
XA元帳に対応するレコードは作成されませんが、AA元帳がN(該当しない)に更新されます。
- X: 元の仕訳は、詳細再換算プログラムによって処理されたときに、XA元帳に対応するレコードを作成しないように設定され、その後無効になりました。
- Y: 元の仕訳は、詳細再換算プログラムによって処理されたときに、XA元帳に対応するレコードを作成しないように設定されました。

**重要:** 詳細再換算プログラムの初回実行時には、F0911テーブルのすべての対象レコードのALT9フィールドが更新されるため、処理時間が非常に長くなる可能性があります。その後の実行では、新しい対象取引のみが更新されます。

### 一般的なエラー・メッセージと原因

次の表に、詳細再換算プログラム(R11411)の実行時に表示される可能性のあるエラー・レポートとその原因を示します。

エラー・メッセージ	原因
日次取引レートが設定されていません	国内通貨を代替通貨で再換算するための為替レートと以前の有効日付が設定されていません。
多通貨換算が設定されていません	多通貨換算の一般会計固定情報がNに設定されています。多通貨処理を有効にするには、固定情報をY(乗数)またはZ(除数)に設定してください。

エラー・メッセージ	原因
CR01またはCR02 AAIが設定されていません	AAI項目CRxxの範囲が設定されていないか、正しく設定されていません。
CR AAI勘定科目が無効であるか、設定されていません	AAI項目CRxxの勘定科目コードが会社の勘定科目表に含まれていません。
指定した転記バージョンが無効です	詳細再換算プログラムの処理オプションで、無効な転記プログラムのバージョン番号を入力しました。
XA元帳が定義されていません	UDCテーブル09/LTでXA元帳が設定されていません。
XAまたはZA元帳に対する通貨が無効です	「元帳タイプ規則の設定」フォームで、XAまたはZA元帳に対して無効な通貨コードが指定されました。(YA元帳には、通貨コードが割り当てられていません。)
YAまたはZA元帳が定義されていません	処理オプションでYAおよびZA元帳にレコードを作成するように指定しましたが、UDCテーブル09/LTでこれらの元帳が設定されていません。

## 詳細再換算のデータ選択と順序の設定

データ選択を使用して、詳細再換算を実行する特定の会社を選択します。会社別に詳細再換算を実行することにより、処理時間を短縮できます。

データ順序は使用しないでください。入力したデータ順序は、すべて無視されます。

## 詳細再換算(R11411)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムのデフォルト処理を指定できます。

### 元帳

1. 追加元帳
 

金額を再換算する元帳を選択します。値は次のとおりです。

blank: XA元帳の金額のみを再換算する。

1: XA(代替通貨)、YA(国内通貨当初)およびZA(外貨当初)元帳の金額を再換算する。

### 転記

1. 転記バージョン
 

詳細再換算プログラムによって作成された仕訳を転記するには、総勘定元帳への転記プログラムのバージョンZJDE0041を指定します。このバージョンは、バッチ・タイプXX(詳細再換算)用です。

この処理オプションをblankにすると、仕訳は転記されません。

### 自動仕訳

1. 自動仕訳
 

AAI項目CRによって指定された相手勘定を使用して、四捨五入差異の貸借一致仕訳を自動的に作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 貸借一致仕訳を作成しない。

1: 貸借一致仕訳を自動作成する。「追加元帳」処理オプションで指定した元帳にのみ、貸借一致仕訳(伝票タイプAE)が作成されます。

## 為替レート・フラグの設定

### 1. 為替レート

F0015テーブルから為替レートを取り込むために使用する日付を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 元帳日付に有効だった為替レートを使用する。

1: サービス/税日付に有効だった為替レートを使用する。

サービス/税日付とは、商品またはサービスを購入した日付、または課税された日付です。

---

**注意:** 詳細再換算プログラムでは、入金および支払バッチ・タイプについては、この処理オプションの値は使用されません。かわりに、値または元帳日付が含まれている場合には、実績日付が使用されます。

---

## メニューからの詳細再換算プログラムの実行

「再換算」(G1122)の「詳細再換算」を選択します。

詳細再換算用にバージョンZJDE0041が設定されています。詳細再換算バージョンに対して、次の処理を行います。

- (任意)四捨五入差異の貸借一致仕訳を作成するように処理オプションを設定します。
- (任意)詳細再換算プログラムで再換算取引が作成された後で総勘定元帳への転記プログラムのバージョンを実行するように処理オプションを設定します。
- データ選択を使用して、取引を再換算する会社を選択します。特定の会社を選択しないと、再換算プログラムにより、詳細再換算用に設定されているすべての会社の取引が読み込まれます。これは処理時間に影響します。

詳細再換算プログラムにより、詳細再換算用に設定されている会社の取引が再換算され、該当する場合には、貸借一致仕訳が作成されます。「転記バージョン」処理オプションが適切に設定されている場合は、転記プログラムによって再換算取引のバッチが転記され、該当する場合には、貸借一致仕訳も転記されます。

---

**注意:** マルチスレッド・ジョブ待ち行列の設定がされている場合、詳細再換算プログラムの複数のジョブを同時に実行できます。先に実行したジョブに続いて実行するジョブについては、先行と同じバージョンでも、異なるバージョンでもかまいません。複数のジョブを同時に実行することにより、大量のトランザクションを効率的に処理できます。

---

複数ジョブの実行時には、詳細再換算プログラムによって各バッチのF0011テーブルのDRSP(詳細再換算状況)フィールドがチェックされ、バッチの複数回処理が避けられます。そのため、各ジョブで固有のデータ選択を行う必要はありません。

バッチの状況は、次のいずれかになります。

ブランク: バッチは、詳細再換算プログラムによって予約または処理されていません。ブランクにする必要があるのは、バッチが正常に入力されず、そのバッチを再処理する場合のみです。処理済のバッチにデータを追加すると、処理状況は自動的にブランクにリセットされます。

1: バッチは、詳細再換算プログラムによって予約または処理されました。このバッチはスキップされ、次のバッチが処理されます。

---

## 転記プログラムからの詳細再換算プログラムの実行

「再換算」(G1122)の「詳細再換算の転記」を選択します。

総勘定元帳への転記バージョンに対して、次の処理を行います。

- (任意)四捨五入差異の貸借一致仕訳を作成するように処理オプションを設定します。
- (任意)転記プログラムによってバッチが転記された後、詳細再換算プログラムのバージョンを実行して再換算取引を作成するように処理オプションを設定します。

総勘定元帳への転記プログラムにより、個別のバッチが転記され、バッチ番号とバッチ・タイプが詳細再換算プログラムに送信されます。再換算プログラムにより、詳細再換算用に設定されているバッチ内の会社の取引が再換算され、該当する場合には、貸借一致仕訳が作成されます。「転記バージョン」処理オプションが適切に設定されている場合は、転記プログラムによって再換算取引が転記され、該当する場合には、貸借一致仕訳も転記されます。すべてのバッチが転記され、これらのバッチ内のすべての取引が再換算され、該当する場合には、すべての貸借一致仕訳が作成されて、再換算された貸借一致仕訳のすべてのバッチが転記されるまで、このサイクルが繰り返されます。

---

## 詳細再換算取引の転記

「再換算」(G1122)の「詳細再換算の転記」を選択します。

---

**注意:** メニューから詳細再換算プログラムを実行した場合、すでに詳細再換算取引が転記されている可能性があります。

---

参照: 第 24 章、「詳細再換算の実行」、「メニューからの詳細再換算プログラムの実行」、237ページ

詳細再換算取引を検討し、承認した後、再換算プログラムによって作成されたXXバッチをXA元帳に転記する必要があります。G以外のバッチ・タイプに対して転記プログラムを実行してXXバッチ・タイプを作成する場合は、そのXXバッチを個別にXA元帳に転記する必要があります。

## 第 25 章

# 残高再換算の実行

この章では、残高再換算の概要と、残高再換算の再換算残高の計算方法について説明します。

---

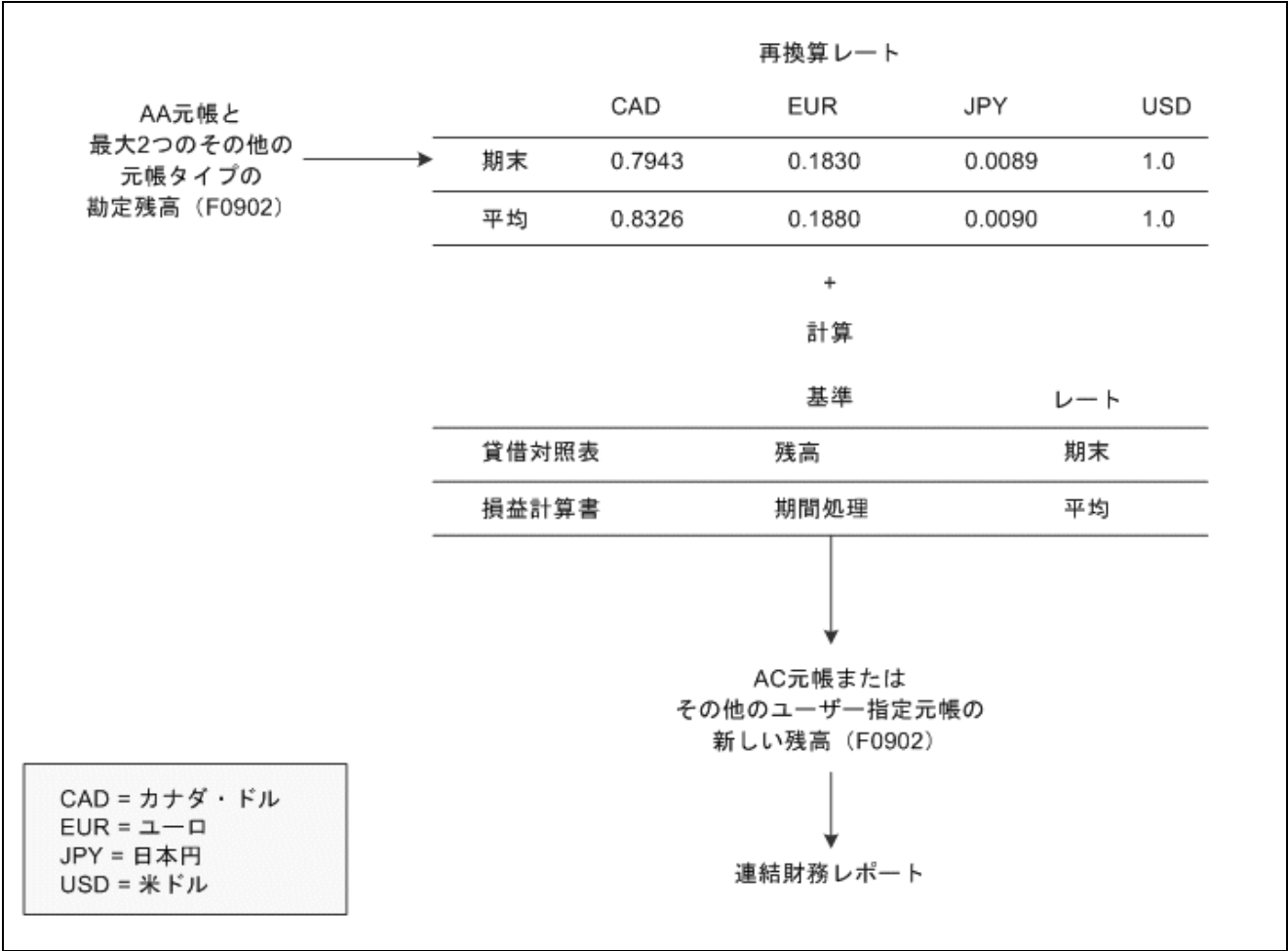
## 残高再換算について

複数の通貨を使用してビジネスを営んでいる会社を持つ組織は、異なる会社間の財務レポートを連結する必要があります。財務レポートを連結するには、既存の会社の残高を単一の共通通貨に再換算する必要があります。金額を単一通貨に再換算するには、詳細再換算と残高再換算を使用できます。ただし、残高再換算の場合、連結元帳(AC)またはその他のユーザー指定の元帳タイプに金額が残高レベルで再換算されるため、作成するレコードは少なくなります。

残高再換算は、次のような場合に使用します。

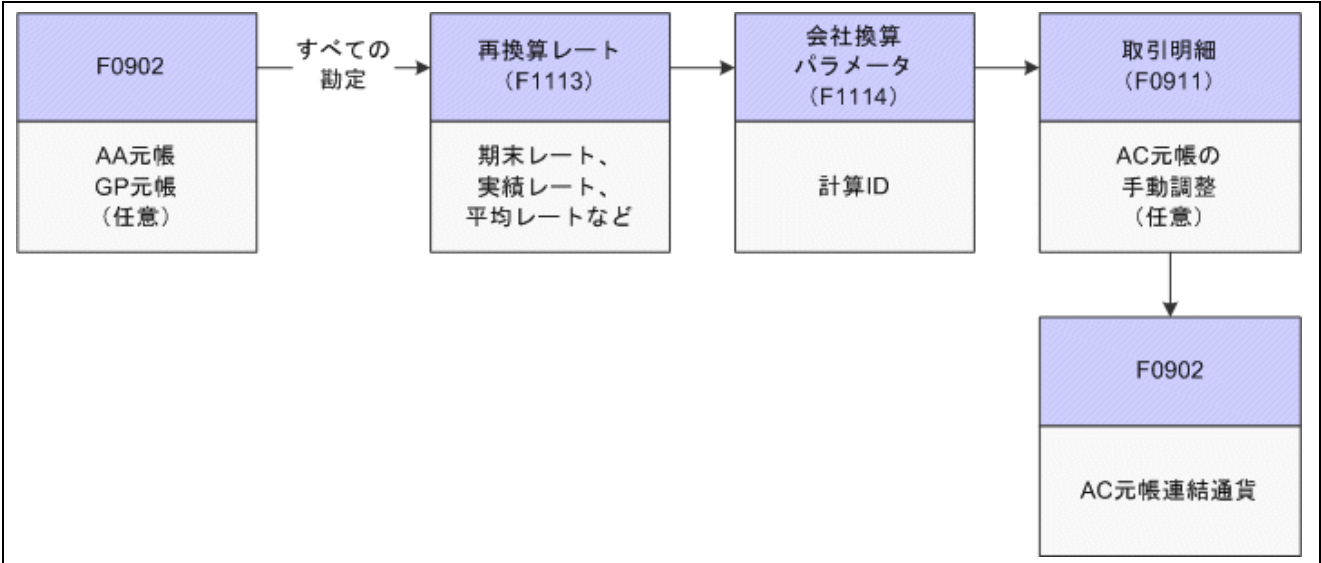
- 連結財務レポートを作成する前に、貸借対照表勘定を期末レートで、損益計算書勘定を平均レートで再換算します。たとえば、連結レポートを作成するために、子会社の勘定科目を親会社の通貨に再換算できます。
- 最大3つの元帳の金額を1つの元帳に集計します。たとえば、AA(実績金額)元帳とGP(GAAP調整)元帳をAC(連結)元帳に再換算できます。
- 仮予算分析のために勘定を再換算します。たとえば、社内での比較のために、会計帳簿で使用した予算レートとは別の予算レートを指定できます。

この通貨再換算方法により、連結レポート作成のため残高を単一通貨に再換算します。



残高再換算処理

この図は、残高再換算で使用されるAC元帳とテーブルを示しています。



残高再換算で使用される元帳とテーブル

調整用にAC元帳に仕訳を入力する場合、残高再換算ではF0911テーブルが使用されます。処理オプションで、再換算残高の計算プログラム(R11414A)の実行時にF0911調整を含めるかどうかを指定できます。

## 事前設定

システムで残高再換算の設定が行われていることを確認します。

参照: 第 8 章、「残高再換算および仮定再換算の設定」、61ページ

---

## 残高再換算の再換算残高の計算

この項では、再換算残高の計算プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 再換算残高の計算プログラムの実行
- 再換算残高の計算(R11414A)の処理オプションの設定

### 再換算残高の計算プログラムについて

再換算残高の計算プログラム(R11414A)により、元の元帳の残高が連結元帳(AC)に再換算されます。設定した為替レートと計算に基づいて、再換算残高の計算プログラムにより次の処理が行われます。

- 処理オプションでの指定に従って、選択した期間、または現行期間(現行年度)までの全期間(現行期間を含む)が再換算されます。
- 再換算する各期間に個別のレートが適用されるか、全期間に単一レートが適用されます。
- 特定の勘定科目範囲に対して別の為替レートが適用されます。通貨再換算レート・ファイル・テーブル(F1113)に為替レートが存在しない場合は、為替レートと再換算残高のカラムがブランクのままレポートが印刷されます。ゼロ金額の再換算残高を印刷しないように設定した場合は、その範囲内のすべての勘定科目がレポートから除外されます。
- 最大3つの元帳タイプを単一の換算先元帳タイプに再換算されます。通貨の小数点は、換算先元帳タイプの通貨コードに基づきます。

再換算残高の計算プログラムでは、F0902、F1113および会社換算パラメータ・ファイル(F1114)からの情報が使用されます。通貨間の四捨五入差異の仕訳など、再換算元帳に対して直接行われる調整については、再換算残高の計算プログラムではF0911テーブルからの情報が使用されます。

再換算残高の計算プログラムは、必要に応じて何度でも実行できます。処理オプションで別の換算先元帳タイプを指定しないかぎり、プログラムを実行するたびに既存の残高が上書きされます。このプログラムは、次の3つのモードで実行できます。

- テスト・モード(レポート作成)  
レポートが印刷されますが、換算先元帳に残高は作成されません。
- 最終モード(レポート作成)  
換算先元帳に残高が作成され、詳細な監査証跡が印刷されます。
- 最終モード(レポートなし)  
換算先元帳に残高が作成されますが、詳細な監査証跡は印刷されません。

レポートを検討する際、次のことを確認してください。

- すべてのAA元帳金額にAC元帳金額が含まれていること。
- 換算調整勘定または繰越利益勘定に、AC元帳に対する仕訳入力が存在しないこと。

期間処理の場合、レポートには、通貨期間転記カラムおよび現行期間残高カラムがブランクのまま勘定取引が表示され、通貨金額別の勘定残高がその勘定の最後の取引行に表示されることを示す+記号が表示されます。

年累計処理の場合、レポートには、現行期間転記カラムおよび現行期間残高カラムの当初通貨別に各勘定取引が表示されます。+記号は表示されません。

## 再換算残高の計算プログラムの機能

残高を再換算するために、再換算残高の計算プログラムで次の処理が行われます。

1. データ選択を使用して、処理オプションに入力された計算IDが割り当てられている会社のみが選択されます。
2. F0902テーブルが読み込まれ、指定した会社の勘定科目範囲内の各勘定について、実績金額(AA)元帳の期首残高と期間金額が検索されます。
3. 次のように、計算方法に基づいて計算が適用されます。
  - 期間1の期間計算残高。期首残高が更新され、現行期間の残高が再換算され、現行期間以降のすべての期間がクリアされます。
  - 期間1を除く選択期間の期間計算残高。以前の残高は変更されず、現行期間の残高が再換算され、選択した期間以降のすべての期間がクリアされます。
  - 選択した期間の年累計残高。選択した期間の残高が再換算され、選択した期間以降のすべての期間がクリアされます。

---

**重要:** 適切な月までの残高(その月を含み、それ以降の月は含まない)を再換算してください。現行期間が6月の場合、1月から6月までの年累計残高を再換算します。

---

- 通貨勘定の金額。換算先元帳タイプに関連付けられている通貨と勘定科目に割り当てられている通貨が同じ場合は、AA元帳の金額が再換算されるのではなく、外貨(CA)元帳の金額が使用されます。
4. F0902テーブルで、換算先元帳を作成または更新します。通常は、元帳タイプAC(連結元帳)を使用します。

---

**注意:** AC元帳に対して年度締めを実行した場合は、その時点でAC元帳の「APYC」および「APYN」フィールドが更新されます。「元帳タイプ規則の設定」フォームでAC元帳に対して「繰越利益の計算」チェックボックスが選択されている場合は、繰越利益が計算されます。

---

## AC元帳への仕訳入力

再換算残高の計算プログラムにより、元帳タイプAC(またはその他のユーザー定義連結元帳)に対する仕訳が自動的に作成されますが、「仕訳入力」フォームで元帳タイプACに対する仕訳を手入力することもできます。これらの仕訳入力は、F0911テーブルに対する調整です。

たとえば、通貨間の四捨五入によって発生する差異を調整するために、仕訳を入力することがあります。または、会社残高の連結によって発生する金額を排除するために仕訳を入力することがあります。

元帳タイプACに対して仕訳を入力する場合は、同じ期間、会計年度および勘定科目に対するレコードがAA元帳に存在している必要があることに注意してください。必要な場合は、元帳タイプAAに対して仕訳を入力してください。残高再換算では、AA元帳にレコードが存在しないかぎり、手入力したAC仕訳は認識されません。換算調整勘定または繰越利益勘定については、元帳タイプACに対して仕訳を入力しないでください。

再換算残高の計算プログラムを実行する際に、処理オプションを使用して、F0911テーブルの調整をチェックするかどうかを指定できます。AC元帳に仕訳を入力しない場合、またはそれらの仕訳を除外することを選択した場合は、この処理オプションを適切に設定することによって処理時間を短縮できます。

AC元帳に対してすでに入力されている仕訳を失うことなく、同じ期間に対して再換算残高の計算プログラムを再実行できます。

### AC元帳の繰越利益の計算

年度末処理の一環として、残高再換算に使用される連結元帳（通常はAC）の繰越利益を計算する必要があります。

いくつかのステップを実行して、AC元帳の貸借が一致しており、繰越利益の計算が正しく行われていることを確認する必要があります。次のステップを実行すると、年度締めプログラム（R098201）により、AC元帳の繰越利益の計算時に、手動計算ではなく複合実績レートが作成されます。次のステップは、グローバル・サポート・サービスでサポートされています。

1. 繰越利益勘定用のAAI項目GLG4が設定されていることを確認します。
2. 「会社通貨換算の改訂」フォームで、（AAI項目GLG4で指定されている）繰越利益勘定用に個別の行を作成し、次の入力を行います。
  - ・「勘定科目範囲」および「から」フィールドに繰越利益勘定を入力します。
  - ・「レートタイプ」フィールドに有効なレート・タイプを入力します。
  - ・「計算方法」フィールドに有効な計算方法を入力します。
  - ・「換算元元帳タイプ」フィールドに「AC」（またはユーザー指定の連結元帳）を入力します。
  - ・「一時変更レート」フィールドに「1.0000000」と入力します。
3. 再換算残高の計算プログラムを実行します。
4. AC元帳に対して年度締めプログラムを実行し、再換算元帳の残高を確認します。

## 再換算残高の計算プログラムの実行

「再換算」（G1122）の「再換算残高の計算」を選択します。

## 再換算残高の計算（R11414A）の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理モード

#### 1. 処理モード

このプログラムの実行モードを指定します。値は次のとおりです。

ブランクまたは0: テスト・モード。F0902テーブルは更新されませんが、F0902テーブルの会計年度と会計期間への変更を示すレポートが印刷されます。

1: 最終モードでレポート出力。F0902テーブルの会計年度と会計期間が更新されます。また、変更を示すレポートも印刷されます。

2: 最終モードでレポートなし。F0902テーブルの会計年度と会計期間が更新されます。レポートは印刷されません。

## 期間/年累計

### 1. 期間または年累計処理

特定の期間を再換算するか、特定の会計年度内のすべての期間を再換算するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 特定の期間のみを再換算する。「再換算期間」処理オプションで期間を指定できます。「再換算期間」処理オプションで期間を指定しないと、現行期間が再換算されます。

1: 特定の会計年度内のすべての期間を再換算する。「再換算年度」処理オプションで年度を指定できます。「再換算年度」処理オプションで年度を指定しないと、現行年度が再換算されます。

### 2. 再換算期間

「期間または年累計処理」処理オプションをブランクにした場合は、この処理オプションを使用して再換算する期間を指定します。たとえば、「期間または年累計処理」処理オプションをブランクにした場合、「8」と入力すると、その会計年度の8番目の期間を再換算できます。

この処理オプションをブランクにすると、「会社の設定」フォームでJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに対して定義されているF0010テーブルの現行期間が再換算されます。

### 3. 再換算年度

「期間または年累計処理」処理オプションに「1」と入力した場合は、この処理オプションを使用して再換算する年度を指定します。再換算する会計年度の下2桁を入力します。たとえば、2006年の場合は「06」と入力します。

この処理オプションをブランクにすると、「会社の設定」フォームでJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに対して定義されているF0010テーブルの現行年度が再換算されます。

## ゼロ残高

### 1. ゼロ残高の非表示

再換算される期間内に取引がないレコードを非表示にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: その期間のすべてのレコードを処理する。

1: その期間内に取引のないレコードを処理しない。

## 計算ID

### 1. 計算IDの指定

データ選択に使用する計算IDを指定します。この処理オプションにより、F0010テーブルのデフォルトの計算IDが一時変更されます。

計算IDを入力する場合、データ選択に含まれているすべての会社とその計算IDを割り当てる必要があります。この処理オプションをブランクにすると、デフォルトの計算IDが使用されます。

## 元帳

### 1. 換算先元帳

金額の再換算先の元帳タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、すべての換算先元帳が処理されます。換算先元帳は、TO元帳とも呼ばれます。たとえば、会社70に対して3つの計算を設定すると、計算ごとに異なる換算先元帳が更新されます。

この処理オプションを空白にすると、3つの計算がすべて実行され、各換算先元帳の残高が作成されます。

この処理オプションに元帳タイプを入力すると、入力した換算先元帳に対してのみ計算が実行されます。

## 為替レート

### 1. 為替レート

残高の再換算に使用する為替レートを指定します。値は次のとおりです。

空白: 現行期間の為替レートを使用する。

1: 再換算する期間の為替レートを使用する。

---

**注意:** 現行年度の残高を再換算するときに、選択した期間の為替レートを使用してすべての期間を再換算するには、「1」と入力します。

---

## 調整

### 1. 調整チェック

再換算残高に、F0911テーブルからの仕訳入力調整を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 仕訳入力調整を含める。

1: 仕訳入力調整を含めない。この値は、仕訳入力調整を行わなかった場合にのみ入力してください。処理中に調整の検索が省略されます。



## 第 26 章

# 仮定再換算の実行

この章では、仮定再換算の概要と、仮定再換算の残高の計算方法について説明します。

---

## 仮定再換算について

この通貨再換算方法により、比較を目的として一定期間にわたる為替レートの変動を排除します。多通貨取引を入力すると、通貨為替レートを使用して外貨金額が国内通貨金額に換算されます。為替レートは変動するため、換算された金額は、比較では役に立たない可能性があります。単一日付を使用して為替レートを取得し、その為替レートがすべての取引に適用されたと仮定して残高を再転記することにより、期間中の変動を排除できます。この方法で残高を再転記することにより、次のことが可能になります。

- 特定の日付に関連付けられている為替レートを使用して、残高を再計算します。
- 仮定再換算のみに使用される元帳タイプに、新しい残高を記録します。この場合、AD(仮定再換算)元帳タイプ、またはその他任意のユーザー指定元帳タイプを使用できます。

その後、新しい残高を実績残高または予算残高と比較できます。たとえば、数年にわたるプロジェクトを遂行している建設会社は、当初予算金額と、当初予算の準備時に有効だった為替レートを使用して再換算された実績金額を比較できます。また、世界各地に営業員がいる会社は、コミッション分析のために、安定したレートで売上高をレポートできます。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- システムで仮定再換算の設定を行います。  
参照: 第 8 章、「残高再換算および仮定再換算の設定」、「仮定再換算の設定」、72 ページ
- 為替レートを入力し、有効日付として再換算日付またはそれ以前の日付を入力します。  
参照: 第 6 章、「為替レートの設定」、31 ページ

---

## 仮定再換算の残高の計算

この項では、仮定日の再転記プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 仮定日の再転記プログラムの実行
- 仮定日の再転記のデータ選択の設定
- 仮定日の再転記(R11415)の処理オプションの設定

## 仮定日の再転記プログラムについて

単一の為替レートを使用して勘定残高を国内通貨に再換算するには、仮定日の再転記プログラム(R11415)を使用します。このプログラムは次の処理を行います。

- F0911テーブルの外貨(CA)元帳から、外貨取引を選択します。
- CA元帳に新しい為替レートを適用します。
- 再換算された国内通貨金額のレコードを作成し、F0902テーブルの仮定再換算元帳(AD)に保存します。

一般的には、仮定再換算元帳タイプとしてAD元帳が使用されますが、AA、CA、XA、YA、ZAまたはAZを除く任意のユーザー指定元帳タイプを使用できます。

仮定日の再転記プログラムは、必要に応じて何度でも実行できます。処理オプションで別の換算先元帳タイプを指定しないかぎり、プログラムを実行するたびにAD元帳の既存の残高が上書きされます。このプログラムは、次の3つのモードで実行できます。

- テスト・モード(レポート作成)  
レポートが印刷されますが、換算先元帳に残高は作成されません。
- 最終モード(レポート作成)  
換算先元帳に残高が作成され、詳細な監査証跡が印刷されます。
- 最終モード(レポートなし)  
換算先元帳に残高が作成されますが、詳細な監査証跡は印刷されません。

取引が当初に国内通貨で入力された場合は、当初の為替レートまたは仮定為替レートはレポートに表示されません。これは、換算元金額と換算先金額が同じためです。

仮定日の再転記プログラムのXJDE0001バージョンでは、選択した勘定科目範囲の国内通貨取引と外貨取引が処理されます。このバージョンは、AA(実績金額)元帳のすべての取引をAD(仮定再換算)元帳に転送するために使用します。

## 仮定日の再転記プログラムの実行

「再換算」(G1122)の「仮定日の再転記」を選択します。

## 仮定日の再転記のデータ選択の設定

仮定日の再転記のXJDE0001バージョンのプログラム・ロジックは、次のデータ選択に基づいています。

- 伝票タイプがBF以外である。  
集計されていない取引レコードのみが選択されます。取引が集計されている場合、使用された当初の為替レートを決定できません。
- 転記コードがPである。  
F0902テーブルにまだ転記されていない取引は、再換算されなくなります。

データ選択は変更しないでください。

## 仮定日の再転記(R11415)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 換算日付

### 1. 為替レート日付

元の取引を仮定通貨に換算するために使用する為替レートをF0015テーブルから取得する日付を指定します。

## モード

### 1. モード

このプログラムの実行モードを指定します。値は次のとおりです。

0: テスト・モード。レポートが生成されますが、換算先元帳に残高は作成されません。

1: 最終モードでレポート出力。換算先元帳に残高が作成され、レポートが生成されます。

2: 最終モード(レポートなし)。換算先元帳に残高が作成されますが、レポートは生成されません。

## 元帳タイプ

### 1. 元帳タイプ

使用する換算先元帳タイプを指定します。指定した元帳タイプに残高が作成されます。入力する元帳タイプは、ユーザー定義コード(UDC)テーブル11/TLに存在する必要があります。この処理オプションをブランクにすると、「モード」処理オプションの値に関係なく、残高は作成されません。



## 第 27 章

# 多通貨の複数サイト連結の処理

この章では、多通貨による複数サイト連結とその基本ステップの概要、および多通貨の連結規則の設定方法について説明します。

---

## 多通貨の複数サイト連結について

複数サイト連結を使用すると、複数のロケーション(サイト)からの勘定残高を中央のロケーションに送信できます。中央のロケーションで、連結勘定残高を使用して法定レポートや管理レポートを作成できます。

複数サイトの連結には、次の2種類のサイトが関連します。

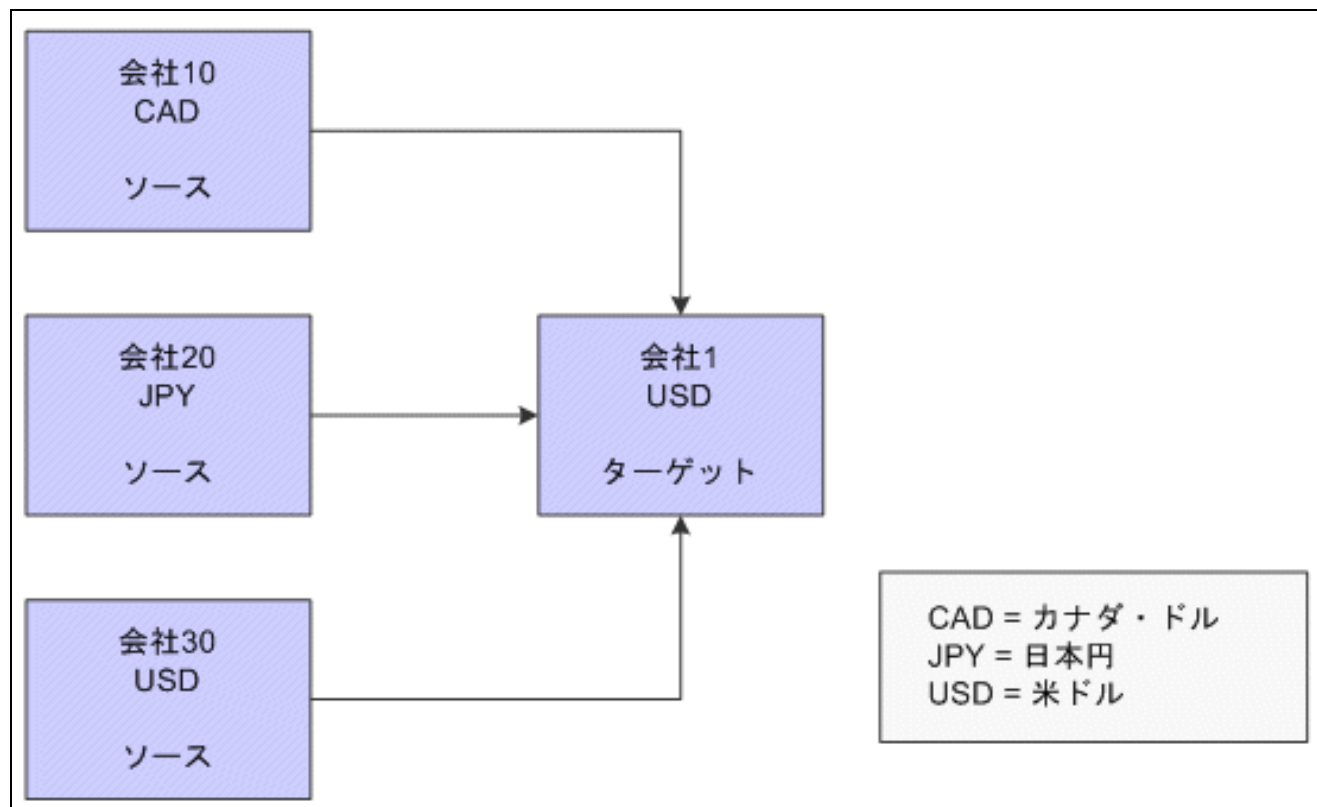
- ソース: 勘定残高の発生元となるすべてのサイト
- ターゲット: 勘定残高を受信する中央のロケーション(本社)

ターゲット・サイトとソース・サイトの通貨が異なる場合は、ターゲット・サイトがJD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理システムを使用する必要があります。ソース・サイトは、単にターゲット・サイトにデータを提供します。このため、JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理システムは必要ありません。

多通貨環境で複数サイト連結を処理するには、ソース・サイトとターゲット・サイトの残高が単一の共通通貨である必要があります。(ソース・サイトの)会社通貨をターゲット会社の通貨に再換算するには、再換算残高の計算プログラム(R11414)を使用します。

### 例: 多通貨の複数サイト連結

次の図では、ターゲット・サイトはUSDの会社で、3つのソース・サイトのうちの2つで異なる通貨が使用されています。ソース・サイトは、会社10(CAD)、会社20(JPY)および会社30(USD)です。



多通貨の複数サイト連結

会社10および20の残高金額は、ターゲット会社の通貨(USD)に再換算されます。会社30の残高は、すでにターゲット会社の通貨であるため、再換算する必要はありません。次に、ソース・サイトの再換算残高が連結され、ターゲット・サイトに送信されます。ターゲット・サイトで、連結残高の仕訳が作成、処理され、複数サイト連結レポートのためにF0911テーブルとF0902テーブルに転記されます。

## 多通貨の複数サイト連結の基本ステップについて

ターゲット・サイトとソース・サイトの通貨が異なるかどうかにかかわらず、複数サイト連結の基本ステップのほとんどは同じです。主な違いは、複数サイト連結処理を開始する前に、ソース・サイトの残高金額を単一の共通通貨(ターゲット・サイト会社の通貨)に再換算する必要があることです。

### 例: 多通貨の複数サイト連結の基本ステップ

この例では、ソース・サイトのすべての会社がJD Edwards EnterpriseOne多通貨処理システムを使用しており、各ソース会社は、ターゲット・サイトにデータを送信する前に会社の残高を単一の共通通貨に再換算します。

次のステップで説明するプログラムのほとんどは、「複数サイト連結」メニュー(G1021)からアクセスできます。

### ソース・サイト

複数の通貨を使用している場合のソース・サイトでの複数サイト連結の基本ステップは、次のとおりです。

1. ターゲット・サイトで連結に使用される通貨とは異なる通貨を使用している各ソース会社に対して、再換算残高の計算プログラムを実行します。

このプログラムにより、AA元帳の国内通貨金額がAC元帳(連結)の通貨、またはその他のユーザー指定元帳の通貨に再換算されます。AC元帳の通貨は、ターゲット・サイトで連結に使用される通貨と同じです。

2. 連結処理プログラム(R10550)を実行してF0902テーブルから再換算金額を読み込み、次のテーブルに各ソース・サイトの連結残高を作成します。
  - 複数サイト連結の転送ファイル見出し(F1001)
  - 複数サイト連結の転送ファイル(F1002)
  - 複数サイト連結の転送ファイル - カテゴリ・コード(F1003)

---

**注意:** ソース会社がJD Edwards EnterpriseOne多通貨処理システムを使用している場合は、連結処理プログラムの処理オプションに通貨コードを入力しないでください。この処理オプションは無視されます。

ソース会社がJD Edwards EnterpriseOne多通貨処理システムを使用していない場合は、会社の通貨コードを入力します。この通貨コードはソース会社の勘定残高に割り当てられますが、換算は実行されません。

---

3. ターゲット・サイトにデータを送信する前に整合性レポートを実行し、潜在的な貸借不一致やデータの不整合を検出します。
4. 複数サイト連結データ伝送プログラム(R10610)または連結コンソール・プログラム(P10610)を使用して、F1001、F1002およびF1003テーブルの連結残高をソース・サイトからターゲット・サイトに送信します。

## ターゲット・サイト

複数の通貨を使用している場合のターゲット・サイトでの複数サイト連結の基本ステップは、次のとおりです。

1. 連結残高仕訳プログラム(R10480)を実行して、ソース・サイトから受信した連結残高の仕訳を作成します。

このプログラムにより、仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)に仕訳が作成されます。
2. 整合性レポートを実行して、前のステップの結果を検討します。
3. 仕訳バッチ処理プログラム(R09110Z)を実行してバッチ仕訳を処理し、取引明細テーブル(F0911)に転記します。

このプログラムにより、詳細な監査証跡を示すレポートが印刷されます。
4. 総勘定元帳への転記プログラム(R09801)を実行して、F0911の仕訳をF0902テーブルに転記します。
5. F0902テーブルの残高情報にアクセスする任意の照会プログラムまたはレポート・プログラムを使用して、複数サイト連結残高を確認します。

---

## 多通貨の連結規則の設定

この項では、多通貨環境における連結規則の概要と、多通貨環境での連結規則の定義方法について説明します。

## 多通貨の連結規則について

各勘定科目の残高を通貨詳細別に保持する場合を除き、ソース・サイトの勘定残高の連結規則を定義するステップは、複数の通貨を処理するかどうかに関係なく同じです。

## 多通貨の連結規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
連結設定の改訂	W10470D	「連結設定の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	多通貨の連結規則を定義します。

## 多通貨の連結規則の定義

「連結設定の改訂」フォームにアクセスします。

「連結設定の改訂」フォーム

### 追加設定

#### 通貨別残高

このチェックボックスを選択します。選択しないと、勘定科目ごとに1つの集計レコードが作成されます。

## 第 28 章

# 多通貨の資金予測について

この章では、多通貨の資金予測の概要について説明します。

## 多通貨の資金予測プログラム

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計の資金予測プログラムを使用すると、将来の資金要件を予測し、現金勘定を効果的に管理できます。資金予測を行うことにより、1つまたは複数の銀行勘定を分析して、計画された日付に基づいて毎日または定期的に資金状況を予測できます。

資金予測では、次の3つの通貨が使用されます。

- 基本通貨。基本通貨は、会社の通貨です。外貨取引の場合、ノード通貨は取引の国内通貨側の通貨コードになります。
- ノード通貨。ノード通貨は、単一の資金タイプに属する資金予測金額を再評価し、保存するために使用されます。
- 表示通貨。この共通通貨を使用して、すべての資金タイプのノード金額が表示用に動的に再評価されます。

### 多通貨処理に関する考慮事項

次の例外を除き、多通貨環境で処理を行うかどうかに関係なく、資金予測の初期設定と定期処理は同じです。

- 国内通貨以外の通貨で資金予測金額を処理するには、再評価通貨を資金タイプ規則に割り当てます。「資金タイプ規則の改訂」フォームの「ノード通貨」フィールドに、通貨コードを入力します。
- 資金予測データのリフレッシュ・プログラム (R00522) を実行すると、資金予測データ・テーブル (F09522) の未決済金額が銀行勘定科目、期日および基本 (国内) 通貨別に集計されます。

資金タイプの選択基準を満たす銀行勘定科目、期日および基本通貨が複数ある場合は、複数の集計金額が作成されます。

資金タイプ規則にノード (再評価) 通貨を割り当てた場合、R00522 プログラムでは、F09522 テーブルの集計基本通貨金額を使用して、F0015 テーブルから為替レートを取得し、ノード通貨金額が計算されます。基本通貨金額と再評価ノード金額の両方が F09522 テーブルに保存されます。為替レートが存在しない場合、R00522 プログラムによってワーク・センターにメッセージが送信され、ノード通貨ではなく基本通貨で資金タイプの詳細レコードが集計されます。これは、為替レートが存在しないことによって処理が完全に失敗しないようにするために行われます。この処理が行われた場合、ノード通貨のかわりに基本通貨が使用され、F09522 テーブルの基本通貨金額とノード通貨金額は同じになります。

- 資金予測分析プログラム (P09522) を使用して日付に基づく資金予測金額を表示する前に、処理オプションで表示 (再評価) 通貨の通貨コードを指定します。処理オプションで表示通貨を指定しないと、会社 00000 の通貨で金額が表示されます。

P09522プログラムにより、F09522テーブルから算出されたノード金額が抽出されます。正しい資金予測金額を計算するには、表示通貨とF09522テーブルに保存されているノード通貨または基本通貨の間の為替レートが存在する必要があります。為替レートが存在しない場合、為替レートが存在しない通貨関係を示すハード・エラーが表示されます。

次の例では、基本通貨、ノード通貨および表示通貨に基づいて、どのように処理が行われるかを説明します。この例では、基本通貨はCOPで、ノード通貨はEURです。

- 表示通貨がCOP（基本通貨と同じ）である場合：P09522プログラムを実行しても、EURに換算する必要はありません。（為替レートが存在するかどうかに関係なく）ノード金額にデフォルト設定された、R00522テーブルからのCOP金額が表示されます。

---

**注意:** 表示通貨が資金タイプ規則のノード通貨または基本通貨と同じ場合は、金額を再び再評価する必要がないため、「資金予測分析」対話型フォームのパフォーマンスが向上します。

---

- 表示通貨がEUR（ノード通貨と同じ）である場合：R00522プログラムの実行後に不足しているEUR対COPの為替レートを追加した場合は、EUR対COPの為替レートが検索され、計算が動的に実行されて、（R00522テーブルからノード金額にデフォルト設定された）COP金額がEUR表示通貨に換算されます。不足している為替レートを追加しないと、P09522プログラムで為替レートの設定に関するハード・エラーが返されます。P09522プログラムの実行を続行するには、為替レートを追加する必要があります。資金予測金額を表示するには、為替レート・プログラム（P0015A）を使用して為替レートを入力し、「資金予測分析」フォームで「検索」を再びクリックする必要があります。F09522テーブルのデータをリフレッシュするために、R00522プログラムを再実行する必要はありません。P09522プログラムを実行する前に、いつでも為替レートを入力できます。
- 表示通貨がUSD（基本通貨でもノード通貨でもない）である場合：USD対COPの代替為替レートが見つかった場合は、計算を実行して、ノード金額で保存されているCOP金額を換算し、USDの金額を表示できます。表示通貨に対応する為替レートが存在しない場合は、P09522プログラムで為替レートの設定に関するハード・エラーが返されます。P09522プログラムの実行を続行するには、為替レートを追加する必要があります。P09522プログラムで為替レートの設定に関するハード・エラーが返されます。P09522プログラムの実行を続行するには、為替レートを追加する必要があります。F09522テーブルのデータをリフレッシュするために、R00522プログラムを再実行する必要はありません。P09522プログラムを実行する前に、いつでも為替レートを入力できます。

## 第 29 章

# 集計残高から通貨別残高への変更

この章では、システムで通貨別残高の転記を設定していなかった場合に、通貨別残高を転記する方法の概要について説明します。

---

### 通貨別残高の転記方法について

当初、JD Edwards EnterpriseOneシステムの設定時に通貨別残高の転記を指定せず（つまり、集計残高の転記を指定して）、後から通貨別残高を転記することに決定した場合は、次のステップを実行してシステムを変更する必要があります。最初に、次のステップをテスト環境で実行します。結果が正確かどうかを確認してから、本稼働環境で各ステップを実行してください。

1. 通貨別残高を追跡する勘定科目範囲を指定して、AAI項目PBCxxを設定します。
2. 「会社の設定」フォームの「通貨」タブで、「通貨別勘定残高の転記」チェックボックスを選択します。
3. 取引明細の再転記プログラム(R099102)をテスト・モードで実行して、レポートのみを印刷します。
4. レポートを検討して、一番右のカラムに通貨コードが表示されていることを確認します。
5. 取引明細の再転記プログラムを最終モードで実行し、レポートを印刷して、F0902テーブルを更新します。

これにより、F0902テーブルに新しいレコードが作成されます。次のステップで説明するように、元のレコードを削除する必要があります。

6. F0902テーブルの元のレコードを削除します。

これらのレコードは、「通貨別勘定残高の転記」チェックボックスを選択する前に作成されたものです。データベース管理者に相談してください。



## 付録 A

# 外部為替レート処理のマッピング要件

この付録では、為替レートを外部ソースから外部為替レート・ワークファイル(F0015Z1)にアップロードするためのマッピング要件について説明します。

### 関連項目:

第 6 章、「為替レートの設定」、「外部ソースからの為替レートのアップロード」、43ページ

## F0015Z1ワークファイルの多通貨フィールドのマッピング

外部為替レート・ワークファイル(F0015Z1)の必須、任意および未使用のフィールドの一覧については、次の表を確認してください。これらのワークファイルのフィールド名は、対話型フォームのフィールド名に対応しています。

### F0015Z1ワークファイルの必須フィールド

これらのフィールドは、外部為替レート処理プログラム(R0015Z1)で必須となります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI-ユーザーID	ZEEDUS	文字	10	ユーザー定義のID番号です。処理実行者のID、または従業員ワーク・センターでのメッセージの受信者のユーザーIDを入力します。  このフィールドと、ZEEDBTおよびZEEDTNを組み合わせることにより、トランザクション・グループが個別に識別されます。
EDI-バッチ番号	ZEEDBT	文字	15	処理するトランザクションをグループ化する番号です。  このフィールドと、ZEEDUSおよびZEEDTNを組み合わせることにより、トランザクション・グループが個別に識別されます。
EDI-トランザクション番号	ZEEDTN	文字	22	このフィールドは、ZEEDLNと組み合わせて、各トランザクションを区別します。  このフィールドと、ZEEDUSおよびZEEDBTを組み合わせることにより、トランザクション・グループが個別に識別されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 行番号	ZEEDLN	数値	7	このフィールドと、ZEEDTNを組み合わせることにより、各トランザクションの行番号を個別に識別します。
EDI - 処理済	ZEEDSP	文字	1	このフィールドはブランクにしてください。次のように処理されます。  0(ゼロ): トランザクションは未処理か、処理中にエラーが発生したことを示します。  1: トランザクションは正常に処理されています。
換算元通貨コード	ZECRCD	文字	3	トランザクションの換算元通貨を指定するコードです。このコードには、F0013テーブルに設定されているものを入力してください。
有効日付	ZEEFT	日付	6	トランザクションの有効日付です。
通貨換算レート - 乗算	ZECRR	数値	15	トランザクションの為替レート(乗数)です。
換算先通貨コード	ZECRDC	文字	3	トランザクションの換算先通貨を指定するコードです。このコードには、F0013テーブルに設定されているものを入力してください。
通貨換算レート - 除算	ZECRRD	数値	15	トランザクションの為替レート(除数)です。
計算方法	ZECLMETH	文字	1	為替レートの計算方法です。値は次のとおりです。  1: 逆換算  2: 逆換算禁止  3: 間接為替

### F0015Z1ワークファイルの任意フィールド

これらのフィールドは、外部為替レートの処理プログラムで任意であり必須ではありません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
住所番号	ZEAN8	数値	8	顧客または仕入先の住所録番号で、契約為替レートが適用できる場合に使用されます。入力する番号はF0101テーブルに設定されている必要があります。  各顧客または仕入先に対して契約為替レートとともに個別のバッチを作成する必要があります。これが必要なのは、住所録番号ではなくバッチ番号に基づいてF0015Z1ワークファイルのレートを検討および改訂するためです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
通貨換算方法 (Y/Z)	CRCM	文字	1	為替レート計算の乗数法(Y)または除数法(Z)です。  ブランクにすると、一般会計固定情報で設定されている換算方法が使用されます。
間接為替通貨 コード	TRCR	文字列	3	2つの通貨間の金額を計算するための第3の通貨です。
スポット・レート	CSR	文字	1	取引の入力時にF0015テーブルで為替レートを一時変更できるようにするオプションです。値は次のとおりです。  0: スポット・レート不可 1: スポット・レート可

### F0015Z1ワークファイルのシステム提供のフィールド値

これらの監査フィールドには、外部為替レートの処理プログラムで更新された値が含まれます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ユーザーID	ZEUSER	文字列	10	プロセスの実行者を識別するユーザー定義の番号です。
プログラムID	ZEPID	文字列	10	バッチ・アプリケーションを識別するプログラムの番号です。
更新日付	ZEUPMJ	日付	6	F0015Z1ワークファイルが最後に更新された日付です。
最終更新時刻	ZEUPMT	数値	6	F0015Z1ワークファイルが最後に更新された時刻です。
ワーク・ステーションID	ZEJOBN	文字列	10	F0015Z1ワークファイルが更新されているワークステーションのID番号です。

### F0015Z1ワークファイルの未使用フィールド

これらのフィールドは、外部為替レートの処理プログラムで現在使用されていないため、ブランクにする必要があります。これらのフィールドに入力された値は無視されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
EDI - 伝票タイプ	ZEEDCT	文字	2
トランザクション・タイプ	ZETYTN	文字	8
EDI - 変換フォーマット	ZEEDFT	文字	10
EDI - 伝送日付	ZEEDDT	日付	6

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ
送受信インディケータ	ZEDRIN	文字	1
EDI-処理済明細行数	ZEEDDL	数値	5
取引先ID	ZEPNID	文字	15
トランザクション・アクション	ZETNAC	文字	2
レコード・タイプ	ZEEDTY	文字	1
レコード順序	ZEEDSQ	数値	2
EDI-トランザクション・セット番号	ZEEDTS	文字	6
EDI-送受信インディケータ	ZEEDER	文字	1
EDI-トランザクション・アクション	ZEEDTC	文字	1
EDI-トランザクション・タイプ	ZEEDTR	文字	1
バッチ・ファイル-取引明細レコード作成	ZEEDGL	文字	1
バッチ・ファイル割引処理フラグ	ZEEDDH	文字	1
ユーザー住所番号	ZEEDAN	数値	8
通貨レート・タイプ	ZERTTYP	文字列	2

## 付録 B

# 多通貨バッチ仕訳処理のマッピング要件

この付録では、多通貨仕訳バッチ処理のマッピング要件について説明します。

## 多通貨仕訳のマッピング要件

この項では、3つの通貨固有フィールドに関するガイドラインと、F0911Z1テーブルの必須多通貨フィールドのマッピング要件について説明します。

### 事前設定

バッチ仕訳処理の非通貨マッピング要件を確認してください。

### バッチ仕訳の「金額」、「為替レート」および「通貨モード」フィールドに関するガイドライン

多通貨環境でバッチ仕訳を処理する際には、次のガイドラインに従って、国内通貨取引と外貨取引の金額、為替レートおよび通貨モードの入力方法を決定してください。

取引タイプ	説明
国内通貨	(最初の仕訳行のVNCRCOの値として指定されている)取引の通貨コードが会社の通貨コードと一致している場合、その取引は国内通貨取引です。  「金額」フィールド(VNAA)に取引金額を入力し、「通貨モード」フィールド(VNCRRM)に「D」と入力します。為替レートは入力しません。
外貨	(最初の仕訳行のVNCRCOの値として指定されている)取引の通貨コードが会社の通貨コードとは異なっている場合、その取引は外貨取引です。  「外貨建て金額」フィールド(VNACR)に取引金額を入力し、「通貨モード」フィールド(VNCRRM)に「F」と入力します。為替レート(VNCRR)に基づいて、国内通貨金額が計算されます。

取引タイプ	説明
外貨取引の国内通貨側	<p>(最初の仕訳行のVNCRCDの値として指定されている)取引の通貨コードが会社の通貨コードとは異なっており、「金額」フィールド(VNAA)に金額が含まれている場合、その取引は外貨取引です。</p> <p>「通貨モード」フィールド(VNCRRM)に「D」と入力します。為替レート(VNCRR)に基づいて、外貨金額が計算されます。</p>
通貨モード3を使用する外貨および国内通貨取引	<p>外貨金額と国内通貨金額の両方がわかっている場合は、「通貨モード」フィールド(VNCRRM)に「3」と入力し、「金額」フィールド(VNAA)と「外貨建て金額」フィールド(VNACR)の両方に金額を入力することによって、システムによる計算を省略できます。「為替レート」フィールド(VNCRR)を空白にすると、2つの金額に基づいて為替レートが計算されます。</p>

## F0911Z1テーブルの必須多通貨フィールド

バッチ仕訳を処理する前に、次の表に示されている仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)の必須多通貨フィールドの一覧を確認してください。また、フィールドによっては、値を空白にしておくことができます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
通貨コード	VNCRCD	文字	3	<p>取引の通貨を指定するコードです。このフィールドの値は、F0013テーブルに設定されている必要があります。</p> <p>このフィールドに値を入力すると、最初の仕訳行の値が取引のすべての行に対して使用されます。後続の行の値は無視されます。たとえば、行1のVNCRCDフィールドの値がCADであり、行2のVNCRCDフィールドの値がEURである場合、EURは無視され、取引全体でCADが使用されます。</p> <p>このフィールドを空白にすると、最初の仕訳行に割り当てられている会社の通貨コードが使用されます。</p> <p><b>注意:</b> 仕訳に含まれている行項目の数に関係なく、仕訳には1つの通貨コードのみを割り当てることができます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
通貨モード	VNCRRM	文字	1	<p>取引が国内通貨取引と外貨取引のどちらであるかを指定するコードです。このフィールドは、取引に関する必須情報を計算する場合に、「通貨コード」フィールド(VNCRCD)、「金額」フィールド(VNAA)、「外貨建て金額」フィールド(VNACR)および「為替レート」フィールド(VNCRR)とともに使用されます。</p> <p>取引に対して指定されている他の情報に応じて、「D」(国内通貨)、「F」(外貨)または「3」(国内通貨および外貨)を入力します。「3」を入力した場合は、国内通貨金額と外貨金額の両方を入力する必要があります。システムによる計算は実行されません。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、取引に対して指定されている他の情報によって値が決定され、仕訳の処理時にフィールドが更新されます。</p> <p><b>注意:</b> 仕訳に含まれている行項目の数に関係なく、仕訳には1つの通貨モードのみを割り当てることができます。</p>
外貨建て金額	VNACR	数値	15	<p>通貨コード(VNCRCD)が、F0010テーブルで定義されている会社に割り当てられた通貨コードとは異なる場合にのみ、このフィールドに取引金額を入力します。データベースと同じ形式で金額を入力します。データベースによって、小数を入力できる場合とできない場合があります。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
為替レート	VNCRR	数値	15	<p>この値は、指定された情報に応じて国内通貨金額または外貨金額を計算するために使用される為替レートです。</p> <p>このフィールドをブランクにし、「通貨モード」フィールド(VNCRRM)に「3」以外の値を指定した場合は、F0015テーブルからの為替レートが使用されます。テーブルで定義された為替レートを一時変更する場合、またはテーブルに為替レートが存在しない場合は、このフィールドに値を入力してください。</p> <p>仕訳入力MBF処理オプション・プログラム(P0900049)の処理オプションで許容度チェックを有効にした場合は、入力した為替レートが検証されます。許容度チェックを有効にしなかった場合は、為替レートは検証されません。</p> <p><b>注意:</b> 仕訳に含まれている行項目の数に関係なく、仕訳には1つの為替レートのみを割り当てることができます。</p>
元帳タイプ	VNLT	文字	2	<p>このフィールドはブランクにすることも、AAまたはユーザー定義コード(UDC)テーブル00/LTに設定されているCA以外の有効な元帳タイプを入力することもできます。このフィールドに「CA」と入力しないでください。</p> <p>「通貨コード」、「通貨モード」および「金額」フィールドに基づいて、取引が外貨であるかどうかが決まります。</p> <p><b>注意:</b> 仕訳に含まれている行項目の数に関係なく、仕訳には1つの元帳タイプのみを割り当てることができます。</p>

## 付録 C

# 多通貨バッチ請求書処理のマッピング要件

この付録では、多通貨バッチ請求書処理のマッピング要件について説明します。

---

## 外貨バッチ請求書処理のマッピング要件

外部ソースから外貨建て請求書をアップロードするには、ソース・システムのフィールドをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムのフィールドにマッピングするカスタム・プログラムを作成する必要があります。この付録の各表では、基本通貨コード、取引通貨コード、通貨モードなどの各フィールド間の関係と、バッチ請求書(F03B11Z1)テーブルと仕訳アップロード(F0911Z1)テーブルの通貨固有のマッピング要件について説明します。

### 事前設定

バッチ請求書処理の非通貨マッピング要件を確認してください。

### バッチ請求書の「金額」、「為替レート」および「通貨モード」フィールドに関するガイドライン

外貨建て請求書を処理するには、次のガイドラインに従って、国内通貨取引と外貨取引の金額、為替レートおよび通貨モードの入力方法を決定してください。

取引タイプ	多通貨フィールドの値の説明
国内通貨	<p>(「通貨コード」フィールド(VJCRCD)の値として指定されている)取引の通貨コードが会社の通貨コードと一致している場合、その取引は国内通貨取引です。</p> <p>「総額」フィールド(VJAG)に取引金額を入力し、「通貨コード」フィールド(VJCRRM)に「D」と入力します。為替レートは入力しません。</p> <p>割引情報を入力している場合は、「割引可能額」フィールド(VJADSC)に値を入力します。「割引可能額」フィールドをブランクにし、支払条件(VJPTC)を入力すると、その支払条件に基づいて割引が計算されます。「割引可能額」フィールドと「支払条件」フィールドの両方をブランクにすると、業種別顧客マスター(F03012)の支払条件に基づいて割引が計算されます。</p> <p>税情報を入力している場合は、「課税対象額」(VLATXA)、「非課税額」(VLATXN)および「税額」(VLSTAM)フィールドに値を入力します。これらのフィールドをブランクにすると、レコードに対して入力した税率税域(VJTXA)と税目コード(VJEXR1)に基づいて金額が計算されます。「税率/税域」フィールドと「税目コード」フィールドもブランクにした場合は、F03012テーブルの「税率/税域」フィールドと「税目コード」フィールドに基づいて税額が計算されます。</p>
外貨	<p>(「通貨コード」フィールド(VJCRCD)の値として指定されている)取引の通貨コードが会社の通貨コードとは異なる場合、その取引は外貨取引です。</p> <p>「外貨建て金額」フィールド(VJACR)に取引金額を入力し、「通貨モード」フィールド(VJCRRM)に「F」と入力します。「為替レート」フィールド(VJCRR)に基づいて、国内通貨金額が計算されます。</p> <p>割引情報を入力している場合は、「割引可能額(外貨)」フィールド(VJCDS)に値を入力します。</p> <p>税情報を入力している場合は、「課税対象額(外貨)」(VJCTXA)、「非課税額(外貨)」(BJCTXN)および「税額(外貨)」(VJCTAM)フィールドに値を入力します。</p>
外貨取引の国内通貨側	<p>(「通貨コード」フィールド(VJCRCD)の値として指定されている)取引の通貨コードが会社の通貨コードとは異なる場合、「総額」フィールド(VJAG)に国内通貨金額を入力します。</p> <p>外貨取引の場合とは異なり、「外貨建て金額」フィールドには金額を入力しません。</p> <p>「通貨モード」フィールド(VJCRRM)に「D」と入力します。為替レート(VJCRR)に基づいて、外貨金額が計算されます。</p> <p>割引情報を入力している場合は、「割引可能額(外貨)」フィールド(VJCDS)に値を入力します。</p> <p>税情報を入力している場合は、「課税対象額(外貨)」(VJCTXA)、「非課税額(外貨)」(BJCTXN)および「税額(外貨)」(VJCTAM)フィールドに値を入力します。</p>

## F03B11Z1およびF0911Z1テーブルの必須多通貨フィールド

バッチ請求書を処理する前に、次の表に示されているバッチ請求書(F03B11Z1)テーブルと仕訳アップロード(F0911Z1)テーブルの必須多通貨フィールドの一覧を確認してください。また、フィールドによっては、値をブランクにしておくことができます。

## F03B11Z1テーブルの必須多通貨フィールド

この表は、F03B11Z1テーブルの必須多通貨フィールドに関する情報を示しています。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
通貨モード	VJCRRM	文字	1	<p>請求書が国内通貨建てと外貨建てのどちらであるかを示すコードです。このフィールドは、取引に関する必須金額を計算する場合に、「通貨コード」(VJCRCD)、「総額」(VJAG)、「外貨建て金額」(VJACR)および「為替レート」フィールド(VJCRR)とともに使用されます。</p> <p>取引に対して指定されている他の情報に応じて、「D」または「F」を入力します。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、取引に対して指定されている他の情報に基づいてこの値が決定されます。このフィールドは、請求書の処理時に更新されます。</p>
通貨コード	VJCRCD	文字	3	<p>請求書の通貨を識別するコードです。このフィールドには、F0013テーブルにある値を入力してください。</p>
外貨建て金額	VJACR	数値	15	<p>外貨建て金額です。「通貨コード」フィールド(VJCRCD)に指定されている値とF0010テーブルで定義されている会社の通貨コードが異なる場合にのみ、取引金額を入力します。</p>
為替レート	VJCRR	数値	15	<p>請求書の国内通貨金額または外貨金額を計算するために使用される為替レートを指定します。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、F0015テーブルから為替レートが取得されます。</p> <p>F0015テーブルの為替レートを一時変更する場合、または為替レートが存在しない場合は、為替レートを入力してください。請求書入力MBF処理オプション(P03B0011)の処理オプションで許容度チェックを有効に設定すると、入力した為替レートが検証されます。許容度チェックを有効に設定しないと、検証は実行されません。</p>
割引可能額(外貨)	VJCDS	数値	15	<p>金額を入力します。または、「支払条件コード」フィールド(VJPTC)に基づいて割引が計算されるようにする場合は、このフィールドをブランクにします。VJPTCフィールドがブランクの場合は、F03012テーブルの支払条件に基づいて割引が計算されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
課税対象額(外貨)	VJCTXA	数値	15	<p>このフィールドは、「税率/税域」(VJTXA1)、「税目コード」(VJEXR1)および「外貨建て金額」(VJACR)フィールドの情報に基づいて更新されます。レコードに指定されていない金額が計算されます。たとえば、「課税対象額(外貨)」フィールド(VJCTXA)に金額を入力し、「外貨建て金額」フィールド(VJACR)をブランクにした場合は、外貨金額が計算されます。</p> <p>「外貨建て金額」フィールド(VJACR)と「課税対象額(外貨)」フィールド(VJCTXA)の両方に値を入力しないでください。</p> <p>「通貨モード」フィールド(VJCRRM)が「D」である場合は、「課税対象額(外貨)」、「非課税額(外貨)」および「税額(外貨)」フィールドに値を入力しないでください。かわりに、「課税対象額」(VJATXA)、「非課税額」(VJATXN)および「税額」(VJSTAM)フィールドを使用してください。</p>
非課税対象額(外貨)	VJCTXN	数値	15	<p>このフィールドは、「税率/税域」(VJTXA1)、「税目コード」(VJEXR1)および「外貨建て金額」(VJACR)フィールドの情報に基づいて更新されます。レコードに指定されていない金額が計算されます。たとえば、「課税対象額(外貨)」フィールド(VJCTXA)に金額を入力し、「外貨建て金額」フィールド(VJACR)をブランクにした場合は、外貨金額が計算されます。</p> <p>「外貨建て金額」フィールド(VJACR)と「課税対象額(外貨)」フィールド(VJCTXA)の両方に値を入力しないでください。</p> <p>「通貨モード」フィールド(VJCRRM)が「D」である場合は、「課税対象額(外貨)」、「非課税額(外貨)」および「税額(外貨)」フィールドに値を入力しないでください。かわりに、「課税対象額」(VJATXA)、「非課税額」(VJATXN)および「税額」(VJSTAM)フィールドを使用してください。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
税額(外貨)	VJCTAM	数値	15	<p>このフィールドは、「税率/税域」(VJTXA1)、「税目コード」(VJEXR1)および「外貨建て金額」(VJACR)フィールドの情報に基づいて更新されます。レコードに指定されていない金額が計算されます。たとえば、「課税対象額(外貨)」フィールド(VJCTXA)に金額を入力し、「外貨建て金額」フィールド(VJACR)をブランクにした場合は、外貨金額が計算されます。</p> <p>「外貨建て金額」フィールド(VJACR)と「課税対象額(外貨)」フィールド(VJCTXA)の両方に値を入力しないでください。</p> <p>「通貨モード」フィールド(VJCRRM)が「D」である場合は、「課税対象額(外貨)」、「非課税額(外貨)」および「税額(外貨)」フィールドに値を入力しないでください。かわりに、「課税対象額」(VJATXA)、「非課税額」(VJATXN)および「税額」(VJSTAM)フィールドを使用してください。</p>
国内入力-多通貨配賦	VJDMCD	文字	1	<p>F0911Z1テーブルの配賦勘定がF03B11Z1テーブルの会社とは異なる通貨の会社用である場合は、このフィールドに「1」と入力し、一般会計固定情報プログラム(P0000)の「多通貨会社間取引の許可」オプションを有効にします。</p> <p>多通貨会社間取引を許可しない場合は、このフィールドをブランクにします。</p>
未入金額(外貨)	VJACR	数値	15	このフィールドはブランクにしてください。このフィールドは取引の処理時に更新されます。
有効割引額(外貨)	VJDSA	数値	15	<p>このフィールドはブランクにしてください。</p> <p>このフィールドは、「割引可能額(外貨)」フィールド(VJCDS)に金額が指定されている請求書に対して入金が適用されたときに更新されます。</p>
未入金額(外貨)	VJACR	数値	15	このフィールドはブランクにしてください。このフィールドは取引の処理時に更新されます。
有効割引額(外貨)	VJDSA	数値	15	<p>このフィールドはブランクにしてください。</p> <p>このフィールドは、「割引可能額(外貨)」フィールド(VJCDS)に金額が指定されている請求書に対して入金が適用されたときに更新されます。</p>

### F0911Z1テーブルの必須多通貨フィールド

この表は、バッチ請求書の処理に必要なF0911Z1テーブル内の対応する多通貨フィールドと、各フィールドの入力方法の説明を示しています。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
金額	VNAA	数値	15	国内通貨取引にのみ使用します。国内通貨取引を入力している場合は、このフィールドに金額を入力します。
外貨建て金額	VNACR	数値	15	外貨取引に使用します。外貨取引を入力している場合は、このフィールドに金額を入力します。
元帳タイプ	VNLT	文字	2	このフィールドに「AA」と入力するか、またはブランクにします。元帳タイプとして「CA」を入力しないでください。
通貨コード	VNCRCD	文字	3	このフィールドは、F03B11Z1テーブルの対応するフィールドの値に基づいて更新されます。
通貨モード	VNCRRM	文字	1	このフィールドは、F03B11Z1テーブルの対応するフィールドの値に基づいて更新されます。
為替レート	VNCRR	数値	15	このフィールドは、F03B11Z1テーブルの対応するフィールドの値に基づいて更新されます。
外貨建て総額	VNAGF	数値	15	外貨仕訳の場合、仕訳の外貨建て総額(付加価値税を含む)を入力します。入力した金額は、税計算プログラムで読み込まれ、検証と計算が行われます。「税率/税域」フィールドと「税目コード」フィールドに値を入力しなかった場合、このフィールドは無視されます。
税額(外貨)	VNCTAM	数値	15	外貨仕訳の場合、仕訳の外貨税額(付加価値税を含む)を入力します。入力した金額は、税計算プログラムで読み込まれ、検証と計算が行われます。「税率/税域」フィールドと「税目コード」フィールドに値を入力しなかった場合、このフィールドは無視されます。

## 付録 D

# 多通貨自動入金処理のマッピング要件

この付録では、多通貨自動入金処理のマッピング要件について説明します。

## F03B13Z1テーブルの必須多通貨フィールド

次の表に示されている電子入金入力テーブル(F03B13Z1)の必須多通貨フィールドの一覧を確認してください。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
通貨コード	RUCRCD	文字	3	入金の通貨を識別するコードです。 このフィールドに入力する値は、通貨コード・テーブル(F0013)に存在している必要があります。
為替レート	RUCRR	数値	15	支払われる請求書に対する差損益の計算に使用されるレートです。入金と請求書の為替レートが同じ場合は、差損益は計算されません。  このフィールドをブランクにすると、為替レートはF0015テーブルから取得されます。  F0015テーブルの為替レートを一時変更する場合、または為替レートが設定されていない場合は、為替レートを入力してください。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
通貨モード	RUCRRM	文字	1	<p>入金が国内通貨であるか、外貨であるかを指定するコードです。入金の通貨と支払われる請求書の基本通貨が異なる場合、その入金は外貨入金とみなされるため、このフィールドに「F」と入力する必要があります。</p> <p>多通貨処理が有効化されている環境で取引を入力している場合は、取引が国内通貨取引であるか外貨取引であるかに関係なく、この情報を銀行テープに入力する必要があります。</p>
未入金額(外貨)	RUFAP	数値	15	<p>このフィールドには、値を入力しません。</p> <p>「小切手金額」フィールド(RUCKAM)に入金金額を入力し、既知請求書照合(金額指定あり)(R03B50D)を使用している場合は、通貨に関係なく、「総額」(RUAG)フィールドに入金金額を入力します。</p>

## 付録 E

# 多通貨バッチ伝票処理のマッピング要件

この付録では、多通貨バッチ伝票処理のマッピング要件について説明します。

## 多通貨バッチ伝票のマッピング要件

外部ソースから外貨建て伝票をアップロードするには、ソース・システムのフィールドをJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムのフィールドにマッピングするカスタム・プログラムを作成する必要があります。この付録の各表では、「基本通貨コード」、「取引通貨コード」、「通貨モード」などの各フィールド間の関係と、バッチ伝票(F0411Z1)テーブルと仕訳アップロード(F0911Z1)テーブルの通貨固有のマッピング要件について説明します。

### 事前設定

バッチ伝票処理の非通貨マッピング要件を確認します。

## バッチ伝票の金額、為替レートおよび通貨モード・フィールドに関するガイドライン

多通貨環境でバッチ伝票を処理する際には、次のガイドラインに従って、国内通貨取引と外貨取引の金額、為替レートおよび通貨モードの入力方法を決定してください。

取引タイプ	多通貨フィールドの値の説明
国内通貨	(「通貨コード」フィールド(VLCRCD)の値として指定されている)取引の通貨コードが会社の通貨コードと一致している場合、その取引は国内通貨取引です。  「総額」フィールド(VLAG)に取引金額を入力し、「通貨モード」フィールド(VLCRRM)に「D」と入力します。為替レートは入力しません。  割引情報を入力している場合は、「割引可能額」フィールド(VLADSC)に値を入力します。  税情報を入力している場合は、「課税対象額」(VLATXA)、「非課税額」(VLATXN)および「税額」(VLSTAM)フィールドに値を入力します。

取引タイプ	多通貨フィールドの値の説明
外貨	<p>（「通貨コード」フィールド（VLCRCD）の値として指定されている）取引の通貨コードが会社の通貨コードとは異なる場合、その取引は外貨取引です。</p> <p>「外貨建て金額」フィールド（VLACR）に取引金額を入力し、「通貨モード」フィールド（VLCRRM）に「F」と入力します。「為替レート」フィールド（VLCRR）に基づいて、国内通貨金額が計算されます。</p> <p>割引情報を入力している場合は、「割引可能額（外貨）」フィールド（VLCDS）に値を入力します。</p> <p>税情報を入力している場合は、「課税対象額（外貨）」（VLCTXA）、「非課税額（外貨）」（VLCTXN）および「税額（外貨）」（VLCTAM）フィールドに値を入力します。</p>
外貨取引の国内通貨側	<p>（「通貨コード」フィールド（VLCRCD）の値として指定されている）取引の通貨コードが会社の通貨コードとは異なる場合、「総額」フィールド（VLAG）に国内通貨金額を入力します。</p> <p>外貨取引の場合とは異なり、「外貨建て金額」フィールドには金額を入力しません。</p> <p>「通貨モード」フィールド（VLCRRM）に「F」と入力します。為替レート（VLCRR）に基づいて、外貨金額が計算されます。</p> <p>割引情報を入力している場合は、「割引可能額（外貨）」フィールド（VLCDS）に値を入力します。</p> <p>税情報を入力している場合は、「課税対象額（外貨）」（VLCTXA）、「非課税額（外貨）」（VLCTXN）および「税額（外貨）」（VLCTAM）フィールドに値を入力します。</p>
通貨モード3を使用する外貨および国内通貨取引	<p>外貨金額と国内通貨金額の両方がわかっている場合は、システムによる計算を省略できます。「外貨建て金額」フィールド（VLACR）に外貨金額を入力し、「総額」フィールド（VLAG）に国内通貨金額を入力します。「通貨モード」フィールド（VLCRRM）に「3」と入力します。「為替レート」フィールド（VLCRR）に値を入力する必要があります。ただし、入力した金額またはF0015テーブルに対する為替レートの検証は実行されません。</p> <p>モード3では、割引と税は計算されません。</p> <p>「通貨モード」フィールド（VLCRRM）の値が「3」で、割引を処理する場合は、「提示割引額」フィールド（VLADSC）と「割引可能額（外貨）」フィールド（VLCDS）に割引情報を入力する必要があります。支払条件に基づく割引の計算は実行されません。</p> <p>「通貨モード」フィールド（VLCRRM）の値が「3」で、税を処理する場合は、すべての税フィールドに値を入力する必要があります。「税率/税域」フィールド（VLTXA1）と「税目コード」フィールド（VLEXR1）に基づく税額の計算は実行されません。</p>

## F0411Z1およびF0911Z1テーブルの必須多通貨フィールド

バッチ伝票を処理する前に、次の表に示されているF0411Z1およびF0911Z1テーブルの必須多通貨フィールドの一覧を確認してください。また、フィールドによっては、値をblankにしておくことができます。

## F0411Z1テーブルの必須多通貨フィールド

この表は、F0411Z1テーブルの必須多通貨フィールドに関する情報を示しています。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
通貨モード	VLCRRM	文字または数値	1	<p>伝票が国内通貨建てと外貨建てのどちらであるかを示すコードです。このフィールドは、取引に関する必須金額を計算するために、「通貨コード」(VLCRCD)、「総額」(VLACR)、「外貨建て金額」(VLACR)および「為替レート」フィールド(VLCRR)とともに使用されます。</p> <p>取引に対して指定されている他の情報に応じて、「D」、「F」または「3」を入力します。</p> <p>このフィールドを空白にすると、取引に対して指定されている他の情報に基づいて通貨モードの値が決定されます。このフィールドは、伝票の処理時に更新されます。</p>
通貨コード	VLCRCD	文字	3	<p>伝票の通貨を識別するコードです。このフィールドには、F0013テーブルにある値を入力してください。</p>
外貨建て金額	VLACR	数値	15	<p>「通貨コード」フィールド(VLCRCD)に指定されている値とF0010テーブルで定義されている会社の通貨コードが異なる場合にのみ、取引金額を入力します。</p> <p>通貨モード3で取引を処理する場合は、「外貨建て金額」フィールドと「総額」フィールドの両方に値を入力する必要があります。</p>
為替レート	VLCRR	数値	15	<p>伝票の国内通貨金額または外貨金額を計算するために使用される為替レートを指定します。</p> <p>このフィールドを空白にし、「通貨モード」フィールド(VLCRRM)に「3」以外の値を指定した場合は、為替レート・テーブル(F0015)から為替レートが読み込まれます。</p> <p>F0015テーブルの為替レートを一時変更する場合、または為替レートが存在しない場合は、為替レートを入力してください。伝票入力MBF処理オプション(P0400047)の処理オプションで許容度チェックを有効に設定すると、入力した為替レートが検証されます。許容度チェックを有効に設定しないと、検証は実行されません。</p> <p>「通貨モード」フィールド(VLCRRM)の値が3の場合は、このフィールドに為替レートを入力する必要があります。ただし、F0015テーブルまたは取引の金額に対する為替レートの検証は実行されません。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
割引可能額(外貨)	VLCDS	数値	15	<p>金額を入力します。または、「支払条件コード」フィールド(VLPTC)に基づいて割引が計算されるようにする場合は、このフィールドを空白にします。「支払条件コード」フィールドが空白で、F0401テーブルに支払条件が設定されている場合は、F0401テーブルの支払条件に基づいて割引が計算されます。</p> <p>通貨モード(VLCRRM)が「3」で、割引が可能な場合は、「割引可能額(外貨)」フィールド(VLCDS)と「提示割引額」フィールド(VLADSC)に金額を入力する必要があります。システムによる計算は実行されません。</p>
課税対象額(外貨)	VLCTXA	数値	15	<p>このフィールドは、「税率/税域」(VLTXA1)、「税目コード」(VLEXR1)および「外貨建て金額」(VLACR)フィールドの情報に基づいて更新されます。</p> <p>「外貨建て金額」フィールド(VLACR)と「課税対象額(外貨)」フィールド(VLCTXA)の両方に値を入力しないでください。「外貨建て金額」フィールドと「課税対象額(外貨)」フィールドのいずれか一方に値を入力すると、もう一方のフィールドが自動的に計算されます。</p> <p>通貨モード(VLCRRM)が「D」である場合は、「外貨建て金額」フィールド(VLACR)または「課税対象額(外貨)」フィールド(VLCTXA)には値を入力しないでください。かわりに、「課税対象額」(VLATXA)、「非課税額」(VLATXN)および「税額」(VLSTAM)フィールドに値を入力してください。</p> <p>「通貨モード」フィールド(VLCRRM)の値が「3」で、取引に税が含まれている場合は、システムによる計算は実行されません。外貨と国内金額の両方のすべての税フィールドに値を入力する必要があります。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
非課税対象額 (外貨)	VLCTXN	数値	15	<p>このフィールドは、「税率/税域」(VLTXA1)、「税目コード」(VLEXR1)および「外貨建て金額」(VLACR)フィールドの情報に基づいて更新されます。</p> <p>「外貨建て金額」フィールド(VLACR)と「課税対象額(外貨)」フィールド(VLCTXA)の両方に値を入力しないでください。「外貨建て金額」フィールドと「課税対象額(外貨)」フィールドのいずれか一方に値を入力すると、もう一方のフィールドが自動的に計算されます。</p> <p>「通貨モード」フィールド(VLCRRM)の値が「D」である場合は、「外貨建て金額」フィールド(VLACR)と「課税対象額(外貨)」フィールド(VLCTXA)には値を入力しないでください。かわりに、「課税対象額」(VLATXA)、「非課税額」(VLATXN)および「税額」(VLSTAM)フィールドを使用してください。</p> <p>「通貨モード」フィールド(VLCRRM)の値が「3」で、取引に税が含まれている場合は、外貨と国内金額の両方のすべての税フィールドに値を入力する必要があります。通貨モードが「3」である場合は、システムによる計算は実行されません。</p>
税額(外貨)	VLCTAM	数値	15	<p>このフィールドは、「税率/税域」(VLTXA1)、「税目コード」(VLEXR1)および「外貨建て金額」(VLACR)フィールドの情報に基づいて更新されます。</p> <p>「外貨建て金額」フィールド(VLACR)と「課税対象額(外貨)」フィールド(VLCTXA)の両方に値を入力しないでください。「外貨建て金額」フィールドと「課税対象額(外貨)」フィールドのいずれか一方に値を入力すると、もう一方のフィールドが自動的に計算されます。</p> <p>「通貨モード」フィールド(VLCRRM)の値が「D」である場合は、「外貨建て金額」フィールド(VLACR)または「課税対象額(外貨)」フィールド(VLCTXA)には値を入力しないでください。かわりに、「課税対象額」(VLATXA)、「非課税額」(VLATXN)および「税額」(VLSTAM)フィールドに値を入力してください。</p> <p>「通貨モード」フィールド(VLCRRM)の値が「3」で、取引に税が含まれている場合は、外貨と国内金額の両方のすべての税フィールドに値を入力する必要があります。通貨モードが「3」である場合は、システムによる計算は実行されません。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
国内入力-多通貨配賦	VLDMCD	文字	1	F0911Z1テーブルの配賦勘定がF0411Z1テーブルの会社とは異なる通貨の会社用である場合は、このフィールドに「1」と入力し、一般会計固定情報プログラム(P0000)の「多通貨会社間取引の許可」オプションを有効にします。  多通貨会社間取引を許可しない場合は、このフィールドをブランクにします。
未入金額(外貨)	VLACR	数値	15	このフィールドはブランクにしてください。このフィールドは取引の処理時に更新されます。
有効割引額(外貨)	VLDSA	数値	15	このフィールドはブランクにしてください。このフィールドは、「割引可能額(外貨)」フィールド(VLCDS)に金額が指定されている支払が伝票に対して行われたときに更新されます。

### F0911Z1の必須多通貨フィールド

この表は、F0911Z1テーブルの必須多通貨フィールドに関する情報を示しています。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
金額	VNAA	数値	15	国内通貨取引にのみ使用します。取引が国内通貨建てである場合は、このフィールドに金額を入力します。
外貨建て金額	VNACR	数値	15	外貨取引に使用します。取引が外貨建てである場合は、このフィールドに金額を入力します。
元帳タイプ	VNLT	文字	2	このフィールドに「AA」と入力するか、またはブランクにします。元帳タイプとして「CA」を入力しないでください。
通貨コード	VNCRCD	文字	3	このフィールドは、F0411Z1テーブルの対応するフィールドの値に基づいて更新されます。
通貨モード	VNCRRM	文字または数値	1	このフィールドは、F0411Z1テーブルの対応するフィールドの値に基づいて更新されます。
為替レート	VNCRR	数値	15	このフィールドは、F0411Z1テーブルの対応するフィールドの値に基づいて更新されます。

## 付録 F

# 多通貨EDI受信伝票処理のマッピング要件

この付録では、多通貨EDI受信伝票のマッピング要件について説明します。

## 多通貨EDI受信伝票のマッピング要件

次のEDIテーブルを使用して、EDI伝票の伝送を処理します。

- EDI請求書見出し - 受信 (F47041)
- EDI請求書明細 - 受信 (F47042)
- EDI請求書集計 - 受信 (F47044)

### F47041テーブルで必須の多通貨フィールド

F47041テーブルで必須の多通貨フィールドの一覧については、次の表を確認してください。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
通貨モード	SYCRRM	文字	1	伝票が国内通貨建てと外貨建てのどちらであるかを示すコードです。トランザクションに入力されるその他の情報に応じて、「D」、「F」または「3」を入力します。
通貨コード	SYCRCD	文字	3	F47042テーブルおよびF47044テーブルで「外貨建て金額」フィールド(ACR)に値を入力する場合にのみこのフィールドに値を入力してください。  F47041、F47042およびF47044の各テーブルでは、伝票ごとに同じ通貨コードを入力する必要があります。
為替レート	SYCRR	数値	15	F47042テーブルおよびF47044テーブルで「外貨建て金額」フィールド(ACR)に値を入力する場合にのみこのフィールドに値を入力してください。  F47041、F47042およびF47044の各テーブルでは、伝票ごとに同じ為替レートを入力する必要があります。

## F47042テーブルで必須の多通貨フィールド

F47042テーブルで必須の多通貨フィールドの一覧については、次の表を確認してください。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
総額	SZAG	数値	15	入金額が国内通貨建ての場合は、このフィールドに国内通貨金額を入力します。  入金額が外貨建ての場合は、このフィールドには値を入力しないでください。かわりに、外貨建て金額フィールド(SZACR)を使用します。
未入金額	SZAAP	数値	15	入金額が国内通貨建ての場合は、このフィールドに国内通貨金額を入力します。  入金額が外貨建ての場合は、このフィールドには値を入力しないでください。かわりに、「未入金額(外貨)」フィールド(SZFAP)を使用します。
通貨コード	SZORCD	文字	3	このテーブル(F47042)およびF47044テーブルで「外貨建て金額」フィールド(ACR)に値を入力する場合にのみこのフィールドに値を入力してください。  F47041、F47042およびF47044の各テーブルでは、伝票ごとに同じ通貨コードを入力する必要があります。
通貨モード	SZORRM	文字	1	伝票が国内通貨建てと外貨建てのどちらであるかを示すコードです。トランザクションに入力されるその他の情報に応じて、「D」、「F」または「3」を入力します。
為替レート	SZCRR	数値	15	このテーブル(F47042)およびF47044テーブルで「外貨建て金額」フィールド(ACR)に値を入力する場合にのみこのフィールドに値を入力してください。  F47041、F47042およびF47044の各テーブルでは、伝票ごとに同じ為替レートを入力する必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
外貨建て金額	SZACR	数値	15	伝票支払項目の外貨建て金額を入力します。  入金額が国内通貨建ての場合は、このフィールドは使用しないでください。かわりに、「総額」フィールド(SZAG)を使用します。
未入金額(外貨)	SZFAP	数値	15	伝票支払項目の外貨未決済金額を入力します。外貨未決済金額と外貨建て金額の値は等しい必要があります。一部のみ支払済の伝票は、処理できません。  入金額が国内通貨建ての場合は、このフィールドは使用しないでください。かわりに、「未入金額」フィールド(SZAAP)を使用します。

## F47044テーブルで必須の多通貨フィールド

F47044テーブルで必須の多通貨フィールドの一覧については、次の表を確認してください。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
総額	SWAG	数値	15	入金額が国内通貨建ての場合は、このフィールドに国内通貨金額を入力します。  入金額が外貨建ての場合は、このフィールドには値を入力しないでください。かわりに、「外貨建て金額」フィールド(SWACR)を使用します。
未入金額	SWAAP	数値	15	入金額が国内通貨建ての場合は、このフィールドに国内通貨金額を入力します。  入金額が外貨建ての場合は、このフィールドには値を入力しないでください。かわりに、「未入金額(外貨)」フィールド(SWFAP)を使用します。
通貨モード	SWCRRM	文字	1	伝票が国内通貨建てと外貨建てのどちらであるかを示すコードです。トランザクションに入力されるその他の情報に応じて、「D」、「F」または「3」を入力します。
通貨コード	SWCRCD	文字	3	このテーブル(F47044)およびF47042テーブルで「外貨建て金額」フィールド(ACR)に値を入力する場合にのみこのフィールドに値を入力してください。  F47041、F47042およびF47044の各テーブルでは、伝票ごとに同じ通貨コードを入力する必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
為替レート	SWCRR	数値	15	<p>このテーブル (F47044) および F47042 テーブルで「外貨建て金額」フィールド (ACR) に値を入力する場合にのみこのフィールドに値を入力してください。</p> <p>F47041、F47042 および F47044 の各テーブルでは、伝票ごとに同じ為替レートを入力する必要があります。</p>
外貨建て金額	SWACR	数値	15	<p>伝票の外貨建て金額の合計を入力します。</p> <p>入金額が国内通貨建ての場合は、このフィールドは使用しないでください。かわりに、「総額」フィールド (SWAG) を使用します。</p>
未入金額 (外貨)	SWFAP	数値	15	<p>伝票の外貨未決済金額の合計を入力します。外貨未決済金額と外貨建て金額の値は等しい必要があります。一部のみ支払済の伝票は、処理できません。</p> <p>入金額が国内通貨建ての場合は、このフィールドは使用しないでください。かわりに、「未入金額」フィールド (SWAAP) を使用します。</p>

## 付録 G

# JD Edwards EnterpriseOneの多通貨レポート

この付録では、多通貨レポートの概要について説明し、次の情報を提供します。

- 多通貨レポートの一覧表
- 主な多通貨レポートの詳細

## 多通貨レポート

Financial Managementシステムでは、多通貨処理のための標準レポートと分析レポートを提供します。選択したレポートによっては、国内通貨金額および外貨に換算した金額、および取引通貨や指定した通貨での仮定通貨金額、年齢調べ金額などの詳細情報を検討できます。

一度に複数の通貨を印刷する場合、これらのレポートの総合計はハッシュ合計であり無意味なものとなります。これを避けるため、このレポートに複数のバージョンを設定し、処理オプションとデータ選択を使用して、このレポートの情報を1つの通貨に限定します。

## JD Edwards EnterpriseOneのすべての多通貨レポート

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システム、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システム、およびJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムの多通貨レポートをレポートID順に示しています。このリストには、複数の通貨で印刷する標準レポートおよび分析レポートは含まれません。

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R03B413B 未決済売掛金(外貨建て集計)レポート	このレポートを印刷して、顧客の売掛金勘定および通貨の関連情報に関する現在の集計情報を検討します。	「売掛管理レポート」(G03B14)、「未決済売掛金(外貨建て集計)」
R03B4201A 未決済売掛金(備考)レポート	このレポートを印刷して、顧客ごとに請求書、クレジット・メモ、仮受金などの未決済項目を検討します。	「売掛管理レポート」(G03B14)、「未決済売掛金(備考)」
R03B4201B 未決済売掛金(年齢調べ)レポート	このレポートを印刷して、特定の年齢調べカテゴリの未決済売掛金項目を検討します。このレポートには、会社ごとの合計とすべての会社の総合計が表示されます。	「売掛管理レポート」(G03B14)、「未決済売掛金(年齢調べ)」

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R03B429A 通貨明細 - 外貨および国内通貨	このレポートを印刷して、外貨金額と国内通貨金額の両方で未決済売掛金項目のリストを検討します。	「売掛管理レポート」(G03B14)、「未決済売掛金(外貨)」
R03B429B 通貨明細 - 年齢調べ	このレポートを印刷して、取引の年齢調べを行う通貨で未決済売掛金項目のリストを検討します。	「売掛管理レポート」(G03B14)、「未決済売掛金(外貨)」
R03B429C 通貨 - 外貨/国内通貨(年齢調べ付き)	このレポートを印刷して、外貨金額と国内通貨金額で特定の年齢調べカテゴリの未決済売掛金項目のリストを検討します。	「売掛管理レポート」(G03B14)、「未決済売掛金(外貨)」
R04413A、R04413C、R04413D 多通貨での未決済買掛金集計レポート	これらのレポートを印刷して、外貨金額と国内通貨金額で特定の年齢調べカテゴリの未決済売掛金項目のリストを検討します。	「買掛管理レポート」(G0414)、「未決済買掛金(外貨建て)」
R04427A、R04427B、R04427C、R04427D、R04427E、R04427F 未決済買掛金(外貨建て)	これらのレポートを印刷して、F0411テーブルに基づいて、外貨金額で未決済買掛金項目の明細リストを検討します。レポートによっては、年齢調べの日付と方法を指定します。	「買掛管理レポート」(G0414)、「未決済買掛金(外貨建て)」
R04428C 買掛金明細 - 承認者別外貨年齢調べ付き	このレポートを印刷して、承認者番号別に未決済外貨年齢調べ金額を検討し、未決済金額とともに支払期日と費用仮勘定を表示します。	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「伝票明細レポート」
R04431 支払予定レポート	このレポートを印刷して、仕入先別伝票と未決済伝票の支払に必要な合計金額を表示します。	「自動支払処理」(G0413)、「支払予定レポート」
R09470 総勘定元帳(カテゴリ・コード別)	仮定通貨の金額を印刷するには、このレポートの「仮定通貨コード」および「為替レート日付」処理オプションを設定します。	「レポートおよびオンライン照会」(G0912)、「総勘定元帳(カテゴリ・コード別)」
R09707 外貨建て勘定残高	この整合性レポートを印刷して、F0902テーブルの外貨建て勘定残高を検討します。	「整合性レポートおよび更新」(G0922)、「外貨建て勘定残高」
R097011 貸借一致の会社間勘定科目	この整合性レポートを印刷して、社内での会社間決済勘定間の残高を比較します。	「整合性レポートおよび更新」(G0922)、「貸借一致の会社間勘定科目」

## JD Edwards EnterpriseOneの主な多通貨レポート

この項では、個々のレポートについて処理オプションなどの詳細情報を説明します。説明は、レポートID順にソートされています。

## R03B413B – 未決済売掛金(外貨建て集計)

未決済売掛金集計レポートを印刷して、顧客の売掛金勘定および通貨の関連情報に関する現在の集計情報を検討します。この年齢調べレポートには、すべての未決済勘定がアルファベット順に表示され、顧客別の未決済項目に総合計が表示されます。会社別の合計とすべての未決済売掛金項目の総合計も表示されます。

合計金額と年齢調べ金額には、データ選択で指定した取引が反映されます。

## 未決済売掛金(外貨建て集計)レポート(R03B413B)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 年齢調べオプション

#### 1. 固定情報に基づいて年齢調べを行う

売掛管理固定情報から年齢調べの設定を取得するかどうかを指定します。このフィールドをブランクにすると、年齢調べ処理オプションの値と年齢調べカテゴリが使用されます。値は次のとおりです。

ブランク: 処理オプションを使用して年齢調べの設定を取り込む。

1: 売掛管理固定情報を使用して年齢調べの設定を取り込む。

#### 2. 年齢調べ日付

未決済請求書を割り当てる年齢調べカテゴリを決定する際に使用する日付を指定します。入力した日付と請求書の日付(「日付タイプ」処理オプションで指定した日付)が比較され、請求書の延滞日数が計算されます。

---

**注意:** 売掛管理固定情報の年齢調べ情報を使用し、この処理オプションに日付を入力すると、固定情報の「年齢調べ基準日」フィールドに入力された日付が使用されます。このフィールドをブランクにすると、処理オプションに入力された日付が使用されます。両方のフィールドをブランクにすると、未決済請求書の年齢調べにはシステム日付が使用されます。

---

#### 3. 日付タイプ

年齢調べカテゴリの決定に使用する請求書の日付を指定します。ここで指定した日付と「年齢調べ日付」処理オプションの値を比較して、請求書の延滞日数が計算されます。値は次のとおりです。

D: 支払期日

I: 請求書日付

G: 元帳日付

S: 計算書日付

#### 4. 年齢調べ方法

請求書の割当に使用する年齢調べ方法を指定します。「年齢調べ日付」処理オプションで指定した日付と「日付タイプ」処理オプションで指定した値によって各請求書の経過日数が計算され、この方法で指定した年齢調べカテゴリに割り当てられます。値は次のとおりです。

1: 経過日数。年齢調べカテゴリ1から年齢調べカテゴリ3の処理オプションで指定した年齢調べカテゴリに請求書が割り当てられます。年齢調べカテゴリには、自由に日数を設定できます。

2: 会計期間。会社レコードに割り当てられた期間パターンによって定義されている会計期間が、年齢調べカテゴリとして使用されます。

3: カレンダー。各カレンダー月が年齢調べカテゴリとして使用されます。

## 年齢調べカテゴリ

1. 年齢調べカテゴリ1      ここで指定する値と「年齢調べカテゴリ2」オプションで指定する値を組み合わせ、将来および現行の年齢調べカテゴリの間隔が決定します。
2. 年齢調べカテゴリ2      ここで指定する値と、「年齢調べカテゴリ1」処理オプションおよび「年齢調べカテゴリ3」処理オプションで指定する値とを組み合わせ、現行および1番目の年齢調べカテゴリの間隔が決定します。
3. 年齢調べカテゴリ3      ここで指定する値と「年齢調べカテゴリ2」オプションで指定する値を組み合わせ、1番目および2番目の年齢調べカテゴリの間隔が決定します。

## マイナス金額

1. マイナス金額の年齢調べ      この処理オプションを使用して、年齢調べの設定に従ってクレジット・メモと未充当入金の年齢調べを行うか、またはマイナス金額をレポートに表示される現行年齢調べカラムに適用するかどうかを指定します。

## 印刷オプション

1. 親番号      レポートに親番号を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 親番号は印刷されません。  
 1: 親番号が印刷されます。
2. カテゴリ・コード番号、3. 将来使用のために予約されています。  
 カテゴリ・コードのソース、4.  
 与信限度印刷

## R03B4201A – 未決済売掛金(備考)レポート

未決済売掛金(備考)レポートの多通貨処理に関する考慮事項は次のとおりです。

- 処理オプションで通貨を指定して、未決済売掛金レポート(R03B4201A)に一覧表示された金額を別の通貨で再計算します。
- 未決済売掛金レポート(R03B4201A)の詳細再換算バージョンXJDE0005を使用し、処理オプションで再換算する場合の通貨コードを指定します。

## R03B4201B – 未決済売掛金(年齢調べ)レポート

未決済売掛金(年齢調べ)レポートの多通貨処理に関する考慮事項は次のとおりです。

- 処理オプションで通貨を指定して、未決済売掛金(年齢調べ)レポート(R03B4201B)に表示された金額を別の通貨で再計算します。
- 未決済売掛金(年齢調べ)レポート(R03B4201B)に標準与信限度額を超過している顧客または保証与信限度額を超過している顧客を印刷するかどうかを指定し、未決済金額の顧客通貨を指定します。

## R03B429A – 通貨明細 – 外貨および国内通貨

通貨明細 – 外貨および国内通貨レポートを実行して、国内通貨の金額および外貨の金額で未決済売掛金項目のリストを検討します。

## 通貨明細 – 外貨および国内通貨(R03B429A)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 入金印刷オプション

- 1. 入金履歴の印刷**

レポートに入金情報を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: レポートに仮受金以外の入金情報を含めない。  
1: 入金情報を含める。
- 2. 入金の合計への組み込み**

レポートに印刷する合計に入金額を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 請求書金額のみ出力する。  
1: 入金額を含める。  
「1」を入力した場合、「入金履歴の印刷」処理オプションも「1」に設定する必要があります。そうしないと合計には入金額が含まれません。
- 3. 基準日**

未決済請求金額を再計算し、印刷するために使用する日付を指定します。ここで入力した日付と入金元帳日付を比較して、指定した日付時点で請求書が未決済、または入金済のどちらであったかが判断されます。請求書が未決済の場合、レポートに印刷されます。  
この処理オプションをブランクにすると、基準日の処理は実行されません。

---

**注意:** 基準日機能を使用するとレポートの処理時間が長くなります。

---

## R03B429B – 通貨明細 – 年齢調べ

このレポートを実行して、取引の年齢調べを行う通貨で未決済売掛金勘定項目のリストを検討します。

### 通貨明細 – 年齢調べ(R03B429B)の処理オプション

特定の日付から未決済買掛金勘定の年齢調べを行う処理オプションを設定します。

#### 年齢調べ

- 1. 使用する年齢調べ情報**

売掛管理固定情報から年齢調べの設定と年齢調べ日付を取得するかどうかを指定します。この処理オプションをブランクにすると、年齢調べ日付、日付タイプ、年齢調べカテゴリの各処理オプションを使用して年齢調べが行われます。値は次のとおりです。  
ブランク: 処理オプション2から10を使用する。  
1: 売掛管理固定情報を使用する。
- 2. 年齢調べ日付**

未決済請求書を割り当てる年齢調べカテゴリの決定に使用する日付を指定します。入力した日付と請求書の日付(「日付タイプ」処理オプションで指定した日付)を比較して、請求書の延滞日数が計算されます。  
この処理オプションをブランクにすると、未決済請求書の年齢調べにはシステム日付が使用されます。

**3. 日付タイプ**

年齢調べカテゴリの決定に使用する請求書の日付を指定します。ここで指定した日付と「年齢調べ日付」処理オプションの値を比較して、請求書の延滞日数が計算されます。値は次のとおりです。

D: 支払期日

I: 請求書日付

G: 元帳日付

S: 計算書日付

この処理オプションをブランクにすると、Dが使用されます。

**4. 年齢調べ方法**

請求書の割当に使用する年齢調べカテゴリ指定します。「年齢調べ日付」処理オプションで指定した日付と「日付タイプ」処理オプションで指定した値によって各請求書の経過期間が計算され、このコードで指定した年齢調べカテゴリに割り当てられます。値は次のとおりです。

1: 経過日数。年齢調べカテゴリ1から年齢調べカテゴリ6の処理オプションで指定した年齢調べカテゴリに請求書が割り当てられます。年齢調べカテゴリには、自由に日数を設定できます。

2: 会計期間。会社レコードに割り当てられた期間パターンによって定義されている会計期間が、年齢調べカテゴリとして使用されます。

3: カレンダ。各カレンダー月が年齢調べカテゴリとして使用されます。

この処理オプションをブランクにすると、1が使用されます。

**5. 経過日数(方法1の場合のみ)**

「経過日数」処理オプションに関連付けられた4つの処理オプションがあります。

から

ここで指定する値と「年齢調べカテゴリ2」処理オプションで指定する値を組み合わせて、レポートに印刷する現行および1番目の年齢調べカテゴリの間隔が決定します。

から

ここで指定する値と、「年齢調べカテゴリ1」処理オプションおよび「年齢調べカテゴリ3」処理オプションで指定する値とを組み合わせて、レポートに印刷する1番目と2番目の年齢調べカテゴリの間隔が決定します。

から

ここで指定する値と、「年齢調べカテゴリ2」処理オプションおよび「年齢調べカテゴリ4」処理オプションで指定する値とを組み合わせて、レポートに印刷する2番目と3番目の年齢調べカテゴリの間隔が決定します。

から

ここで指定する値と「年齢調べカテゴリ3」処理オプションで指定する値とを組み合わせて、レポートに印刷する3番目の年齢調べカテゴリの間隔が決定します。

**6. 貸方金額の年齢調べ**

年齢調べの設定に従ってクレジット・メモの年齢調べを行うか、またはマイナス金額を現行年齢調べカラムに適用してレポートに印刷するかを指定します。

**印刷****1. 印刷する未決済金額の最低限度額**

顧客残高の比較対象となる金額を指定し、レポートにその顧客を含めるかどうかを決定します。この処理オプションで指定した金額の通貨には、「上で入力する金額の通貨」処理オプションで指定された通貨が使用されます。F0015テーブルから取り込んだ為替レートを使用して換算した顧客の未決済残高が、指定した金額と比較され、その顧客をレポートに含めるか

どうか決定されます。顧客の残高が、この処理オプションで指定した金額以上の場合のみレポートに含まれます。

---

**注意:** 印刷される残高の通貨は、「上で入力する金額の通貨」処理オプションで指定された通貨ではなく、顧客マスター・レコード(F03B12テーブルのCRCA)の住所録通貨コード・フィールドで指定された通貨です。

---

## 2. 上で入力する金額の通貨

「印刷する未決済金額の最低限度額」処理オプションで入力した金額の通貨を指定します。指定した通貨に基づいて計算された顧客の未決済残高が「印刷する未決済金額の最低限度額」処理オプションで入力した金額と比較され、その顧客をレポートに含めるかどうか決定されます。

この処理オプションをブランクにした場合、米ドル(USD)が使用されます。

---

**注意:** 指定した通貨はデータを選択するためのみに使用されます。印刷される金額はその通貨で表示されるわけではありません。

---

## 3. 標準または保険の与信限度額

レポートに含める顧客レコードを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: すべてのレコードを含める。

1: 未決済金額が顧客マスター・レコードで設定された与信限度額以上のレコードを含める。

2: 未決済金額が保証与信限度額以上のレコードを含める。

「印刷する未決済金額の最低限度額」処理オプションで金額を指定した場合、処理オプションは無視されます。

## 4. 基準日

未決済請求金額を再計算し、印刷するために使用する日付を指定します。ここで入力した日付と入金元帳日付を比較して、指定した日付時点で請求書が未決済、または入金済のどちらであったかが判断されます。請求書が未決済の場合、レポートに印刷されます。この処理オプションをブランクにすると、基準日の処理は実行されません。

---

**注意:** 基準日の処理を使用すると、レポートの処理にかかる時間が長くなります。

---

## 5. 通貨コード - 換算して外貨と年齢調べカラムに表示する通貨

レポートに表示する金額を再換算する際に使用する通貨を指定します。為替レートはF0015テーブルから取り込まれます。為替レートが設定されていない場合、レポートには何も印刷されません。この処理オプションをブランクにすると、金額は国内通貨で表示されます。

# R03B429C - 通貨 - 外貨/国内通貨(年齢調べ付き)

このレポートを実行して、外貨金額と国内通貨金額で特定の年齢調べカテゴリの未決済売掛金項目のリストを検討します。

会社レベルで標準与信限度額と保証与信限度額を検討し、顧客が想定未決済金額と与信限度額を超過していないかどうかをチェックできます。レポートには、顧客に設定されている通貨でこの情報が印刷されます。

## 通貨 - 外貨/国内通貨 - 年齢調べ付き(R03B429C) 処理オプション

このレポートの処理オプションは、通貨明細 - 年齢調べレポートの処理オプションと同じです。

参照: 付録 G、「JD Edwards EnterpriseOneの多通貨レポート」、「通貨明細 - 年齢調べ(R03B429B)の処理オプション」、289ページ

## R04413A、R04413C、R04413D - 多通貨での未決済買掛金集計レポート

未決済買掛金集計レポートには4つの異なるレポートがあり、その中の3つは多通貨処理に使用されます。

- 買掛金集計(通貨)(R04413A)
- 基準日未決済買掛金集計(R04413C)
- 基準日買掛金集計(通貨)(R04413D)

未決済伝票残高や年齢調べに関する情報を印刷します。伝票の年齢調べを開始する日付と集計レポートに表示する年齢調べカテゴリを指定します。必要な結果に応じて、次のいずれかの設定を使用して年齢調べを行うように指定します。

- 買掛管理固定情報

買掛管理固定情報の設定に基づいて年齢調べが計算されます。年齢調べレポートのカラムの各間隔日数を指定します。たとえば“30、60、90、120、それ以上”という日数で間隔を設定できます。

- 処理オプション

レポートの処理オプションに基づいて年齢調べが計算されます。この処理オプションは、買掛管理固定情報で指定した間隔を一時変更します。年齢調べは、支払期日、請求書日付、または元帳日付と次のいずれかの方法を使用して指定できます。

- 経過日数
- 会計期間
- カレンダー

## 未決済買掛金集計レポート(R04413A、R04413C、R04413D)の処理オプション

買掛金集計(通貨)レポート、基準日未決済買掛金集計レポート、および基準日買掛金集計(通貨)レポートの処理オプションは同じです。

### 年齢調べ

#### 1. 年齢調べ設定

買掛管理固定情報プログラムと年齢調べ処理オプションのどちらから年齢調べ設定を取得するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 処理オプションに基づいて年齢調べが行われる。

1: 固定情報の経過日数を使用して支払期日を基準に年齢調べが行われる。

#### 2. 日付タイプ

「年齢調べ設定」処理オプションを、年齢調べ処理オプションを使用するように設定した場合に、未決済残高の年齢調べがどの伝票日付で行われるかを指定します。この日付と年齢調べ日付の比較によって、各取引に該当する年齢調べ期間が決定されます。値は次のとおりです。

ブランクまたはD: 支払期日

G: 元帳日付

I: 請求書日付

買掛管理固定情報の設定に基づいて年齢調べを行うように指定した場合、この処理オプションは無視され、支払期日が使用されます。

### 3. 年齢調べ方法

「年齢調べ設定」処理オプションを使用するように設定した場合に、年齢調べに使用される期間を指定します。値は次のとおりです。

ブランクまたは1: 経過日数

2: 会計期間

3: カレンダー月

買掛管理固定情報の設定に基づいて年齢調べを行うように指定した場合、この処理オプションは無視されます。

### 4. 経過日数 - 年齢調べカテゴリ1から5

これらの処理オプションは、「年齢調べ設定」および「年齢調べ方法」処理オプションがブランクの場合にのみ適用されます。

年齢調べの間隔を設定する別の処理オプションと組み合わせて4つの年齢調べカテゴリ処理オプションを使用します。たとえば、これらの処理オプションに指定した値が30-、0、30、60、90である場合、レポートの5つの年齢調べカラムは、「現行」、「1から30」、「31から60」、「61から90」、「91から」になります。

### 5. マイナス金額の年齢調べ

マイナス金額の年齢調べを行う方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 現行年齢調べカラムに対して貸方の消込を行います。

1: 該当する年齢調べカラムに対して貸方の消込を行います。

## 印刷

### 支払の保留

支払保留中の仕入先をレポート対象から除外するかどうかを指定します。仕入先の保留状況は、F0401テーブルの仕入先マスター・レコードの支払保留コード・フィールドで指定されています。値は次のとおりです。

ブランク: すべての仕入先を印刷します。

1: 支払保留の仕入先を除外します。

## 未決済買掛金集計レポートのデータ順序

レポート合計は、次のデータ順序に基づきます。データ順序は変更しないでください。

1. 会社
2. 住所No.
3. 通貨コード

## R04427A、R04427B、R04427C、R04427D、R04427E、R04427F - 未決済買掛金(外貨建て)レポート

未決済買掛金(外貨建て)レポートには、多通貨処理のための6つの異なるレポートがあります。

- 通貨明細 - 外貨および国内通貨(R04427A)

このレポートを印刷して、F0411テーブルに基づいて、外貨金額と国内通貨金額の両方で未決済買掛金項目の明細リストを検討します。

- 通貨明細 - 年齢調べ (R04427B)

このレポートを印刷して、F0411テーブルに基づいて、外貨金額で未決済買掛金項目の明細リストを検討します。外貨建て取引が存在しない場合は、国内通貨で印刷されます。

- 未決済買掛金明細 - 外貨年齢調べ付き (R04427C)

このレポートを印刷して、F0411テーブルに基づいて、年齢調べの日付と方法を設定して、外貨金額で未決済買掛金項目の明細リストを検討します。外貨建て取引が存在しない場合は、国内通貨で印刷されます。

- 基準日通貨明細 - 外貨および国内通貨 (R04427D)

このレポートは、F0411Aワークファイルに基づく以外は通貨明細 - 外貨および国内通貨と同じです。年齢調べに使用される基準日は、F0490ワークファイルのF0411Aレコードに関連付けられた基準日です。

- 基準日通貨明細 - 年齢調べ (R04427E)

このレポートは、F0411Aテーブルに基づく以外は、通貨明細 - 年齢調べレポートと同じです。年齢調べに使用される基準日は、F0490ワークファイルのF0411Aレコードに関連付けられた基準日です。

- 基準日未決済買掛金明細 - 外貨 (R04427F)

このレポートは、F0411Aテーブルに基づく以外は、未決済買掛金明細 - 外貨年齢調べレポートと同じです。年齢調べに使用される基準日は、F0490ワークファイルのF0411Aレコードに関連付けられた基準日です。

## 未決済買掛金 (外貨建て) レポートのデータ順序

レポート合計は、次のデータ順序に基づきます。データ順序は変更しないでください。

1. 会社
2. 名称
3. 住所No.
4. 通貨コード

## 未決済買掛金 (外貨建て) レポート (R04427A および R04427D) の処理オプション

通貨明細 - 外貨および国内通貨レポートおよび基準日通貨明細 - 外貨および国内通貨レポートの処理オプションは同じです。

### 印刷

#### 支払の保留

支払保留中の仕入先をレポート対象から除外するかどうかを指定します。仕入先の保留状況は、F0401テーブルの仕入先マスター・レコードの支払保留コード・フィールドで指定されています。値は次のとおりです。

ブランク: すべての仕入先を印刷します。

1: 支払保留の仕入先を除外します。

## 未決済買掛金(外貨建て)レポート(R04427B、R04427C、R04427E、R04427F)の処理オプション

通貨明細 - 年齢調べレポート、未決済買掛金明細 - 外貨年齢調べレポート、基準日通貨明細 - 年齢調べレポート、および基準日未決済買掛金明細 - 外貨レポートの処理オプションは、未決済買掛金集計レポートの処理オプションと同じです。

参照: 付録 G、「JD Edwards EnterpriseOneの多通貨レポート」、「未決済買掛金集計レポート(R04413A、R04413C、R04413D)の処理オプション」、292ページ

## R04428C - 買掛金明細 - 承認者別外貨年齢調べ付き

買掛金明細 - 承認者別外貨年齢調べ付きレポート(R04428C)には、承認者番号別に未決済外貨年齢調べ金額が印刷され、未決済金額とともに支払期日と費用仮勘定が表示されます。このレポートは未決済買掛金明細 - 外貨年齢調べレポート(R04427C)に似ています。

## 買掛金明細 - 承認者別外貨年齢調べ付き(R04428C)の処理オプション

このレポートの処理オプションは、この項で説明する「年齢調べ」タブの追加処理オプション以外は、未決済買掛金集計レポートの処理オプションと同じです。

参照: 付録 G、「JD Edwards EnterpriseOneの多通貨レポート」、「未決済買掛金集計レポート(R04413A、R04413C、R04413D)の処理オプション」、292ページ

### 年齢調べ

#### 2. 年齢調べ日付

未決済残高の年齢調べに使用する日付を指定します。処理オプションの日付と伝票の日付を比較して、各取引に該当する年齢調べカテゴリが決定されます。この処理オプションをブランクにすると、現在の日付と伝票の日付を比較して、年齢調べカテゴリが決定されます。

## R04431 - 支払予定レポート

支払予定レポート(R04431)には、3つの年齢調べカラムに仕入先別伝票が一覧表示され、仕入先および銀行勘定ごとの合計と、未決済伝票の支払に必要な合計金額が表示されます。銀行勘定のタイプによって、このレポートには通貨コードと金額情報が含まれます。

- 銀行勘定が通貨勘定である場合は、このレポート見出しに印刷された通貨コードは銀行勘定の通貨と同じです。通貨コード・カラムに印刷された通貨コードは、伝票の国内通貨です。通貨コード・カラムの右側の金額は国内通貨で、通貨コード・カラムの左側の金額は銀行勘定科目の通貨です。
- 銀行勘定科目が通貨勘定科目でない場合は、このレポート見出しに印刷された通貨コードは国内通貨と同じです。通貨コード・カラムに印刷された通貨コードは、伝票の外貨です。通貨コード・カラムの右側の金額は外貨で、通貨コード・カラムの左側の金額は国内通貨です。

## 貸借一致の会社間勘定科目(R097011)

会社間勘定残高整合性レポート(R097011)では、勘定残高テーブル(F0902)の情報をを使用して社内での様々な会社間決済勘定間の残高を比較します。次の勘定科目の残高は一致している必要があります。一致していない場合は、会社間勘定科目、その残高、および各勘定の残高を一致させるのに必要な金額の一覧がレポートに表示されます。

基本通貨の異なる複数の会社を対象の場合は、この整合性レポートを会社間勘定科目の残高が一致していることを検証するために使用しないでください。この整合性レポートは異なる複数の基本通貨には対応していません。

たとえば、会社70は会社間決済勘定に50,000.00ユーロ(EUR)の残高があります。会社71は会社間決済勘定に69,624.00カナダドル(CAD)の残高があります。EURからCADへの為替レート(1.39248)によって、50,000.00EURの残高は69,624.00CADの残高と等しくなります。この整合性レポートでは、異なる複数の基本通貨が許可されないため、2つの会社は貸借不一致となります。

---

**注意:** 社内のバッチが一致しないかどうかを確認するために、貸借不一致会社整合性レポート(バッチ別)(R09706)を実行します。

---

## 貸借一致の会社間勘定科目(R097011)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 元帳タイプ

**元帳タイプ** 処理するレコードを選択するために使用する元帳タイプを指定します。ブランクにした場合、すべての伝票タイプが選択されます。

## R09707 - 外貨建て勘定残高

外貨建て勘定残高レポート(R09707)では、F0902テーブルの勘定科目情報を確認し、次による勘定科目設定の問題を表示する整合性レポートを印刷します。

- 勘定科目の変更

外貨建て取引の転記後、勘定科目を非通貨勘定から通貨勘定に変更すると、レポートには「取引の通貨勘定(CRCD)または会社の通貨コード(CRCX)が違います」というエラー・メッセージが印刷されます。

外貨建て取引の転記後、勘定科目を通貨勘定から非通貨勘定に変更すると、このレポートには「取引通貨(CRCD)が入力されましたがPBC AAI範囲または通貨勘定に入力されていません」というエラー・メッセージが印刷されます。

- AAI項目への変更

AAI項目PBCxxは、通貨別勘定残高を転記するために使用されます。外貨建て取引の転記後、AAI項目PBCxxに勘定科目範囲を追加すると、このレポートには「PBC AAI範囲の勘定科目には取引通貨フィールド(CRCD)に通貨がありません」というエラー・メッセージが印刷されます。

外貨建て取引の転記後、AAI項目PBCxxから勘定科目範囲を削除すると、このレポートには「取引通貨(CRCD)が入力されましたがPBC AAI範囲または通貨勘定に入力されていません」というエラー・メッセージが印刷されます。

テスト・モードでは、外貨建て勘定残高レポートに問題のある勘定科目が一覧表示されます。このレポートに表示される勘定科目が正しく設定され、不注意に変更されないようにしてください。必要に応じて、エラーを修正し、テスト・モードでレポートを再実行してください。

最終モードでは、外貨建て勘定残高レポートのCALコードは削除されます。このプログラムを最終モードで実行したら、次の動作を実行します。

- 取引明細の再転記プログラム(R099102)を実行し、正しいCAとAAレコードを作成します。
- F0902テーブルの「間違った」AAレコードを削除します。

外貨建て勘定残高レポートでは、CALコードが削除された場合、これが自動的に行われることはありません。これはデータベース管理者によって行われる必要があります。

- 外貨建て勘定残高レポートを再度テスト・モードで実行して、勘定科目にエラー・メッセージがないことを確認してください。

## 外貨建て勘定残高(R09707)の処理オプション

処理オプションを使用して、レポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

#### 処理

AA元帳タイプ・レコードと一致しないCA元帳タイプ・レコードを削除するかどうかを指定します。

ブランク: レコードを削除しない。

1: レコードを削除する。



# JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	<p>取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。</p>
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	<p>サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。</p>
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	<p>クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。</p> <p>“ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。</p>
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

<b>BPEL</b>	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
<b>BPEL PM</b>	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
<b>ビルド構成ファイル</b>	ANTスクリプトを生成するプログラムで 사용되는、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
<b>ビルド・エンジニア</b>	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
<b>ビルド・プログラム</b>	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
<b>ビジネス・アナリスト</b>	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
<b>ビジネス関数</b>	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます（在庫照会、作業オーダー発注など）。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック（Credit Check）や在庫照会（Item Availability）などがあげられます。
<b>ビジネス関数イベント・ルール</b>	“ネームド・イベント・ルール（NER）”の説明を参照してください。
<b>ビジネス・サービス</b>	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
<b>ビジネス・サービス・アーティファクト</b>	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
<b>ビジネス・サービス・クラス・メソッド</b>	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
<b>ビジネス・サービス構成ファイル</b>	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど（他にもある）の構成ファイルです。
<b>ビジネス・サービス相互参照</b>	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
<b>ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ</b>	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
<b>ビジネス・サービス開発環境</b>	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
<b>ビジネス・サービス開発ツール</b>	JDeveloperという名前でも知られています。
<b>ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト</b>	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用するユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の1つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用する、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定のカラムを選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定のローを選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

	Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。
チャート	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
チェックイン・リポジトリ	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
コネクタ	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間にロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
相殺/相手勘定	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
コントロール・テーブル・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
コントロール・テーブルのマージ	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
関連データ	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
コスト割当	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
原価要素	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
資格証明	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
相互参照ユーティリティ・サービス	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
セグメント間編集	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
cXML	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
データベース資格証明	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
データベース・サーバー	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

データ・ソース・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
デプロイメント・アーティファクト	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
デプロイメント・サーバー	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
明細情報	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
ダイレクト接続	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
DNT (Do Not Translate)	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
2重価格設定	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
重複した公開ビジネス・サービス承認レコード	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
編集コード	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
電子データ交換 (EDI)	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
埋込みイベント・ルール	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
従業員ワーク・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
エンタープライズ・サーバー	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

<b>ESB (Enterprise Service Bus)</b>	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
<b>EnterpriseOne管理者</b>	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
<b>EnterpriseOne資格証明</b>	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
<b>EnterpriseOneオブジェクト</b>	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
<b>EnterpriseOne開発クライアント</b>	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
<b>EnterpriseOne拡張機能</b>	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
<b>EnterpriseOneプロセス</b>	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
<b>EnterpriseOneリソース</b>	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
<b>環境ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
<b>エスカレーション・モニター</b>	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
<b>イベント・ルール</b>	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
<b>明示的トランザクション</b>	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
<b>公開されたメソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
<b>施設、事業所</b>	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
<b>略式コマンド</b>	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
<b>ファイル・サーバー</b>	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
<b>最終モード</b>	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
<b>基盤</b>	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBjがあげられます(この他にもあります)。
<b>FTPサーバー</b>	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
<b>見出し情報</b>	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
<b>HTTPアダプタ</b>	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
<b>インスタンス化</b>	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
<b>統合開発者</b>	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
<b>インテグレーション・ポイント(IP)</b>	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
<b>インテグレーション・サーバー</b>	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
<b>整合性テスト</b>	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
<b>インターフェイス・テーブル</b>	“Zテーブル”の説明を参照してください。
<b>内部メソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
<b>インタオペラビリティ・モデル</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
<b>エラー表示の有効化</b>	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
<b>IServerサービス</b>	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
<b>代替ラベル</b>	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
<b>Javaアプリケーション・サーバー</b>	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
<b>JDBNET</b>	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

<b>JDEBASEデータベース・ミドルウェア</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
<b>JDECallObject</b>	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
<b>jde.ini</b>	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
<b>JDEIPC</b>	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
<b>jde.log</b>	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
<b>JDENET</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
<b>JDeveloperプロジェクト</b>	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
<b>JDeveloperワークスペース</b>	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
<b>JMSキュー</b>	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
<b>リスナー・サービス</b>	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
<b>ローカル・リポジトリ</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
<b>ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
<b>ロケーション・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
<b>ロジック・サーバー</b>	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
<b>差し込み印刷ワークベンチ</b>	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
<b>手動コミット・トランザクション</b>	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
<b>マスター・ビジネス関数(MBF)</b>	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
<b>マスター・テーブル</b>	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
<b>照合伝票</b>	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
<b>メディア・ストレージ・オブジェクト</b>	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
<b>メッセージ・センター</b>	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
<b>メッセージング・アダプタ</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>メッセージング・サーバー</b>	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
<b>中間層BPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
<b>監視アプリケーション</b>	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
<b>ネームド・イベント・ルール (NER)</b>	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
<b>Nota Fiscal</b>	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
<b>Nota Fiscal Factura</b>	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
<b>オブジェクト構成マネージャ (OCM)</b>	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
<b>オブジェクト・ライブラリアン</b>	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
<b>オブジェクト・ライブラリアンのマージ</b>	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
<b>オープン・データ・アクセス (ODA)</b>	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス (OSA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。  “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下の子ディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	<p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p>
本稼働用環境	<p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p>
本稼働レベルのファイル・サーバー	<p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p>
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p>
プログラム一時修正 (PTF)	<p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p>
プロジェクト	<p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p>
プロモーション・パス	<p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11&gt;21&gt;26&gt;28&gt;38&gt;01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p>
プロキシ・サーバー	<p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p>
公開ビジネス・サービス	<p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p>
公開ビジネス・サービス識別情報	<p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p>
公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p>
パブリッシュ済テーブル	<p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p>
パブリッシュ	<p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p>
プル・レプリケーション	<p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクライバとしてセットアップされます。プル・サブスクライバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクライバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p>

<b>QBE</b>	Query by Example (例示照会) の略語です。JD Edwards EnterpriseOne では、QBE 行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
<b>リアルタイム・イベント</b>	外部システムで使用するために EnterpriseOne のアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
<b>リフレッシュ</b>	新規リリースや PTF/累積アップデート・リリース (B73.2 や B73.2.1 など) に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアまたはそのサブセット (テーブルや業務データなど) を修正する機能です。
<b>レプリケーション・サーバー</b>	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
<b>Rt-Addressing</b>	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
<b>規則</b>	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
<b>見積オーダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne 調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。  JD Edwards EnterpriseOne 受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
<b>Secure by Default</b>	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
<b>SSL (Secure Socket Layer)</b>	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSL を使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
<b>SEI 実装</b>	サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI) を宣言するメソッドを実装する Java クラスです。
<b>選択項目</b>	JD Edwards EnterpriseOne メニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して [Enter] キーを押します。
<b>シリアルライズ</b>	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
<b>サーバーワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
<b>サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI)</b>	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言する Java インターフェイスです。
<b>SOA</b>	Service Oriented Architecture の略語です。
<b>ソフトコーディング</b>	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
<b>ソース・リポジトリ</b>	HTTP アダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
<b>スポット・レート</b>	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2 つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリイバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシャ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリイバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

<b>3方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
<b>トランザクション処理 (TP) モニター</b>	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
<b>トランザクション処理方法</b>	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です (開始、コミット、ロールバック、取消など)。
<b>トランザクション・セット</b>	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション (電子データ交換の標準ドキュメント) です。
<b>トリガー</b>	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
<b>トリガーイベント</b>	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
<b>2方向認証</b>	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
<b>2方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
<b>ユーザー識別情報</b>	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
<b>ユーザー一時変更のマージ</b>	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
<b>値オブジェクト</b>	データ構造がデータを渡すのと同様に入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開 (公開ビジネス・サービスで使用) か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
<b>差異</b>	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。  JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
<b>公開ビジネス・サービスのバージョン</b>	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
<b>バージョン・リストのマージ</b>	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
<b>ビジュアル・アシスト</b>	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
<b>用語一時変更</b>	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
<b>wchar_t</b>	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

<b>Webアプリケーション・サーバー</b>	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
<b>Webサーバー</b>	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
<b>WSDL (Web Service Description Language)</b>	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
<b>WSIL (Web Service Inspection Language)</b>	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
<b>Webサービス・プロキシ基盤</b>	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・レコード</b>	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート</b>	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
<b>WHERE句</b>	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。
<b>Windowsターミナル・サーバー</b>	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
<b>ウィザード</b>	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
<b>ワークベンチ</b>	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエントリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
<b>作業日カレンダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
<b>ワークフロー</b>	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス (ワークフロー) では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
<b>ワークグループ・サーバー</b>	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
<b>XAPIイベント</b>	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス (XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

# 索引

## 数字/記号

- 09/LT(元帳タイプ) 17, 29, 55
- 11/CS(多通貨/現金主義) 50
- 11/RT(レート・タイプ) 32, 66
- 11/TL(再換算通貨元帳) 69
- 98/CT(支払変換コード) 22, 99
- AAI, 参照: AAI(自動仕訳)
- AAI(自動仕訳)
  - CRxx(詳細再換算範囲) 58
  - CR(四捨五入差異) 59
  - GRxxx(通貨相殺) 26
  - GVxxx(通貨未実現為替差益) 26
  - GWxxx(通貨未実現為替差損) 26
  - ICCC(会社間決済) 27
  - P7(代替仮勘定) 99
  - PBCxx(通貨別残高の転記) 27
  - PBxxx(支払銀行) 96
  - PCxxxx(買掛金勘定) 97
  - PGxxx(外貨建て実現為替差益) 98
  - PLxxx(外貨建て実現為替差損) 98
  - PRxxx(外貨建て未実現為替差相殺) 97
  - PVxxx(外貨建て未実現為替差益) 97
  - PWxxx(外貨建て未実現為替差損) 97
  - PYxxx(代替実現為替差益) 98
  - PZxxx(代替実現為替差損) 98
  - R7(代替仮勘定) 86
  - R8(外貨および代替通貨での四捨五入) 85
  - RBxxx(銀行勘定科目) 82
  - RCxxx(売掛金勘定) 83
  - RRxxx(外貨建て未実現為替差相殺) 84
  - RVxxx(外貨建て未実現為替差益) 84
  - RWxxx(外貨建て未実現為替差損) 84
  - RYxxx(代替実現為替差益) 85
  - RZxxx(代替実現為替差損) 85
  - 階層の用途 26
  - 設定 26
  - 未実現為替差損益用として使用 13
- Customer Connection Webサイト xxii
- EDI請求書集計 - 受信テーブル (F47044) 283
- EDI請求書見出し - 受信テーブル (F47041) 281
- EDI請求書明細 - 受信テーブル (F47042) 282
- F0009(一般固定情報) 18
- F0013(通貨コード) 20
- F0015Z1(外部為替レート) 43, 259
- F0015(為替レート) 31
- F03B13Z1(電子入金入力) 144
- F0411Z1(バッチ伝票) 275
- F0901(勘定科目マスター) 28
- F0902(勘定残高) 13, 23
- F0911Z1(仕訳アップロード) 107, 275
- (F09522)資金予測データ・テーブル 255
- F47041(EDI請求書見出し - 受信) 281
- F47042(EDI請求書明細 - 受信) 282
- F47044(EDI請求書集計 - 受信) 283
- P0000(一般会計固定情報) 11, 18
- P0000(多通貨オプションの設定) 19
- P0010(会社名および番号) 11, 14
- P0013(通貨コードの指定) 11
- P0015A(為替レートの入力)
  - 為替レートの設定 12
  - 為替レートの入力 31
  - 処理オプション 35
- P0015Z1(外部為替レートの改訂) 12, 44
- P0025(元帳タイプ規則の設定) 14
- P00500S2(数値から文字への変換 - スペイン語)
  - 処理オプション 101
  - 通貨記述の印刷 100
- P03114(スピード・リリース) 125
- P03B0001(スピード入金入力) 137
- P03B0011(請求書入力MBF) 126
- P03B102(入金入力)
  - 処理オプション 140
  - 代替通貨建て入金の消込 135
  - 入金の手動処理 144
- P03B11SI(スピード請求書入力) 124
- P03B11(標準請求書入力)
  - 外貨建て請求書の入力 124
  - 処理オプション 126

- P03B2002(売掛金元帳照会) 128, 129  
 P0411(仕入先元帳照会)  
   外貨建て金額の検討 177  
   外貨建て伝票の検討 176  
 P0413M(買掛金支払) 184  
 P04571(支払グループの処理) 191,  
   198, 199  
 P0900049(仕訳入力MBF) 108  
 P0901(単一勘定科目の改訂) 11  
 P09106(税付き仕訳入力) 110  
 P0911(仕訳入力) 108  
   (P09160)銀行取引明細の入力 215  
 P09200(取引明細の照会) 115, 116  
 P09201(勘定科目の照会(主科目  
   別)) 115, 116  
 P09202(勘定科目の照会(カテゴリ・コー  
   ド別)) 115, 116  
 P09522(資金予測分析) 255  
 P1113(通貨再換算レート)  
   残高再換算の設定 14  
   処理オプション 63  
 P1114(会社通貨換算の改訂) 14  
 P111511(クロスレート計算の設定) 12  
 P11154(為替レートのスピード改訂) 31  
 P11410(詳細通貨設定) 14, 54  
 PeopleCodeの表記規則 xxiv  
 R0015Z1P(外部為替レートの除去) 44  
 R0015Z1(外部為替レートの処理) 12,  
   31, 44  
 R00522(資金予測データのリフレッ  
   シュ) 255  
 R03B20(売掛金延滞通知の印刷) 155  
 R03B21(階層化延滞通知の印刷) 155  
 R03B413B(未決済売掛金(外貨建て集  
   計) 287  
 R03B4201A(未決済売掛金(備考)) 288  
 R03B4201B(未決済売掛金(年齢調  
   べ)) 288  
 R03B429A(通貨明細 - 外貨および国内  
   通貨) 288  
 R03B429B(通貨明細 - 年齢調べ) 289  
 R03B429C(通貨 - 外貨/国内通貨(年  
   齢調べ付き)) 291  
 R03B500X(計算書データの再作成)  
   計算書の作成 153  
   処理オプション 154  
 R03B525(与信分析のリフレッシュ) 155,  
   156  
 R03B551(入金見出しの更新) 144  
 R03B571(自動引落としバッチの作  
   成) 145  
 R03B8101(定期請求書の再作成) 125  
 R04413A(買掛金集計(通貨)) 292  
 R04413C(基準日未決済買掛金集  
   計) 292  
 R04413D(基準日買掛金集計(通  
   貨)) 292  
 R04425(買掛金未実現差損益レポー  
   ト) 208  
   概要 206  
 R04427A(通貨明細 - 外貨および国内  
   通貨) 293  
 R04427B(通貨明細 - 年齢調べ) 294  
 R04427C(未決済買掛金明細 - 外貨年  
   齢調べ付き) 294  
 R04427D(基準日通貨明細 - 外貨およ  
   び国内通貨) 294  
 R04427E(基準日通貨明細 - 年齢調  
   べ) 294  
 R04427F(基準日未決済買掛金明細 -  
   外貨) 294  
 R04428C(買掛金明細 - 承認者別外貨  
   年齢調べ付き) 295  
 R04431(支払予定レポート) 295  
 R04570(支払グループの作成)  
   処理オプション 197  
   代替通貨支払 191  
 R048101(定期伝票の再作成) 173  
 R09110Z(仕訳のバッチ処理) 107  
 R09170(銀行取引明細処理) 211  
 R09415(通貨勘定評価) 219, 220, 221  
 R097011(貸借一致の会社間勘定科  
   目) 295  
 R09707(外貨建て勘定残高) 296  
 R09801(総勘定元帳への転記)  
   外貨建て請求書の転記 131  
   集計方法 180  
   取引の転記 200  
 R11153(為替クロスレートの計算)  
   概要 50  
   処理オプション 51  
 R11411(詳細再換算)  
   概要 234  
   処理オプション 236  
   元帳の使用方法 229  
 R11414A(再換算残高の計算)  
   概要 241  
   処理オプション 243  
 R11415(仮定日の再転記)

概要 248  
 処理オプション 248  
 R11802(国内通貨コードのロード - 勘定残高) 9  
 R11803(国内通貨コードのロード - 売掛管理) 9  
 R11804(国内通貨コードのロード - 買掛管理) 9  
 R11809(国内通貨コードのロード - 一般会計) 8  
 R11815(国内通貨コードのロード - 不動産管理) 9  
 R11818(国内通貨コードのロード - 税) 9  
 R11842(国内通貨コードのロード - 売上) 10  
 R11843(国内通貨コードのロード - 調達) 10  
 R11848S(国内通貨コードのロード - システム48S/52) 9  
 R8903012E(住所録換算 - F03012) 81  
 R890401E(住所録換算 - F0401)  
   仕入先通貨コードの換算 91  
   処理オプション 94

## あ

アプリケーションの基礎 xxi

## い

一般会計固定情報(P0000) 11, 18  
 「一般会計固定情報」フォーム 20  
 一般固定情報テーブル(F0009) 18

## う

売掛金延滞通知の印刷(R03B20) 155  
 売掛金元帳照会(P03B2002) 128, 129

## え

延滞通知 155  
 延滞利息金 156

## か

外貨  
   外貨建て金額の検計 118  
   勘定科目の検計 117  
   計算書 153  
   資金予測 255  
   四捨五入差異 201  
   実現為替差損益 203, 204

自動支払 191, 192, 193  
 自動入金 144  
 自動引落し 145  
 支払 181, 182, 198  
 支払手形 188  
 支払の書込み 200  
 支払の更新 200  
 支払の転記 200  
 仕訳の改訂 110  
 仕訳の転記 110  
 仕訳の入力 107  
 請求書 120, 124  
 請求書の入力 127  
 税付き伝票 170  
 税抜き伝票 169  
 通貨記号 192  
 手形 181  
 手入力支払 183  
 伝票 168, 172  
 伝票の転記 180  
 取引の入力 4  
 入金 138, 140, 141  
 払戻し 146  
 未実現為替差損益 207  
 レポート 285  
 買掛金支払(P0413M) 184  
 買掛金集計(通貨)(R04413A) 292  
 買掛金未実現差損益レポート  
   (R04425) 208  
   概要 206  
 買掛金明細 - 承認者別外貨年齢調べ付  
   き(R04428C) 295  
 外貨建て勘定残高(R09707) 296  
 外貨建て自動入金 144  
 外貨建て自動引落し 145  
 外貨建て払戻し 146  
 外貨の入力  
   仕訳 108  
 会社  
   会社00000 26  
   会社間決済のAAI 27  
   設定 23, 24  
   多通貨用の設定 11  
 会社間決済  
   AAI 27  
   T勘定 105  
   固定情報 18  
   設定 13  
   多通貨の例 104  
   多通貨方式 19

- 会社通貨換算の改訂(P1114) 14
- 「会社の設定」フォーム 24
- 会社名および番号(P0010) 11, 14
- 階層化延滞通知の印刷(R03B21) 155
- 外部為替レート
  - F0015Z1ワークファイルのフィールドの  
マッピング 259, 260, 261
  - アップロード処理 43
  - 改訂 44, 45
  - 処理プログラム 46
  - マッピング要件 259
- 外部為替レート・テーブル(F0015Z1) 43, 259
- 外部為替レートの改訂(P0015Z1) 12, 44
- 外部為替レートの除去(R0015Z1P) 44
- 外部為替レートの処理(R0015Z1) 12, 31, 44
- 「確認 - AAIの設定」フォーム 25
- 仮定再換算
  - 概要 226, 247
  - 再転記プログラム 248
  - 設定 15
  - 元帳タイプ 29, 72
- 仮定通貨
  - 仮定金額の検討 118
  - 金額の検討 117, 118
  - 検討 115, 116
  - 再換算 225, 226, 247
  - 請求書 128, 130
  - 伝票 177
  - レポート 285
- 仮定日の再転記(R11415)
  - 概要 248
  - 処理オプション 248
- 為替クロスレートの計算(R11153)
  - 概要 50
  - 処理オプション 51
- 為替差損益, 参照: 実現為替差損益
- 為替レート 43, 48
  - 関連項目: クロスレート; 外部為替レート
  - 一時変更 233
  - 外部 43
  - 間接為替 12
  - 間接換算方法 39
  - 機能の説明 4
  - 逆換算禁止方法 12, 36, 38
  - 逆換算方法 12, 34, 35
  - 計算方法 32
  - 自動支払 192
  - スポット・レート 32
  - 設定 12, 31
  - 複数の設定 42
  - 変動 31, 95
  - 方法 4
- 為替レート・テーブル(F0015) 31
- 為替レートの逆換算方法
  - 概要 34
  - 為替レートの設定 35
- 為替レートのスピード改訂(P11154) 31
- 為替レートの入力(P0015A)
  - 為替レートの設定 12
  - 為替レートの入力 31
  - 処理オプション 35
- 為替レートの変動 204
- 換算
  - 顧客通貨コード 77
  - 顧客の換算プログラム 77, 78
  - 仕入先通貨コード 91, 92
  - 仕入先の換算プログラム 92
  - 多通貨換算固定情報の設定 18
- 換算調整勘定 67
- 勘定科目 28
  - 関連項目: 銀行勘定科目; 総勘定元帳  
の勘定科目
  - 仮定金額の検討 117, 118
  - 仮勘定 99
  - 顧客勘定 158
  - 通貨での検討 115, 117
  - 通貨評価 219
- 勘定科目の照会(カテゴリ・コード別)  
(P09202) 115, 116
- 勘定科目の照会(主科目別)  
(P09201) 115, 116
- 勘定科目マスター(F0901) 28
- 勘定残高テーブル(F0902) 13, 23
- 間接為替
  - 為替レートの設定 39
  - 例 39
- 関連ドキュメンテーション xxii

## き

- 基準日買掛金集計(通貨)  
(R04413D) 292
- 基準日通貨明細 - 外貨および国内通貨  
(R04427D) 294
- 基準日通貨明細 - 年齢調べ  
(R04427E) 294

基準日未決済買掛金集計

(R04413C) 292

基準日未決済買掛金明細 - 外貨

(R04427F) 294

逆換算禁止

為替レートの設定 36, 38

例 37

共通フィールド xxvi

銀行勘定科目

売掛金 82

支払 96

通貨 26, 96, 137, 150, 195, 295

通貨評価 219

非通貨 97, 195

銀行取引明細

異なる会社通貨 213

異なる銀行勘定通貨 214

異なる取引通貨 214

手動処理 211

多通貨 211

プログラム 213

例 215

銀行取引明細処理(R09170) 211

銀行取引明細の入力(P09160) 215

## く

クロスレート

為替レートの設定 48

クロスレートの計算 50

定義 48

プログラム 50

クロスレート計算の設定(P111511) 12

## け

警告 xxv

計算書(外貨) 153

計算書データの再作成(R03B500X)

計算書の作成 153

処理オプション 154

限度額 145

## こ

ご意見 xxvi

顧客

勘定科目の検討 158

通貨コード 76

通貨コードの換算 77, 78

国内通貨コードのロード - 一般会計  
(R11809) 8

国内通貨コードのロード - 売上

(R11842) 10

国内通貨コードのロード - 売掛管理

(R11803) 9

国内通貨コードのロード - 買掛管理

(R11804) 9

国内通貨コードのロード - 勘定残高

(R11802) 9

国内通貨コードのロード - システム

48S/52(R11848S) 9

国内通貨コードのロード - 税(R11818) 9

国内通貨コードのロード - 調達

(R11843) 10

国内通貨コードのロード - 不動産管理

(R11815) 9

固定情報

一般会計システム用の設定 18

設定 20

設定の概要 13

ご要望 xxvi

## さ

再換算 61, 225

関連項目: 仮定再換算; 残高再換算;  
残高再換算; 詳細再換算

例 226

再換算残高の計算(R11414A)

概要 241

処理オプション 243

再換算通貨元帳(11/TL) 69

残高再換算

概要 226, 239

繰越利益 243

計算 65, 68

計算方法 66

再換算残高の計算プログラム 242

再換算プログラム 241, 242

再換算レート 63, 64

設定 14

設定タスク 61

元帳タイプ 29

元帳タイプの設定 61

例 239

レート・タイプ 66

## し

仕入先

通貨コードの換算 91, 92

通貨コードの割当 90

- 仕入先元帳照会(P0411)
    - 外貨建て金額の検討 177
    - 外貨建て伝票の検討 176
  - 資金予測 255
  - 資金予測データ・テーブル(F09522) 255
  - 資金予測データのリフレッシュ  
(R00522) 255
  - 資金予測分析(P09522) 255
  - 四捨五入
    - 差異 85, 99, 150, 201
  - 実現為替差損益
    - 外貨建て支払 98
    - 外貨建て請求書と外貨入金の例 160
    - 外貨建て請求書と代替通貨入金の  
例 160
    - 外貨建て入金のAAI 84
    - 支払 203
    - 代替入金 85
    - 伝票および支払 95
    - 伝票と支払の例 204
    - 入金 159
  - 指定通貨 24, 73
  - 自動支払
    - 外貨支払 191, 192, 193, 198
    - 外貨支払の書込み 200
    - 外貨支払の更新 200
    - 外貨建て手形 193
    - 代替支払 191, 193, 198
    - 代替支払の書込み 200
    - 代替支払の更新 200
    - 通貨記号 192
    - プログラム 182
  - 自動引落としバッチの作成(R03B571) 145
  - 支払 181
    - 関連項目: 自動支払; 手入力支払
    - 外貨支払 182, 198
    - 外貨での入力 183
    - 書込み 191
    - 国内通貨支払 182
    - 代替支払 183, 196, 198
    - 代替通貨での入力 184
  - 支払グループの作成(R04570)
    - 処理オプション 197
    - 代替通貨支払 191
  - 支払グループの処理(P04571) 191,  
198, 199
  - 「支払グループの処理」フォーム 200
  - 支払変換コード 100
  - 支払変換コード(98/CT) 22, 99
  - 支払予定レポート(R04431) 295
  - 集計残高
    - F0902テーブルの金額 112
    - 通貨別残高 23
    - 定義 23
  - 住所録換算 - F03012(R8903012E)
    - 顧客通貨コードの換算 77
    - 処理オプション 81
  - 住所録換算 - F0401(R890401E)
    - 仕入先通貨コードの換算 91
    - 処理オプション 94
  - 詳細再換算
    - AAI 58
    - エラー・メッセージ 235
    - 会社の設定 55
    - 概要 226, 229
    - 為替差損益 230, 231
    - 固定情報の設定 54
    - 再換算プログラム 53, 234, 237, 238
    - 使用する元帳の例 230
    - 仕訳 233
    - 設定 14
    - 設定タスク 53
    - 損益の例 230
    - 取引の転記 238
    - 元帳タイプ 29, 55, 57
    - 例 232
  - 詳細再換算(R11411)
    - 概要 234
    - 処理オプション 236
    - 元帳の使用方法 229
  - 「詳細再換算レート」フォーム 233
  - 詳細通貨設定(P11410) 14, 54
  - 「詳細通貨設定」フォーム 53
  - 仕訳
    - AA元帳 103
    - CA元帳 103
    - 外貨 103
    - 外貨建て仕訳の改訂 110
    - 外貨建て仕訳の入力 107, 108
    - 多通貨会社間 103
  - 仕訳アップロード・テーブル  
(F0911Z1) 107, 275
  - 仕訳入力MBF(P0900049) 108
  - 仕訳入力(P0911) 108
  - 仕訳のバッチ処理(R09110Z) 107
- す
- 数値から文字への変換 22
  - 数値から文字への変換 - スペイン語  
(P00500S2)

処理オプション 101  
 通貨記述の印刷 100  
 スピード請求書入力(P03B11SI) 124  
 スピード入金入力(P03B0001) 137  
 スピード・リリース(P03114) 125  
 スポット・レート 32

## せ

### 請求書

外貨建て金額に対する国内通貨建て  
 金額の計算 121  
 外貨建て請求書 120, 127, 128, 130  
 外貨建て請求書の改訂 125  
 外貨建て請求書の転記 131  
 外貨建て請求書の入力 124  
 外貨建て定期 125  
 外貨の例 121  
 仮定請求書 128  
 国内通貨建て金額の計算 122  
 国内通貨建て請求書 119  
 税付き外貨建て請求書 122  
 税付き外貨建ての例 122  
 税抜き外貨建て請求書 121  
 通貨評価 220  
 入力 4  
 請求書入力MBF(P03B0011) 126  
 「請求書の選択」フォーム 142  
 税付き仕訳入力(P09106) 110  
 製品ガイド  
 注文 xxii  
 前提知識 xxi

## そ

総勘定元帳への転記(R09801)  
 外貨建て請求書の転記 131  
 集計方法 180  
 取引の転記 200  
 相互参照 xxv  
 ソフト丸め 120

## た

貸借一致の会社間勘定科目  
 (R097011) 295  
 代替通貨  
 T勘定 99  
 四捨五入差異 99, 201  
 実現為替差損益 203, 204  
 自動支払 191, 193  
 自動支払方法 194

支払 183, 196, 198  
 支払記号 192  
 支払手形 181  
 支払入力 187  
 支払の書込み 200  
 支払の更新 200  
 支払の差損益 98  
 支払の転記 200  
 手入力支払 184  
 入金 133, 135, 140, 150  
 入金のAAI 85  
 入金のT勘定 136

### 多通貨 107

関連項目: バッチ処理  
 一般会計の設定 17  
 売掛管理のAAI 82  
 延滞通知 155  
 延滞利息金 156  
 会社間 103  
 会社間決済 13  
 会社の設定タスク 23  
 機能 3  
 銀行取引明細 211  
 計算書 153  
 固定情報 18  
 固定情報の設定 20  
 資金予測 255  
 支払 181, 191  
 照会 115, 116  
 多通貨環境での処理 3  
 多通貨環境への変更 7, 8  
 バッチ合計 123  
 複数サイトの連結 251  
 有効化 11  
 与信/回収管理 86  
 多通貨オプションの設定(P0000) 19  
 多通貨環境の導入 7  
 多通貨/現金主義(11/CS) 50  
 多通貨伝票 171  
 多通貨伝票のバッチ制御 171  
 単一勘定科目の改訂(P0901) 11  
 「単一勘定科目の改訂」フォーム 28

## ち

注意 xxv  
 注意事項 xxv

## つ

追加ドキュメンテーション xxii

## 通貨 20, 93

関連項目: 通貨コード; 為替レート

会社間取引 18

換算 12

勘定残高の検討 23

勘定残高別取引の転記 13

間接為替を使用した換算 12

支払通貨の設定 197

集計残高 23

当初および指定 23

ドル通貨記号 192

通貨 - 外貨/国内通貨(年齢調べ付き)

(R03B429C) 291

通貨勘定科目

F0902テーブルの金額 112

通貨コードの割当 28

通貨評価 220

定義 28

通貨勘定評価(R09415) 219, 220

処理オプション 221

通貨記号 192

通貨銀行勘定科目 26, 96, 137, 150,

194, 295

通貨コード

概要 20

顧客 76

顧客の換算 77

国内通貨コードのロード・プログラムの実行 8

小額消去の限度額 145

設定 11, 21

通貨勘定科目への割当 28

表示小数点以下桁数 20

通貨コード・テーブル(F0013) 20

通貨コードの指定(P0013) 11

「通貨コードの設定」フォーム 21

通貨再換算レート(P1113)

残高再換算の設定 14

処理オプション 63

通貨評価

銀行勘定科目 219

通貨勘定科目 220

未決済請求書および伝票 220

通貨別残高

AAI(自動仕訳) 26, 27

F0902テーブルの金額 112

F0902テーブルの通貨フィールド 24

集計残高 23

設定 13

定義 23

変更 257

通貨明細 - 外貨および国内通貨

(R03B429A) 288

通貨明細 - 外貨および国内通貨

(R04427A) 293

通貨明細 - 年齢調べ(R03B429B) 289

通貨明細 - 年齢調べ(R04427B) 294

## て

定期請求書の再作成(R03B8101) 125

定期伝票の再作成(R048101) 173

手形

AR外貨建て手形 147

外貨自動支払 193

外貨建て支払手形 181, 188

外貨建て手形 133

外貨での入力 189

外貨の支払入力 188

更新されるフィールド 138

自動支払手形 182

代替通貨建て支払手形 181

手入力支払手形 182

手入力支払

外貨の支払入力 186

代替支払 187

プログラム 182

電子データ交換(EDI)

外貨建て受信伝票のマッピング要件 281

電子入金入力テーブル(F03B13Z1) 144

伝票

外貨 168, 172

外貨建て伝票の改訂 176

外貨建て伝票の検討 176, 178

外貨建て伝票の転記 180

外貨建て伝票の入力 174

仮定伝票 177

仮定伝票の検討 178

国内通貨建て金額の計算 169, 170

国内通貨と外貨の違い 167

税付き外貨建て伝票 170

税付き外貨建て伝票の例 171

税抜き外貨建て伝票 169

通貨評価 220

定期伝票の再作成 173

入力 4

## と

当初通貨 24

## ドキュメンテーション

関連 xxii

最新版 xxii

ダウンロード xxii

ドキュメンテーションのダウンロード xxii

## 取引の転記

外貨支払 200

外貨建て仕訳 110

外貨建て伝票 180

外貨建て入金 148, 150

代替支払 200

代替入金 148, 150

通貨別残高の転記 13, 25

通貨別残高の転記のAAI 27

通貨別または集計 23

入金 150

取引明細の照会(P09200) 115, 116

## に

## 入金

外貨 134, 140

外貨建て自動入金 144

外貨建て入金 133

外貨建て入金の転記 148

外貨建て入金の入力 141

更新されるフィールド 138

国内通貨 134

代替通貨 135, 140

代替通貨建て入金の転記 148

代替入金 133

## 入金入力(P03B102)

処理オプション 140

代替通貨建て入金の消込 135

入金の手動処理 144

入金見出しの更新(R03B551) 144

## は

ハッシュ合計 23

## バッチ処理

EDI外貨建て伝票 172

F03B11Z1テーブルのマッピング・フィールド 269

F03B1Z1テーブルのマッピング・フィールド 273

F0411Z1テーブルのマッピング・フィールド 275, 277

F0911Z1テーブルのマッピング・フィールド 271, 280

F47041テーブルのフィールドのマッピング 281

F47042テーブルのフィールドのマッピング 282

F47044テーブルのフィールドのマッピング 283

外貨仕訳のマッピング要件 263

外貨建て受信伝票のマッピング要件 281

外貨建て仕訳 107

外貨建て請求書の処理 124

外貨建て請求書のマッピング・フィールド 267

外貨建て伝票 172

外貨建て伝票の処理 275

外貨のマッピング・フィールド 264

外貨バッチ請求書のマッピング要件 267

自動入金のマッピング要件 273

バッチ仕訳フィールドのガイドライン 263

バッチ請求書フィールドのガイドライン 267

バッチ伝票フィールドのガイドライン 275

バッチ伝票テーブル(F0411Z1) 275

## ひ

## 非通貨勘定

銀行勘定科目 295

## 非通貨勘定科目

F0902テーブルの金額 112

表記規則 xxiv

表示小数点以下桁数

通貨金額 20

表示 22

標準請求書入力(P03B11)

外貨建て請求書の入力 124

処理オプション 126

## ふ

「複数AAI項目の設定」フォーム 25

複数サイトの連結

基本ステップ 252

多通貨 251

連結規則 254

## ま

丸め

ソフト丸めとの比較 120

## み

未決済売掛金(外貨建て集計)  
(R03B413A) 287  
未決済売掛金(年齢調べ)  
(R03B4201B) 288  
未決済売掛金(備考)(R03B4201A) 288  
未決済買掛金明細 - 外貨年齢調べ付き  
(R04427C) 294  
未実現為替差損益  
売掛金 162  
買掛金 206  
外貨建て請求書の例 163  
外貨建て伝票 97  
外貨建て伝票の例 207  
請求書 162  
設定 12  
通貨銀行勘定科目 26  
伝票 205

## め

メキシコ(支払変換コード) 100

## も

元帳タイプ  
再換算 29  
詳細再換算 55  
元帳タイプ(09/LT) 17, 29, 55  
元帳タイプ規則の設定(P0025) 14

## よ

与信/回収 86  
与信分析のリフレッシュ(R03B525) 155,  
156

## れ

「連結設定の改訂」フォーム 254  
連絡先情報 xxvi  
レート・タイプ(11/RT) 32, 66